

山梨県南アルプス市

Terabe Muratsuki Dai-6

寺部村附第6遺跡

新山梨環状道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

2004.3

南アルプス市教育委員会  
山梨県新環状・西関東道路建設事務所

山梨県南アルプス市

Terabe Muratsuki Dai-6

寺部村附第6遺跡

新山梨環状道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

2004. 3

南アルプス市教育委員会  
山梨県新環状・西関東道路建設事務所

寺脚村附聚 6 遷徙全貌





26号住居出土土器



1号墳出土土器

## 例　　言

1. 本書は、山梨県南アルプス市（旧中巨摩郡若草町）寺部1862番地外に所在する、寺部村附第6遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、山梨県による新環状道路（主要地方道菲崎櫛形豊富線）若草工区建設工事に先立って実施されたもので、旧若草町教育委員会ならびに南アルプス市の委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が、発掘調査および整理作業にあたった。
3. 本書の執筆・編集は宮澤公雄が行ったが、第5章第1・2節は株式会社パレオ・ラボに、同第3節は財団法人山梨文化財研究所地質・火山灰研究室に委託した成果を掲載した。
4. 本報告書作成のための作業分担は、以下の通りである。  
遺物洗浄・注記・接合　斎木洋介、池谷富士子、小澤正幸、風間幸恵、梶原薰、金井いく代、岸本美苗、木下学、倉田勝子、小林小路、小林澄子、佐田金子、佐野靖子、須田泰美、関端一憲、原野ゆかり、彭忠萍、保坂真澄、宮島恵美子、山口あすか、渡辺美伸  
遺物復元　岩崎満佐子、小沢恵津子、齊藤ひろみ、竜沢みち子、矢房静江  
遺物実測・拓本　岩崎満佐子、小沢恵津子、齊藤ひろみ、竜沢みち子、矢房静江  
遺構写真撮影　宮澤公雄  
遺物写真撮影　宮澤公雄  
図面修正　伊東千代美、岩崎満佐子、宮澤公雄  
遺構・遺物トレース　岩崎満佐子、小沢恵津子、齊藤ひろみ、竜沢みち子、田中真紀美  
図版作成　岩崎満佐子、齊藤ひろみ、田中真紀美  
表作成　岩崎満佐子、齊藤ひろみ、林紀子  
鉄器保存処理　宇津宮則子、竜沢峯子、広瀬悦子、藤井多恵子
5. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の機関に委託、依頼した。

基準点測量	株式会社シン技術コンサル
航空測量	株式会社シン技術コンサル
石器鑑定・土器胎土分析	財団法人山梨文化財研究所
測量データ図化・整理	株式会社コンピュータ・システム
植物遺存体分析	株式会社パレオ・ラボ
6. 本書に關わる記録図面・写真・出土遺物等は、南アルプス市教育委員会に保管している。
7. 参考文献は、執筆者順に第4章末にまとめて記載した。
8. 本遺跡の概要については、以下の文献で紹介・記載しているが、本報告書をもって本報告とする。  
宮澤公雄 2002「寺部村附第6遺跡」「山梨考古」第84号 山梨県考古学協会  
宮澤公雄 2003「寺部村附第6遺跡出土の須恵器と埴輪」「帝京大学山梨文化財研究所報」第45号 帝京大学山梨文化財研究所  
宮澤公雄 2003「古墳時代中期における小規模墳の一様相 一甲府盆地を例として」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第11集 帝京大学山梨文化財研究所

## 凡　例

1. 遺跡全体におけるX・Y座標は、旧測地系平面直角座標第Ⅷ系のX = -43,300.000、Y = -740.000（北緯35度36分46秒、東経138度29分19秒）を基点（X = 0、Y = 0）とした座標値である。なお、各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。

なお、真北方向角は $0^{\circ} 0' 17''$ となる。

2. 遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構 堅穴住居・堅穴状遺構・性格不明遺構—1/60

カマド・炉—1/30

低墳丘古墳—1/80

溝—1/40・1/200

土坑—1/20

ピット—1/40

遺物 土器—1/3、大型土器—1/6、石製品・土製品・鉄製品—1/2

3. 遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。

■ 石 ■ 焼土 ■■■■ 地山土

4. 遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの向きは北位を基準としたものである。

○ 土師器壺・蓋 ● 上師器壺 ■ 土師器煮・鉢 十 土師器手捏 ✕ 土師器器種不明 ◆ 土師質土器

▲ 須恵器 △ 陶磁器 \* 鉄製品 ★ 石製品 ✕ 骨 ✕ 種子 ■ その他

5. 遺物図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。

■ 須恵器 ■ 赤彩土器 ■ 陶器 ■■■ 内面黒色土器

6. 遺構同一図版中の標高は、原則として統一しているが、一部異なるものもあり明記してある。

7. 遺構図版中および土器観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修 1990『新版 標準上色帖』（小山正忠・竹原秀雄）による。

8. 本書で用いた地図は、旧若草町発行の地形図（1:10,000）、都市計画基本図（1:2,500）である。これらの地図の一部を複写ないし一部改変して転載している。

# 目 次

例 言	
凡 例	
第1章 序 説	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第3節 調査の方法	3
第4節 遺跡概要	7
第5節 基本層序	8
第2章 遺跡の立地と環境	
第1節 遺跡の地理的位置	9
第2節 周辺の歴史的環境	9
第3章 遺構と遺物	
第1節 竪穴住居	13
第2節 竪穴状遺構	23
第3節 低墳丘古墳	25
第4節 溝 跡	26
第5節 性格不明遺構	30
第6節 土坑・ピット	31
第7節 暗 渠	31
第8節 地割れ跡	32
第4章 調査の成果	
第1節 集落のあり方について	33
第2節 6・11号溝について	34
第3節 低墳丘古墳について	34
参考文献	39
第5章 科学分析	
第1節 寺部村附第6遺跡の珪藻化石群集	51
第2節 寺部村附第6遺跡の花粉化石	56
第3節 寺部村附第6遺跡出土土器の胎土分析	60
おわりに	67

## 挿図目次

第1図	調査区設定図	4
第2図	遺跡全体図	5・6
第3図	遺跡基本土層	8
第4図	遺跡の位置と周辺の道路	11
第5図	遺跡周辺の地形	12
第6図	試料採取付近の土層断面図と試料採取層準	56
第7図	11号溝北側断面試料の花粉化石分布図	58
第8図	11号溝西側断面試料の花粉化石分布図	58
第9図	胎土分析試料実測図	61
第10図	上器胎土の岩石鉱物組成	63
第11図	岩石組成折れ線グラフ	63
第12図	薄片写真	64
第13図	上器のクラスター分析樹形図	65

## 表目次

第1表	土坑・ピット一覧表	41
第2表	出土遺物観察表（土器）	42
第3表	出土遺物観察表（鉄製品）	53
第4表	出土遺物観察表（石製品）	53
第5表	堆積物中の珪藻化石産出表	55
第6表	産出花粉化石一覧表	57
第7表	試料1 g当たりのプラント・オパール個数	59
第8表	試料表	60
第9表	土器胎土中の岩石鉱物	62
第10表	折れ線グラフによる土器分類	64

## 図版目次

図版1	1号竪穴住居平面・遺物分布図（1）	図版11	5号竪穴住居遺物分布図（2）
図版2	1号竪穴住居遺物分布図（2）	図版12	6号竪穴住居平面・遺物分布図
図版3	1号竪穴住居遺物分布図（3）	図版13	7号竪穴住居・カマド平面・遺物分布図
図版4	2号竪穴住居・カマド平面図	図版14	8号竪穴住居・炉平面図・遺物分布図（1）
図版5	2号竪穴住居遺物分布図	図版15	8号竪穴住居遺物分布図（2）
図版6	3号竪穴住居・カマド平面図	図版16	9号竪穴住居平面・遺物分布図（1）
図版7	3号竪穴住居遺物分布図	図版17	9号竪穴住居遺物分布図（2）、10号竪穴住居平面・遺物分布図
図版8	4号竪穴住居平面・遺物分布図（1）	図版18	11・17号竪穴住居平面・遺物分布図
図版9	4号竪穴住居遺物分布図（2）	図版19	12号竪穴住居平面・遺物分布図
図版10	5号竪穴住居・炉・土坑平面図・遺物分布図（1）	図版20	13号竪穴住居・カマド平面図・遺物分布図

(1)	
図版21	13号竪穴住居遺物分布図（2）、14号竪穴住居・炉平面図
図版22	14号竪穴住居遺物分布図
図版23	15号竪穴住居・炉平面図、遺物分布図（1）
図版24	15号竪穴住居遺物分布図（2）
図版25	16号竪穴住居平面・遺物分布図
図版26	18号竪穴住居平面・炉平面図、遺物分布図（1）
図版27	18号竪穴住居遺物分布図（2）
図版28	19号竪穴住居・新旧カマド平面・遺物分布図
図版29	20号竪穴住居平面図・遺物分布図（1）
図版30	20号竪穴住居遺物分布図（2）
図版31	21号竪穴住居平面・遺物分布図
図版32	22号竪穴住居平面図・遺物分布図（1）
図版33	22号竪穴住居遺物分布図（2）
図版34	23号竪穴住居平面図
図版35	23号竪穴住居遺物分布図
図版36	24号竪穴住居・炉平面図、遺物分布図（1）
図版37	24号竪穴住居遺物分布図（2）
図版38	25号竪穴住居・炉平面図、遺物分布図（1）
図版39	25号竪穴住居遺物分布図（2）
図版40	26号竪穴住居・炉平面図、遺物分布図（1）
図版41	26号竪穴住居遺物分布図（2）
図版42	27号竪穴住居平面・遺物分布図
図版43	28号竪穴住居・カマド平面図、遺物分布図（1）
図版44	28号竪穴住居遺物分布図（2）、1号竪穴状造構平面・遺物分布図
図版45	2号竪穴状造構平面・遺物分布図
図版46	3号竪穴状造構平面・遺物分布図
図版47	4号竪穴状造構平面・遺物分布図
図版48	5号竪穴状造構平面・遺物分布図、6号竪穴状造構平面・遺物分布図
図版49	1号墳平面図（1）
図版50	1号墳平面図（2）
図版51	1号墳遺物微細図
図版52	1号墳遺物分布図（1）
図版53	1号墳遺物分布図（2）
図版54	2号墳平面図
図版55	2号墳遺物分布図
図版56	3号墳平面図（1）
図版57	3号墳平面図（2）
図版58	3号墳遺物分布図
図版59	1～3号溝平面・遺物分布図
図版60	4・5号溝平面・遺物分布図
図版61	6・11号溝平面図（1）
図版62	6・11号溝平面図（2）
図版63	6・11号溝遺物分布図（1）
図版64	6・11号溝遺物分布図（2）
図版65	7号溝平面図
図版66	7号溝遺物分布図
図版67	8・9号溝平面・遺物分布図
図版68	10号溝平面・遺物分布図
図版69	12・13号溝平面図
図版70	12・13号溝遺物分布図
図版71	14号溝平面・遺物分布図
図版72	15～17号溝平面・遺物分布図
図版73	18号溝平面・遺物分布図、地割れ跡平面図
図版74	1・2号性格不明造構平面・遺物分布図
図版75	土坑平面・遺物分布図（1）
図版76	土坑平面・遺物分布図（2）
図版77	土坑平面・遺物分布図（3）
図版78	土坑平面・遺物分布図（4）、ピット平面・遺物分布図（1）
図版79	ピット平面・遺物分布図（2）
図版80	1～4号暗渠平面図
図版81	1～4号暗渠堀り方
図版82	出土遺物（1）
図版83	出土遺物（2）
図版84	出土遺物（3）
図版85	出土遺物（4）
図版86	出土遺物（5）
図版87	出土遺物（6）
図版88	出土遺物（7）
図版89	出土遺物（8）
図版90	出土遺物（9）
図版91	出土遺物（10）
図版92	出土遺物（11）
図版93	出土遺物（12）
図版94	出土遺物（13）
図版95	出土遺物（14）
図版96	出土遺物（15）
図版97	出土遺物（16）
図版98	出土遺物（17）
図版99	出土遺物（18）
図版100	出土遺物（19）
図版101	出土遺物（20）
図版102	出土遺物（21）

图版103	出土遗物 (22)	2	同遗物出土状况
图版104	出土遗物 (23)	1	10号竖穴住居全景
图版105	出土遗物 (24)	2	11号竖穴住居全景
图版106	出土遗物 (25)	1	12号竖穴住居全景
图版107	出土遗物 (26)	2	同遗物出土状况
图版108	出土遗物 (27)	1	13号竖穴住居全景
图版109	出土遗物 (28)	2	同遗物出土状况
图版110	出土遗物 (29)	1	14号竖穴住居全景
图版111	出土遗物 (30)	2	同遗物出土状况
图版112	出土铁器	1	15号竖穴住居全景
图版113	出土石器 (1)	2	同遗物出土状况 (1)
图版114	出土石器 (2)	3	同 (2)
图版115	1 A区航空写真 2 B区航空写真	4	同 (3)
图版116	1 C・D区航空写真 2 E区航空写真	5	同炉
图版117	1 1号竖穴住居全景 2 同遗物出土状况 (1)	1	16号竖穴住居全景
图版118	1 1号竖穴住居遗物出土状况 (2) 2 同 (3) 3 同 (4) 4 同 (5) 5 2号竖穴住居全景	2	同遗物出土状况
图版119	1 3号竖穴住居全景 2 4号竖穴住居全景	1	17号竖穴住居全景
图版120	1 4号竖穴住居遗物出土状况 (1) 2 同 (2) 3 同 (3) 4 同 (4) 5 5号竖穴住居全景	2	18号竖穴住居全景
图版121	1 6号竖穴住居全景 2 同遗物出土状况	1	19号竖穴住居全景
图版122	1 7号竖穴住居全景 2 同遗物出土状况 (1)	2	同遗物出土状况 (1)
图版123	1 7号竖穴住居遗物出土状况 (2) 2 同 (3) 3 同カマド 4 同遗物出土状况 5 8号竖穴住居全景	3	同 (2)
图版124	1 8号竖穴住居遗物出土状况 (1) 2 同 (2) 3 同 (3) 4 同 (4) 5 同 (5)	4	同 (3)
图版125	1 9号竖穴住居全景	5	同 (4)
		1	23号竖穴住居全景
		2	24号竖穴住居全景
		1	25号竖穴住居全景
		2	26号竖穴住居全景
		1	26号竖穴住居遗物出土状况 (1)
		2	同 (2)
		3	同 (3)
		4	同 (4)
		5	同炉
		1	27号竖穴住居全景

	2 同遺物出土状況 (1)		2 同遺物出土状況 (1)
	3 同 (2)		3 同 (2)
	4 同 (3)		4 同 (3)
	5 同 (4)		5 同 (4)
図版141	1 28号竪穴住居全景 2 1号竪穴状遺構全景	図版153	1 11号溝北側セクション (1) 2 同 (2)
図版142	1 1号竪穴状遺構遺物出土状況 2 2号竪穴状遺構全景		3 同西側セクション 4 同中央セクション
図版143	1 2号竪穴状遺構遺物出土状況 (1) 2 同 (2) 3 同 (3) 4 地割れ跡 5 3号竪穴状遺構全景		5 12号溝全景 6 13号溝全景 7 14号溝全景 8 15号溝全景
図版144	1 4号竪穴状遺構全景 2 5号竪穴状遺構全景	図版154	1 16号溝全景 2 17号溝全景 3 18号溝全景
図版145	1 6号竪穴状遺構全景 2 1号墳全景		4 同遺物出土状況 5 1号性格不明遺構全景
図版146	1 1号墳遺物出土状況 (1) 2 同 (2) 3 同 (3) 4 同 (4) 5 同 (5)	図版155	1 1号性格不明遺構遺物出土状況 (1) 2 同 (2) 3 2号性格不明遺構全景 4 同遺物出土状況 5 1号土坑全景
図版147	1 2号墳全景 2 2号墳遺物出土状況 (1)		6 同遺物出土状況 7 2号土坑全景
図版148	1 2号墳遺物出土状況 (2) 2 同 (3) 3 3号墳遺物出土状況 (1) 4 同 (2) 5 3号墳全景	図版156	8 同遺物出土状況 (1) 1 2号土坑遺物出土状況 (2) 2 3・4号土坑全景 3 5号土坑全景 4 6号土坑全景 5 7号土坑全景 6 8号土坑全景
図版149	1 3号墳遺物出土状況 (3) 2 1号溝全景 3 2号溝全景 4 3号溝全景 5 4・5号溝全景		7 同遺物出土状況 8 9号土坑全景
図版150	1 6号溝全景 2 同遺物出土状況 (1) 3 同 (2) 4 同東側セクション (1) 5 同 (2)	図版157	1 ピット群全景 2 1～4号暗渠全景
図版151	1 7号溝全景 2 8号溝全景 3 9号溝全景 4 10号溝全景 5 11号溝北側全景	図版158	1 1号暗渠全景 2 同完掘
図版152	1 11号溝西側全景	図版159	1 2・3号暗渠全景 2 同完掘
		図版160	1 4号暗渠全景 2 同完掘
		図版161	1 調査風景 (1) 2 同 (2) 3 同 (3) 4 同 (4)

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| 5 同 (5)        | 図版169 出土遺物 (8)      |
| 6 サンプリング風景     | 図版170 出土遺物 (9)      |
| 7 溝査区冠水状況 (1)  | 図版171 出土遺物 (10)     |
| 8 同 (2)        | 図版172 出土遺物 (11)     |
| 図版162 出土遺物 (1) | 図版173 出土遺物 (12)     |
| 図版163 出土遺物 (2) | 図版174 出土遺物 (13)     |
| 図版164 出土遺物 (3) | 図版175 出土遺物 (14)     |
| 図版165 出土遺物 (4) | 図版176 出土遺物 (15)     |
| 図版166 出土遺物 (5) | 図版177 出土遺物 (16)     |
| 図版167 出土遺物 (6) | 図版178 出土遺物 (17)     |
| 図版168 出土遺物 (7) | 図版179 寺部村附第6遺跡の花粉化石 |

# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

山梨県は、高規格道路により甲府盆地を環状に巡らす計画を立てている。この環状道路は、東西南北の区間に分け、整備を進めている。このうち南部区間は、南アルプス市（旧檜形町内）の甲西バイパスから旧若草町、田富町、玉穂町を抜け甲府市南部に至る道路計画である。旧若草町に対しても、1993（平成5）年に事業案の提示が行われた。これを受け、旧若草町教育委員会では、同年より事業地内の確認調査を実施している。その結果、当事業用地内においていくつかの遺跡の存在が明らかとなり、寺部地内においても寺部村附第6・11・12遺跡などが、発掘調査の必要があると判断された。

2000年（平成12）年6月、旧若草町教育委員会から財団法人山梨文化財研究所に対し、山梨新環状道路南部区間道路建設に伴う寺部村附第6遺跡発掘調査の依頼があり協議した結果、委託契約を結んで遺跡の発掘調査および整理作業にあたることとなった。

委託契約の内容は、以下のとおりである。

2000（平成12）年度 8月8日～3月2日

委託者 若草町教育委員会教育長、受託者 財団法人山梨文化財研究所所長

2001（平成13）年度 4月12日～3月15日

委託者 若草町教育委員会教育長、受託者 財団法人山梨文化財研究所所長

2002（平成14）年度 4月16日～3月15日

委託者 若草町教育委員会教育長、受託者 財団法人山梨文化財研究所理事長

2003（平成15）年度 5月13日～3月15日

委託者 南アルプス市長、受託者 財団法人山梨文化財研究所理事長

上記契約のとおり、発掘調査は、2000（平成12）年8月9日より2003（平成15）年7月24日まで、一部整理作業期間を挟みながら実施した。また、報告書刊行へ向けての整理作業は、一時発掘調査と並行して2001（平成13）年10月1日より2004（平成16）年3月まで財団法人山梨文化財研究所において実施した。

### 調査体制

調査主体 財団法人山梨文化財研究所

調査担当者 宮澤 公雄 財団法人山梨文化財研究所

調査補助員 （故）伊東千代美 財団法人山梨文化財研究所

◆ 中山 千恵 財団法人山梨文化財研究所

◆ 森原智恵子 財団法人山梨文化財研究所

調査参加者 石川茂子、石川百枝、井上九二雄、井上正子、今村武子、遠藤武子、遠藤弘美、  
荻野ひろ江、小野とめの、小野嘉雄、黒田愛子、近藤栄、齊藤美咲、沢登タツエ、  
白川チエ、杉本政子、鈴木啓夫、千田真子、千野正雄、時田雪子、時田わか、  
中沢一之、名取清子、根岸利昭、原伊津子、福井光幸、保坂小春、保坂よし、  
望月きん子、望月仁之、望月允男、依田成美

整理作業参加者 青木洋介、池谷富士子、岩崎満佐子、宇津宮則子、小沢恵津子、小澤正幸、風間幸恵、  
梶原薰、金井いく代、岸本美苗、木下学、倉田勝子、小林小路、小林澄子、齋藤ひろみ、  
佐田金子、佐野靖子、須山泰美、関端一憲、竜沢みち子、竜沢峰子、田中真紀美、

林紀子、原野ゆかり、広瀬悦子、藤井多恵子、彭恵萍、保坂真澄、宮島恵美子、矢房静江、山口あすか、渡辺美伸

## 第2節 調査経過

### 調査日誌

2000年

8月9日 事務所設置、西側より表土剥ぎ開始。

8月10日 機材搬入。

8月16日 住居らしいプラン1箇所確認。

8月17日 西側で直交する溝らしいプラン確認。中央火付近で住居らしいプラン3軒重複。

8月18日 試掘30号トレンチ西、調査区境内に古墳時代前期住居跡のプラン確認。

東側ではコーナーカマドをもつ住居を確認。柱状高台・砥石出土。

8月21日 溝2条。土坑3。住居らしいプラン確認。

8月22日 サブトレ設定、掘り下げ。昨日設定したトレンチ北側12mにトレンチ設定。中央よりやや西側で南北に走る溝を確認。

8月31日 調査区西側、焼土の痕跡を2箇所確認。周辺から古墳時代前期の土師器多数出土。

9月5日 西側精査。試掘28号トレンチ付近で住居1軒、溝2条確認。南西で住居1軒。

9月11日 前日の集中豪雨により調査区冠水。

9月12日 本日より排水作業。

9月25日 湧水が収まらないため、調査区周囲に溝掘削。

9月27日 発掘調査再開。

9月28日 プラン確認。試掘31号トレンチ東にコーナーカマドの住居跡プランを確認。

10月4日 試掘31号トレンチ付近において住居2軒、トレンチ西側に溝跡確認。

10月11日 1・2・3号住居調査開始。

10月18日 4・5・6号住居調査開始。

10月26日 8号住居調査開始。

10月31日 5号住居、北東、北西コーナーにピットもしくは貯蔵穴らしいプラン確認。東壁寄りに焼土、中央に黒色のプランがみられ、別の遺構と思われる。

11月7日 9・10号住居調査開始。

11月9日 1・2・3号溝調査開始。8号住居、床面精査。柱穴は確認できなかったが、焼

土、炭化物のまとまりがみられた。

11月13日 11号住居調査開始。4・5号溝調査開始。

1号住居、床面精査。柱穴はみられなかつたが、北寄りに焼土範囲確認。

11月14日 12・13号住居調査開始。

11月15日 4号住居、床面精査。下層に住居らしいプラン確認。

11月16日 1～10号住居写真測量。

11月27日 5号住居、床面精査。住居内にピット2(1・2号)、不正形の黒色プラン確認。1・2号ピット調査開始。

11月28日 1号竖穴状遺構調査開始。

12月5日 14・15号住居調査開始。

12月12日 16号住居調査開始。11号住居、柱穴3箇所確認。

12月14日 1号性格不明遺構完掘写真。

12月15日 17号住居調査開始。

12月18日 18号住居調査開始。

12月19日 2号性格不明遺構調査開始。

12月20日 ベルコン撤去。

12月25日 A区航空写真測量。

12月27日 1号土坑調査開始。標準上層写真撮影。A区埋め戻し開始。

2001年

1月15日 B区表土剥ぎ開始。

1月17日 精査開始。

2月20日 19・20・21号住居調査開始。11号溝のプランは確認終了。

2月22日 BM基準点設定。

2月28日 7号溝調査開始。

3月7日 8号溝調査開始。

3月12日 11号溝調査開始。

3月14日 10号溝調査開始。

3月15日 19号住居、カマド標石は残っていないことが判明。カマド北側に焼土範囲、旧カマドの可能性あり。

3月16日 2000年度の発掘調査終了。

4月16日 2001年度の発掘調査再開、11号溝掘り下

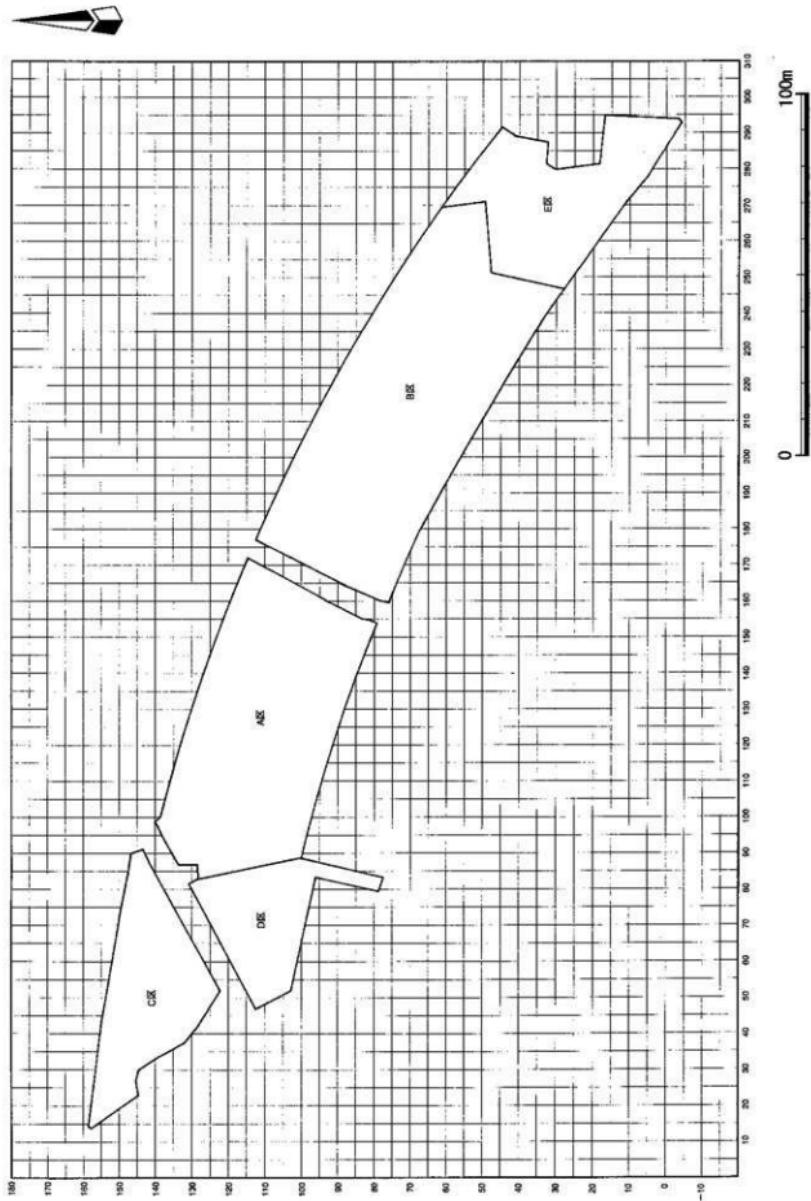
げ。		形破片出土。
5月2日 11号溝北西に住居集中するが、プラン不明。	9月27日	26号住居、北側壁際でS字状口縁台付堀4点、高坏集中。
6月22日 11号溝セクション写真撮影。	9月28日	2号墳、壺形土器をテーピングにて取り上げ。
6月29日 10号溝より平安期の遺物が出土、20・21号住居より新しいことが判明。	10月1日	降雨のため調査区冠水、排水作業。6号溝プラン確認。
7月5日 C区表土剥ぎ開始。	10月4日	C・D区空撮写真測量。
7月7日 円形周溝状遺構を検出。土坑1、ピット2基を確認。	10月9日	6号溝、航空写真測量。
7月18日 22・23・24・25号住居調査開始。		
8月8日 B区航空写真撮影。	2002年	
8月9日 11号溝、植物遺存体調査サンプリング。	7月29日	E区表土剥ぎ。
8月17日 C区精査、調査区中央よりやや西側でも円形周溝状遺構を確認。北東側は削平され残らず。	7月30日	暗渠、T字形に確認。
8月21日 D区表土剥ぎ開始。	8月21日	基準点測量。
8月23日 B区埋め戻し開始。	8月22日	28号住居、掘り下げ開始。北側の隅丸方形プランは床面が平坦ではなく、6号堅穴状遺構とする。
9月4日 D区精査。住居1、堅穴状遺構3、溝2、土坑2、円形周溝状遺構1などを確認。	8月26日	1号暗渠、調査開始。
9月7日 2号堅穴状遺構、遺物多く、壁はなく立ち上がる。隅丸方形とはならない。12号溝調査開始。	8月28日	2・3・4号暗渠全景写真撮影。
9月8日 3・4号土坑、3号ピット調査開始。	8月29日	16・17号溝、調査開始。
9月17日 27号住居、3・4・5号堅穴状遺構、3号墳調査開始。	9月10日	18号溝、調査開始。
9月20日 27号住居、南西隅に礫集中がみられ、編み石か。南西側では良好な床検出。	9月11日	E区航空写真測量。
9月24日 26号住居、掘り下げ開始。遺物量は少ないが、北東区において高坏、S字堀の大		
	2003年	
	7月23日	E区東側試掘調査開始。4.5~5m間隔にて、トレチ4本を東西に設定。出土遺物はなく、遺構も確認されない。
	7月24日	遺構・遺物とも発見されず試掘調査終了。

### 第3節 調査の方法

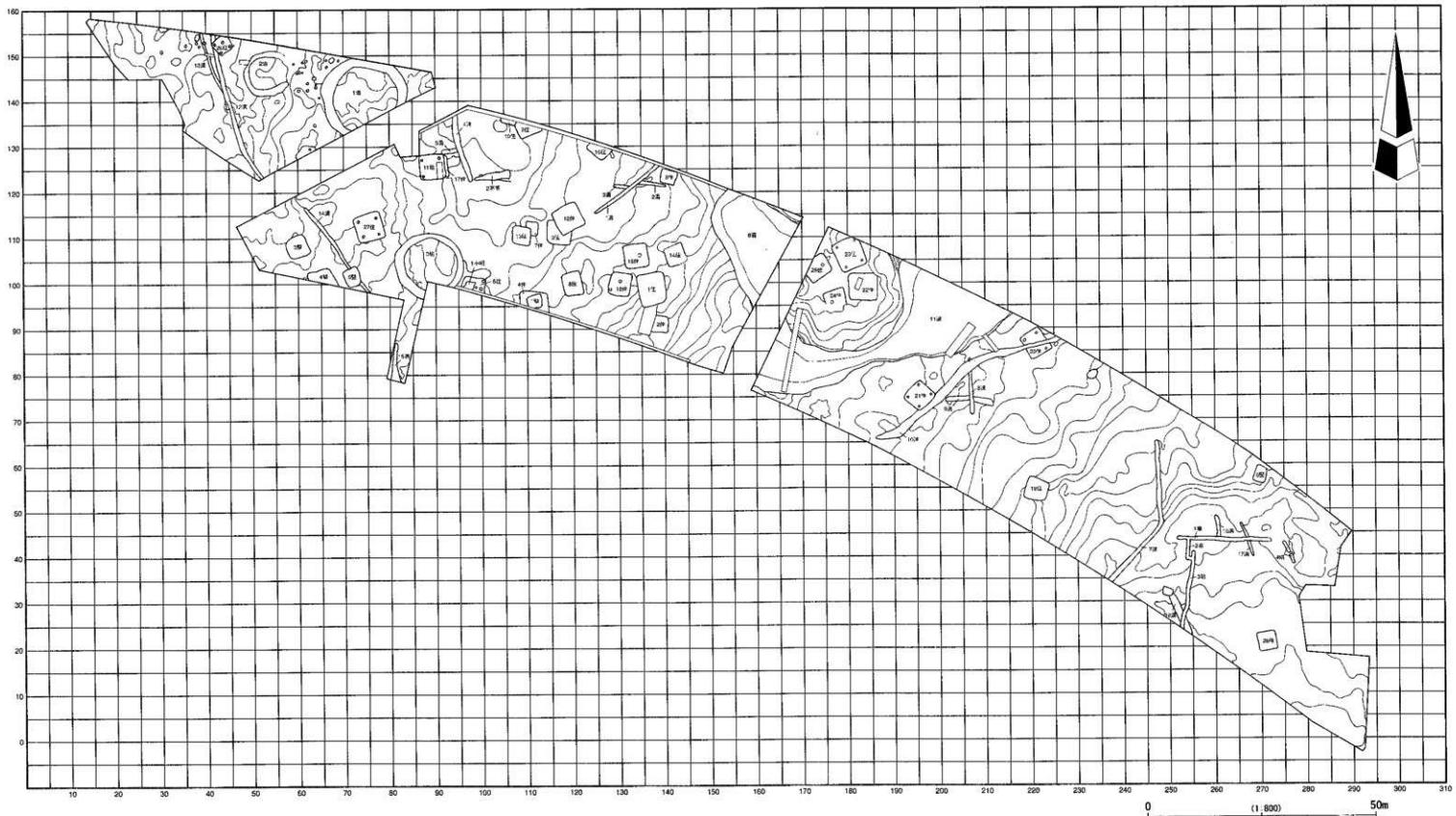
寺部村附第6遺跡内における新環状道路予定地は約14,400m<sup>2</sup>であったが、東側の3,200m<sup>2</sup>については、調査着手時には民有地であったため、当初の調査対象地域からは除外して発掘調査を実施した。調査にあたっては全面調査を行うこととしたが、試掘調査の結果、本調査の必要がないと判断された地点や町道部分など調査のおよばなかかったところなどがあり、実際の調査面積は10,970m<sup>2</sup>となっている。また、発掘調査は調査環境が整った地点から行うこととし、調査区内に町道が縱断しており遺跡が分断されていたため、調査区をA~E区と便利に分け調査を行っている(第1図)。各区の調査面積は以下の通りである。A区3,120m<sup>2</sup>、B区4,080m<sup>2</sup>、C区1,310m<sup>2</sup>、D区930m<sup>2</sup>、E区1,530m<sup>2</sup>。

調査区設定の後、重機により表土を除去し、引き続き人力による遺構確認作業を行った。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次調査を行ったが、一部新旧関係が不明な重複した遺構については同時に調査を行い、土層観察により新旧関係の決定を行った。

出土した遺物は遺構内ものについてすべて、遺構外出土のものについても一部は光波測量機器を用いて個別に取り上げを行い、遺物微細図はデジタルカメラによる測量と簡易やり方を適宜選択して実施した。遺



第1図 調査区設定図



第2図 遺跡全体図

構図の図化は、航空写真測量を基本として、一部デジタルカメラによる測量と簡易やり方、光波測量器による実測によって補完した。

測量に用いた機器およびシステムは以下の通りである。

光波測量機器	TOPCON GPS-III
コンピュータ	SHARP コベルニクス
取り上げ・図化システム	株式会社コンピュータ・システム製 SITEN
デジタルカメラ図化システム	株式会社コンピュータ・システム製 SITE-DG
重機による表土剥ぎ終了後、調査区全体を被うように国土座標にあわせて南北方向をX軸、東西方向をY軸とするメッシュをかけ、南西隅を基点とした。旧測地系国土座標 X = -43,300.000m, Y = -740.000m を原点 (X = 0, Y = 0) とし、調査区内に 5 m メッシュの杭打ちを行った。なお、2002年4月より世界測地系へと移行しているが、調査開始時に旧測地系で測量を行っていたため、本調査では旧測地系を継続して使用した。	

また、調査では、光波測量器による遺物の取り上げを行ったため、東西、南北とも 1 m のグリッドとして両軸とも整数を用いて表現した。

#### 第4節 遺跡概要

本遺跡の発掘調査は、2000年8月より2003年7月まで4次に分け、断続的に行なった。

発掘調査の結果、古墳時代前期の住居跡21軒、平安時代の竪穴住居跡7軒、時期不明を含めた整穴状遺構6棟、古墳時代中期の低墳丘古墳3基、溝18条、土坑9基、ピット22基、暗渠4条、性格不明遺構2などが発見された。

調査区は、東西長さ320m、幅40mほどの範囲となる。調査地点は南東傾斜の扇状地上に占地するため、西側が高く南東へ向かって緩やかに傾斜している。西端で標高270mほど、東端で263mほどとなり、比高差は約7 mある。

調査区西側には寺部村附第11・12遺跡などが隣接しており、本遺跡同様、古墳時代前期末の住居跡や平安時代の住居跡が調査されているが、本遺跡との間には幅250mほどの砂礫層が認められ、遺跡を分断している。

古墳時代前期の住居跡は、調査区中央付近に大きなまとまりをもって発見された。とくに、X=105、Y=130グリッド付近およびX=100、Y=180グリッド付近では密にまとまっている。調査区の西側は旧河道による疊層が露出しており、集落は展開していない。また、東側についても遺構密度は徐々に低くなっていることから、集落は調査区中央付近を中心として、南北に広がりをみせるものと思われる。

平安時代後期の住居跡は、A区中央付近に3軒のまとまりがみられるが、同時期のものではない。他の4軒の住居跡は点在しており、散在傾向にあるといえる。

竪穴状遺構と呼ぶものは、平面プランが方形に近いものの、遺構底面が平坦ではなく緩やかに立ち上がるものなどを中心に括した。柱穴や火廻などの付属施設は伴っていない。X=105、Y=65グリッド付近に3棟のまとまりをみせる。

古墳時代中期の低墳丘古墳3基は、調査区の西側からまとまって発見されている。それぞれ規模に大きな違いをもつ。

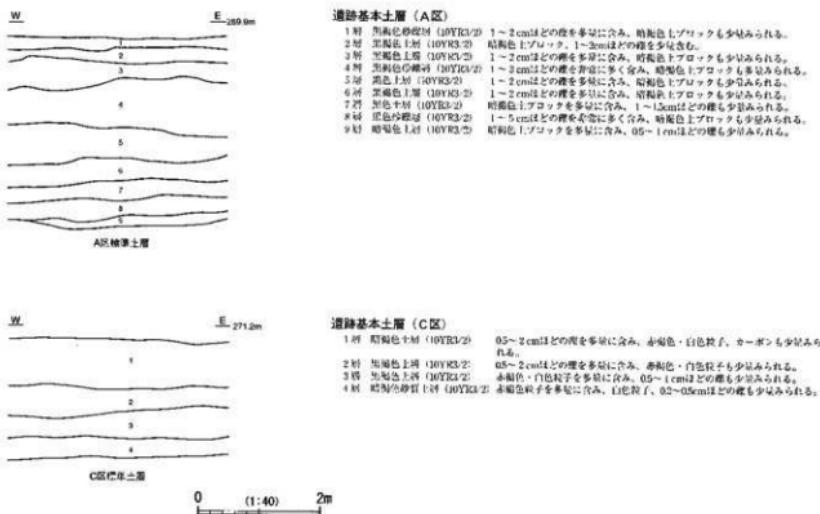
溝跡のうち時期を特定できるものは多くはない。そのうち6号溝と11号溝は同一の溝であることが明らかとなった。それぞれ溝底面付近より古墳時代前期の土器がまとまって出土しており、当該期に開削されたものと思われる。また、18号溝も遺物の出土状況から、古墳時代前期の所産と考えられる。7号溝は、瓦片が出土していることから近世以降のものであろう。溝中には純粋な疊のみが充填されてはいなかったが、多くの疊がみられ暗渠排水の役割をもたせたものであったと考えられる。東側に隣接して敷設されていた暗渠と同時期に機能していたかどうかは不明である。

C区以外では、遺構確認が非常に困難な状況にあり、土坑、ピットなど小規模な遺構の発見はほとんどできていない。比較的確認が容易であったC区に、土坑、ピットが集中しているのはそのような状況によるも

のである。

## 第5節 基本層序

本遺跡は、扇状地端部に位置しているものの、表上から遺構確認面までは西側のC区で1.0m、調査区中央付近のA区東側で0.7mほどを測る。もっとも浅いB区中央付近では、0.5mほどとなる。A区は、調査区東側北壁、X=120、Y=150グリッド付近の土層を示した（第3図上段）。第1・2層が耕作土となり、堆積土に多量の礫を含んでいた。粘性の高い黒褐色土の遺構確認面にも礫が多くみられたため、プラン確認は困難を極めた。なお、第5層以下は、6号溝覆土である。C区は、調査区北側壁のX=150、Y=60グリッド付近の上層を示した（同図下段）。やはり第1・2層が耕作土となる。堆積層に礫を多くは含まず、均質な砂質土である。遺構確認面も暗褐色の砂質土であり、遺構のプラン確認も比較的容易であった。A区からE区にかけた調査区の大半では、このような状況下にあり、一部では遺構確認面に礫層が露出する箇所もみられた。いずれも遺物包含層は4層下半となるが、遺物の包含量は多くはなかった。



第3図 遺跡基本土層 (S=1/40)

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 遺跡の地理的位置

寺部村附第6遺跡の所在する山梨県南アルプス市の旧若草町地区は、甲府盆地の西部の釜無川右岸に位置する。釜無川の支流、巨摩山地のドノコヤ峰に源流をもつ御勤使川および櫛形山を水源とする滝沢川によって形成された扇状地と釜無川の氾濫原の平坦地上に立地する。とりわけ、御勤使川扇状地は、日本有数の規模を誇る扇状地である。旧町域は全城がこの扇状地上に氾濫原上に乗るため、南東に緩やかに傾斜する平坦地となり、東側を釜無川、西側を滝沢川によって画されている。御勤使川扇状地は、安山岩、凝灰岩などの砂礫層からなり、扇央部にある旧白根町、旧櫛形町を中心とした上八田、在家塚、西野、桃岡、上今井、吉田、小笠原の近世には原七郷と呼ばれた地区は、原方ともいわれひどい旱魃地帯でもあった。

一方、扇状地扇端部は田方と呼ばれ、伏流水が豊富に湧出して地下水位も高く、水田地帯となっている。また、扇状地末端部の粘土層を利用した瓦生産も盛んに行われていた。

寺部村附第6遺跡は、扇状地扇尖から扇端部に近い原方と田方の境をなすあたり、標高265m付近に立地している。

### 第2節 周辺の歴史的環境

甲府盆地西部の6町村が2003年4月に合併して誕生した南アルプス市域は、市之瀬台地やその山麓を中心とする地域と御勤使川や滝沢川によって形成された扇状地に大きく分けることができる。

旧石器時代や縄文時代の遺跡は、この台地を中心とした地域に集中している。この台地上には、古墳の分布も知られている。物見塚古墳は、甲府盆地において中道・八代町を中心とする曾根丘陵地域以外に初めて造られた古墳である。全長48mの前方部が短い前方後円墳である。出土遺物には、振玉鏡、菅玉、劍などが知られる。その後も、この台地上には円墳である六科丘古墳、上ノ東古墳などが継続的に築造されている。

一方、扇状地扇尖から扇端部にかけては、縄文時代以前の遺跡の存在はほとんど知られておらず、弥生時代以降の遺跡が濃密に分布していることが明らかとなっている。そのなかで、大扇状地を扇尖から扇端にかけて南北に継続するようにトレンチを設定するような結果となった、国道52号線改築工事および中部横断自動車道建設に先立つ発掘調査は、本地域の遺跡のあり方の究明に大きな役割を果たした。この調査は、これまで数メートルにわたる河川堆積物に覆われていたために、遺跡の存在すら知られなかった地域に、弥生時代以降の集落や生産域が数多く埋もれていることを明らかにした。

向河原遺跡（第4図142）では弥生時代中期末から後期前半の水田跡が、大師東丹保遺跡（152）でも弥生時代後期後半の水田跡が検出されている。また、油田遺跡（143）からは平安時代以降の水田跡も発見されており、この地域に弥生時代以降の水田跡が広がっていたことが明らかとなっている。

十五所遺跡（14）からは、弥生時代後期の住居跡2軒とともに岐阜地域初となる同期の方形周溝墓9基が発見された。方形周溝墓を築いた人々の集落は、南約200mのところにある村前東A遺跡と考えられている。村前東A遺跡（88）は、弥生時代後期や平安時代の集落とともに、140軒あまりの古墳時代前期の住居跡が発見され、当該地域の拠点的集落と目されている。新居道下遺跡（96）からは、古墳時代後期から奈良・平安時代の住居跡が49軒発見されている。

先に触れたように、当初古墳は一ノ瀬台地上に出現し継続的に造られているが、後期になると旧白根町、旧櫛形町、旧甲西町にかけては扇状地の湧水地帯に帶状に分布していたようである。その中にあって、低湿地に立地する大師東丹保遺跡からは、壺形埴輪を伴う古墳時代中期初頭の墳墓が発見されている。この墳墓を古墳とみるかどうかは意見の分かれるところではあるが、これまでの古墳のあり方とは異なり、大きな問題を提起したといえる。

旧若草町域では、1985年に実施された町誌編纂事業に伴う遺跡の詳細分布調査によって、86箇所の遺跡が確認された。現在では、遺跡の数はさらに増加し、94遺跡を数える。

時代別では、绳文時代晚期1箇所、弥生時代前期1箇所、弥生時代中期1箇所、弥生時代後期23箇所、古墳時代前期35箇所、古墳時代中期23箇所、古墳時代後期21箇所、奈良時代17箇所、平安時代前半54箇所、平安時代後半67箇所、中世67箇所、近世以降4箇所となり、弥生時代後期以降、御動使川や滝沢川扇状地への進出が活発化したことが理解される。

一方、近年には御動使川扇状地扇央部に位置する旧八田村大塚遺跡、石橋北屋敷遺跡や扇状地扇端部の旧若草町溝呂木道上第5遺跡（106）などで、浮線文系土器の出土があり、扇状地扇端部や沖積地への進出の開始期を物語る資料になっている。

本遺跡の立地する扇状地扇端部では、環状道路南部区間建設事業に伴う発掘調査が数箇所で行われており、大きな成果を収めている。

本遺跡の西側に位置する角力場第2遺跡（84）では、古墳時代前期と平安時代の住居跡が13軒、掘立柱建物跡4棟などが発見されている。本遺跡に隣接する寺部村附第11遺跡（79）、寺部村附第12遺跡（71）でも、古墳時代前期と平安時代の住居跡などが調査されている。

また、南東に位置する寺部村附第9遺跡（63）・中西第3遺跡（59）は湧水地点にあり、平安時代の住居跡などとともに、近世以降の排水遺構などが調査された。

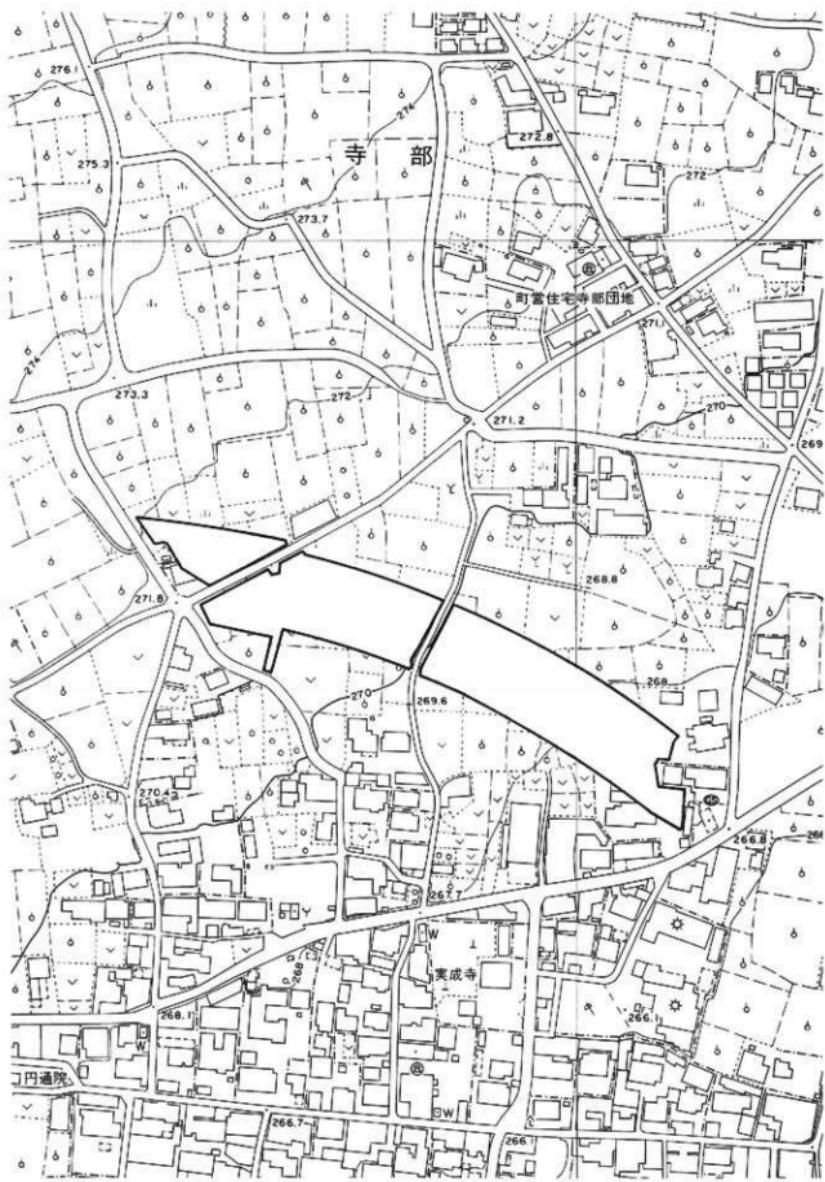
甲斐源氏の有力武将として活躍した加賀美次郎遼光の居館とされる加賀美氏館跡（133）は、現在の法善寺の寺域にあったとされる。現在の寺域もほぼ方形となっていて、西側と南側には水路が巡っている。また、法善寺を中心とした加賀美、藤田付近の滝沢川小扇状地上には、一辺109mほどを基準とする条里型の方形土地割が造されており（141）、起源は古代に遡る可能性がある（保坂1990）。

二本柳遺跡（121）では、古代末から近世にかけての水田遺構、法善寺の子院の一つであった福寿院の一部が調査されている。そのうち、中世の木棺墓は板材を組み合わせた施設で、土師質土器や銭貨、呪符木棺などが作っており、当時の葬送儀礼を復元する上で貴重な発見となった。

また、釜無川の氾濫原地域での遺跡確認は遅れているが、南部環状道路建設に先立つ発掘調査で確認された御崎藏入遺跡（48）では、平安時代の祭祀跡とともに近世の道路状遺構、木橋などが河川堆積物の下から良好な状態で発見されている。



第4図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第5図 遺跡周辺の地形 (S=2,500)

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 壺穴住居

#### 1号壺穴住居

##### 遺構の概要（図版1）

本住居跡は調査区の中央よりやや西寄り、X=98、Y=138グリッドを中心として位置する。北から西側にかけて14・15・18号住居跡が隣接する。主軸をN-11°-Wにとり、平面プランは南北がやや長い長方形を呈し、東西5.73m、南北6.91mとなる。住居の掘り込みは、本調査区の中では比較的深く、北側で34cm、南側で8cmを測る。床面の検出は困難で、硬化面は顕著ではなかった。付属施設としての炉、柱穴は確認できなかつた。

##### 遺物出土状況（図版1～3）

住居中央よりやや北側において、S字状口縁台付壺4個体、壺などが床面直上よりまとまって検出された。また、有段口縁壺の口縁部が東壁寄りから出土している。

##### 出土遺物（図版82・83・112・113・162・178）

図版82-1～6は壺である。2・3は有段口縁壺で、3は口縁内面に赤彩を施す。4～6は小型の壺で、4・5は外面上に赤彩を施す。7は鉢、8から12および図版83-1～7はS字状口縁台付壺で、肩部に横ハケを施すものである。そのうち4は口縁部が肥厚化し、口縁外面に荒い横ハケを施し、擬円筒状をなす。8は器台、9～12は高杯である。図版113-1は軽右製の砥石であるが、面的な研磨痕とともに溝状の削痕も数条みられる。

本調査に先立って行われた旧若草町教育委員会による試掘調査で、本住居を継続するように設定されたトレンチから小型の鉢（図版112-14）が出土しており、本住居に伴う遺物の可能性がある。

#### 2号壺穴住居

##### 遺構の概要（図版4）

調査区のはば中央、A区の南東隅近く、X=90、Y=140グリッドを中心として位置する。北側には1号住居がある。住居の西壁は、試掘調査によるトレンチによって切られており、正確な規模は不明である。カマドを南東コーナーにもち、主軸をN-4°-Eにとる。東西がやや長い方形を呈し、南北3.45mを測る。確認された住居は浅く、南側で11cm、東側で6cmほどである。カマド以外に柱穴等の付属施設は確認されていない。

##### カマド（図版4）

住居の南東コーナーに構築されていたが、住居の深さが10cm足らずであったために袖石などの構築材はみられなかった。わずかに小型の石材が散乱していたが、カマド構築材かどうかは不明である。カマドの焚き口付近には、東壁から南壁へ向かい地山土の掘り残しが凸堤のように確認された。また、両袖には袖石を抜き取った痕跡が1箇所ずつみつかっている。

##### 遺物出土状況（図版5）

出土遺物の多くは古墳時代前期に属するもので、本住居跡に伴う遺物は非常に少ない。床面に接して発見されたものはほとんどなく、床面から数cm浮いた状態で発見されている。カマドからも遺物の出土はほとんどなく、わずかに壺の小破片が数点出土したとどまる。

##### 出土遺物（図版84・113・178）

図版84-1～4・6は土師質土器の杯である。柱状高台となるものや高台が付くものなどがみられる。5は壺形土器、7は灰釉陶器の壺である。図版113-3は流紋岩質凝灰岩製の砥石。

### 3号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版6）

調査区の中央よりやや西側、A区のはば中央のX=111、Y=118グリッドを中心として位置する。北側に接する12号住居を切り、西側には7・13号住居が隣接する。カマドを南東コーナーにもち、主軸をN-3°-Eにとる。方形の平面プランを呈し、東西5.2m、南北5.28mを測る。住居の覆土は浅く、壁高は北側で10cm、東側で4cmほどである。床面は一部で硬化した箇所もみられたが、ほとんどは疊混じりで判然としなかった。カマド以外に付属施設は確認されていない。

#### カマド（図版6）

南東コーナーに構築されたカマドの残存状況は、良好なものではなかったが、構築材として用いられた石材が数点確認された。カマドはコーナー中央ではなく、やや南に偏心し、東側袖がコーナー付近に設置されていた。カマド東側袖から東壁に向かい環が数点配置されたことから、袖が壁面と連結していたものと考えられる。この状況は東側袖のみにみられるもので、やや南寄りに偏り構築された状況と一体をなすものである。また、南側袖部では、地山土に類似した土が凸堤状に確認され、袖部の基底部をなしていたものであろう。

#### 遺物出土状況（図版7）

本住居跡の遺物は少なく、土師器、須恵器の壺類の小破片が散在する程度である。また、鉄鏃などの鉄器が4点出土している。カマド内や周辺からも遺物はほとんど出土していない。

#### 出土遺物（図版84・112・177）

図版84-8～11は土師質土器の壺、12は須恵器壺である。鉄器は4点出土しているが、図版112-1は尖根系の鉄鏃、2・3は鉄鏃の茎部、4は鉄釘かと思われる。

### 4号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版8）

調査区中央よりやや西、A区中央南端のX=95、Y=112グリッドを中心として位置する。住居の南半は調査区外に延びる。1号竪穴状遺構が住居のはば中央にあり、1号竪穴状遺構が埋没後に、本住居は構築されている。住居のはば中央に試掘トレントが設定されていた。平面プランはやや菱形を呈し、主軸をN-1°-Wにとる。東西6.0mを測る。深さは北側で19cm、東側で11cmとなる。床面の硬化は顕著ではなかった。付属施設としての炉、柱穴は確認できなかった。

#### 遺物出土状況（図版8・9）

住居中央付近を中心に甕、壺などの土師器が多く出土しているが、床面に接するようなものはほとんどなく、床から数cmから10cmほど浮いた状態で発見されている。

#### 出土遺物（図版84・85・162）

図版84-13～15は壺である。そのうち13は口縁部に5本を一単位とした沈線が施される。16・17、図版85-1～4はS字状口縁部付壺の口縁部と脚部の資料である。肩部に横ハケを持つかどうかは不明。2は口縁部が拡張したものである。5・6は高壺の脚部資料。

### 5号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版10）

調査区の中央より西、A区のはば中央の南端のX=99、Y=98グリッド付近を中心として位置する。住居南半は調査区外となる。住居下層には1号性格不明遺構が、西には3号低壙丘古墳が隣接する。はば方形を呈し、主軸をN-13°-Eにとる。東西5.1mを測る。住居の掘り込みは浅く、北側で10cm、東側ではわずかに2cmを測るのみである。床面は一部がわずかに硬化していたにすぎない。住居の東壁よりの中央付近にがが設けられていた。また、北東コーナー部に貯蔵穴と思われる土坑を確認した。径57cmほどのはば円形を呈し、深さは30cmほどとなる。覆土中からはなにも確認されなかった。

#### 炉（図版10）

東西58cm、南北46cm、深さ8cmを測る無構造の炉である。炉中西側より拳大の礫が出土しているが、炉に伴うものかどうかは明らかではない。底面には焼土、炭化物が堆積していた。

#### 遺物出土状況（図版10・11）

本住居の出土遺物は少なく、北西コーナー付近から高坏の身部、中央付近で小型の壺などが出土したにすぎない。

#### 出土遺物（図版85）

図版85-7は高坏身部、8は小型壺の胴下半部資料である。

### 6号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版12）

調査区の中央よりやや西、A区東側の北端のX=123、Y=142グリッド付近を中心として位置する。東には1号溝、南には2号溝が隣接する。北側がわずかに広がる方形を呈し、主軸をN-19°-Eにとる。東西322m、南北2.96mを測る。深さは東側で12cm、西側で9cmを測る。本住居からはカマドなどの火坑が発見されなかったことから、他に調査されている住居とは別の性格をもつものであると考える。他の付属施設も発見されていない。

#### 遺物出土状況（図版12）

出土遺物はわずかであり、住居南側の両コーナー付近で土師器壺、甕、灰釉陶器碗などの小破片が出土したにすぎない。

#### 出土遺物（図版85）

図版85-9~11は土師器壺。9・10とも底部に回転糸切り痕を残す。12は灰釉陶器碗である。

### 7号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版13）

調査区の中央よりやや西側、A区のはば中央のX=112、Y=112グリッド付近を中心として位置する。南北西コーナーに接する13号住居を切り、西には3・12号住居が隣接する。ほぼ方形を呈し、カマドを南東コーナー近くに設置し、主軸をN-82°-Wにとる。東西2.58m、南北2.81mを測る小型の住居である。深さは東側で10cm、西側で7cmを測る。床面はカマド付近で一部硬化がみられたが、全体的には軟弱であった。カマド以外に付属施設は発見されなかった。

#### カマド（図版13）

わずかに壁に接する両袖石が1点ずつ残存していたに過ぎないが、原位置を保っており、本遺跡で調査されたカマドの中では、比較的の残存状況がよいものである。カマドは狭小で、長径56cm、両袖石の幅は22cmほどしかない。燃焼部は深く掘り込まれ、床面より14cmほどの深さをもつ。カマドの覆土や周辺に粘土等は確認されなかった。

#### 遺物出土状況（図版13）

小型の住居ながら出土遺物は豊富である。カマド脇や前面から壺、皿類が多く出土している。カマド脇の土師器壺は伏せたような状態で発見された。また、カマド北側袖部には、甕の破片が散乱していた。そのほか、砥石が1点出土している。

#### 出土遺物（図版85・86・113・162・163・178）

図版85-13~15、図版86-1~10は土師器壺。底部は台状をなし、回転糸切り痕を残す。11~13は甕である。口縁部は肥厚化し、それに伴い胴部も肥厚化するとともに直線的となる。13は甕というより大鉢の範疇に入れるべきものかもしれない。図版113-4は酸性緑色凝灰岩製の砥石。

### 8号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版14）

調査区の中央よりやや西、A区南側のX=99、Y=121グリッドを中心として位置する。西側には4号住居

が、東側には18号住居がある。プラン確認の段階では発見できなかったが、調査区内に設定したサブトレントにより確認された住居である。南北にやや長い方形を呈し、主軸をN-11°-Wにとる。東西4.02m、南北4.92m、深さ西側で10cm、東側で5cmを測る。床面は硬化した箇所がほとんどみられなかった。住居の中央やや東寄りに炉が発見されたが、柱穴等の付属施設は確認されなかった。

#### 炉（図版14図）

住居の中央よりやや東側、東壁より1.2mほどのところ、東西42cm、南北48.5cm、深さ2.5cmの楕円形の無構造の炉である。覆土中に焼土はみられなかったが、炉底面は赤く被熱していた。

#### 遺物出土状況（図版14・15）

住居の掘り込みは浅く、残存状況が悪かったものの、遺物量は豊富である。住居の南半に多くの遺物がみられたが、北側ではほとんど出土していない。炉の周辺では、炉を取り囲むようにS字状口縁台付甕が6個体ほどつぶれたような状態で発見された。

#### 出土遺物（図版87・88・163）

図版87-1は単純口縁の甕、2~5、図版88-1・2はS字状口縁台付甕である。いずれも形骸化しながら肩部に横ハケを巡らせており、3・4は手捏土器であり、本道跡での類例は乏しい。

### 9号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版16）

調査区の西寄り、A区北西端のX=134、Y=111グリッドを中心として位置する。北東コーナー部は調査区外になる。西には10号住居があり、一部を切っている。東西にやや長い方形を呈し、主軸をN-28°-Wにとる。東西5.1m、深さ西側で18cm、東側で11cmを測る。床面は礫が混入した土層に掘り込んでいたため、判然としなかった。炉や柱穴などの付属施設は発見できていない。

#### 遺物出土状況（図版16・17）

住居の西壁沿いと南東コーナー付近に遺物の分布がみられた。ただし、床面から浮いた状態のものが多く、南西コーナー付近から出土した甕の口縁が床に接していた。

#### 出土遺物（図版88・163）

図版88-5は丸底鉢、口縁部下に明瞭な段を有する。6はS字状口縁台付甕、7は鉢の口縁部か。8は器台。

### 10号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版17）

調査区の西寄り、A区北西端のX=136、Y=107グリッドを中心として位置する。調査できたのは南壁から1m足らずで、住居のほとんどは調査区外となる。東側にある9号住居によって南東コーナー部は切られている。主軸をN-14°-E付近にとる。深さは西側で8cm、東側で3cmほどとなる。床面は9号住居同様に、礫が多く混入した層に掘り込んでいたため、判然としなかった。炉や柱穴などの付属施設も確認できなかった。

#### 遺物出土状況（図版17）

遺物は土師器甕、甕などの小破片が6点ほど出土したにすぎず、図化できる資料はなかった。

### 11号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版18）

調査区の西側、△区西端のX=125、Y=90グリッドを中心として位置する。東側にある17号住居を切り、北側から東側にかけては4・5号溝が隣接する。方形を呈し、主軸をN-6°-Wにとる。東西5.45m、南北5.62m、深さは西側で25cm、北側で11cmを測り、比較的の残存状況の良好な住居であった。床面は、中央付近だけであるがやや硬化した面がみられた。がは確認できていない。柱穴は3箇所確認されたが、南東部分は試掘トレントによって削平されていたため確認できなかった。がも試掘トレントによる削平を受けた可能性

もある。

#### 遺物出土状況（図版18）

出土遺物にはS字状口縁台付甕、高坏など多くの遺物が出土しているが、多くは床面より浮いた状態で出土している。床面直上で発見された遺物はS字状口縁台付甕1点、高坏などであった。

#### 出土遺物（図版88・89・112・163・176・177）

図版88-9・10は壺の口縁部資料。9は有段口縁壺で、口縁部および段部に刺突文が巡る。図版89-1は小型丸底鉢、2~6はS字状口縁台付甕で肩部に横ハケを施さないものである。7~9は高坏、10は小型鉢の口縁部か。図版112-6は円形の不明鉄製品。

### 12号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版19）

調査区の中央よりやや西、A区のはば中央のX=114、Y=119グリッドを中心として位置する。南西コーナー部には3号住居が接し、切られている。本住居跡は、3号住居より掘り込みが深いため、全体を調査することができた。西には7・13号住居が隣接する。方形を呈し、主軸をN-28°-Wにとる。東西5.96m、南北5.53m、深さ東側で19cm、西側で9cmを測る。床面には砂礫層が露出しており、硬化した面はみられなかった。炉、柱穴なども確認することができなかったが、住居南西コーナー付近に浅い皿状のくぼみがあり、S字状口縁台付甕が出土している。どのような目的で設置されたかは不明であるが、18号住居からも類似した施設が発見されており、住居内土坑の一類型といえるものであろう。

#### 遺物出土状況（図版19）

遺物量はそれほど多くはない、小破片が散乱しているような状況であった。復元可能なやや大型の破片は、北西コーナーと南西コーナー付近に集中している。南西コーナー付近の皿状のくぼみからはS字状口縁台付甕2点がつぶれたような状態で発見された。

#### 出土遺物（図版89・90・164）

図版89-11・12は壺の口縁部資料。13・14は鉢で、内面中ほどに明瞭な段を有する。15~17、図版90-1~3はS字状口縁台付甕、そのうち2だけが肩部にわずかながら横ハケを施している。

### 13号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版20）

調査区の中央よりやや西、A区のはば中央、X=110、Y=109グリッドを中心として位置する。北東コーナー部には7号住居が接し切られているが、本住居跡の掘り込みが7号住居より深いため、全体を調査することができた。東側には3・12号住居が隣接する。カマドを南にもつて、主軸をN-6°-Eにとる。プランは方形を呈し、東西4.02m、南北3.82m、深さ南側で14cm、北側で8cmを測る。床面はカマド付近を中心に硬化面が一部みられた。カマドのほか、柱穴などの付属施設は発見されていない。

#### カマド（図版20）

住居南壁の中央よりやや東側に位置する。袖石等はすべて抜き去られており、煙道部に袖石に使用したと思われる礫1点が倒れていた。被覆粘土なども確認できていない。カマドの堀り方は、長径93cm、短径63cm、床面からの深さ5cmを測る。袖石が抜き去られた痕跡が3箇所確認された。

#### 遺物出土状況（図版20・21）

住居内における遺物は、カマドを設置する南側を中心に分布する。しかし、出土量はそれほど多いものではなく、古墳時代前期の土器も混入していた。カマド周辺には、土師器坏が散乱していた。

#### 出土遺物（図版90・164）

図版90-4は坏で、底部に回転糸切り痕を残す。5は羽釜の口縁部と思われる。6は鉢、7・8は甕である。

## 14号堅穴住居

### 遺構の概要（図版21）

調査区のほぼ中央、A区東側のX = 106、Y = 143グリッドを中心として位置する。西側には15号住居が、南側には1号住居が隣接する。ほぼ方形のプランを呈し、主軸をN - 20° - Wにとる。東西5.37m、南北5.3m、深さ北側で4cm、東側で1cmとなる。浅い掘り込みのため、北西コーナーは試掘トレンチにより、南東コーナーは斜面下方のため、ともに削平されている。床面は硬化した箇所はみられなかった。住居の北西寄りに炉と推定される痕跡をもつが、その他の付属施設は確認されていない。

### 炉（図版21）

住居の北側、やや西寄において3箇所の浅い皿状のピットが確認された。北側のピットは長径57cm、短径28cmの長楕円形で深さ3cm、南側のピットは径38cmほどの不正円形で深さ2cm、東側のピットは長径36cm、短径26cmの楕円形で深さ2cmを測る。一般的には炉の位置として疑問も残るが、いずれも、覆土には焼土を含み、底面は焼けていたことから、炉の可能性が高いものと考える。

### 遺物出土状況（図版22）

住居の残存状況が良好ではなかったため、出土遺物も多くはなく、住居の南側ではほとんど出土していない。住居南西側にS字状口縁台付甕などがつぶれた状態で発見されている。

### 出土遺物（図版90・91・164）

図版90-9～11、図版91-1・2はS字状口縁台付甕で、肩部に横ハケを施している。

## 15号堅穴住居

### 遺構の概要（図版23）

調査区のほぼ中央、A区東側のX = 105、Y = 134グリッドを中心として位置する。南には1・18号住居が、東側には14号住居が隣接する。方形を呈し、主軸をN - 9° - Wにとる。東西5.37m、南北5.3m、深さは西側で28cm、南側で19cmを測る。住居の中央よりやや東側に枕石を伴う炉を設けている。炉より1.5mほど南東には焼土の薄い堆積がみられた。床面は、硬化した面がみられず、東側では礫層が露出している箇所もみられる。柱穴等の付属施設を検出するには至らなかったが、東壁際の中央で径40cmほどの土坑を確認した。本住居に伴うものか判断できなかったため、1号土坑としたが、壁際に位置することから住居内土坑の可能性もある。

### 炉（図版23）

住居の中央よりやや東側に設置されている。主軸をN - 2° - Eにとり、長径75cm、短径63cm、床からの深さ8cmを測る。南側には幅40cmほどの枕石をもつ。覆土には焼土およびカーボンはほとんどみられず、底面も被然したような痕跡はみられなかった。枕石の上端は一部に研磨痕が確認された。

### 遺物出土状況（図版23・24）

遺物は住居内全体に広がっていたが、東壁際では二重口縁壺の口縁部のみ2点が逆位で並んで出土している。また、北側では大型の壺の下半部が出土している。南西コーナー付近からは、鉢が伏せられた状態で発見された。

### 出土遺物（図版91・164）

図版91-3は丸底鉢で、明瞭な段を有する。4～6は壺の口縁部資料である。4は有段口縁、5は口縁部に4本・単位の棒状浮文を4箇所に添付する。6は単純L型広口壺。7は口縁部が擬四帯状をなし、8・9はS字状口縁台付甕。10・11は壺、12は器台である。

## 16号堅穴住居

### 遺構の概要（図版25）

調査区の中央よりやや西、A区中央北端のX = 129、Y = 127グリッドを中心として位置する。住居の北側半分ほどは調査区外となる。主軸をN - 53° - Wにとる、東西4.55mを測る。住居の残存状況は悪く、プラン確認にも手間取ったため、東側で5cm、西側で2cmの壁高を残すのみであった。床面は硬化面がみられず、

炉・柱穴などの付属施設を確認することもできなかった。

#### 遺物出土状況（図版25）

住居内における出土遺物の絶対量は少ないものの、数点の土器が完形に近い状態で発見された。いずれも床面直上より出土している。住居南コーナー付近では、壺形土器が数点まとめて出土している。また、有段口縁壺の口縁部なども出土している。

#### 出土遺物（図版92・165）

図版92-1～4は壺である。2は有段口縁壺の内面に貝殻腹縁文を八の字状に施文する。3・4は赤彩を施す。5は台付壺で台部を欠損する。

### 17号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版18）

調査区の西側、A区西端のX=125、Y=90グリッドを中心として位置する。住居の西側ほとんどを11号住居によって削平されており、残存しているのは西壁寄りの一部でしかない。主軸を11号住居とはほぼ同じくし、南北4.63m、深さは東側で23cmを測る。床面も硬化した部分はみられなかった。炉・柱穴などの付属施設も確認されていない。

#### 遺物出土状況（図版18）

住居の残存部はごくわずかなため、出土遺物もあまりみられない。小破片が多く、床面に接するような状況にあったものはごくわずかである。

#### 出土遺物（図版92）

図版92-6はS字状口縁台付壺の口縁部破片である。

### 18号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版26）

調査区の中央よりやや西、A区南東のX=99、Y=131グリッドを中心として位置する。東には1号住居が、北側には15号住居が隣接する。精査の過程でプラン確認に至らず、サブトレレンチを設定したことにより確認された住居であり、住居はわずかに壁を残すのみである。方形を呈し、主軸をN-1°-Eにとる。東西4.62m、南北5.07m、深さは南側で6cm、西側で3cmとなる。炉が、住居のほぼ中央よりやや北側に設置されていた。床面は硬化した面がほとんど確認できなかった。住居南西コーナーからやや北側で、ほぼ完形の壺形土器を安置した長径42cm、短径35cm、深さ10cmの浅い住居内土坑を確認した。その他の付属施設は確認されていない。

#### 炉（図版26）

住居の中央よりやや北側に設置されていた。長径41cm、短径36cm、深さ2cmほどの浅い掘り込みをもつ。覆土中には多量の焼土を含んでいたが、底面はそれほど被熱したような状況ではなかった。

#### 遺物出土状況（図版26・27）

遺物量はそれほど多くはないが、上述のように南西コーナー付近に掘られた皿状の住居内土坑からほぼ完形の壺形土器が横たわった状態で出土している。南東では、S字状口縁台付壺がつぶれた状態で発見されている。また、高壙が住居南西寄りと北西コーナー付近から出土している。その他、鉄器が1点出土している。

#### 出土遺物（図版92・93・112・165・166・177）

図版92-7・図版93-1・2は単純II縁壺で、2は広口となる。図版92-8は丸底鉢で、体部内外面に明瞭な段を有する。3・5は大型の高壙、4はS字状口縁台付壺である。図版112-8は鉄製品で鐵鏃の茎部か。

### 19号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版28）

調査区の東側、B区中央南側のX=54、Y=222グリッドを中心として位置する。周辺に遺構はみられず、遺構の空白地帯となっている。カマドを南東コーナー付近にもち、主軸をN-71°-Wにとる。平面プランは

方形を呈し、東西5.01m、南北4.65m、深さは北側で24cm、東側で4cmを測る。床面はカマド付近で一部硬化した面がみられた。カマドが南東コーナー付近に設置されていたが、同じ東壁のやや北寄りに旧カマドの痕跡が確認された。その他の付属施設は確認されなかった。

#### カマド（図版28）

新カマドは、南東コーナーに設置されていた。袖石に使われた用材が数点確認されたが、いずれも原位置を留めるものではなく、残存状況は良好ではなかった。カマドの掘り方もそれほど深いものではなく、9cmほどを測るのみである。袖石が抜き去られた痕跡もほとんど確認することができなかった。カマド内からは、甕形土器が散乱した状況で出土している。

旧カマドは、新カマドより1mほど北の東壁に確認された。袖石等もまったくみられず、炭化物、焼上の堆積が確認されたことから発見された。長径79cm、短径66cm、深さ7cmを測る。覆土には炭化物、焼上が多量に混入しており、土器などはあまりみられなかった。

#### 遺物出土状況（図版28）

確認された住居の掘り込みは浅かったにもかかわらず、出土遺物は坏、皿類を中心豊富に出土している。とくに、カマド周辺からは坏、皿類、甕がまとめて出土した。北西コーナー付近で土師質の坏・小皿がまとめて出土しており、土坑など別の遺構があった可能性が高いが、調査時に検出することはできなかったため、これらの土器を本住居跡内の出土土器とともに掲載しておく。

#### 出土遺物（図版93～95・166・167）

図版93～6～8・図版94～1～9は坏で、口縁部がU縁状となるものが多くを占める。10・11は皿、12～14は上師質の坏である。15～17は内面黒色土器である。18・19は灰釉陶器碗。20～22、図版95～1は甕で、20はロクロ模様されており、20以外は口縁部の肥厚化がみられる。2～6は土師質の小皿である。

### 20号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版29）

調査区の中央よりやや東寄り、B区中央の北端、X=86、Y=222グリッド付近を中心として位置する。住居の中央を南北から北東に向かって10号溝によって切られている。主軸をN-33°-Wにとる。プランは方形を呈し、東西4.93m、南北5.7m、深さは北側で24cm、東側で4cmを測る。住居は疊が多く含む土層に掘り込んでおり、床面には疊が多く露出していた。炉跡を確認することはできなかったが、10号溝によって削平された可能性もある。柱穴は4本柱穴であると思われるが、南側の1箇所を確認することができなかった。

#### 遺物出土状況（図版29・30）

出土遺物量は少なく、主だった遺物は住居東側でS字状口縁台付甕の上半部や高坏の身部などが出土しているにすぎない。

#### 出土遺物（図版95・167）

図版95～7・8はS字状口縁台付甕で肩部に横ハケを施す。9は小型厚手の高坏身部である。

### 21号竪穴住居

#### 遺構の概要（図版31）

調査区の中央よりやや東寄り、B区西側のX=75、Y=197グリッドを中心として位置する。住居東壁の上部は10号溝によって削平を受けている。また、西側には6号溝が隣接する。主軸をN-41°-Wにとる。プランは方形を呈し、東西4.87m、南北5.2m、深さは北西で22cm、北東で16cmとなる。柱穴が四隅からみつかっているが、炉跡を発見することはできなかった。

#### 遺物出土状況（図版31）

出土遺物は小破片がほとんどで、主だった遺物として西コーナー付近で高坏、S字状口縁台付甕が出土したにすぎない。

#### 出土遺物（図版95・96・167・168）

図版95～10は有段口縁壺の口縁部で、内面には櫛歯状刺突文を八の字状にし、二重に巡らせている。11・

12・図版96-1はS字状II縁台付壺で、肩部に横ハケをもたないものである。2~4は高坏で、やや大型のもの（2）と小型のものがある。5は器台。

#### 22号竪穴住居

##### 遺構の概要（図版32）

調査区のはば中央、B区の西端のX=99、Y=184グリッドを中心として位置する。この地点は、6号溝と11号溝に囲まれた部分にあたり、北には23号住居、西には24・25号住居が隣接している。プランは方形を呈し、主軸をN-2°-Eにとる。東西6.12m、南北5.97m、深さは西側で5cm、東側で3cmとなり、残存状況はよくない。北東コーナーは削平されており、残存していない。住居は疊混入層に掘り込んでいたため、床面には至るところに礫が露出しており、硬化面は検出できなかった。炉や、柱穴などの付属施設も発見できなかった。

##### 遺物出土状況（図版32・33）

住居の残存状況は悪かったが、北東コーナー付近と東側中央付近でまとまった遺物の出土がみられた。北東コーナー付近では、壺、S字状II縁台付壺がつぶれたような状態で数個体まとまっていた。また、東側中央付近でも壺がつぶれたような状態で発見されている。

##### 出土遺物（図版96・97・168）

図版96-6・7・10は壺。8・9・図版97-1はS字状II縁台付壺で肩部に横ハケをもたないものである。2は小型の広口壺、3~7は高坏で、いずれも小型のものである。

#### 23号竪穴住居

##### 遺構の概要（図版34）

調査区のはば中央、B区北西端のX=106、Y=181グリッドを中心として位置する。南には22号住居が、南西には25号住居が隣接する。プランは方形を呈し、主軸をN-22°-Wにとる。東西6m、南北6.58m、深さは北側で6cm、東側で12cmを測る。北側のコーナーは調査区外へ延びている。住居は疊を多量に含む層を掘り込んでおり、床面にも拳大の礫が多数露出していた。柱穴は4箇所で確認されたが、いずれも径20cm前後の細いもので、20~30cmの深さをもつ。炉跡は確認できなかった。

##### 遺物出土状況（図版35）

出土遺物は小破片がほとんどで、まばらに散布していたような状況であった。岡化できるような遺物はないが、出土した土器や周辺の状況から、古墳時代前期の所産と思われる。

#### 24号竪穴住居

##### 遺構の概要（図版36）

調査区のはば中央、B区西端のX=95、Y=178グリッドを中心として位置する。北東には22号住居が、北西には25号住居が隣接する。中央よりやや北西に炉の痕跡をもち、主軸をN-13°-Wにとる。住居南側は削平されているが、プランはやや南側が狭くなる長方形を呈すると思われる。東西4.46m、深さは東側で7cm、中央付近で4cmを測る。北側に造る床面には小疊が多く露出していた。炉のほか、柱穴などの付属施設は発見されなかった。北西コーナーと南西寄りで焼土の痕跡が確認された。

##### 炉（図版36）

住居北西の位置に発見された。炉は無構造のもので、長径41cm、短径38cm、深さ2cmほどを測る。底面はよく被熱していた。

##### 遺物出土状況（図版36・37）

住居壁面が造る北側を中心に土器が出土している。小破片が多く、小型壺や高坏の脚部などが旧状をとどめていたにすぎず、ほとんどが復元不可能なものであった。

##### 出土遺物（図版97・168）

図版97-8はS字状II縁台付壺、9は小型広口壺、10は器台、11・12は高坏である。

## 25号竪穴住居

### 遺構の概要（図版38）

調査区のはば中央、B区西端のX = 103、Y = 174グリッドを中心として位置する。東側には22・23・24号住居が隣接する。住居北西コーナーは道路下となり調査することはできなかった。住居中央よりやや東に炉をもち、主軸をN-31°-Wにとる。プランは東西にやや長い長方形を呈し、東西5.58m、南北4.85m、深さは東側で18cm、西側で11cmを測る。床は硬化面がみられなかった。住居内全体に炭化材や焼土がみられ、被火災住居であったことが明らかである。

### 炉（図版38）

住居の中央よりやや東に確認された。東西にやや長い梢円形の無構造炉で、長径55cm、短径44cm、深さ5cmを測る。覆土には多量の焼土がみられ、底面はよく被熱していた。

### 遺物出土状況（図版38・39）

被火災住居であるが、出土遺物量は少なく、分布もまばらである。

### 出土遺物（図版97・98・169）

図版97-13・14は漆の口縁部資料で、13は有段口縁壺になる。15-17はS字状口縁台付壺で、肩部に横ハケをもたない。18は小型壺の底部資料。19・20は鉢である。図版98-1-3は高壺である。

## 26号竪穴住居

### 遺構の概要（図版40）

調査区の西側、C区北端のX = 152、Y = 44グリッドを中心として位置する。住居西コーナー部は12号溝によって削平されており、南東には2号墳が隣接する。北側コーナーは調査区外になり、調査できていない。炉を中央よりやや北側にもち、主軸をN-35°-Wにとる。プランはほぼ方形を呈し、東西3.88m、南北3.6m、深さは西側で23cm、東側で24cmを測る。床面は、炉南側の一部に硬化面がみられた。柱穴は3箇所で確認されているが、北側の柱穴については確認に至らなかった。いずれも径24cmほど、深さ45cmほどのものである。その他の付属施設は確認されていない。

### 炉（図版40）

住居中央よりやや北東側において発見された。北側の淵に長径15cm、短径7cmほどの環を2個並べ置いた石枕炉で、長径38cm、短径34cm、深さ4cmを測る。覆土には焼土や炭化物もほとんどみられず、底面も被熱したような痕跡は認められなかった。

### 遺物出土状況（図版40・41）

一辺4m弱の小型住居であったが、S字状口縁台付壺をはじめとして土器が豊富に出土している。住居北東コーナー付近では、S字状口縁台付壺4点と高壺がまとまって出土した。中央付近では漆がつぶれた状態で発見された。また、南東コーナー部ではほぼ原形をとどめたS字状口縁台付壺などが出土している。

### 出土遺物（図版98・99・169・170）

図版98-4は有段口縁壺で、T1縁部を欠損する。5-7は小型の広口壺、直口壺になり、5・6は赤彩を施す。8は高壺で身内外面に陵を有し、外面と坏身内面に赤彩を施す。9・10・図版99-1-4はS字状口縁台付壺で、いずれも肩部に横ハケをもたない。

## 27号竪穴住居

### 遺構の概要（図版42）

調査区の西側、D区ほぼ中央のX = 112、Y = 76グリッドを中心に位置する。西側には14号溝が、南東には3号墳が位置する。主軸をN-17°-Wにとる。プランは方形を呈し、東西3.88m、南北3.6m、深さは東側で34cm、西側で32cmを測り、本調査区の中では比較的良好な残存状態にあった。床面は中央付近にやや硬化した面がみられたが、全体的には軟弱であった。炉を検出することができなかったが、柱穴が4箇所に確認された。径30cm前後で、深さは50-70cmほどを測る。

### 遺物出土状況（図版42）

住居の残存状況は良好であったため、出土遺物量は多かったが、床面から浮いた状態で発見されたものがほとんどであり、直接住居に伴う遺物は少ない。床面直上より出土した遺物には中央付近の壺、北側中央付近の壺、東側寄りの有孔鉢などがある。また、南西コーナー部からは、石錘が8点まとめて出土している。

#### 出土遺物（図版99・100・112～114・170・177・178）

図版99-5・6・図版100-1・4は壺である。1は外面に赤彩を施す。7・図版100-2・3・5～8はS字状口縁台付壺の資料であるが、2・8は口縁部が拡張しており、8は肩部もそれほど張らない。肩部に横ハケを有するものともたないものがみられる。9は有孔鉢、10は広口壺、11は高壺、12は器台である。図版112-7は薄い棒状鉄製品であるが、用途不明。図版113-5～8、114-1～6は、編み物用石錘。

#### 28号竪穴住居

##### 遺構の概要（図版43）

調査区の東端、E区南側のX=20、Y=272グリッドを中心として位置する。周辺には遺構がほとんどみられず、単独で立地する。南東コーナーにカマドをもち、主軸をN-10°-Wにとる。方形プランを呈し、東西4m、南北4.02m、深さは東側で22cm、南側で16cmを測る。カマド前面の床にやや硬化した面がみられたが、全体的には軟弱であった。カマドのほか、付属施設は発見されなかった。

##### カマド（図版43）

住居の南東コーナー部に設置されていた。残存状況は悪く、東側の袖に使用された礫が1点遺っていたにすぎず、粘土などの構築用材もまったく確認されなかった。燃焼部は床面のレベルをわずかに掘りくぼめただけのものであった。遺された礫も住居のレベルより高く、取り去られた礫の堆積方もみられなかったことから、床のレベルに土を盛り上げてカマドを構築していたことが考えられる。

##### 遺物出土状況（図版43・44）

出土遺物はごくわずかで、東寄りからほとんどが出土しているが、いずれも小破片である。カマド周辺では、変形土器の胴部破片が出土している。

##### 出土遺物（図版101・170）

図版101-1は壺、2は灰釉陶器碗で高台部を欠損する。3～5は壺である。

## 第2節 竪穴状遺構

平面プランが方形基調となりながら、通有の竪穴住居とは異なる遺構を竪穴状遺構として一括した。なかには、一般的な住居のように底面が平坦とはならず、浅い皿状となるものもみられる。

#### 1号竪穴状遺構

##### 遺構の概要（図版44）

調査区の中央よりやや西寄り、A区中央南端のX=95、Y=112グリッドを中心として位置する。遺構全体が4号住居によって上半が削平されている。南西コーナーは調査区外になる。やや北辺が長い方形を呈し、主軸をN-15°-Wにとる。東西2.95m、南北2.66m、深さは東側で18cm、西側で11cmを測る。底面は平坦であるが、炉や柱穴などの施設は確認できなかった。

##### 遺物出土状況（図版44）

出土遺物の総量は多いが、底面から10cmほど浮いて出土したものがほとんどである。底面に接するような状態で出土したものは、S字状口縁台付壺の口縁部破片など限られている。

##### 出土遺物（図版101・171）

図版101-6は折り返し口縁壺で、3本一単位の棒状浮文を3箇所に施す。7～9はS字状口縁台付壺、10は直口壺、11は小型鉢、12は器台である。

## 2号竪穴状遺構

### 遺構の概要（図版45図）

調査区の西側、C区南東端のX=128、Y=62グリッドを中心として位置する。北西には1号墳が隣接する。遺構の南半は道路下になり調査することができなかった。プランは不整形を呈しており、東西の現存長は49m、深さは東側で16cm、西側で8cmを測る。底面は平坦であるが、立ち上がりは緩やかである。北東端に径42cm、深さ13cmの浅い掘り込みがみられ、変形土器が掘えられていた。そのほかに、付属施設は確認されていない。

### 遺物出土状況（図版45図）

南半が調査できなかつたため、出土遺物はそれほど多くはない。上述のように、北東端の皿状土坑に変形土器が掘え置かれた状態で発見された。上半は土器内側に崩れ落ちていたが、ほぼ完形で置かれていたものと考えられる。北側の中央よりやや西側において、土師器壺がつぶれた状態で出土している。

### 出土遺物（図版102・171）

図版102-1・2は碗で、口縁部が後をもって外反する。1は底部に×字形のヘラ記号をもつ。3は甕、4はS字状II縁台付甕、5は器台である。

## 3号竪穴状遺構

### 遺構の概要（図版46）

調査区の西側、D区西端のX=107、Y=60グリッドを中心として位置する。東側には14号溝が走る。平面プランは隅丸方形を呈し、主軸をN-24°-Wにとる。東西4.55m、南北4.5m、深さは中央部で33cmを測る。底面は平坦とはならず、皿状となる。付属施設はなにも確認されなかつた。

### 遺物出土状況（図版46）

出土遺物はごくわずかで、土師器の小破片が覆土中より出土したにすぎない。出土した土器が本遺構の構築時期を示すものではないと考える。

### 出土遺物（図版102・171）

図版102-6は丸底鉢で内面に明瞭な稜をもつ。7は有段口縁壺の口縁部で、口唇部に櫛齒状刺突文をもつ。

## 4号竪穴状遺構

### 遺構の概要（図版47）

調査区の西端、D区南端のX=100、Y=65グリッドを中心として位置する。南半は調査区外となり、調査には至らなかつた。北には3号、東には5号竪穴状遺構が隣接する。方形プランを呈し、主軸をN-17°-Wにとる。東西5.35m、深さは中央付近で23cmを測る。3号竪穴状遺構同様、底面は平坦とはならず浅い皿状となり、緩やかに立ち上がる。付属施設はなにも確認されなかつた。

### 遺物出土状況（図版47・171）

南半が調査区外となり、調査できなかつたこともあり、出土遺物はごくわずかである。古墳時代前期の土師器が出土しているが、覆土中よりの出土であり、本遺構の構築時期を示すものではないと考える。

### 出土遺物（図版102）

図版102-8・9・11はS字状II縁台付甕で、肩部に横ハケをもたない。10は高壺である。

## 5号竪穴状遺構

### 遺構の概要（図版48）

調査区の西側、D区南端のX=101、Y=72グリッドを中心として位置する。遺構中央を14号溝と接するが、溝を切っている。西には4号竪穴状遺構が隣接する。やや南北に長い方形を呈し、主軸をN-21°-Wにとる。東西3.38m、南北3.4m、深さは中央付近で19cmを測る。3・4号竪穴状遺構と比較すると、立ち上がりは同じく緩やかであるが、底面は比較的平坦である。中央よりやや北側の底面に、掘り込み等はみられなかつたものの、長径38cm、短径28cmの範囲で焼土が検出された。

#### 遺物出土状況（図版48）

出土遺物は少なく、10数点の土師器小破片が出土したのみである。平安時代の土師質土器が出土していることから平安時代後期以降の所産と考えられる。

#### 出土遺物（図版102）

図版102-12は土師質の壺である。

#### 6号竪穴状遺構

##### 遺構の概要（図版48）

調査区の東端、E区北端のX=57、Y=271グリッドを中心として位置する。周辺には造構がみられず、南側に16・17号溝、暗渠などが位置する。南北にやや長い方形を呈し、主軸をN-20°-Eにとる。掘り込みが浅いため、北東コーナーは削平を受け残存していない。東西2.55m、南北3.4m、深さは中央付近で21cmを測る。底面はやや平坦であるが、立ち上がりは緩やかである。覆土は小疊混じりの黒色土層であり、3~5号竪穴状遺構に類似したものである。底面などに付属施設はなんら検出されなかった。

##### 遺物出土状況（図版48）

土師器の小破片が数点出土したのみであり、図示できるものはない。また、出土遺物の中に本遺構の構築時期を示すようなものは確認できなかったが、覆土や類似造構の状況から平安時代後期以降の所産と考えられる。

## 第3節 低墳丘古墳

#### 1号墳

##### 遺構の概要（図版49・50）

調査区の西側、C区東端のX=141、Y=76グリッドを中心として位置する。北側は調査区外、南側は道路下となり、調査することはできなかった。西側には土坑・ピット群を挟んで2号墳が隣接する。周溝内側で東西径16.65m、周溝幅は西側2.5m、北側1.9m、東側1.95mを測る。周溝の深さは地形に沿って傾斜しているが、東側が20cm、西側が38cm、北側が21cmととくに浅くなっている。墳丘はすでに削平されており、盛土はまったく遺っていない。坪堀主体部の痕跡なども確認されていない。調査された範囲ではブリッジは検出されなかったが、南側の道路下にあった可能性は否定できない。

##### 遺物出土状況（図版51~53）

周溝内からの出土遺物は多いが、古墳時代前期の遺物が多数を占める。本墳の構築時にあたる遺物は少ない。その中で、須恵器が2箇所からまとまって出土しており、本墳の構築時期を示すものである。墳丘の北から北西にかけての周溝内に、須恵器壺が破碎された状態で出土した。須恵器壺の分布範囲は、5mほどもあり、墳丘端ないし墳丘上に掘え置かれたものが転倒したものではなく、破碎後人為的に廃棄されたものと考えられる。破片は100片を超える小破片に破碎されていた。東側の周溝では、須恵器樽形罐が須恵器壺同様に破碎後に廃棄されたような状態であった。

##### 出土遺物（図版103・104・171）

図版103-1は須恵器樽形罐で、肩部に五条の沈線をめぐらせ、その間に櫛描波状文を一列ないし二列充填している。肩部より上方では、自然釉により櫛描波状文は明瞭ではない。肩部は一方向の側面を欠損するが、他方には回転糸切り痕を残す。端部はつまんで、突堤状を呈する。図版104-1の須恵器壺は、外面を平行タキ、内面はタキ後にナデ調整を施しているが、青海波紋の痕跡を明瞭に残す。頸部には櫛描波状文等の装飾は施されていない。2~4はS字状口縁台付壺と壺の底部資料である。壺の底部外面にはヘラ書きの記号をもつ。

#### 2号墳

##### 遺構の概要（図版54）

調査区の西側、C区中央付近のX=146、Y=54グリッドを中心として位置する。東側には土坑・ピット群を挟んで1号墳が、北西側には26号住居が隣接する。周溝東側は削平によって周溝が途切れている。周溝内側での南北径は9.7m、周溝幅は北側で1.2m、西側で1.4m、南側で1.5mを測る。墳丘はすでに削平されており、盛土はまったく違っていた。埋葬主体部の痕跡なども確認されていない。周溝底面は地形に沿って緩やかに南に向かって傾斜しており、西側が12cm、南側が15cm、北側が9cmほどを測る。周溝が削平されている東側においてブリッジをもった可能性もあるが、他の古墳のあり方からブリッジはもたなかつた可能性が高いものと考える。

#### 遺物出土状況（図版54・55）

周溝の南から西側にかけて多くの土器が出土しているが、ほとんどは古墳時代前期に属する土師器の小破片である。南側の周溝底面に接するように、土師器壺が据え置かれた状態で出土した。胴上半部から口縁部にかけては内側につぶれたような状態であったが、頸部をわずかに欠損するのみで、ほぼ完全に復元することができた。

#### 出土遺物（図版104・172）

図版104-5・6は大型品と広口の壺である。5は内外面ともハケメ調整しているが、6は内面調整があまり、輪積み痕を残す。

#### 3号墳

##### 遺構の概要（図版56・57）

調査区の西側、C・D区にまたがるX=103、Y=89グリッドを中心として位置する。東には5号住居、北西には27号住居が隣接する。南側の一部は調査区外となり、調査することはできなかった。周溝内側で東西径15m、南北径は13.8m、周溝幅東側1.35m、西側2m、南側2m、北側1mを測る。1・2号墳同様、墳丘はすでに削平されており、盛土はまったく違っていた。埋葬主体部の痕跡なども確認されていない。周溝は地形に沿って緩やかに南に向かって傾斜するように掘られており、東側が20cm、西側が17cm、北側が8cmを測る。ブリッジなどは確認されておらず、周溝が全削するものと考えるが、南側の一部が未調査のため断定はできない。

##### 遺物出土状況（図版58）

周溝内からは640点を超える土師器が出土しているが、ほとんどが小破片である。古墳時代前期の土師器が多くを占め、いずれも周溝内に流れ込んだような状態である。出土遺物中に本壺に作ると思われるような遺物はほとんどみられない。

#### 出土遺物（図版104・105・172）

図版104-7～9、図版105-1・2は、いずれも古墳時代前期の土師器であるが、3の高环は短脚となり、古墳時代中期に属する可能性が高い。

## 第4節 溝 跡

#### 1号溝

##### 遺構の概要（図版59）

調査区の中央よりやや西側、A区中央北端のX=120、Y=133グリッドを中心として位置する。東には2号溝、西には3号溝が接する。主軸をN-53°-Eにとる。長さ17.7m、幅は北側で70cm、南側で66cm、深さは15cmほどを測る。地形に沿って緩やかに南西に傾斜する。2・3号溝が接するが、深さ、幅などが類似することから同時期に掘られたものと考えられるが、開削時期は不明である。

##### 出土遺物

土師器を中心に100点を越える遺物が出土しているが、いずれも小破片であり、図示できるような資料は出土していない。開削時期は明らかではない。

## 2号溝

### 遺構の概要（図版59）

調査区の中央よりやや西側、A区北端のX=122、Y=138グリッドを中心位置する。西側で1号溝と接する。主軸をN-81°-Eにとる。長さ5.8m、幅は東側45cm、西側58cm、深さは9cmほどを測る。

### 出土遺物

土師器が3点出土しているが、いずれも小破片であり、図示できるような資料は出土していない。開削時期も不明である。

## 3号溝

### 遺構の概要（図版59）

調査区の中央よりやや西側、A区北端のX=121、Y=132グリッドを中心位置する。東側で1号溝と接する。主軸をN-84°-Wにとる。長さ3.07m、幅は西側50cm、東側51cm、深さは6cmほどを測る。遺構の状況や覆土から1・2号溝と同時期に開削されたものと考える。

### 出土遺物

土師器が1点のみ出土しただけであり、図示できるような資料ではない。開削時期も不明である。

## 4号溝

### 遺構の概要（図版60）

調査区の西側、A区北西端のX=128、Y=96グリッドを中心として位置する。溝中央の西側で5号溝と接する。西側には11・17号住居が隣接する。主軸をN-16°-Wにとり、長さ14.7m、幅は北側1.25m、南側1.05cm、深さは12cmほどを測る。覆土の堆積状態から5号溝より新しいことが判明している。

### 出土遺物（図版105）

古墳時代前期の土師器を中心として300点を超える遺物が出土している。とくに南側では、S字状口縁台付壺などや大型の破片がまとまっていた。これらの状況から、古墳時代前期に開削された可能性が高い。図版105-4は単純口縁壺、5~7はS字状口縁台付壺である。

## 5号溝

### 遺構の概要（図版60）

調査区の西側、A区北西端のX=129、Y=93グリッドを中心として位置する。東側は4号溝によって切られている。南側には11・17号住居が隣接する。主軸をN-81°-Eにとり、長さ3.4m、幅は西側69cm、東側80cm、深さは5cmほどを測る。

### 出土遺物

古墳時代前期の土師器小破片が7点ほど出土したにすぎず、図示できるような資料はない。

## 6号溝

### 遺構の概要（図版61・62）

調査区のはば中央、A区北東端のX=110、Y=162グリッドを中心として位置する。道路を挟んで東側には22~25号住居、11号溝などが隣接する。溝は北側および南東方向へ延びている。溝の幅は一定ではなく、北側では8.9m、中央付近では15m、東側では21.9m、深さは1.5mほどを測る巨大な溝である。

### 出土遺物（図版63・64・105・106・112・113・172・173・177・178）

溝が大型であることもあり、古墳時代前期の土師器を中心に900点あまりの土器が出土している。遺物は溝全体から出土しているが、X=119、Y=157グリッドを中心とする半径1mほどの範囲とX=114、Y=164グリッドを中心とする1m×3mほどの範囲の2箇所には土器の集中が見られた。これら古墳時代前期の土器群は、溝底部中央ではなく、立ち上がり付近より出土したことから溝北側より投棄されたものと考えられる。溝底面に接するような状況であったことから、本溝の開削時期を示す資料といえる。図版105-8・9は

直口壺、小型の広口壺でいずれも外面および内面の口縁部に赤彩を施す。10~14、図版106-1・2は壺と甕の資料であるが、肩部に櫛目状刺突文などの装飾を施すものがみられる。3~13はS字状口縁台付甕の口縁部であるが、口縁が拡張したもの（3~7）なども多くみられる。肩部には横ハケを施していない。14~16は高壺、17~19は器台。図版112-9・10は棒状鉄製品で、鉄錆の茎部か。図版113-2は砂岩製の砥石。

## 7号溝

### 遺構の概要（図版65・66）

調査区の東側、B区東端のX=47、Y=250グリッドを中心として位置する。西側には遺構がみられないが、東側には1~3号暗渠が隣接する。溝の南側は調査区外となるが、さらに南へ延びている。溝北側は主軸をN-30°-Wにとるが、溝中ほどのX=47、Y=250グリッド付近で屈曲し、主軸をN-43°-Eとなる。現存長28.3m、幅は南側で70cm、北側で90cm、深さ20~57cmほどを測る。深さは南側がやや浅くなるが、南側が低くなる地形に沿って緩やかに傾斜する。覆土中には多くの礫が混入しており、暗渠排水の役割を果たしていたものと考えられる。

### 出土遺物

出土遺物は少なく、6点が出土したにすぎない。そのうちには棗瓦の破片が1点含まれており、本溝跡は近代以降の所産と考える。

## 8号溝

### 遺構の概要（図版67）

調査区の中央よりやや東、B区のほぼ中央のX=76、Y=208グリッドを中心として位置する。溝中央よりやや南で9号溝と、北側では10号溝と交差する。主軸をN-2°-Wにとり、全長12.3m、北側幅49cm、南側幅60cm、深さ10cmほどを測る。交差する10号溝よりは古く、9号溝との新旧関係は明らかではない。

### 出土遺物

出土遺物はほとんどなく、土師器の小片が2点出土したのみで、図示できるような資料ではない。開削時期についても不明である。

## 9号溝

### 遺構の概要（図版67）

調査区の中央よりやや東、B区のほぼ中央のX=74、Y=208グリッドを中心に位置する。ほぼ中央で8号溝と交差するが、新旧関係は不明である。西には10号溝が隣接する。溝は西側で主軸をN-88°-E、東側でN-77°-Wにとり、8号溝と接する地点で屈曲する。全長10.5m、幅は西側97cm、東側12.5cm、深さ8~15cmほどを測る。

### 出土遺物

本溝からは出土遺物がなく、開削時期も不明である。

## 10号溝

### 遺構の概要（図版68）

調査区の中央よりやや東、B区中央のX=79、Y=206グリッド付近を中心に位置する。北側では20号住居のほぼ中央を東西に切り、南側では21号住居の東壁の上部を削平している。南側は徐々に浅くなり、途切れている。中央よりやや北側で8号溝と交差するが、8号溝を切っている。溝は8号溝と交差するX=82、Y=208グリッド付近で屈曲し、北側にさらに延びている。現状で全長47.8m、北側幅75cm、中央部幅1.95m、南側幅2m、深さ22~37cmほどを測る。

### 出土遺物（図版107・173）

住居を削平していることもあり、出土遺物点数は多く、640点あまりが出土している。ほとんどが古墳時代前期の土師器小破片である。そのうち3点を図示した。図版107-1は壺、2はS字状口縁台付甕、3は蓋で

あると思われるが、中心部に孔があり、一般的な蓋にはない特徴がみられ、別の器種の可能性がある。これらの出土遺物は、本溝の構築時期を示すものではないと考えている。

### 11号溝

#### 遺構の概要（図版61・62）

調査区の中央付近、B区西側のX = 85、Y = 190グリッド付近を中心位置する。溝はU字型に屈曲し、囲まれた地区には、22～25号住居が位置する。北側および西側は調査区外となり調査できなかったが、両方向ともにさらに延びる。北側幅26.7m、深さ1.3m、西側では幅16.8m、深さ1.3mを測るが、中ほどの屈曲部分は極端に幅が狭くなるとともに浅くなり、幅3m、深さ50cmとなる。溝西側はさらに道路下に延びるが、A区南東隅で溝の確認ができないことから、本溝は6号溝と同一のものと考える。調査終了後の道路建設工事の際に立会い調査を実施したが、未調査となった町道下より溝の痕跡が確認された。

#### 出土遺物（図版63・64・107・108・112・173・177）

巨大な溝跡であるため、出土遺物も非常に多い。遺物総数は5800点あまりを数える。その大半は古墳時代前期の土師器が占めるが、わずかではあるが覆土上層において、平安時代の土師器壺、土師質土器や馬の歯なども出土した。遺物は溝全体から出土しているが、X = 102、Y = 198グリッド付近を中心とする地点に古墳時代前期の土器の集中がみられた。そのあり方は、6号溝同様に溝の外側から投棄したような状態であった。この集中区の古墳時代前期の土器群は、溝底面に接するように出土しており、本溝の開削時期を示す資料である。上層において平安時代以降の土器が出土したことから、かなり長期にわたって溝が埋没せずに残っていたことが伺える。馬の歯もこの平安時代のものと考えられる。図版107-4～13は壺で口縁部に棒状浮文を施すものもみられる。14～16、図版108-1～4はS字状II縁台付壺、肩部に横ハケをもつものがわずかにみられる。5は高壺、6・7は器台。8は直口壺で底部にヘラ記号をもつ。9は壺で外面にヘラ記号をもつ。10～13は土師質土器である。14は蓋。15・16は、それぞれ須恵器壺、灰釉陶器壺である。図版112-11・12は用途不明の鉄製品。

### 12号溝

#### 遺構の概要（図版69・70）

調査区の西側、C区ほぼ中央のX = 139、Y = 46グリッドを中心として位置する。北側では26号住居の北西コーナーを切り、中ほどでは13号溝と交差している。溝北側は主軸をN-14°-Wにとるが、南側で東へ若干屈曲する。南北とも調査区外へ延びるが、現状での長さ33.9m、幅80cm、深さ15cmなどを測り、地形とともに南へ向かって傾斜している。調査区南のD区では14号溝が掘られており、本溝の延伸線上にあたることなどから同一の溝と考えられる。

#### 出土遺物（図版108・174）

覆土中より90点ほどの土器が出土している。そのほとんどを古墳時代前期の土師器が占める。その中で灰釉陶器碗が出土しており、本溝が平安時代後半以降に開削されたことを示している。図版108-17は灰釉陶器碗である。18、19は器台、および手捏土器。

### 13号溝

#### 遺構の概要（図版69・70）

調査区の西側、C区西側のX = 148、Y = 42グリッドを中心として位置する。北側は調査区外に延び、南側は12号溝と接し、切られている。西には土坑・ピット群が隣接する。主軸をN-19°-Wにとり、現状での長さ13.7m、幅50cm、深さ18cmなどを測る。

#### 出土遺物

出土遺物は1点のみで、図示できるような資料はない。

## 14号溝

### 遺構の概要（図版71）

調査区の西側、D区中央のX = 107、Y = 69グリッドを中心として位置する。南側は5号竪穴状造構に切られ、さらに調査区外へ延びる。西には3・4号竪穴状造構が、東には27号住居が隣接する。主軸をN - 37° - Wにとり、現状での長さ23.4m、幅60cm、深さ15cmほどを測る。12号溝と同一と思われる。

### 出土遺物

土器が3点出土しているが、小破片のみで図示できるような資料はない。

## 15号溝

### 遺構の概要（図版72）

調査区の南西、D区南側のX = 82、Y = 82グリッド付近を中心として位置する。南は調査区外に延びる。主軸をN - 3° - Wにとり、現状での長さ8.3m、幅北側で60cm、南側で22.2m、深さ14cmほどを測る。

### 出土遺物

出土遺物が8点あるが、小破片のみで図示できるような資料はなく、開削時期も不明。

## 16号溝

### 遺構の概要（図版72）

調査区の東、E区西側のX = 46、Y = 262グリッド付近を中心として位置する。南側を1号暗渠によって切られている。溝は非常に浅く、残存状況が悪い。主軸をN - 8° - Wにとり、現状での長さ4.8m、幅75cm、深さ15cmほどを測る。

### 出土遺物

出土遺物が8点あるが、小破片のみで図示できるような資料はなく、開削時期も不明。

## 17号溝

### 遺構の概要（図版72）

調査区の東、E区北西のX = 43、Y = 268グリッドを中心として位置する。溝中央付近を1号暗渠によって切られている。主軸をN - 20° - Wにとり、長さ7.9m、幅50cm、深さ11cmほどを測る。

### 出土遺物

出土遺物が2点あるが、小破片のみで図示できるような資料はなく、開削時期も不明。

## 18号溝

### 遺構の概要（図版73）

調査区の東、E区南西端のX = 26、Y = 254グリッド付近を中心として位置する。溝北側は擾乱を受け、南側では3号暗渠によって切られている。主軸をN - 24° - Wにとり、現状での長さ9.3m、幅1.65m、深さ15cmほどを測る。

### 出土遺物

小規模な溝であったが、出土遺物が60点ほど出土している。ほとんどが古墳時代前期の土師器である。小破片のため図示できるような資料はないが、古墳時代前期の開削と考えられる。

## 第5節 性格不明遺構

### 1号性格不明遺構

### 遺構の概要（図版74）

調査区の西、A区南西端のX = 99、Y = 98グリッド付近を中心として位置する。南側は調査区外となる。5号住居の下層に発見されたもので、上半を住居によって削平されている。西側には3号墳が隣接する。遺

構の平面プランは菱形を呈し、東西4m、深さ10cmほどを測る。

出土遺物（図版108・174）

図版108-20は鉢で、内面に明瞭な縁を有する。

## 2号性格不明遺構

遺構の概要（図版74）

調査区の中央よりやや西側、A区西側のX=124、Y=104グリッド付近を中心として位置する。西には4号溝が隣接する。東西に細長い溝状を呈し、主軸をN-83°-Eにとる。長さ8m、西側幅50cm、東側幅1.9m、深さ9cmほどを測る。

出土遺物（図版108）

図版108-21～23はS字状口縁台付壺のII縁部資料である。

## 第6節 土坑・ピット

本遺跡からは、9基の土坑と22基のピットが発見されている。土坑とピットの区分は、径30cm程を境界として大きいものを土坑、小さいものをピットとした。ただし、厳密に区分したものではない。個々の遺構のデータについては、第1表にまとめたのでそちらを参照されたい。

### 土坑

遺構の概要（第1表・図版75～78）

土坑は、比較的のプラン確認が容易であった調査区の西側、C区の2号墳の周辺に集中している。1号土坑は、15号住居の東壁際に発見されたものである。壁際に位置することから、15号住居の住居内土坑の可能性もある。2号土坑は、長径2.3m、短径1.72mを測る大型の土坑である。覆土中からは古墳時代前期の壺、高坏などが出土している。8号土坑は長径0.95mを測る方形プランの土坑であるが、中央付近より刃子1点が出土している。

出土遺物（図版109・112・174・177）

図版109-1は1号土坑出土の高坏脚部。2～6は2号土坑出土遺物であるが、壺、高坏などがみられる。図版112-13は8号土坑出土の刃子である。刃部は完形であるが、茎部をわずかに欠損する。

### ピット

遺構の概要（第1表・図版78・79）

ピットも土坑同様、プラン確認が容易であった調査区の西側、C区の2号墳の周辺およびA区5号住居付近に集中している。これらのうち、掘立柱建物跡の柱穴となるような配列を示すものはみられなかった。

出土遺物

ピットからの出土遺物はほとんどなく、わずかに数点ずつの古墳時代前期の土師器が出上っているにすぎず、図示できるような遺物はない。

## 第7節 暗渠

後述するように、本遺跡E区から4条の暗渠排水施設が発見された。暗渠内には砾とともに陶磁器類、タイルなども出土しており、近代以降の所産と思われる。ただし、IH地権者は暗渠排水の存在については知らないということであった。

### 1号暗渠

遺構の概要（図版80・81）

調査区の東側、E区西側のX=43、Y=264グリッド付近を中心として位置する。西端で2号暗渠と連結する。また、暗渠中央付近では16・17号溝と交差し、切っている。主軸をN-88°-Wにとり、長さ26m、幅75cm、深さ15~30cmほどを測る。暗渠掘り方内は、拵大の砾で充填されており、土砂はほとんどみられなかった。

#### 出土遺物

礫中より土師器壺、染付などの小破片が出土している。

#### 2号暗渠

##### 構造の概要（図版80・81）

調査区の東側、E区西側のX=41、Y=256グリッド付近を中心として位置する。北側は1号暗渠と連結し、南側では直角に屈曲し、3号暗渠と連結する。主軸をN-2°-Eにとり、長さ4.5m、幅75cm、深さ28cmほどを測る。砾の充填状況から1・3号暗渠と一体のものと考えられる。

#### 出土遺物（図版114・178）

礫中より五輪塔の空風輪や染付碗、タイルなどが出土している。図版114-8の空風輪は安山岩製である。

#### 3号暗渠

##### 構造の概要（図版80・81）

調査区の東側、E区西側のX=32、Y=256グリッド付近を中心として位置する。北側で2号暗渠と連結する。南側は調査区外に延びる。主軸をN-9°-Eにとり、現状での長さ17.2m、幅80cm、深さ25~35cmほどを測る。

#### 出土遺物（図版114・178）

礫中より土師器壺、不明石製品などが出土している。図版114-7は安山岩製である。球洞型石製品の一部であると思われるが、中央部を円形に掘りくぼめている。用途不明。

#### 4号暗渠

##### 構造の概要（図版80・81）

調査区の東側、E区西側のX=40、Y=277グリッド付近を中心として位置する。西側には1号暗渠が隣接する。他の暗渠とは異なり、浅い掘り方で、中ほどで途切れている。北側の暗渠は主軸をN-28°-Wにとり、長さ2.55m、幅56cm、深さ16cm、南側の暗渠は主軸をN-17°-Wにとり、長さ1.92m、幅53cm、深さ18cmほどを測る。1~3号暗渠とは連結しないものの、位置関係や充填された砾の状況から一体のものであったと考える。

#### 出土遺物

出土遺物は発見されなかった。

## 第8節 地割れ跡

#### 概要（図版73）

調査区の中央よりやや西側、B区西側のX=84、Y=202グリッド付近に位置する。11号溝中の南東立ち上がり付近にあたる。11号溝立ち上がり底面に黄褐色砂質土層が帶状に確認され、地割れ痕であることが判明した。この地割れの痕跡は幅5cmほどで、長さ2.4mにわたって確認された。主軸をN-66°-Eに向ける。黄褐色砂質土は、地割れ確認面より1.1mほどの深さにある層で、断面観察によりこれが噴き上げたものであることが確認された。地割れの痕跡は、11号溝の覆土上には及んでいないことから、11号溝開削期にあたる古墳時代前半以前に噴出したものと考えられる。大師東丹保遺跡IV区では、大小さまざまな地割れ跡が確認されているが、弥生時代後半から末頃に発生したものだとされている。本遺跡の例は年代断定の根拠がないが、同様な年代を与えることができるのかもしれない。

## 第4章 調査の成果

### 第1節 集落のあり方

今回の発掘調査によって、古墳時代前期の住居跡21軒、平安時代の竪穴住居跡7軒、時期不明を含めた堅穴状遺構6棟、古墳時代中期の低墳丘古墳3基、溝18条、土坑9基、ピット22基、暗渠4条、性格不明遺構2などが発見された。

弥生時代以前の遺跡は、一ノ瀬台地上や台地と扇状地の境界にあたる斜面上に多く分布する傾向にある(保坂1990)。その後の御動使川扇状地上の発掘調査によって、扇状地扇央部に位置する大塚遺跡や石橋北遺跡、扇状地扇端部の溝呂木道上第5遺跡などで、浮線文系土器の出土があり、縄文時代晩期終末段階に扇状地扇端部や沖積地へ進出したことが徐々に明らかとなっている。

古墳時代前期の住居跡が140軒余り確認された村前東A遺跡は、御動使川扇状地上の拠点的集落と考えられるが、弥生時代後期以降、古墳時代前期にわたって継続的に集落が営まれ続けている。また、東海系土器群の代表格であるS字状口縁台付甕が初期の段階から搬入されている。

一方、本遺跡や角力場第2遺跡などは、集落形成が一段階遅れ、前期中葉から後葉になってから成立している。より扇状地扇端部に近い本遺跡周辺への進出が一段階遅れたことを物語るものであるとも考えられるが、隣接する寺部村附第11・12遺跡では、S字状口縁台付甕のA類がわずかながら出土しているという。

甲府盆地において、古墳時代前期の上器の代表格となるS字状口縁台付甕は、口縁部形態や外面肩部に施される整形痕の有無などにより、0、A～D類の5類に分類され、0類からD類への変遷が明らかにされている(赤塚1990)。このS字状口縁台付甕の変遷を基軸として、古墳時代前期における甲府盆地の編年案が提示されている(小林1993・1998)。

また、奈良・平安時代の上器編年については、近年『山梨県史』編纂事業に伴い、山梨県内の編年が提示されている(山下・渕田1999)。

以上の研究成果に基づき、本遺跡の集落変遷を追ってみたい。

I期 1・4・8・9・11・14・16・18・20号住居(古墳前期4期)

II期 12・15・17・21・22・24・25・26・27号住居(古墳前期5期)

III期 7・19・28号住居(奈良・平安時代Ⅶ期)

IV期 6号住居(奈良・平安時代Ⅸ期)

V期 3・13号住居(奈良・平安時代Ⅹ期)

VI期 2号住居(奈良・平安時代Ⅺ期)

I期には、調査区の中央付近よりやや西側で1・18号堅穴住居などを中心として5軒ほどのまとまりをみることができるが、II期になると調査区のほぼ中央、6・11号溝に囲まれた微高地上に22・24号竪穴住居など3～4軒ほどのまとまりがみられるのみで、これまで集落の中心を成したであろうA区周辺では散在化の傾向にある。

本遺跡においては、古墳時代前期のうちにいったん集落が廃絶してしまうこととなる。これは御動使川扇状地上の遺跡のみならず、甲府盆地においてこのような変遷過程を示すものがほとんどを占める。

古墳時代中期になると、調査区西側が墓域として利用されるようになるが、生活の痕跡を認めることはできない。

本遺跡に集落が再び形成されるようになるのは、10世紀後半段階になってからのことである。住居は散在化の傾向が顕著であり、住居のまとまりをみるとできない。その後、11世紀末から12世紀前半までは、集落域として利用され続けている。

## 第2節 6・11号溝について

調査区のほぼ中央で発見された6・11号溝は、町道が南北に縱断していたために分割して発掘調査を実施し、道路下の一部は調査することができなかった。その後の立会い調査などにより本來同一の溝跡であることが明らかとなった。溝は、不正形なU字形を呈していることから、明らかに人工的な掘削であり、土層の堆積状況から自然埋没したことは間違いない。

溝内の上層からは平安時代の土師器なども出土しており、この時期まで埋没せずにある程度の瘤みをもっていたことが考えられるが、6号溝北東部および11号溝北西部の溝底部から立ち上がり付近に古墳時代前期の土師器がまとまって出土した。これらの土器は、溝底面や立ち上がりに接していたことから、土器が溝の開削後余り時間を経ずに廃棄されたものと考えられ、溝開削時期を示す資料といえよう。

溝の最大幅は26mほどを測る巨大なもので、22号竪穴住居など4軒の住居がある微高地を取り囲むようにU字形に屈曲しており、結果的に微高地が張り出した状態になっている。溝屈曲部は、極端に幅も狭く3mほどとなり、掘り込みも50cmほどと浅くなっている。また、古墳時代前期の土器の分布状況をみると、6号溝では北東部付近、11号溝では北西部付近を中心に濃密に分布しており、溝南側や張り出し部の外側にあたる、6号溝西側、11号溝南東側では古墳時代前期の遺物の出土は希薄であった。

以上のことから、溝に囲まれた微高地を何らかの施設と考えれば、調査区のさらに北側に施設の中心をもつものと考えられる。

溝跡から出土した土器と張り出し部に構築された22~25号竪穴住居出土土器には、時間的な差を認めることができず、先後関係があったのか明らかにできない。現状では両者が有機的な関係をもっていたかどうかは明らかではない。

古墳時代に属する、幅20mを超える巨大な屈曲した溝としては、古墳の周溝や居館などが想定されるところであろうが、本溝は平面プランが不整形を呈しており、溝底部も平坦ではない。このようなあり方から、いずれにも該当しないものと考える。

今回の発掘調査では、溝跡の南端を調査したのみであり、調査結果からは溝跡についてこれ以上言及することはできず、その性格は不明といわざるを得ない。今後の調査成果を待つばかりはない。

## 第3節 低墳丘古墳について

調査区の西側で発見された3基の墳墓であろう円形の周溝は、低墳丘系の墳墓群と考えられ、一部に壺・樽形・甕の古式須恵器を伴うものであった。このような墳墓の例は、釜無川右岸地城では初めての発見であり、扇状地扇端部に位置するということでも特異な例といえる。

3基の低墳丘古墳は、いずれも墳丘が削平されており、周溝のみの確認となった。

1号墳は群中最大規模を誇り、須恵器樽形甕と甕が故意に破碎され、周溝内に廃棄されたものと考えられる状態で出土したが、古墳に伴う土師器は出土していない。須恵器はTK208型式併行期のものと考える。

2号墳は、規模が最小で、周溝の掘り込みも隣接する1号墳と比べ浅いものであった。周溝底面に接するように土師器甕が据え置かれていた。また、別の土師器甕が小破片となって出土しており、1個体として復元された。そのほかに目立った土師器はなく、須恵器も出土していない。

3号墳からは、土師器の小破片が多く出土しているが、古墳に伴うと思われるような遺物はほとんど出土していない。そのなかで、短脚の高壠脚部が1点ではあるが出土しており、唯一本墳の築造時期を示す資料と思われる。

古墳の先後関係については、同一の器種の出土がなく資料もごく限られていることから単純に比較することができないが、規模、須恵器を伴う点などから1号墳が最初に築造されたものと考えられるが確証はない。ただし、3基ともそれほど時間差をもって築造されたものでないと思われる。

ここでは、本遺跡の調査例も含め、甲府盆地で近年調査例が増加している「低墳丘系の墳墓」について一

啓してみたい。

## 1) 名称について

まず、本遺跡で検出されたような低墳丘系の墳墓については、さまざまな名称が与えられてきた。その名称については、成立過程の社会的背景を重視する立場から、各研究者によって実にさまざまな名称が提示され用語の統一が図られていない。「古式小墳」(近藤1983)、「低墳丘古墳」(都出1986)、「方形区画墓」(寺沢1986)、「円形・方形周溝低墳墓」(福田1999)などがある。

ここでは前稿に従い、古墳時代における高い墳丘をもった典型的な「古墳」に対する名称として、これらの墳墓群を「低墳丘古墳」として一括して呼ぶこととする(宮澤2003)。

## 2) 低墳丘古墳の諸例

### ①東山南遺跡(山梨県教育委員会1991・93b)

中道町東山南遺跡は、甲斐銚子塚古墳やかんかん塚古墳が立地する丘陵傾斜変換線上の上位に位置する丘陵上にあり、11基の低墳丘古墳が確認されている。東山南遺跡は、その立地から東西の2地区に分かれている。

西側に位置するA地区からは、8基の円形低墳丘古墳と1基の方形低墳丘古墳が発見されている。円形低墳丘古墳は径7~15mほど、周溝幅1~2m前後を測る。削平が著しく、ブリッジの配置は不明なものが多いが、全周するものや、1ヶ所ないし2ヶ所にもつものと規則性は認められない。周溝の残存状況が悪く、出土遺物を伴わない墳墓がほとんどであるが、周溝内より土師器壺・壺・小型壺などが出土している。その中にあって、4号方形低墳丘古墳は一辺8m、周溝幅1mほどの中型の方形墳であるが、周溝覆土中より土師器高壺・壺・小型壺、須恵器把手付塊、直刀、鉄矛残片などが出土している。

東側に位置するB区からは、墳丘をわずかに離す2基の円形低墳丘古墳が発見されている。1号墳は東西15.9m、南北16.3m、高さ1.6m、周溝幅2.5~3m前後となる。円形の周溝を4等分したうちの3ヶ所にブリッジが配されている。主体部は発見されておらず、周溝内から土師器壺・高壺・壺・須恵器把手付塊などが破砕された状況で出土している。2号墳は1号墳の北東に隣接し、東西18.7m、南北19.7m、高さ2.5m、周溝幅3.5m前後となる。ブリッジを均等に5ヶ所に配する。主体部は発見されておらず、周溝内から破砕された状況で土師器壺・高壺・壺・須恵器舟形壺・壺が発見された。

### ②岩清水遺跡(山梨県教育委員会2000b)

中道町岩清水遺跡は、丸山塚古墳とかんかん塚古墳に隣接し、低墳丘古墳が3基発見されている。1号墳は、東西18.1m、南北18.3m、周溝幅3m前後を測る円形墓で、東山南1号墳同様に3ヶ所にブリッジを配している。周溝内より土師器長頸壺・壺・高壺・壺・須恵器高壺・壺などが出土している。同2号墓は1号墓と僅かに周溝を接するように構築され、東西23.75m、南北23.5m、周溝幅3.5m前後となり、現状ではブリッジを1ヶ所にもつ。周溝内より土師器壺・高壺・壺・須恵器高壺・壺が出土している。3号墓は、東西9.2m、南北11.2m、周溝幅1.5m前後で、ブリッジをもたず周溝が全周する。出土遺物はほとんどない。

### ③朝日無名墳(岡野1997)

中道町朝日無名墳は、曾根丘陵の台地上にある。周溝外縁部で径20m、高さ1mとなり、墳丘外面には葺石を施す。トレント調査のため、周溝の状況は明らかではないが、墳丘をほとんど知らない状況や周溝底面より須恵器舟形壺が破砕された状態で発見されていることなどから、低墳丘古墳の可能性が高い。

### ④諫訪尻遺跡(山梨県教育委員会2000a)

境川村諫訪尻遺跡低墳丘古墳群は、甲府盆地最後の前方後円墳である馬乗山2号墳の南西に隣接する支丘の先端に占地する。1号墳は、東西24m、南北22.5m、周溝幅5.5mほどの中型円形墳で、周溝より土師器壺、手捏土器、紡錘車、鉄劍が出土している。2号墓は、削平により南半のみの確認となったが、径14.5mほどの中型円形墳で、周溝内より土師器壺、壺などが出土している。

### ⑤宇山平遺跡(豊富村教育委員会1995)

王塚古墳の東約400mのところに位置する豊富村宇山平遺跡では、数次にわたる試掘調査が実施されており、

数基の古墳の周溝と思われる溝跡が発見されている。そのうち1993年度の調査では、推定径9m前後、周溝幅1mの円形の周溝が発見されている。周溝内からは須恵器罐が出土している。また、1999年度の調査においても円形の周溝が発見され、周溝内より古墳時代中期の土師器罐が出土している（豊富村教育委員会1999）。

その周辺においても径10m前後の円形の周溝が確認されており、低墳丘古墳の周溝である可能性が高い（豊富村教育委員会1993）。また、宇山平古墳群とは谷を挟んだ東側の木原地区の三星院1号墳周辺にも、小規模な墳丘が数基点在している。後期古墳の可能性もあるが、低墳丘古墳の可能性も残る。

#### ⑥宮の下遺跡（岡野1993）

豊富村宮の下遺跡は、三珠町大塚古墳の北東300mほどの所にあり、須恵器樽型罐が発見されている。須恵器は耕作によって偶然発見されたもので、出土造構ならびに状況は明らかではないが、古式須恵器であり集落遺跡からの出土例がほとんどない器種であることから、墳墓に伴って出土した遺物である可能性が高いものと考える。樽型罐は、胴の一部を欠損するのみであるが、肩部に敲打したような痕跡が認められることから、故意に破碎されたものとみられる。

#### ⑦上野遺跡（三珠町教育委員会1989）

三珠町上野遺跡は、全長50mほどの前方後円墳である大塚古墳から2.5kmほど南西の曾根丘陵南西端にあり、低墳丘古墳が1基発見されている。径16~17m、周溝幅1.5~2mほどの円形低墳丘古墳である。幅8mほどの広いブリッジを1ヶ所にもつ。周溝内からは上師器塊、高坏などが出土している。

#### ⑧姥塚遺跡（山梨県教育委員会1987a・b）

御坂町二之宮・姥塚遺跡は、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡で、500軒を超える住居跡が調査された山梨県内でも最大規模の集落遺跡である。全長17.54mの巨大な横穴式石室を持つ姥塚古墳が隣接する。姥塚遺跡内においても集落の東端から数基の古墳が発見されているが、無名4号墳は径18m前後の円形墳で、幅5m前後の周溝をもつ。主体部はなく構築時期の断定はできないが、地山に掘り込んだような横穴式石室の痕跡がなく、周溝内より古式須恵器の高坏脚部が出土していることから、古墳時代中期の築造と考えられる。また、4号墳に隣接して、4号周溝造構として調査された墳墓があり、一辺の両端にブリッジをもつ方形周溝墓のような形態で、一辺7m前後、周溝幅1.5m前後となる。周溝内より、須恵器高坏脚部と土師器塊が出土している。

#### ⑨中畠遺跡（保阪2003）

南アルプス市中畠遺跡は、市之瀬台地上に位置しており、600mほど東には六科丘古墳が立地する。墳丘径15~16m、周溝幅4mほどの墳墓が発見されている。マウンドは削平され、主体部は確認されなかった。斜面下方の南側にブリッジをもち、ブリッジ脇の周溝底部から上師器高坏などが出土しているが、須恵器は伴っていない。

### 3) 遺物の出土状況

低墳丘古墳は、墳丘が削平されていることもあって、出土遺物は少なく土器がほとんどを占める。そのうち、古式須恵器の出土例は6遺跡15例ほどあるが、東山南遺跡、岩清水遺跡、寺部村附第6遺跡の例など、多くの場合故意に破碎された状況がみてとれる。土師器においても同様な事例はあるが少なく、周溝底部に掘え置かれたものが土圧で潰れたような例もある。また、ブリッジをもつものについては、その周辺に遺物が集中する傾向にある。このようにみると、古墳時代前期の方形周溝墓と中期における低墳丘古墳も、ブリッジ部が墳丘（主体部）への通路であるという性格を考慮すれば当然のことではあるが、この入り部周辺が葬送・廐棄儀礼に対し重要な役割を果たしていたことが理解できる。

このように、方形周溝墓と低墳丘古墳とでは、遺物出土状況からみた葬送・廐棄儀礼のあり方にはそれほど大きな違いを認めるることは出来ず、むしろ弥生時代以来の伝統を継承しているといえよう。しかし、前者が方形基調で群集傾向にあるのに対し、一部に例外はあるものの、後者は円形を基調として単独ないしは数基がまとまっているに過ぎず、そのあり方には大きな隔たりがみられる。限られた資料から低墳丘古墳における葬送儀礼の復元は困難な状況にあるが、現状からは弥生時代以来の方形周溝墓に類似した様相をみせる。しかし、造墓に至る社会状況には大きな隔たりがあると考えられ、系譜的に連なるとする考え方には無理が

であろう。したがって、両者を同一レベルで論じることはできないと考える。

これまでにみた低墳丘古墳は、東山南遺跡A地区や朝日無名墳のようにわずかながら墳丘を遺すような例はあるが、多くは墳丘が削平されており発掘調査によって周溝のみが確認される場合がほとんどである。おそらく、方形周溝墓同様、築造当時もそれほど高い墳丘をもつたものではなく、周溝を掘り上げた土のみによって墳丘を積み上げただけのものであったと考えられる。主体部も木棺ないし直葬であって、墓壙は地山層まで掘り込みない簡略なものではなかったろうかと推測される。

#### 4) 低墳丘古墳の歴史的位置づけ

弥生時代から古墳時代前期に造営された方形周溝墓群は、集落とは溝などによって立地を隔てながらも周辺域に造営される例が多い。方形周溝墓が甲府盆地内全域に広がっているのに対し、古墳が築造されることのない地域には低墳丘古墳が造営された例はなく、分布にも偏りがある。かんかん塚古墳と岩清水遺跡・東山南遺跡のように近接して築造される例もあることから、古墳と低墳丘古墳の関係は、相互に重要な結びつきをもっていたものと考えられる。

和田晴吾氏は、中期古墳の秩序と地域首長連合のピラミッド構成の模式図を提示している（和田1994・1998）。広範な地域を領域として単独で築造された前方後円墳の時代とは異なり、5世紀後半段階は畿内政権が直接地域首長の支配を開始する時期とされており、古墳そのものが各地に拡散し、その規模を縮小する様相を呈するのである。甲府盆地はC型に分類されるように、前方後円墳ではなく前方部が縮小した帆立貝式古墳に近い形態をとる首長墓が、地域内のピラミッド構造の頂点として築造されている。おそらく低墳丘古墳もこのピラミッド構造の一構成要素として必要不可欠な存在であり、地域政権構造の一端を担っていた小首長層の墳墓であると考える。

多くの低墳丘古墳が古式須恵器をもつが、当該期の甲府盆地では古式須恵器の出土例は少なく、拠点的な集落の規模が大きい住居から出土しているなど、集落内では未だ一般的な什器としてほとんど定着していない段階である（宮澤1999）。また、東山南遺跡A区4号墳のように、一部には刀劍類も認められることから、これらの遺物を低墳丘古墳の被葬者が自ら首長層とは無関係に入手したとは考えにくいことから、首長層を介して獲得したものと考えられよう。

以上、古墳と低墳丘古墳が相互に結びついていることを重視し、これを評価する立場からこれまでの方形周溝墓をはじめとする低墳丘系の墳墓群とは区別し、古墳時代の墓制を特徴づける一要素として低墳丘古墳とした。首長の墳墓である古墳と相互関係をもたずに営まれた墳墓については、弥生時代以来の系譜上にあるものとして古墳時代に属する方形周溝墓として捉え、古墳時代の墳墓であっても低墳丘古墳とは異なるものとして理解したい（広瀬1984）。

加えて、方形周溝墓が農業共同体の構成単位としての自立的成長を遂げた世帯共同体もしくは有力世帯の家長とその家族の墓であると考えられているのに対し、低墳丘古墳の被葬者が自立的発展の過程で成長したものではなく、首長墓との政治的関係によって生み出されたものであり、高塚古墳とは密接な相互関係をもつものと考える。

低墳丘系の墳墓は、古墳時代前期までは、方形基調の周溝墓であるのに対し、中期には円形基調へと変化を遂げている。これは、首長墓が円形基調であることに対応する現象であるのかもしれない。とすれば、地域内において古墳が定着した時期をもって時間的に並存する低墳丘系の墳墓を低墳丘古墳とすることができよう。

だが、低墳丘古墳が古墳時代墓制の一要素として位置づけられても、両者に直接的な関係が認められるかどうかを読み解くことは現状では容易ではない。

かんかん塚古墳からは、土器類の出土がなく周辺の低墳丘古墳との新古を直接比較することはできないが、主体部から木芯鉄板張輪鏡が出土しており、5世紀第3四半期に比定されるものである（坂本1985・千賀1988）。かんかん塚古墳より新しい形式の輪鏡を出土した京都府穀塚古墳からは、TK23型式ないしそれ以前の須恵器が出土している（白石1985）。一方、東山南B遺跡の低墳丘古墳出土須恵器は、TK216～208型式に比定されるものであり、A区4号墳出土の把手付塊もほぼ同時期とみてよい。岩清水遺跡の出土須恵器は、

東山南遺跡出土の須恵器に比べやや後出するものと思われる。かんかん塚古墳と同時並存する低墳丘古墳を特定することはできないものの、東山南遺跡の新しい段階ないし岩清水遺跡の古段階において、かんかん塚古墳が築造されたのは間違いない。また、両低墳丘古墳は、丘陵上と丘陵下という立地を異にしながらも、特異なブリッジの配置に共通性が認められ、両者の関連性も強く感じる。

低墳丘古墳の調査において埋葬施設の発見例はなく、周溝内出土遺物から低墳丘古墳内の階層差を抽出することは困難であるが、東山南遺跡A・B区のあり方についてみると、B区の墳墓は大型で台地の尾根先端部に位置するのに対し、A区の墳墓は尾根縁辺部に位置し、小型墳が群在する傾向にある。この状況から、両地区に若干の時間差を認めるとしても、両地区的墳墓には格差があるとみてよいであろう。また、東山南A区や姥塚遺跡の例など、方形墳は概して小型であり、大型墳は円形墓のみにみられる。ただし、東山南遺跡A区4号墳からは、把手付須恵器とともに鉄劍が出土しており、墳形そのものが階層差を示すものでもないようである。

甲府盆地内の低墳丘古墳が周溝のみの確認であるため、古墳の内容を詳らかにすることはできず、墳丘規模や限られた周溝内の出土遺物、立地等から比較検討せざるを得ないのが現状である。首長墳の周辺に造られる低墳丘古墳と本遺跡にみられる墳墓群のように、首長墓の遠隔地に造られるものでは墳丘規模や周溝内出土遺物にそれほどの差異を認めることはできず、質的にそれほど差がないものと考えてよいのかもしれない。しかし、首長墳との関係を考えるならば、両者には首長との紐帯の強固さなどに差異があることは考えられよう。

近藤義郎氏は、小壇古墳を規模は小さく副葬品も劣るもの、古墳の墓制にならっているとし、「首長権の一部を現実の職務執行の分担を通してになうことのできた首長一族の有力成員や氏族の長、あるいはそれに準じた有力成員」によって築造されたとする（近藤1983）。小型古墳は、上記の指摘のとおり、主体部や副葬品に古墳としての要素が認められるのに対し、低墳丘古墳は墳丘、副葬品、密集度など、古墳そのものより古墳時代前期の方形周溝墓に近い形態をとるのであり、小型墳を主体とする初期群集墳とは直接結びつくものではないと考える。現在のところ甲府盆地では、初期群集墳のような5世紀代に初現をもつ古墳群の例はなく、地域中小首長の系列直下に低墳丘古墳が位置づけられるような状況にある。これは、ヤマト政権との関係や地域集団の生産性などをはじめとする、政権構造や集団の成熟度の相違が墓制のあり方に表現された事象として理解したい。

また、後期群集墳は有力家長層内部の自立ないし、ヤマト政権の政策であったことが考えられているが、いずれも地域首長との係わりの中で成立したものではないとされることから、低墳丘古墳とは性格をやや異なるものと考える。甲府盆地に横穴式石室が導入されるのは、6世紀第2四半期頃と考えられ、それ以前の墳墓で群集する古墳の発見例はない。現在確認されている低墳丘古墳は、TK208からTK23型式並行期を中心としている。これ以降は消滅傾向にあることから、両者には時間的な隔たりがあり直接的に結びつくものではないと考える。

以上のように、低墳丘古墳の形態は、弥生時代以来の方・円形周溝墓にその起源を求めるができるものの、弥生時代から古墳時代前期までの方・円形周溝墓群と比べ群集の密度が異なり、世帯共同体ないし有力世帯の家長とその家族の墓とするにはその数も非常に僅かである。このことから低墳丘古墳の被葬者は、共同体よりさらに大きな枠組みの中から駿別されたのであり、駿別、低墳丘古墳築造の契機となったのは、地域内中小首長層との密接な係わりによるものだと考える。

甲府盆地でも発見の相次いでいる低墳丘古墳の被葬者の性格は、地域内政権構造において中間的な役割を担った階層の墳墓であったことが想定される。

## 参考文献

- 赤塚次郎 1990 「V「考察」「劍間遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集 愛知県埋蔵文化財センター
- 石神孝子 1998 「甲斐における古墳時代中期の墓制について 一曾根丘陵の円形低墳墓一」『研究紀要』14 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 石部正志 1975 「古墳文化論 一群集小古墳の展開を中心に」『日本史を学ぶ』1 原始・古代 有斐閣
- 石部正志 1980 「群集墳の発生と古墳文化の変質」『東アジア世界における日本古代史講座』第4巻 学生社
- 岡野秀典 1993 「豊富村出土の樽型甌」『山梨県考古学協会誌』第6号 山梨県考古学協会
- 岡野秀典 1997 「山梨県の初期須恵器」『山梨県考古学協会誌』第8号 山梨県考古学協会
- 小郷利幸 2001 「津山市日上畠山古墳群出土の樽形甌」『年報 津山弥生の里』第8号 (平成11年度) 津山 弥生の里文化財センター
- 風間栄一 2001 「前方後円墳と小型古墳 一善光寺平古墳時代中期の実態を求めてー」『長野』第216号 長野郷土史研究会
- 橿原町教育委員会ほか 1983 『物見塚』
- 楠元哲夫 1986 「宇陀、その古墳時代前半期における二・三の問題」『北原古墳』宇陀町文化財調査報告書第1集 宇陀町・奈良県立櫻原考古学研究所
- 小池 寛 1991 「低墳丘方形墓」小考』『京都府埋蔵文化財論集』第2集 一創立十周年記念誌一 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 甲西町教育委員会 1981 「佐吉遺跡」 郷土史叢書第1集
- 小林健二 1993 「山梨県域の土器様相」『東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会新潟大会実行委員会
- 小林健二 1998 「山梨県出土の東海系土器 一波及と定着と変容ー」『山梨県考古学協会会誌』第10号 山梨県考古学協会
- 小林広和 2003 「守部村附第9・中西第3遺跡」『年報19』 山梨県埋蔵文化財センター
- 小林行雄 1971 「古墳文化編年論」『論集 日本文化の起源1』考古学
- 近藤義郎 1952 「佐良山古墳群の研究」 津山市
- 近藤義郎 1983 「前方後円墳の時代」 岩波書店
- 白石太一郎 1976 「石光山古墳群の提起する問題」『葛城・石光山古墳群』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第31冊 奈良県教育委員会
- 白石太一郎 1981 「群集墳の諸問題」『歴史公論』第7巻第2号 雄山閣
- 末木 健 1993 「古代甲斐国首長権の成立について」『山梨県史研究』創刊号 山梨県
- 田中和弘 1986 「古市古墳群における小古墳の検討」『考古学研究』第32巻第4号 考古学研究会
- 都出比呂志 1986 「墳墓」『岩波講座 日本考古学』4 集落と祭祀 岩波書店
- 寺沢 薫 1986 「矢部遺跡総論」「矢部遺跡」奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書 第49冊 奈良県立櫻原考古学研究所
- 豊富村教育委員会 1993 「高部字山平遺跡」 豊富村埋蔵文化財調査報告第1集
- 豊富村教育委員会 1995 「高部字山平遺跡Ⅱ・浅利氏館跡・三枝氏館跡」 豊富村埋蔵文化財調査報告第2集
- 豊富村教育委員会 1999 「平成10年度村内遺跡発掘調査報告書」 豊富村埋蔵文化財調査報告第8集
- 中山誠二 「甲府盆地における方形低墳墓残存に関する一考察」「甲斐の成立と地方的展開」 磐貝正義先生 喜寿記念論文集刊行会
- 永峯光一 1951 「古墳と環境 一甲府盆地の場合ー」『国史学』56 国史学会
- 西鶴定生 1961 「古墳と大和政権」『岡山史学』 第10号 岡山史学会
- 橋本澄朗 1999 「東国の中期古墳に関する二・三の問題 一栃木県の事例を中心としてー」『東国土器研究』第5号 東国土器研究会

- 橋本博文 1984 「甲府盆地の古墳時代における政治過程」「甲府盆地—その歴史と地域性」 有山閣出版
- 広瀬和雄 1984 「群集墳研究の課題と方法」「歴史科学」第96号 大阪歴史学科学協議会
- 福田健司 1999 「東京都における5世紀の土器と問題点」「東国土器研究」第5号 東国土器研究会
- 保阪太一 2003 「長田口遺跡・中畠遺跡」「山梨考古」第91号 山梨県考古学協会
- 保坂康夫 1990 「原始・古代の遺跡」「若草町誌」若草町
- 三珠町教育委員会 1989 「上野遺跡」
- 宮澤公雄 1994 「甲斐曾根丘陵における古墳時代前半期の様相 一東山・米倉山地域の再検討を通してー」「山梨考古学論集」Ⅲ 山梨県考古学協会
- 宮澤公雄 2001 「八代町竜塚古墳をめぐって」「帝京大学山梨文化財研究所報」第41号 帝京大学山梨文化財研究所
- 宮澤公雄 2002 「寺部村附第6遺跡」「山梨考古」第84号 山梨県考古学協会
- 宮澤公雄 2003 「寺部村附第6遺跡出土の須恵器と墳墓」「帝京大学山梨文化財研究所報」第45号 帝京大学山梨文化財研究所
- 宮澤公雄 2003 「古墳時代中期における小規模墳の一様相 一甲府盆地を例としてー」「帝京大学山梨文化財研究所研究報告」 第11集 帝京大学山梨文化財研究所
- 八代町教育委員会 1995 「山梨県指定史跡 囲・銚子塚古墳」 保存整備報告書一 八代町埋蔵文化財報告書 第9集
- 山下孝司・瀬田正明 1999 「奈良・平安時代の編年」「山梨県史」資料編2 山梨県
- 山梨県 1998 「三星院古墳群」「山梨県史」資料編1 原始・古代1
- 山梨県教育委員会 1979 「甲斐茶塚古墳」 風土記の丘埋蔵文化財調査報告書第1集
- 山梨県教育委員会 1987a 「二之宮遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第23集
- 山梨県教育委員会 1987b 「姥塚遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第24集
- 山梨県教育委員会 1990 「桜井畑遺跡A・C地区」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第54集
- 山梨県教育委員会 1991 「東山南(B)遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第64集
- 山梨県教育委員会 1993a 「東山南(A)遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第76集
- 山梨県教育委員会 1993b 「東山北遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第79集
- 山梨県教育委員会 1997a 「向河原遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第129集
- 山梨県教育委員会 1997b 「油田遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第130集
- 山梨県教育委員会 1997c 「大師東丹保遺跡I区」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第131集
- 山梨県教育委員会 1997d 「大師東丹保遺跡II・III区」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第132集
- 山梨県教育委員会 1997e 「大師東丹保遺跡IV区」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第133集
- 山梨県教育委員会 1998 「新居道下遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第147集
- 山梨県教育委員会 1999a 「村前東A遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第157集
- 山梨県教育委員会 1999b 「十五所遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第158集
- 山梨県教育委員会 2000a 「二本柳遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第183集
- 山梨県教育委員会 2000b 「諏訪尻遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第180集
- 山梨県教育委員会 2000c 「岩清水遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第182集
- 山梨県埋蔵文化財センター 1985 「かんかん塚(茶塚)古墳・杯塚」「年報」2 昭和58~60年度
- 若草町教育委員会 1998 「角力場第2遺跡」「若草町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 若草町教育委員会 2003a 「溝呂木道上第5遺跡(第II地点)」「若草町埋蔵文化財調査報告書第4集
- 若草町教育委員会 2003b 「将監塚」「若草町埋蔵文化財調査報告書第5集
- 和田晴吾 1992 「群集墳と終末期古墳」「新版 古代の日本」第5巻 近畿 I 角川書店
- 和田晴吾 1994 「古墳築造の諸段階と政治的階層構成」「古代王権と交流」第5巻 ヤマト王権と交流の諸相 名著出版
- 和田晴吾 1998 「古墳時代は国家段階か」「古代史の論点4 権力と国家と戦争」 小学館

第1表 土坑・ビット一覧表

[ ] の中の数値は復元前  
単位: m

遺構名	グリッド	形態	上端		下端	長径×短径	深さ	主軸	出土遺物	備考
			長径	短径						
1号土坑	106-137	不整円	0.42×0.40	0.32×0.26		0.08	N-5'-W	土師器4点		15号住居内生糞土(可燃性あり)
2号土坑	79-235	不整梢円	2.30×1.72	2.00×1.40	0.20	N-69'-E	土師器142点	石1点		4号土坑・12号壙を切る
3号土坑	139-45	不整	1.27×0.64	1.14×0.44	0.15	N-27'-W				3号土坑に割り5m、12号壙を切る
4号土坑	138-45	不整	1.06×〔0.56〕	0.87×〔0.45〕	0.13	N-49'-E				
5号土坑	145-64	不整梢円	0.71×0.52	0.60×0.36	0.28	N-68'-W	土師器19点			
6号土坑	149-68	梢円	1.23×0.62	1.01×0.55	0.29	N-60'-E	土師器4点			
7号土坑	150-30	円	0.57×0.56	0.22×0.21	0.15	N-35'-W				北半調査区外
8号土坑	156-31	方	0.95×—	0.85×—	0.12	N-88'-E	鐵製品1点			
9号土坑	154-38	梢円	1.28×0.75	0.90×0.52	0.20	N-13'-E	土師器3点			
9号ビット	99-99	円	0.28×0.26	0.19×0.19	0.21	N-68'-W	土師器1点			5号住居内
2号ビット	100-99	円	0.30×0.28	0.22×0.20	0.18					5号住居内
3号ビット	153-40	梢円	0.46×0.35	0.34×0.21	0.15					13号溝が切る
4号ビット	143-64	円	0.38×0.35	0.28×0.22	0.21					
5号ビット	143-64	円	0.28×0.27	0.18×0.18	0.14					
6号ビット	142-62	円	0.37×0.35	0.24×0.24	0.19					
7号ビット	143-62	隅丸方	0.45×0.43	0.23×0.20	0.26					
8号ビット	142-60	隅丸方	0.45×0.43	0.23×0.21	0.28					
9号ビット	146-61	円	0.20×0.20	0.14×0.13	0.17					
10号ビット	146-61	不整梢円	0.45×0.43	0.25×0.24	0.30					
11号ビット	146-60	円	0.30×0.29	0.11×0.10	0.17					
12号ビット	148-61	円	0.22×0.21	0.16×0.15	0.13					
13号ビット	148-62	隅丸長方	0.39×0.36	0.26×0.24	0.24					
14号ビット	149-67	円	0.24×0.24	0.15×0.14	0.15					
15号ビット	147-66	円	0.40×0.37	0.28×0.27	0.20					
16号ビット	140-65	隅丸方	0.29×0.28	0.20×0.20	0.15					
17号ビット	134-64	円	0.39×0.38	0.26×0.25	0.17					
18号ビット	148-59	円	0.26×0.26	0.14×0.13	0.12					
19号ビット	148-69	円	0.26×0.23	0.20×0.18	0.10					
20号ビット	152-39	隅丸方	0.35×0.30	0.23×0.20	0.15					
21号ビット	153-38	覃丸方	0.24×0.23	0.16×0.13	0.27					
22号ビット	152-36	円	0.46×0.46	0.36×0.34	0.11					

第2表 出土遺物觀察表（土器）

2. 飲食は、何かされたうちのもの／體合体のうちのものをです。また、これらの飲食は行動によるものである。

重機名	試験番号	回数	图形	寸法 (mm)	備考
クレーン	1	1	△	100	
クレーン	1	2	△	100	
クレーン	1	3	△	100	
クレーン	1	4	△	100	
クレーン	1	5	△	100	
クレーン	1	6	△	100	
クレーン	1	7	△	100	
クレーン	1	8	△	100	
クレーン	1	9	△	100	
クレーン	1	10	△	100	
クレーン	1	11	△	100	
クレーン	1	12	△	100	
クレーン	1	13	△	100	
クレーン	1	14	△	100	
クレーン	1	15	△	100	
クレーン	1	16	△	100	
クレーン	1	17	△	100	
クレーン	1	18	△	100	
クレーン	1	19	△	100	
クレーン	1	20	△	100	
クレーン	1	21	△	100	
クレーン	1	22	△	100	
クレーン	1	23	△	100	
クレーン	1	24	△	100	
クレーン	1	25	△	100	
クレーン	1	26	△	100	
クレーン	1	27	△	100	
クレーン	1	28	△	100	
クレーン	1	29	△	100	
クレーン	1	30	△	100	
クレーン	1	31	△	100	
クレーン	1	32	△	100	
クレーン	1	33	△	100	
クレーン	1	34	△	100	
クレーン	1	35	△	100	
クレーン	1	36	△	100	
クレーン	1	37	△	100	
クレーン	1	38	△	100	
クレーン	1	39	△	100	
クレーン	1	40	△	100	
クレーン	1	41	△	100	
クレーン	1	42	△	100	
クレーン	1	43	△	100	
クレーン	1	44	△	100	
クレーン	1	45	△	100	
クレーン	1	46	△	100	
クレーン	1	47	△	100	
クレーン	1	48	△	100	
クレーン	1	49	△	100	
クレーン	1	50	△	100	
クレーン	1	51	△	100	
クレーン	1	52	△	100	
クレーン	1	53	△	100	
クレーン	1	54	△	100	
クレーン	1	55	△	100	
クレーン	1	56	△	100	
クレーン	1	57	△	100	
クレーン	1	58	△	100	
クレーン	1	59	△	100	
クレーン	1	60	△	100	
クレーン	1	61	△	100	
クレーン	1	62	△	100	
クレーン	1	63	△	100	
クレーン	1	64	△	100	
クレーン	1	65	△	100	
クレーン	1	66	△	100	
クレーン	1	67	△	100	
クレーン	1	68	△	100	
クレーン	1	69	△	100	
クレーン	1	70	△	100	
クレーン	1	71	△	100	
クレーン	1	72	△	100	
クレーン	1	73	△	100	
クレーン	1	74	△	100	
クレーン	1	75	△	100	
クレーン	1	76	△	100	
クレーン	1	77	△	100	
クレーン	1	78	△	100	
クレーン	1	79	△	100	
クレーン	1	80	△	100	
クレーン	1	81	△	100	
クレーン	1	82	△	100	
クレーン	1	83	△	100	
クレーン	1	84	△	100	
クレーン	1	85	△	100	
クレーン	1	86	△	100	
クレーン	1	87	△	100	
クレーン	1	88	△	100	
クレーン	1	89	△	100	
クレーン	1	90	△	100	
クレーン	1	91	△	100	
クレーン	1	92	△	100	
クレーン	1	93	△	100	
クレーン	1	94	△	100	
クレーン	1	95	△	100	
クレーン	1	96	△	100	
クレーン	1	97	△	100	
クレーン	1	98	△	100	
クレーン	1	99	△	100	
クレーン	1	100	△	100	

種類名	原産地名	西風	東風	日射	雨量	寒暖	風速	風向	風速	色調		耕土	含水率	地底	生存率
										高台林	低谷林				
2号植生	81-6 1.5m高	-	-	-	-	-	-	-	-	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10	表面に発根	
2号植生	84-7 灰輪海岸	林	-	-	(6.9)	ロクロナダ	-	-	-	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10	表面に発根	
3号植生	84-8 土原貯	林	9.4	[4.6]	1.8	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/20		
3号植生	84-9 土原貯	林	[10.0]	[2.0]	1.8	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	15/10		
3号植生	84-10 小	[13.6]	-	(1.8)	-	-	-	-	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	10/5			
3号植生	84-11 灰	[10.0]	-	(1.6)	1.8	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	10/5		
3号植生	84-12 海	-	-	(1.7)	1.8	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-13 土原貯	林	[22.8]	-	(8.2)	ロクロナダ	-	-	-	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-14 土原貯	林	[18.6]	-	(5.9)	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-15 土原貯	林	[13.0]	0.6	(1.6)	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-16 土原貯	林	[15.0]	-	(3.9)	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-17 土原貯	S子原	-	(3.7)	1.7	ササ	ササ	ササ	ササ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	10/5		
4号植生	84-18 土原貯	S子原	[17.2]	-	(6.2)	ササ	ササ	ササ	ササ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-19 土原貯	S子原	[27.8]	-	(6.3)	ササ	ササ	ササ	ササ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	10/5		
4号植生	84-20 土原貯	S子原	[8.0]	-	(6.3)	ササ	ササ	ササ	ササ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-21 土原貯	S子原	[7.6]	-	(6.3)	ササ	ササ	ササ	ササ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	10/5		
4号植生	84-22 土原貯	S子原	[17.6]	-	(6.3)	ササ	ササ	ササ	ササ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-23 土原貯	S子原	[11.5]	-	(3.8)	ササ	ササ	ササ	ササ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-24 土原貯	S子原	-	(3.0)	-	ササ	-	-	-	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
4号植生	84-25 土原貯	S子原	[10.5]	4.2	2.8	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/20		
5号植生	85-10 土壤過	林	-	4.2	(2.05)	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10	表面に発根	
6号植生	85-11 1葉期	林	-	-	(1.7)	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
6号植生	85-12 土壤過	林	[14.7]	-	(3.7)	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	10/5		
7号植生	85-13 土壤過	林	12.6	6.5	6.8	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	20/10		
7号植生	85-14 土壤過	林	[12.6]	6.9	3.3	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10	表面に発根	
7号植生	85-15 土壤過	林	[11.6]	5.1	2.9	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10		
7号植生	85-16 土壤過	林	[13.0]	6.4	4.0	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10		
7号植生	85-17 土壤過	林	[18.6]	7.4	4.7	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10		
7号植生	85-18 土壤過	林	[12.4]	7.0	2.7	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10		
7号植生	85-19 土壤過	林	[17.0]	3.2	-	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10		
7号植生	85-20 土壤過	林	[5.5]	(1.9)	-	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10		
7号植生	85-21 土壤過	林	-	(7.0)	(2.7)	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10		
7号植生	85-22 土壤過	林	-	7.0	(1.6)	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	白、淡褐色	白、淡褐色	耕	90/10		



標本名	出典地	形態	高さ (cm)	葉形	葉幅	葉長	葉面	葉底	葉裏	葉面		葉上	葉下	花被物	雄蕊	雌蕊
										内葉	外葉					
12号毛茎	89-12 1.根部	鑑	[16.5]	-	(4.5)	ナデ	-	-	-	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、黑色斑子、金色斑子、黃	白	20/5	
12号毛茎	89-13 土壠部	鑑	[12.1]	-	(5.5)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、黑色斑子、黃	白	30/20	
12号毛茎	89-14 土壠部	鑑	[17.8]	-	(7.0)	繋毛	ナデ	-	-	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、黑色斑子、黃	白	5/-	
12号毛茎	89-15 土壠部	S半葉	[13.8]	-	(3.9)	ナデ <sup>2</sup> 、ハケナデ	ナデ <sup>2</sup> 、ハケナデ	ナデ <sup>2</sup> 、ハケナデ	ナデ <sup>2</sup> 、ハケナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、黑色斑子、黃	白	5/-	
12号毛茎	89-16 1.根部	S半葉	[13.3]	-	(22.0)	ナデ	-	-	-	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、黑色斑子、黃	白	60/50	
12号毛茎	89-17 土壠部	S半葉	[14.0]	3.0	25.6	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	80/90	
12号毛茎	89-1 土壠部	S半葉	[15.3]	-	(11.0)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、黑色斑子、黃	白	25/15	
12号毛茎	89-2 1.根部	S半葉	[17.1]	-	(6.0)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	20/10	
12号毛茎	89-3 土壠部	S半葉	[13.5]	-	(6.1)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	30/10	
12号毛茎	89-4 土壠部	折	[14.1]	6.1	4.7	ロクロナデ <sup>2</sup>	ロクロナデ <sup>2</sup>	ロクロナデ <sup>2</sup>	ロクロナデ <sup>2</sup>	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	40/40	
13号毛茎	90-6 上部茎	S半葉	[27.5]	-	(7.6)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	40/40	
13号毛茎	90-6 上部茎	脚	[8.0]	-	(4.3)	ロクロナデ <sup>2</sup>	ロクロナデ <sup>2</sup>	ロクロナデ <sup>2</sup>	ロクロナデ <sup>2</sup>	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	50/-	
13号毛茎	90-7 土壠部	坐	-	9.3	(3.9)	ハケナデ <sup>2</sup>	ハケナデ <sup>2</sup>	ハケナデ <sup>2</sup>	ハケナデ <sup>2</sup>	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	100/-	
13号毛茎	90-8 上部茎	脚	[12.0]	(7.6)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	40/40	
14号毛茎	90-9 上部茎	S半葉	[18.0]	-	(7.5)	ナデ <sup>2</sup> 、色彩斑子 <sup>2</sup>	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	40/40				
14号毛茎	90-10 土壠部	S半葉	[26.0]	-	(5.6)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	50/-	
14号毛茎	90-11 上部茎	S半葉	[8.0]	-	(5.9)	ナデ <sup>2</sup> 、無斑底	ナデ <sup>2</sup> 、無斑底	ナデ <sup>2</sup> 、無斑底	ナデ <sup>2</sup> 、無斑底	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	50/-	
14号毛茎	90-1 上部茎	S半葉	-	(18.1)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	40/70	
14号毛茎	90-2 上部茎	S半葉	[21.6]	-	(4.5)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	55/95	
14号毛茎	90-3 上部茎	S半葉	[18.4]	3.4	8.2	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	55/95	
14号毛茎	90-4 上部茎	脚	-	(6.2)	脚	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	55/95	
15号毛茎	91-5 土壠部	鑑	[18.7]	-	(5.6)	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	100/10	
15号毛茎	91-6 1.根部	鑑	[16.7]	-	(5.2)	-	-	-	-	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	20/-	
15号毛茎	91-7 土壠部	鑑	[17.0]	-	(3.1)	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	10/-	
15号毛茎	91-8 1.根部	S半葉	[16.6]	-	(7.8)	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	20/-	
15号毛茎	91-9 1.根部	S半葉	-	-	(7.8)	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	20/-	
16号毛茎	91-10 土壠部	鑑	-	-	(7.9)	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	20/-	
16号毛茎	91-11 1.根部	鑑	-	-	(27.4)	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	50/40	
16号毛茎	91-12 土壠部	鑑	-	(3.2)	ナデ <sup>2</sup>	-	-	-	-	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	50/40	
16号毛茎	92-1 土壠部	鑑	[3.4]	6.0	15.2	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	50/40	
16号毛茎	92-2 1.根部	鑑	-	(6.1)	脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	ナデ <sup>2</sup> 、脚	外一層 内二層 外一層 内二層	外一層 内二層 外一層 内二層	根	白、色彩斑子、黃	白	50/40	



標本名	明治年	種類	地所	口述		説明	内因	外因	感	色調	触	感	含蓄物	感	感	感		
				年	月													
195号	94.17	子爵豆	茨	[16.5]	-	(4.5)	ロクナダ	-	毛	白、黑色粒子、金色澤	-	-	-	-	-	-	-	
195号	94.18	灰褐色刺繡	茨	[14.0]	-	(1.7)	ロクナダ	ロクナダ	毛	白、黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	46/20	竹葉墨色土系	
195号	94.19	灰褐色刺繡	茨	[13.4]	-	(2.6)	ロクナダ	ロクナダ	毛	白、黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	10/-	-	
195号	94.20	千絞羽	茨	[13.4]	-	(6.3)	ハゲ	ロクナダ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	20/-	ロクナダ
195号	94.21	「十絞羽」	茨	[27.9]	-	(3.9)	ハゲ	ハゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	10/-	周辺には、底に細い筋子も入る
195号	94.22	土御番	茨	[28.0]	-	(6.6)	ハゲ	ハゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	10/-	-
195号	95.1	土御番	茨	[30.8]	-	(21.2)	ハゲ、折腹玉筋	ハゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	30/20	-
195号	95.2	土御番	茨	[9.2]	[5.0]	2.0	ロクナダ	ロクナダ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	30/20	-
195号	95.3	「上御番」	茨	[7.6]	[4.6]	1.7	ロクナダ	ロクナダ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	20/15	-
195号	95.4	「中御番」	茨	-	[6.6]	(1.9)	[13] ロクナダ	ロクナダ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	20/-	-
195号	95.5	「下御番」	茨	-	[15.9]	(0.96)	ロクナダ	ロクナダ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	90/-	-
195号	95.6	「上御番」	茨	[7.4]	[4.1]	1.5	ロクナダ	ロクナダ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	30/15	-
195号	95.7	「中御番」	茨	[10.5]	-	(7.8)	リダ	リダ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	30/10	-
20号	96.1	十絞羽	茨	[12.8]	-	(5.0)	ナゲ、相模原	ナゲ、ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	80/20	-
20号	96.2	土御番	茨	[10.5]	-	(3.3)	ナゲ、足利	ナゲ、ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	80/-	-
20号	96.3	土御番	茨	[17.4]	-	(4.7)	ナゲ、相模原	ナゲ、ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	30/-	-
20号	96.4	「上御番」	茨	[16.6]	-	(5.7)	ナゲ、足利	ナゲ、ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	30/-	-
21号	96.5	「上御番」	茨	[16.9]	-	(5.7)	ナゲ、足利	ナゲ、ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	25/-	-
21号	96.6	「上御番」	茨	[9.1]	[5.6]	13.6	ナゲ、相模原	ナゲ、ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	70/70	-
21号	96.7	「上御番」	茨	[17.4]	[10.4]	11.5	ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	60/10	一側前面にスズナ付属
21号	96.8	土御番	茨	[12.4]	-	(4.1)	ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	70/-	-
21号	96.9	「上御番」	茨	-	(3.1)	-	ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	70/-	一側前面にスズナ付属
21号	96.10	「上御番」	茨	[11.2]	-	(3.1)	「上」字ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	70/-	-
22号	96.11	上御番	茨	16.0	6.0	23.7	ナゲ、ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	70/70	-
22号	96.12	上御番	茨	-	-	(14.8)	ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	60/60	-
22号	96.13	「中御番」	茨	[15.7]	(4.0)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	-	-
22号	96.14	「中御番」	茨	[15.7]	(4.0)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	-	-
22号	96.15	「中御番」	茨	[13.3]	-	(4.4)	ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	-	-
22号	96.16	「中御番」	茨	[7.8]	[22.1]	1.6	ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	60/40	-
22号	96.17	土御番	茨	[2.6]	8.0	[22.3]	ナゲ	ナゲ	毛	白	黑色粒子	金色澤	白	白、黑色粒子	金色澤	白	30/30	-

通称名	固有番号	形態	葉形	口徑	底径	高さ(cm)	當面	内面	外面	被毛	花被片	雄蕊	雌蕊	花被物	梗	備考	
																色	葉
22号花	97-2	土壌熱	小葉熱	1.0	3.3	10.1	ナデ	ヘラ葉熱	ヘラ形	-	白、赤色斑7、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	80/80				
23号花	97-3	土壌熱	高杯	[11.6]	-	(5.0)	ナデ	ヘラ葉熱後縁	ナデ	内一列に5枚、外二列に6枚 ( <i>6865/1</i> ) 前列輪 外一列に4枚、後列輪 ( <i>7375/6</i> )	白	50/25					
22号花	97-4	土壌熱	高杯	13.5	(4.2)	ナデ葉熱	-	ナデ葉熱	ナデ	ナデ葉子、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	60/40					
22号花	97-5	土壌熱	高杯	[8.7]	(5.3)	-	ナデ	ヘラ葉熱後縁	ヘラ葉熱、目付 ナデ葉熱	内一列に5枚、外二列に6枚 ( <i>7375/4</i> )	白	25/10					
22号花	97-6	土壌熱	高杯	-	(5.2)	斜毛	-	ヘラ葉熱後縁	ヘラ葉熱、目付 ナデ葉熱	内一列に5枚、外二列に6枚 ( <i>7.5725/3</i> )	白	46/20					
22号花	97-7	土壌熱	高杯	-	(4.9)	斜毛	-	ヘラ葉熱後縁	ヘラ葉熱、目付 ナデ葉熱	内一列に5枚、外二列に6枚 ( <i>7.5724/2</i> )	白	60/20					
21号花	97-8	土壌熱	5半葉	[3.9]	-	(2.5)	ナデ	ナデ、ハケ月	ナデ、ハケ月	白、色彩7、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	30/-					
21号花	97-9	土壌熱	5半葉	[7.0]	3.1	6.7	ナデ、ハケ月	ナデ、ハケ月	ナデ	白、赤、黑色斑7、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	90/90					
24号花	97-10	土壌熱	高杯	-	(5.0)	ナデ、圓毛	-	ヘラ葉熱	-	白、黑色斑子、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	70/25					
24号花	97-11	土壌熱	高杯	[2.0]	(8.0)	ナデ、圓毛	-	ナデ、圓毛	ナデ	白、赤、黑色斑子、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	25/-					
24号花	97-12	土壌熱	高杯	[14.2]	-	(4.0)	ナデ、圓毛	ナデ、圓毛	ナデ	白、黑色斑子、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	25/20					
25号花	97-13	土壌熱	盛	[24.6]	-	(5.6)	ナデナデ	ナデナデ	ナデ	白、黑色斑子、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	20/-					
26号花	97-14	土壌熱	盛	[16.4]	-	(5.2)	ナデナデ	ナデナデ	ナデ	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	20/-					
25号花	97-15	土壌熱	5字葉	[16.3]	(7.5)	ナデ	[ナデナデ]	ナデナデ	ナデ	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	20/-					
25号花	97-16	土壌熱	5字葉	[17.8]	-	(4.4)	ナデ、ハケ月	ナデ、ハケ月	ナデ	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	20/-					
25号花	97-17	土壌熱	5字葉	-	(4.5)	ナデ、ハケ月	-	ナデ、ハケ月	ナデ	白、色彩7、金色葉斑、黃紅葉 ( <i>L</i> )	白						
25号花	97-18	土壌熱	小圓葉	-	(5.6)	ヘナナデ	-	ナデ、平伸ヘア	ナデヘア	白、色彩6、黃紅葉 ( <i>L</i> )	白	30/-					
25号花	97-19	土壌熱	鋸	[14.0]	-	(5.4)	ナデ	ナデ、ヘラ切り	ナデ、ヘラ切り	内一列に5枚、外二列に6枚 ( <i>7.5726/6</i> )	白	20/-					
25号花	97-20	土壌熱	鋸	-	(3.8)	ロリオナデ後縁	-	ロリオナデ後縁	ロリオナデ後縁	内一列に5枚、外二列に6枚 ( <i>7.5725/5</i> )	白	20/-					
25号花	97-21	土壌熱	高杯	[14.8]	-	(2.6)	ナデ	ナデ	ナデ	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	20/-					
25号花	97-22	土壌熱	高杯	-	(3.6)	ナデ	-	ナデ	ナデ	白、色彩6、黃紅葉 ( <i>L</i> )	白	30/-					
25号花	97-23	土壌熱	高杯	-	(5.6)	ナデ	-	ナデ	ナデ	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	15/-					
26号花	98-4	土壌熱	高	-	-	(2.6)	ナデ	ナデ	ナデ	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	20/-					
26号花	98-5	土壌熱	小葉熱	[10.2]	4.0	13.4	ナデ	ヘラ葉熱	ヘラ葉熱	内二列に5枚、外二列に6枚 ( <i>7.5725/5</i> )	白	65/80					
26号花	98-6	土壌熱	高口蓋	-	3.4	(12.0)	ナデ	ヘラ葉熱	ヘラ葉熱	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	70/75					
26号花	98-7	土壌熱	小型葉	-	4.5	(6.5)	ナデ	ヘラ葉熱	ヘラ葉熱	内二列に5枚、外二列に6枚 ( <i>7.5726/6</i> )	白	70/75					
26号花	98-8	土壌熱	高杯	13.4	12.2	13.8	ナデ、ハケ月	ナデ、ハケ月	ナデ	白、色彩6、黃紅葉 ( <i>L</i> )	白	100/100					
26号花	98-9	土壌熱	5字葉	10.4	8.0	20.0	ナデ	ナデ	ナデ	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	90/95					
26号花	98-10	土壌熱	5字葉	11.8	(8.3)	22.9	ナデ	ナデ	ナデ	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	90/95					
26号花	98-11	土壌熱	5字葉	13.0	8.2	22.9	ナデ	ナデ	ナデ	白、色彩6、金色葉斑 ( <i>L</i> )	白	90/95					







通称名	同物番号	器種	器形	口径	底径	高さ	内面	外面	足	色調	形状	保存状況		
												外寸	内寸	
2号灰	109-6	土瓶	高杯	-	-	11.7	(8.9)	ナド	-	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/98
2号灰	120-6	土瓶	高杯	-	-	9.1	4.6	(5.8)	ナド、ハケ日	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G138-75	109-7	土瓶	高杯	[9.0]	-	5.8	2.7	ナド	ロクナラサダ	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G25-20	109-8	土瓶	高杯	[9.0]	-	5.8	2.7	ナド	ロクナラサダ	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
灰瓶	109-9	土瓶	高杯	[9.0]	-	5.8	2.7	ナド	ロクナラサダ	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G105-110	109-10	土瓶	高杯	[10.0]	-	6.0	3.0	ナド	ロクナラサダ	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
灰瓶	109-11	土瓶	高杯	[12.7]	-	10.5	24.0	ナド	ハクナサダ、ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/95
G138-60	109-12	土瓶	高杯	[13.6]	-	12.5	31.0	ナド	ハクナサダ、ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G125-60	109-13	土瓶	高杯	[11.8]	-	9.5	6.0	ナド、腰き	ナド、腰き	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G126-60	109-14	土瓶	高杯	22.4	-	8.9	5.0	ナド、腰き	ナド、腰き	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G119-118	110-1	土瓶	高杯	[21.9]	-	8.5	5.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G111-110	110-2	土瓶	高杯	[25.6]	-	10.3	6.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G36-265	110-3	土瓶	高杯	[11.0]	-	6.2	10.1	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G141-G59-110-5	110-4	土瓶	小字盤	-	-	6.2	10.1	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G50-110-6	110-5	土瓶	小字盤	[29.6]	-	8.0	10.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G50-110-6	110-6	土瓶	小字盤	[11.6]	-	6.0	8.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G51-110-6	110-7	土瓶	小字盤	[30.6]	-	8.0	10.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G40-115	110-8	土瓶	小字盤	[9.4]	-	7.0	5.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G16-92	110-9	土瓶	台付	8.0	5.2	11.0	7.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G101-192	110-10	土瓶	台付	8.0	5.2	11.0	7.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G40-111	110-11	土瓶	台付	[18.0]	-	6.5	5.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G102-190	110-12	土瓶	台付	[16.0]	-	6.5	5.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G140-75	110-13	土瓶	台付	[23.0]	-	10.5	12.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G140-75	110-14	土瓶	台付	[13.6]	-	8.0	6.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G106-49	111-1	土瓶	高杯	[18.0]	-	12.0	8.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G50-740	111-2	土瓶	高杯	[10.3]	-	6.8	6.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G50-740	111-3	土瓶	高杯	[23.6]	[6.0]	9.0	6.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G140-85	111-4	土瓶	高杯	[13.2]	[4.8]	9.0	6.0	腰き	-	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G107-90	111-5	土瓶	高杯	-	-	10.6	10.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G111-111	111-6	土瓶	高杯	10.9	-	6.0	4.2	腰き	腰き	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G54-111	111-7	土瓶	高杯	-	-	6.0	4.5	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
G116-99	111-8	土瓶	高杯	-	-	11.8	6.8	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90
灰瓶	111-9	土瓶	高杯	-	-	12.0	6.0	ナド	ナド	白、赤、黑色斑子	ナド	57mm(6~7.5mm)×6~7.5mm(6~7.5mm)	やや破	良/90

全部に黒色斑紋のため、黒色斑  
はつきりいた。  
内外面とも黒色斑紋のため、黒色  
斑紋はつきりしない。  
内部黒色斑。

第3表 出土遺物観察表（鉄製品）

（ ）は現存値である

図版	番号	出土遺物	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
112	1	3号住居	鉄錐	9.3	1.1	0.6	9.3	
112	2	3号住居	鉄錐	4.7	1.0	0.9	7.19	
112	3	3号住居	鉄錐	4.6	0.9	0.9	6.46	
112	4	3号住居	鉄釘	4.95	0.8	0.7	5.52	
112	5	3号住居	不明	3.35	3.8	0.8	9.89	
112	6	11号住居	不明	4.1	4.1	1.1	24.64	
112	7	27号住居	不明	3.15	0.9	0.21	1.31	
112	8	18号住居	釘	6.9	0.9	0.9	8.94	
112	9	6号溝	不明	3.2	0.7	0.65	2.02	
112	10	6号溝	不明	3.4	0.65	0.5	3.08	
112	11	11号溝	不明	5.5	2.3	1.1	24.77	
112	12	11号溝	不明	7.7	2.5	0.6	13.66	
112	13	8号土坑	刀子	15.4	1.8	0.4	28.51	
112	14	武部C50-135付近	鉗	11.7	1.05	0.5	13.84	
112	15	G103-192	不明	2.7	1.3	0.2	1.06	
112	16	表探	古鏡	2.41	2.43	1.2	2.68	

第4表 出土遺物観察表（石製品）

（ ）は現存値である

図版	番号	出土遺物	種類	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
113	1	1号住居	砥石	鮮石	(7.4)	6.2	4.3	(99.5)	
113	2	6号機	砥石	砂岩	(8.4)	3.8	1.9	(100)	
113	3	2号住居	砥石	流紋岩質凝灰岩	(6.6)	4.7	4.7	(182)	明黄褐色 10YR7/4
113	4	7号住居	砥石	酸性緑色凝灰岩	(6.8)	(4.5)	2.5	(102)	淡黃 2.5YN8/4
113	5	27号住居	砥石	細粒砂岩	18.7	5.8	2.9	465	
113	6	27号住居	砥石	ホルンフェルス	18.9	5.9	6.0	1160	
113	7	27号住居	砥石	安山岩	19.5	5.9	4.2	1025	
113	8	27号住居	砥石	ホルンフェルス	15.6	4.5	4.5	580	
114	1	27号住居	砥石	砂岩	18.2	6.9	5.3	1120	
114	2	27号住居	砥石	火山疊凝灰岩	16.4	6.3	5.9	940	
114	3	27号住居	砥石	ホルンフェルス	16.0	5.1	5.7	685	
114	4	27号住居	砥石	安山岩	(11.9)	7.0	4.2	(680)	
114	5	27号住居	砥石	砂岩	16.5	6.4	5.0	900	
114	6	27号住居	砥石	緑色凝灰岩	18.9	6.7	4.5	1080	
114	7	3号噴塗	不明	安山岩	(13.6)	(7.5)	(5.9)	(950)	
114	8	2号噴塗	五輪塔	安山岩	17.9	14.2	—	4600	

## 第5章 科学分析

### 第1節 寺部村附第6遺跡の珪藻化石群集

藤根 久 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

珪藻は、10~500 μmほどの珪酸質殻を持つ单細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻群群が設定されている（小杉、1988；安藤、1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは、寺部村附第6遺跡の堆積物について、珪藻化石群集を調べ、堆積物の堆積環境について検討した。

#### 2. 試料の処理方法

試料は、黒褐色ないし黒色の砂質シルト4試料である。なお、試料No.7の層準において古墳時代前期の土器が出土している。これら試料は、以下の方法で処理し、珪藻用プレバーラートを作成した。

(1) 濡潤重量約1g程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロビペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥した。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレバーラートを作成した。

作成したプレバーラートは顕微鏡下1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。なお、珪藻化石が少ないとから、プレバーラート全面について精査した。

#### 3. 硅藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に安藤（1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。

以下に、安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。  
〔上流性河川指標種群（J）〕：上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらには*Achnanthes*属が多く含まれるが、殻面全体で岩にびったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

〔中～下流性河川指標種群（K）〕：中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

〔最下流性河川指標種群（L）〕：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

〔湖沼浮遊生指標種群（M）〕：水深が約1.5m以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

〔湖沼沼澤湿地指標種群（N）〕：湖沼における浮遊生種としても、沼澤湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼澤湿地の環境を指標する可能性が大きい。

〔沼沢湿地付着生指標種群（O）〕：水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

〔高層湿原指標種群（P）〕：尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

〔陸域指標種群（Q）〕：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。

#### 4. 珪藻化石の特徴とその堆積環境

試料から検出された珪藻化石は、淡水種19分類群10属14種が検出された。これらの珪藻化石は、淡水種3環境指標種群に分類された（第5表）。

全体的に珪藻化石が少なく、堆積物1g中の個数が $2.22 \sim 4.21 \times 10^4$ 個と低く、完形殻の出現率は約12~50%も低い。

指標種群としては陸域指標種群の*Hantzschia amphioxys*などいずれの試料からも検出され、他の珪藻化石として湖沼沼澤湿地指標種群や沼沢湿地付着生指標種群が検出された。

これらの堆積物は、河川性堆積物と予想されたが、いずれも河川性の珪藻化石は検出されず、陸域指標種群が検出されたことから、ジメジメとした環境が一部見られるような比較的乾いた陸域と考えられる。

#### 引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用東北地理，42，73-88.

第5表 堆積物中の珪藻化石産出表（種群は、安藤（1990）による）

分類群	種群	5 6 7 8			
		5	6	7	8
<i>Amphora</i> spp.	?	1	-	-	1
<i>Cocconeis</i> <i>placentula</i>	W	-	1	-	-
<i>Epihemia</i> spp.	?	-	-	-	1
<i>Eunotia</i> <i>fornica</i>	W	1	-	-	-
<i>E.</i> spp.	?	1	-	-	-
<i>Hantzschia</i> <i>amphioxys</i>	Q	2	4	3	2
<i>Melosira</i> <i>ambigua</i>	N	-	-	-	1
<i>M.</i> <i>crenulata</i>	N	4	-	-	-
<i>Navicula</i> <i>contents</i>	Q	1	-	-	-
<i>N.</i> <i>mutica</i>	Q	-	-	2	1
<i>Pinnularia</i> <i>borealis</i>	Q	3	-	-	-
<i>P.</i> <i>gibba</i>	O	-	-	1	-
<i>P.</i> <i>hamiltonii</i>	W	-	1	-	-
<i>P.</i> <i>microstauron</i>	W	-	1	-	-
<i>P.</i> <i>subcapitata</i>	O	-	1	-	-
<i>P.</i> <i>viridis</i>	O	-	1	-	-
<i>P.</i> spp.	?	-	-	1	1
<i>Surirella</i> spp.	?	1	-	-	-
<i>Synedra</i> <i>ulna</i>	W	-	-	2	1
Unknown	?	-	-	2	-
湖沼沼澤地（N）		4	-	-	1
沼澤湿地付着生（O）		-	1	2	-
陸域（Q）		6	4	5	3
広布（W）		1	3	2	1
淡水不定・不明種（?）		3	-	3	3
珪藻殻數		14	8	12	8

## 第2節 寺部村附第6遺跡の花粉化石

鈴木 茂 (パレオ・ラボ)

寺部村附第6遺跡においては住居跡とともに溝跡(11号溝)が検出され、この溝の水環境、すなわち流れていたのかあるいは停滞していたのかなどについて検討する目的で土壤試料が採取され珪藻分析が行われている(第1節参照)。以下には同試料を用いて行った花粉分析の結果・考察を示し、遺跡周辺の植生について検討した。

### 1. 試料

試料は、11号溝の北側断面より採取した8試料(試料番号1~8)と西側断面より採取した4試料(9~12)の計12試料である(第6図)。以下には試料を採取した各層について若干記す。

11号溝北側断面:最上部⑧層は褐色灰色の砂質シルトで、レキが散在して多く認められる(試料1)。1層は黒褐色の砂質シルトで、レキ(径10~20mm主体)が散在している(試料2)。2層も黒褐色の砂質シルトであるが上位よりやわらかく、10mm前後のレキが散在している(試料3)。⑦層も黒褐色の砂質シルトで、10mm前後のレキが散在しているが上位より少ない(試料4)。③層はやや粘土質の黒褐色砂質シルトで、レキが点在~散在している(試料5)。②層はさらに粘土質の黒褐色砂質シルトで、径10~20mmのレキが散在している(試料6)。⑤層は黒~黒褐色の砂質シルト~粘土で、粘性が高く、レキが点在している。また古墳時代前期の土器片が出土している(試料7)。最下部⑥層も黒~黒褐色の砂質シルト~粘土で、粘性が高く、レキが点在~散在している(試料8)。さらに下位の11号溝堆積層の基底は砂レキ層である。

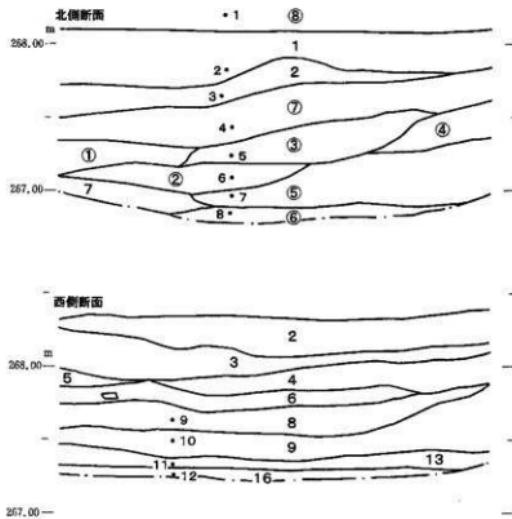
11号溝西側断面:本地点では試料を採取した下部層について記す。8層はやや粘土質の黒褐色砂質シルトで、レキが散在している(試料9)。上位の6層はレキが散在~多量に認められる黒褐色の砂質シルトである。

9層はレキが多量に認められる黒褐色の砂質シルトである(試料10)。このレキは泥岩が主体で、他にはレキ岩、砂岩、緑色凝灰岩などが含まれている。13層はやや粘土質の黒褐色砂質シルトでレキが多量に混入しており、土器片も認められる。最下部16層は黒褐色の砂質粘土で、レキが多量に認められている。またこれら堆積層の基底は砂レキである。

### 2. 分析方法

上記した12試料について以下のようない手順にしたがって花粉分析を行った。

試料(湿重約5~8g)を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮



第6図 試料採取付近の土層断面図と試料採取層準

遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

### 3. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉9、草本花粉12、形態分類で示したシダ植物胞子2の総計23である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を第6表に、それらの分布を第7図（北側断面）、第8図（西側断面）に示した。なお、分布図は全花粉・胞子総数を基数とした百分率で示してある。

**北側断面：**分布図として示せたのは試料4,5の2試料のみで、他は花粉化石の検出数が少なく分布図としては示せなかった。検鏡の結果、樹木花粉は特に少なく、マツ属やコナラ属などがわずかに観察された程度であった。最も多かったのは草本類のヨモギ属で、試料4,5では80%前後を示している。次いでイネ科で、この2試料における出現率は10%前後である。その他、アブラナ科やヨモギ属（キク亜科）を除く他のキク亜科、タンボボ亜科などが得られている。

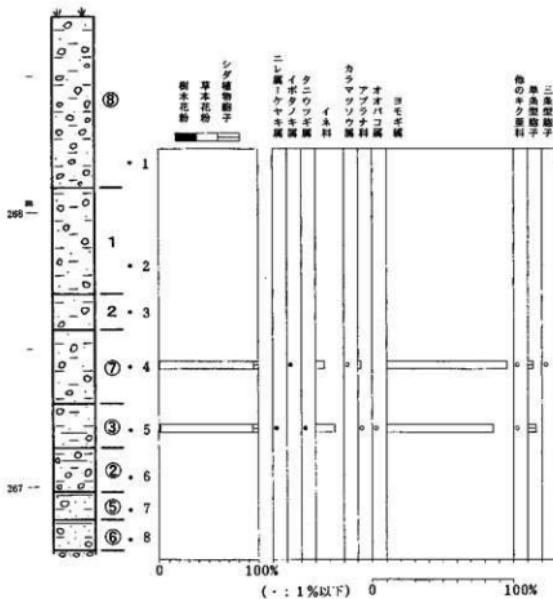
**西側断面：**本断面では下部試料のみ分析したが、結果は北側と同様に得られた花粉化石数は少なく、100個体前後の試料9,10のみ分布図として示した。この2試料ではやはりヨモギ属が最も多く、試料10では80%を越え、少ない試料9でも50%に達している。次いでイネ科が多く、試料9では20%弱を示している。また同試料では単条型胞子がやや高い出現率約13%を示している。その他ではアブラナ科やキク亜科などが検出されている。

第6表 産出花粉化石一覧表

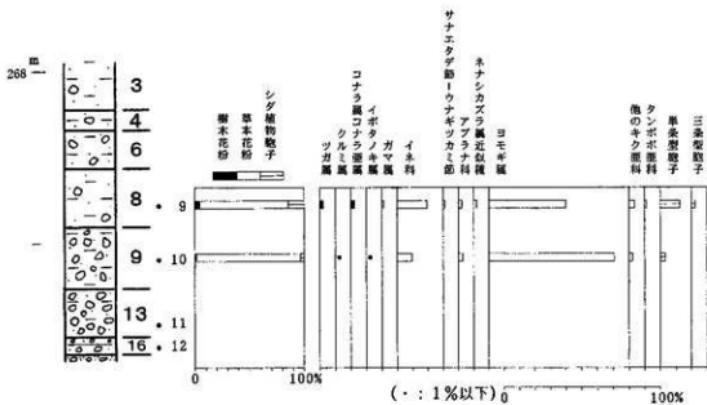
和名	学名	百分率											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
樹木													
ガマ属	<i>Tusca</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
マツ属被葉葉虫珊瑚	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属(不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ギギ	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
グルミ属	<i>Juglans</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
コナラ属コナラ衛菌	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	2
ニレ属ニレウキノキ属	<i>Ulmus</i> - <i>Zelkova</i>	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
イヌクチノキ属	<i>Ligustrum</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
タニウチギ属	<i>Weigela</i>	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
草本													
ガマ科	<i>Typha</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
イネ科	<i>Gramineae</i>	2	-	2	10	16	1	-	-	17	13	15	4
カヤツリグサ科	<i>Caryopaceae</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ科	<i>Moraceae</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
セスキテラペウカニヅカミ節	<i>Polygonaceae</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
タラソソウ属	<i>Thlaspium</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	<i>Cruciferae</i>	-	-	-	3	1	-	-	-	2	4	1	-
ナシカズラ属近似種	cf. <i>Cuscuta</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
オバコ属	<i>Plantago</i>	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	<i>Arenaria</i>	-	-	3	134	88	2	1	1	44	109	14	5
他のキク被葉	other <i>Tubuliflorae</i>	-	-	-	1	1	-	-	-	3	7	2	-
タンボボ被葉	<i>Liguliflorae</i>	2	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-
シダ植物													
单条型胞子	<i>Monocolate spore</i>	5	1	6	6	7	-	-	-	11	4	6	1
三体型胞子	<i>Triporate spore</i>	-	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-	-
樹木花粉	Arboreal pollen	2	1	1	1	2	0	0	0	4	2	1	3
草本花粉	Nonarboreal pollen	5	1	6	140	107	3	3	1	71	120	36	9
シダ植物胞子	Spores	5	1	7	7	7	0	0	0	13	4	6	1
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	12	3	14	157	116	3	3	1	86	155	45	13
不明花粉	Unknown pollen	0	1	0	0	0	0	0	1	2	4	1	0

### 4. 遺跡周辺の古植生

上記したように花粉化石はあまり検出されず、特に樹木花粉は少なく、遺跡周辺の森林植生については言及できない。また草本類についても分布図においてヨモギ属がかなり過大に評価されていると推測される。とはいえるなくとも11号溝の土手などにこのヨモギ属が生育していたことは確かと思われる。すなわち土手にはヨモギ属を主体に、イネ科、キク亜科、タンボボ亜科、シダ植物などが生育していたのであろう。



第7図 11号溝北側断面試料の花粉化石分布図（出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した）



第8図 11号溝西側断面試料の花粉化石分布図（出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した）

このように得られた花粉化石が少なく、植生についてはあまり言及できなかったことから、試料3～8についてプラント・オパール分析を試みた。その結果(第7表)、試料7を除きイネのプラント・オパール(機動細胞珪酸体)が検出されており、試料3,4では20,000個前後と多産している。最も多く得られているのはウシクサ族で、ヨシ属も試料4～6では10,000個前後と機動細胞珪酸体の生産量が少ないヨシ属としては非常に多く観察されている。その他、ネザサ節型、サヤヌカグサ属、シバ属、キビ族などが得られている。

このうちイネについて、試料採取地点は溝であることからここでの栽培は考えられず、遺跡周辺における栽培が推測される。しかしながらこの稲作については構造の検出などの確認作業が必要である。溝部の植生としては多く検出されているヨシ属が考えられる。このヨシ属は池や沼などの比較的水深の浅いところでの生育が考えられる。また水がついていないと推測される本地点でも地下水位の高いところでの生育は可能である。最も多く得られているウシクサ族(ススキ、チガヤなど)は土手部での生育が考えられる。なお、その他のサヤヌカグサ属、シバ属、キビ族は稲作?にともなう雑草類としての存在が推測され、ネザサ節型のササ類(アズマネザサ、ゴキダケ、ミヤコネザサなど)は住居周辺の開けたところでの分布が考えられる。

以上のことから寺部村附第6遺跡周辺の古植生について、森林植生は不明であるが、11号溝部にはヨシやツルヨシなどのヨシ属が群落を形成していたと推測され、土手部にはヨモギ属、キク亜科、タンボボ亜科、ススキやチガヤなどのウシクサ族、シダ植物などが生育していたと考えられる。また周辺部においては水田稲作が行われていた可能性も考えられ、行われていたとすると水田稲作にともなう雑草類としてのキビ族(タイヌビエなど)や陸のシバ属、周辺水路におけるサヤヌカグサ属(アシカキなど)の生育が予想される。さらに住居周辺の空き地などにはネザサ節型のササ類が分布していたことが推測されよう。

なお今回の花粉分析結果について記すと、花粉は丈夫な外膜をもっており、水域では良好な状態で保存される。しかしながら水域以外のところでは紫外線や土壤微生物などで容易に分解されてしまう。珪藻分析結果から本地点は比較的乾いた陸域が考えられており、花粉化石の多くは紫外線や土壤微生物の土壤化作用などにより分解・消失し、比較的丈夫なヨモギ属などが分布図に強調された形で表現されていると思われる。

第7表 試料1g当たりのプラント・オパール個数

試料番号	イネ (個/g)	イネ類 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	サヤヌカグサ属 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
3	21,800	3,000	8,900	2,000	1,000	2,000	3,000	4,000	10,900	13,800	10,900
4	171,00	0	11,000	1,000	0	1,000	12,100	5,000	8,000	31,100	18,100
5	1,000	0	2,000	0	1,000	1,000	18,100	0	6,000	23,100	7,000
6	2,100	0	1,000	0	0	1,000	8,200	0	2,100	10,300	3,100
7	0	0	1,000	0	0	0	3,100	0	2,000	8,200	2,000
8	3,500	0	2,300	1,200	0	0	2,300	0	1,200	15,000	6,900

### 第3節 寺部村附第6遺跡出土土師器の胎土分析

河西 学（山梨文化財研究所）

#### 1. はじめに

寺部村附第6遺跡は、甲府盆地西部に広がる御勅使川扇状地扇尖部に位置する。本遺跡では、古墳時代前期のS字状口縁台付壺（以下S字壺）や同時期の土師器などが多く出土している。周辺には、古墳前期の集落遺跡である村前東A遺跡が位置し、同時期土器の胎土分析例が報告されている（河西、1999）。今回、寺部村附第6遺跡から出土したS字壺や同時期土師器について産地推定を目的として胎土分析を行ったので、以下に報告する。

#### 2. 分析試料

分析試料は、第8表・第9図に示す。S字壺は、8・12・26号住居床面直上から出土した個体である。No.15の小型壺は、異なる色調をもつ胎土から構成される部分を試料とした。

#### 3. 分析方法

土器試料は、以下の方法で薄片を作製した。土器試料は、切断機で3×2.5cm程度の大きさに切断し、残りの試料は保存した。脆弱な試料はエボキシ樹脂を含浸させて補強し、岩石薄片と同じ要領で土器の器壁に直交する薄片を作製した。さらにフッ化水素酸蒸気でエッチングし、コバルチ亜硝酸ナトリウム飽和溶液に浸してカリ長石を黄色に染色しプレパラートとした。次に以下の方法で岩石鉱物成分のモード分析を行なった。偏光顕微鏡下において、ポイントカウンタを用い、ステージの移動ピッチを薄片長辺方向に0.33mm、同短辺方向に0.40mmとし、各薄片で2,000ポイントを計測する。計数対象は、粒径0.05mm以上の岩石鉱物粒子、およびこれより細粒のマトリックス（「粘土」）部分とし、植物珪酸体はすべてマトリックスに含めた。

#### 4. 分析結果

分析結果を第9表に示す。試料全体の砂粒子・赤褐色粒子・マトリックスの割合（粒子構成）、および砂粒子の岩石鉱物組成および重鉱物組成を第10図に示す。重鉱物組成では右側に基数を表示した。

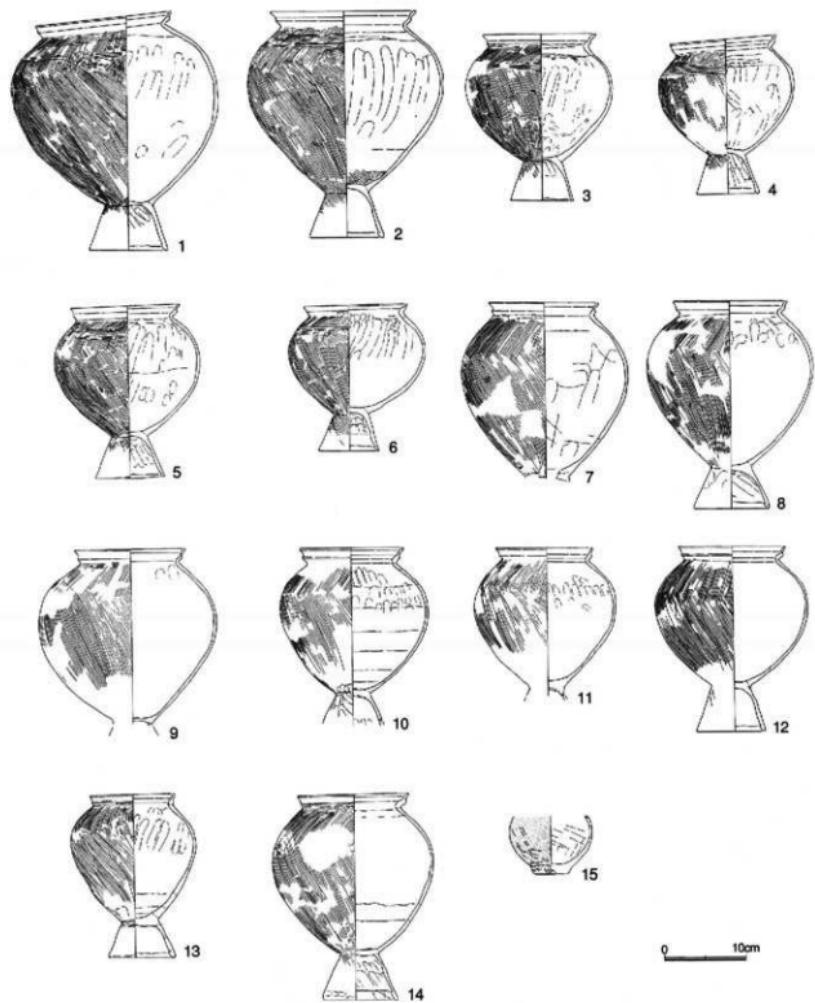
変質火山岩類・玄武岩・安山岩・デイサイト・花崗岩類・变成岩類（含ホルンフェルス）・砂岩・泥岩・珪質岩・炭酸塩岩のポイント数の総数を基準とし、各岩石の構成比を折れ線グラフに示した（第11図）。折れ線グラフにピークに基づいて土器を便宜的に分類した（第10表）。

折れ線グラフと同様の10種の岩石データを用い、甲府盆地および八ヶ岳南麓地域の河川砂、村前東A遺跡出土S字壺などの比較のためにクラスター分析を行った（第13図）（河西ほか、1989；河西、1989）。クラスター分析での非類似度は、ユークリッド平方距離を用い、最短距離法によって算出した。

以下に胎土の特徴と推定産地について以下に述べる。

第8表 試料表

分析番号	時期	器種	出土地点	実測図
No. 1	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	8号住居, 139	図版88-1
No. 2	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	8号住居, 132	図版87-4
No. 3	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	8号住居, 89	図版88-2
No. 4	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	8号住居, 157	図版87-3
No. 5	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	8号住居, 162	図版87-2
No. 6	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	8号住居, サブトレ	図版87-5
No. 7	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	12号住居, 686	図版89-16
No. 8	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	12号住居, 689	図版89-17
No. 9	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	26号住居, 327	図版99-4
No. 10	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	26号住居, 341	図版99-3
No. 11	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	26号住居, 339	図版98-10
No. 12	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	26号住居, 337	図版99-1
No. 13	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	26号住居, 338	図版98-9
No. 14	古墳時代前期	S字状口縁台付壺	26号住居, 340	図版99-2
No. 15	古墳時代前期	小型壺	1号住居, 201	図版82-5



第9図 胎土分析試料実測図

### 8号住居跡出土S字壙 (Nos. 1-6)

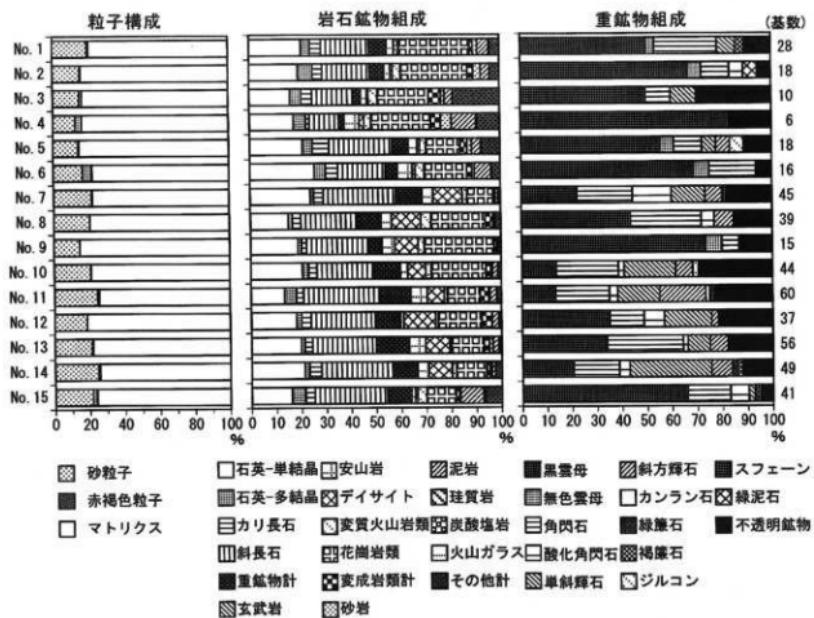
粒子構成に占める砂粒子の含有率（含砂率）は、13~20%である。赤褐色粒子はNo.4.6で3.5~5.5%とやや多い。

岩石鉱物組成は、斜長石・石英・花崗岩類が多く、泥岩・砂岩・安山岩・変質火山岩類・ホルンフェルスなどを伴う。Nos.2,3,5,6では、緑色変質火山岩類を普通に伴う。重鉱物含有率はあまり高くない。重鉱物組成では、黒雲母が主体を占め、角閃石・单斜輝石・斜方輝石・無色雲母・不透明鉱物などを伴う。第10表では、No.3がG-v群に、Nos.1,2,4,5,6がG-md群に含まれる。第13図では、釜無川河川砂などとともに全てクラスター3aに含まれる。産地候補は、花崗岩類を主体とし安山岩などの火山岩地域や変質火山岩地域に接続する流域が考えられる。岩石鉱物組成図や折線図などの無川河川砂との類似性、および地理的位置関係からNos.1-6の原料産地は釜無川流域である可能性が最も高いと考えられる。御勤使川扇状地の堆積物は、村前東A遺跡No.30粘土探掘坑試料で代表されるように泥岩・砂岩・緑色変質火山岩類から主として構成される。Nos.1-6は、村前東A遺跡No.30とは明らかに異なることから、御勤使川扇状地上の堆積物を主体として作られた可能性は極めて低いと考えられる。泥岩・砂岩・緑色変質火山岩類などを少量づつ含むことから、Nos.1-6は、御勤使川扇状地からの流れ込みがある釜無川沖積低地堆積物を原料として作られた可能性が高いと推定される。

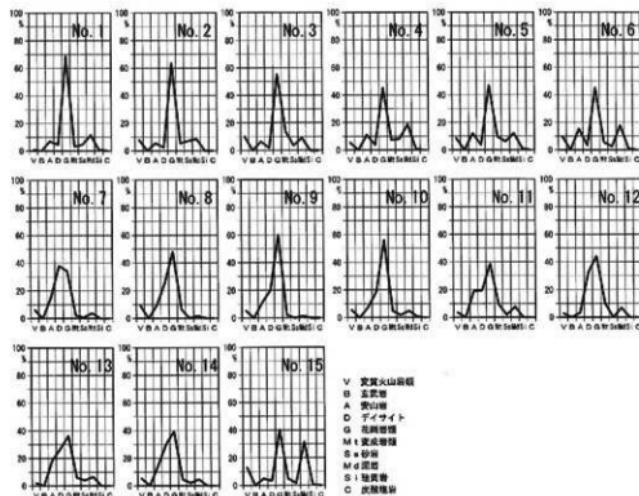
### 12号住居跡・26号住居跡出土 S字壺 (Nos.7-14)

第9表 土器胎土中の岩石鉱物（数字はポイント数を、十は計数以外の検出を示す）

結晶: bi:碧璽、na:綠色碧璽、ho:鈷斑石、crys:氧化鋁尖晶石、cpx:斜長輝石、cpx:鈣長輝石、ol:カラン芝石、mpo:不透明鉻鐵、optオーバイト、ba:多型岩英石  
實質寶石: A: Diorite 岩質寶石—ダイオライト、D: ダイオライト  
火山ガラス: 酸性度半軟玻璃、A': 酸性度半堅玻璃、B: 堅玻璃、C: 中強度、D: 中間度堅玻璃、E: 堅玻璃堅玻璃、F: 組合堅玻璃堅玻璃



第10図 土器胎土の岩石鉱物組成



第11図 岩石組成折れ線グラフ

第10表 折れ線グラフによる土器分類

分類	折れ線グラフの特徴	試料番号
D-g群	デイサイトの第1ピーク 花崗岩類の第2ピーク	7
G-v群	花崗岩類の第1ピーク 変質火山岩類の第2ピーク	3
G-d群	デイサイトの第2ピーク	8, 9, 10, 11, 12, 13, 14
G-m d群	泥岩の第2ピーク	1, 2, 4, 5, 6, 15

含砂率は、15~25%である。赤褐色粒子は極めて少ない。

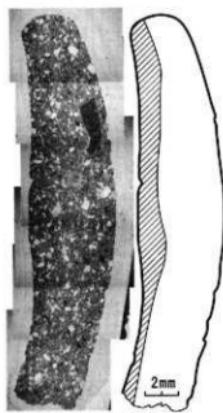
岩石鉱物組成は、斜長石・石英・花崗岩類・デイサイト・安山岩などが多く、ホルンフェルス・変質火山岩類・泥岩などをわずかに伴う。Nos.10,12,14では、緑色変質火山岩類をわずかに含む。デイサイトは、角閃石・酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石などの斑晶をもち、周縁部がオバサイト化した角閃石・酸化角閃石が含まれるなど黒富士火山起源の岩石と類似性が認められる。重鉱物含有率は比較的高い。重鉱物組成は、No.9をのぞくと9号住居跡出土試料よりも黒雲母の割合が少なく、角閃石・単斜輝石・斜方輝石・酸化角閃石・不透明鉱物などの割合が高い。第10表では、No.7がD-g群に、Nos.8-14がG-d群に含まれる。第13図では、荒川・賀川河川砂などとともに全てクラスター3cに含まれる。甲府盆地中西部地域において花崗岩類・デイサイトで特徴づけられる地域は、賀川を含む荒川流域および塩川流域とに限定される。これは両流域に甲府花崗岩体と黒富士火山が分布していることによる。デイサイトが黒富士の火山岩と類似することなどからNos.7-14の原料産地は、荒川・塩川流域である可能性が高い。

#### 1号住居跡出土小型壺 (No.15)

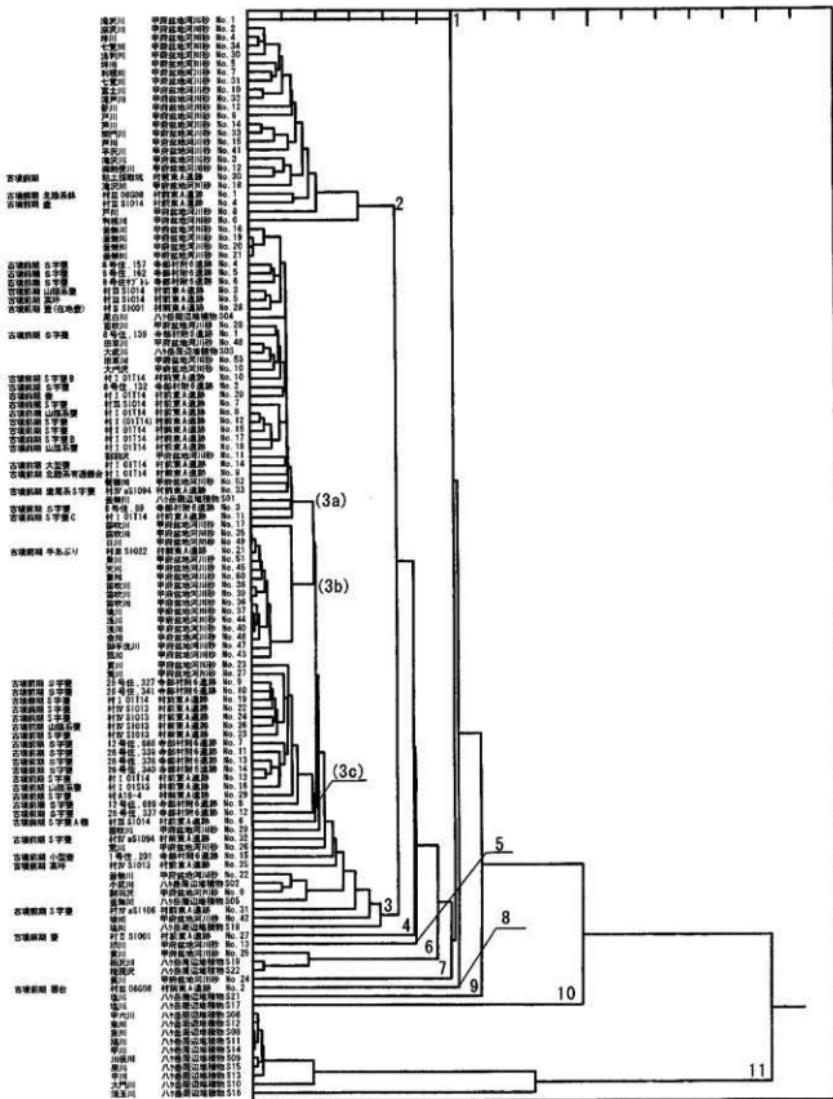
この試料は、器壁内側に最大厚約2mmの赤褐色を示す胎土がシート状に存在し、褐色の一般的な胎土に接して認められた。色調が異なる胎土の違いについて調査する目的で薄片を作製した(第12図)。両者の胎土は良好に密着しているため、胎土内部に生じた葉状空隙の分布の違いはほとんど認められず、接合境界も不明瞭である。ただし粘土部分の色調の違いによって区分することは可能である。胎土中に含有される岩石鉱物の種類(石英・斜長石・カリ長石・黒雲母・角閃石・花崗岩類・泥岩・変質火山岩類・ホルンフェルス・デイサイト・火山ガラス・植物珪酸体・赤褐色粒子など)に相違は認められない。ただし赤色部分では、胎土マトリックス中の細粒の赤褐色粒子含有率がやや高い傾向があり、またマトリックス自体の色調が赤みが強い。色調の違いは、鉄分の含有率を反映している可能性がある。これらのことから、色調の異なる二つの胎土は、地質単位の異なった地域で採取されたものである可能性は極めて低いと推定される。おそらく同一地域の近い範囲の中で、層位や地点が異なる部分で採取されたものと推定される。以下の分析は、これらの観察結果を踏まえ胎土の色調に関わらず薄片全体を測定したものである。

含砂率は、21%である。赤褐色粒子は2.4%と少ない。

岩石鉱物組成は、斜長石・石英・花崗岩類・泥岩が多く、変質火山岩類・ホルンフェルス・安山岩・デイサイトなどを伴う。重鉱物含有率は普通である。重鉱物組成では、黒雲母が主体を占め、角閃石・酸化角閃石・単斜輝石・不透明鉱物などを伴う。No.15は、第10表でG-md群に、第11図でクラスター3に含まれる。No.15は、河川堆積物試料との直接の類似性は認められないが、花崗岩類を主体とし多様な岩石を含む釜無川河川砂と類似性が認められる。新第三系分布地域の御駒使川や滝沢川では泥岩・砂岩などの堆積岩に富む堆積物が存在する。No.15の原料産地候補としては釜無川と御駒使川などが合流する釜無川沖積地域などがまず考えられる。ただしその他地域の可能性についても考慮する必要があるかもしれない。



第12図 薄片写真 (No.15)  
(斜線部が赤褐色部分)



第13図 土器のクラスター分析樹形図

## 5. 考 察

S字甕の分析結果では、同一住居跡出土試料の土器胎土の均質性が認められた。8号住居跡試料は、釜無川流域に産地が推定され、12・26号住居跡試料は荒川・塩川流域に産地が推定された。8号住居跡試料は、12・26号住居跡に比較して土器型式の上ではやや古いとされる。今回の場合、住居跡ごとに異なる胎土組成は、土器型式と対応していると考えられる。同一型式中で複数産地が存在していたかについては、分析した住居跡数が少ないために明かではない。

村前東A遺跡においてもS字甕の主体は第13回クラスター3aと3cとに集中する傾向は顕著で、寺部村附第6遺跡と類似性が高い。同一住居内のS字甕胎土の均質性については、村前東A遺跡IV区13住でS字甕3点が花崗岩類・ディサイト型の均質な組成を示している例が認められる。しかし村前東A遺跡III区14住でのS字甕2点は異なる組成を示す。またS字甕以外の器種を含めた場合、村前東A遺跡IV区13住においても高坏No.25は違う組成を示すなど一様ではない。村前東A遺跡は、大規模な集落遺跡でS字甕も古段階から新段階まで大量の出土があり、同時期の淡尾平野系・北陣系・山陰系など多様な土器の移動の可能性が考えられている。寺部村附第6遺跡は、新段階のS字甕がほとんどで、広域的な土器の移動はあまり認められていない。しかし、土器産地が主として甲府盆地内の釜無川流域と荒川・塩川流域に推定される点で、村前東A遺跡と寺部村附第6遺跡とはS字甕の共通の生産供給システムに属していた可能性が推定される。

御勒使川扇状地上の原料からみた場合の土器生産は、生産量が少ないと従来の傾向を追認する結果となっている（河西,1999,2000）。

## 6. おわりに

寺部村附第6遺跡のS字甕の胎土分析によって、8号住居跡では釜無川流域に、やや新しい12・26号住居跡では荒川・塩川流域に、土器型式に時期差のある住居跡ごとに異なる土器原料推定産地が得られた。また住居跡ではS字甕の胎土の均質性も認められた。このような傾向が本遺跡だけの特異事例であるのか、古墳時代前期の土器原料産地が時期ごとに移動したのか、複数の産地が同時存在していたのかなどについては、住居ごとあるいは細分された土器型式ごとの調査事例の蓄積を待ってさらに検討したい。

注1) ここではディサイト・流紋岩を含む珪長質火山岩の総称としてディサイトを使用する。

## 文献

- 河西 学 (1989) 甲府盆地における河川堆積物の岩石鉱物組成・土器胎土分析のための基礎データー。『山梨考古学論集Ⅱ』、山梨県考古学協会、505-523。
- 河西 学 (1994) 甲府城瓦と加賀美瓦—岩石学的胎土分析による比較—。『山梨考古学論集Ⅲ』、山梨県考古学協会、379-398。
- 河西 学 (1999) 村前東A遺跡出土土師器の胎土分析。「村前東A遺跡」、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書、第157集、358-369。
- 河西 学 (2000) 柳形町曾根遺跡川土純文中期土器の胎土分析。山梨県考古学協会誌、11、59-68。
- 河西 学・櫛原功一・人村昭一 (1989) 八ヶ岳南麓地域とその周辺地域の縄文時代中期末土器群の胎土分析。帝京大学山梨文化財研究所研究報告、1、1-64。

## おわりに

2000年8月より開始した守部村附第6遺跡の発掘調査も、数次にわたる調査を経てここにようやく、調査報告書をまとめることができた。

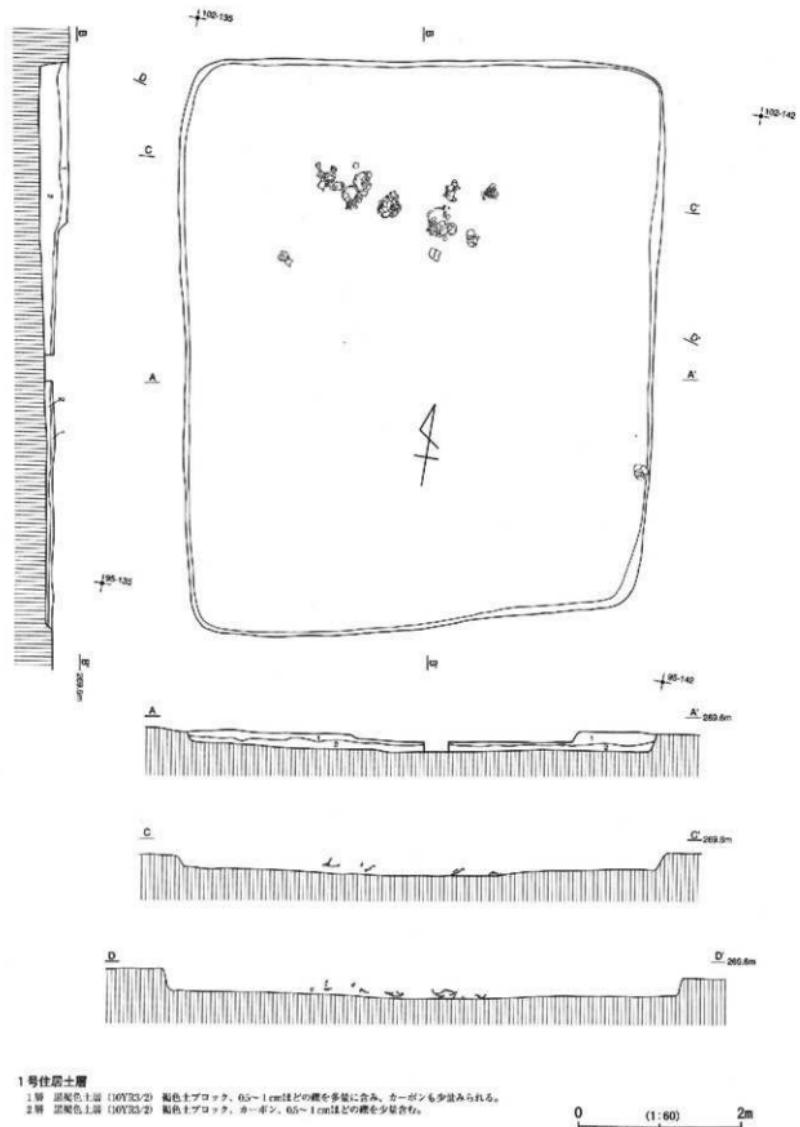
扇状地扇端部における発掘調査は、水との戦いの日々でもあった。2000年9月11日未明に東海地域を襲った集中豪雨により遺跡も水没し、地表を流れる泥水が調査区内に流れ込む状況が1週間あまり続いた。その後も遺構確認面からの湧水が続き、排水作業に追われた。2週間近くにわたって状況の好転がみられないため、調査区の外周に排水溝を掘削し、ようやく調査再開にこぎつけた。その間、半月以上の調査中断を余儀なくされた。

また、6・11号溝の調査では、溝が深いこともあり湧水に悩まされ続け、一度の降雨で冠水状態になったことも何度もあった。

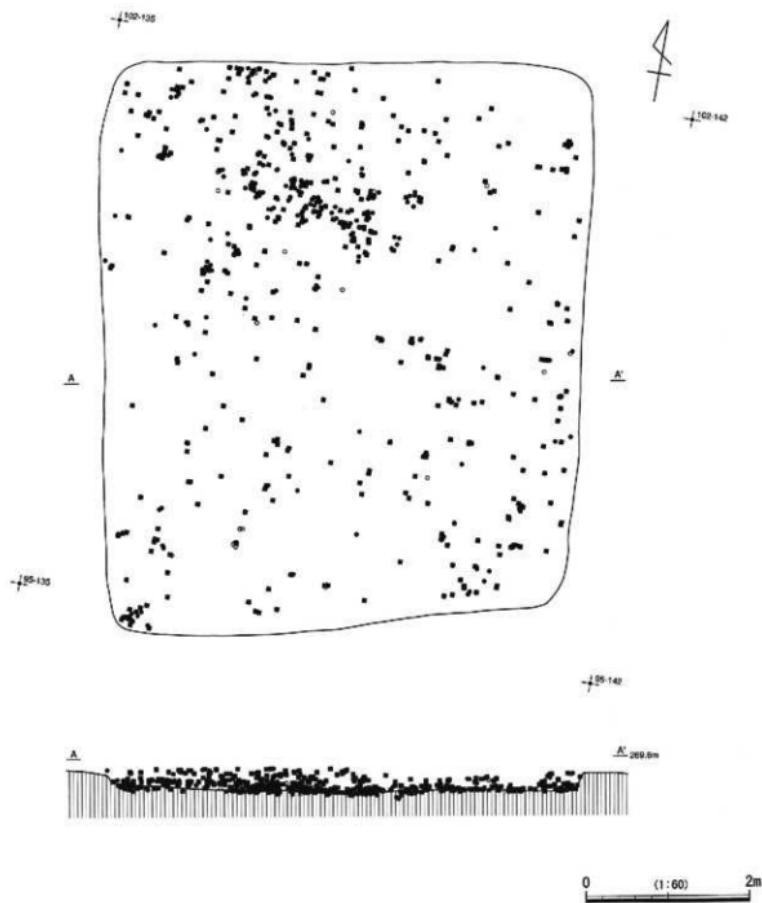
そのような状況の中での発掘調査であったが、古墳時代前期の集落をはじめとして、6・11号のような大規模な溝跡、思いもよらなかった扇状地扇端部における古墳時代中期の低墳丘古墳の発見や古式須恵器の出土など、多くの成果を上げることができた。

最後に、山梨県新環状西関東道路建設事務所、南アルプス市教育委員会（旧若草町教育委員会）をはじめとする多くの関係機関、数次にわたる発掘調査にご参加いただいた方々、本報告書刊行に向け作業を行ってくださいました方々、また、発掘調査から報告書刊行にあたり、ご教示、ご協力いただいたすべての方々に感謝いたします。

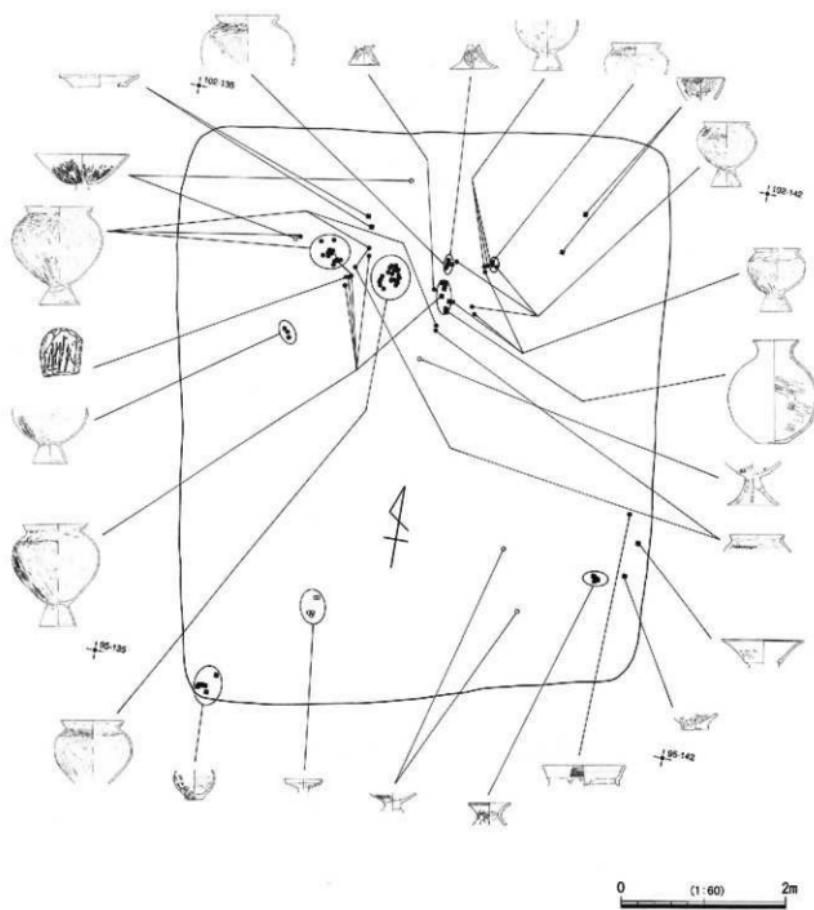
図版 1



### 1号竪穴住居平面・遺物分布図（1）

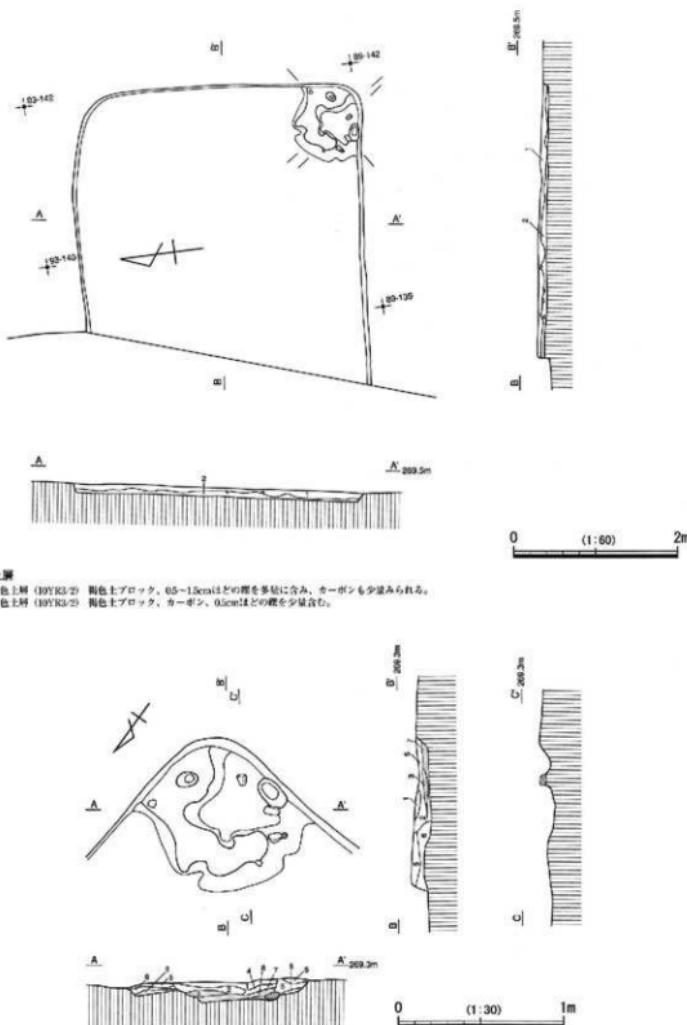


1号竖穴住居遺物分布図（2）



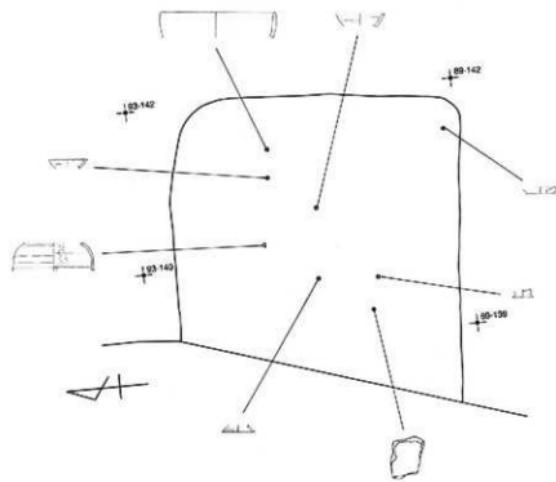
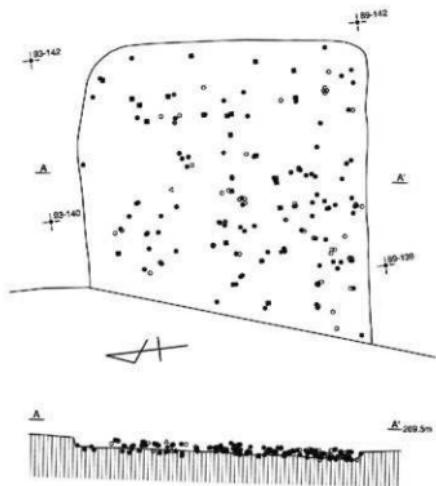
1号竖穴住居遺物分布図（3）

図版 4

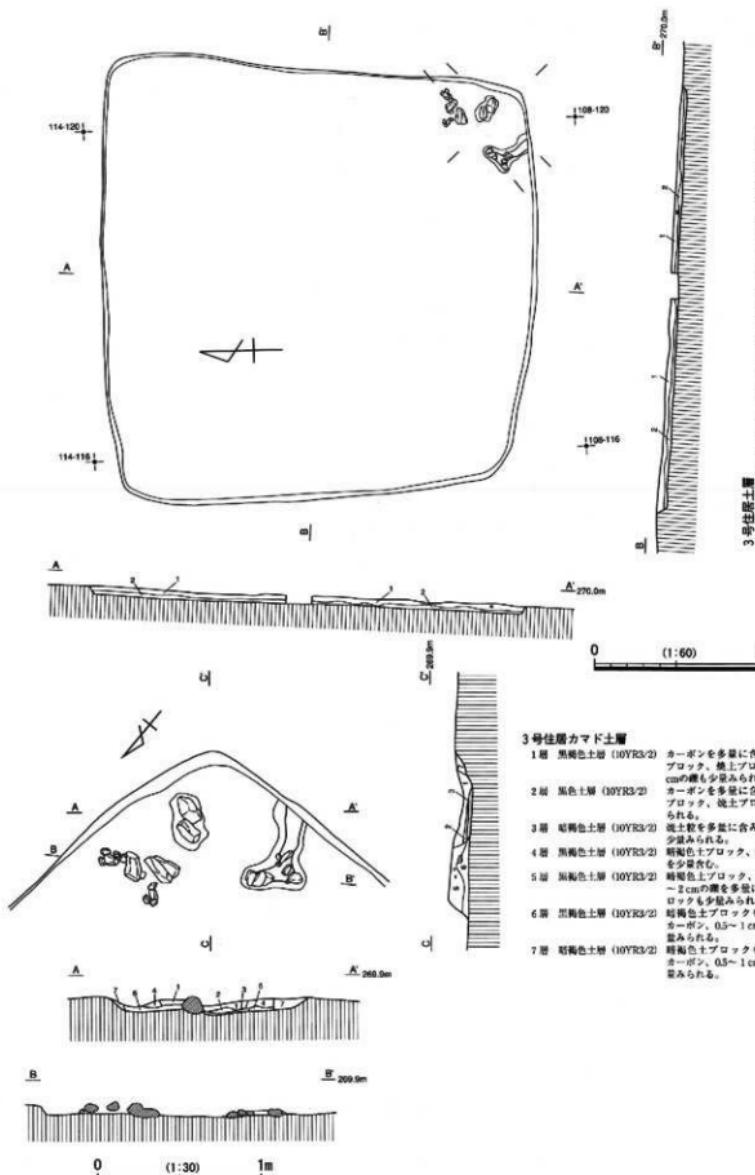


図版 4 2号竪穴住居・カマド平面図

図版 5

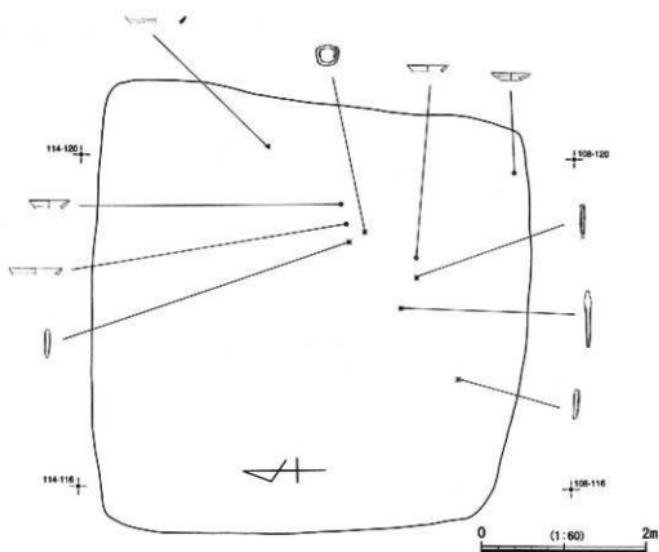
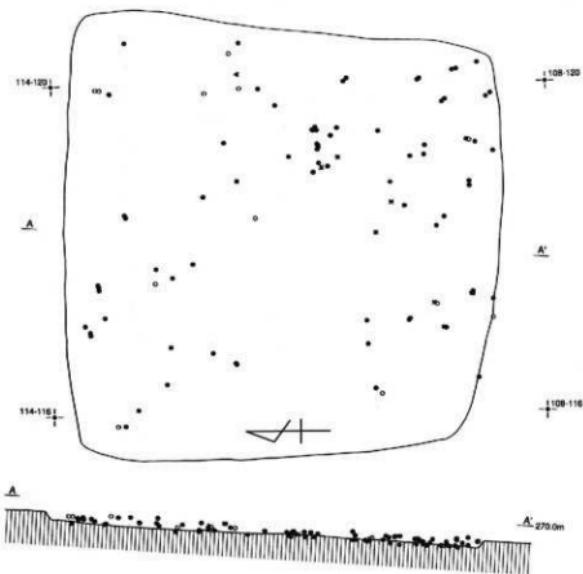


2号竖穴住居遺物分布図

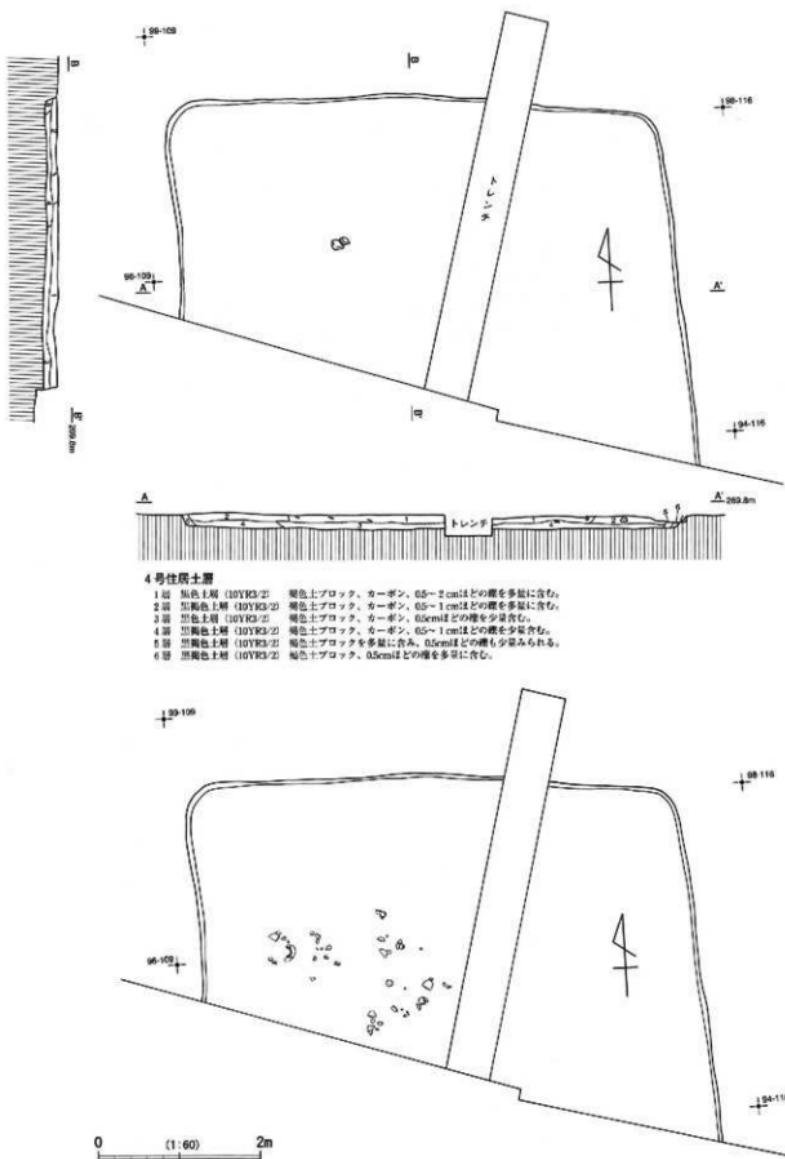


3号竪穴住居・カマド平面図

図版 7

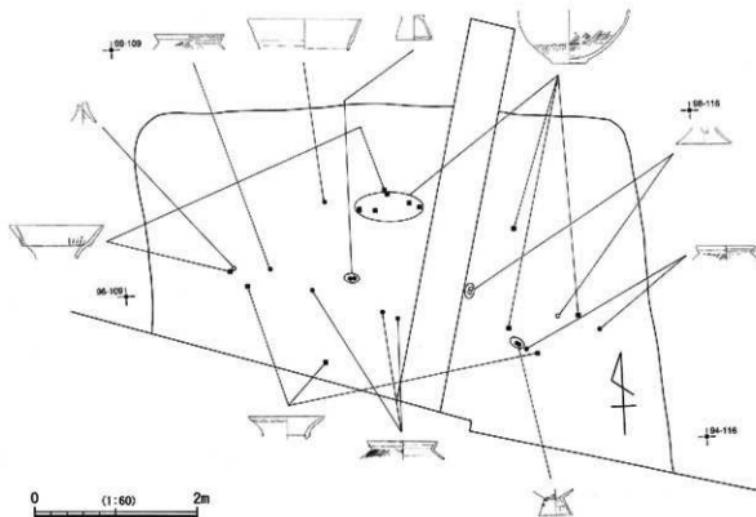
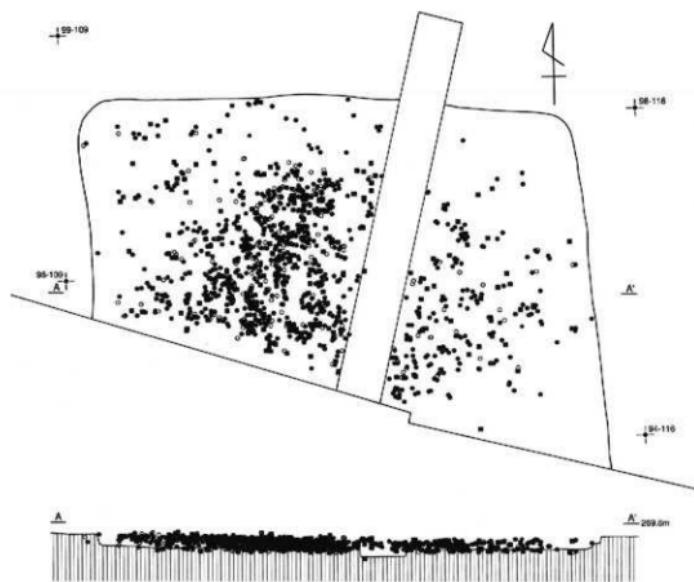


3号竪穴住居遺物分布図



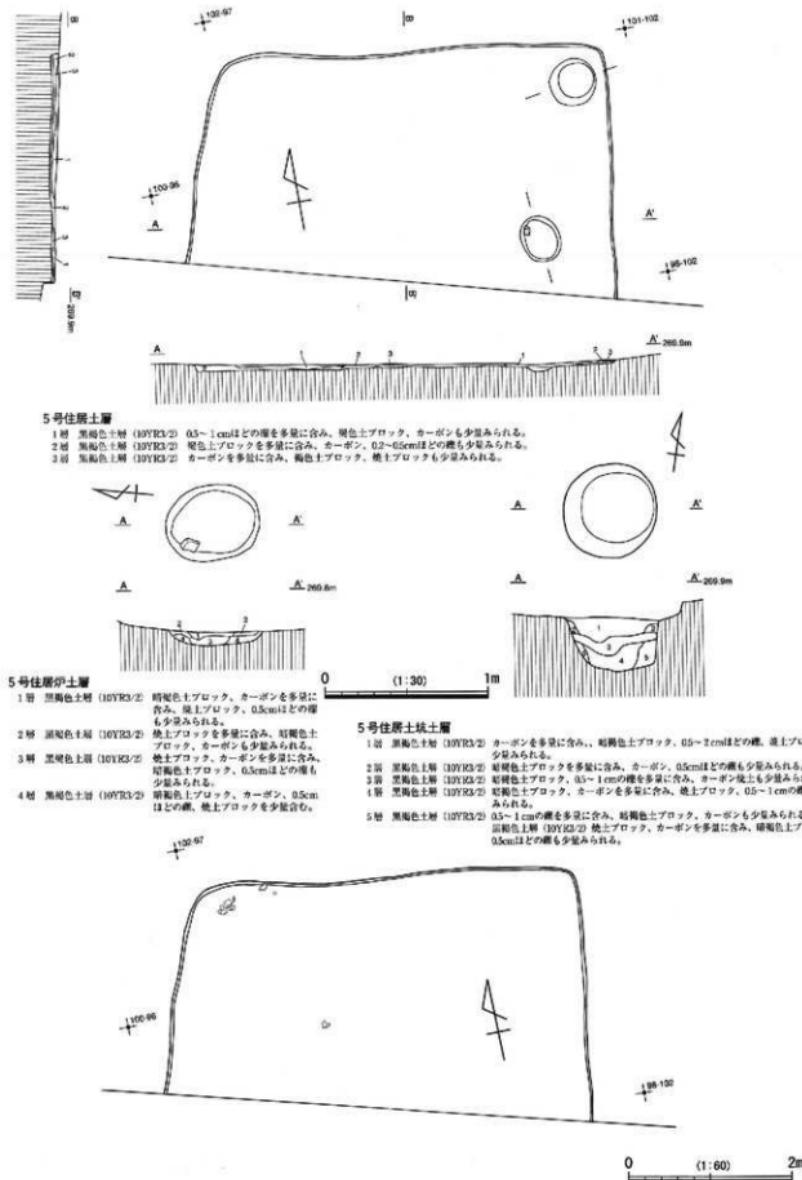
4号竖穴住居平面・遺物分布図（1）

図版9



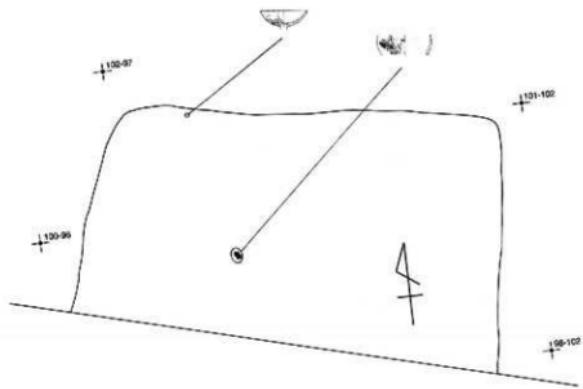
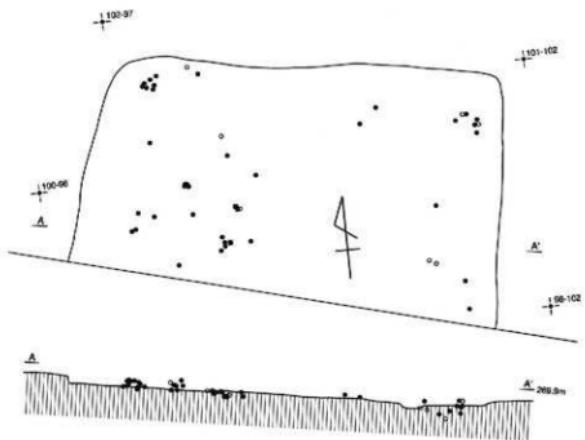
4号墳住居遺物分布図(2)

図版10

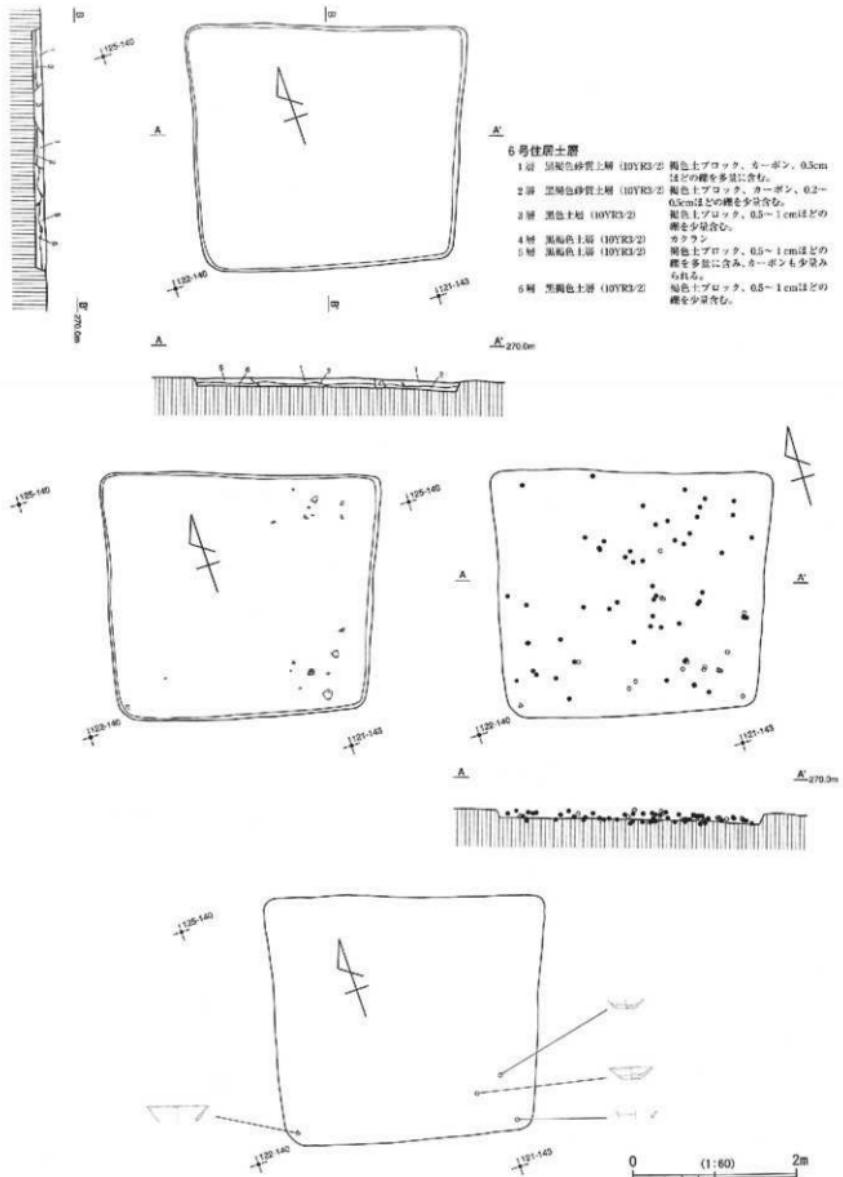


5号竪穴住居・炉・土坑平面図、遺物分布図(1)

図版11

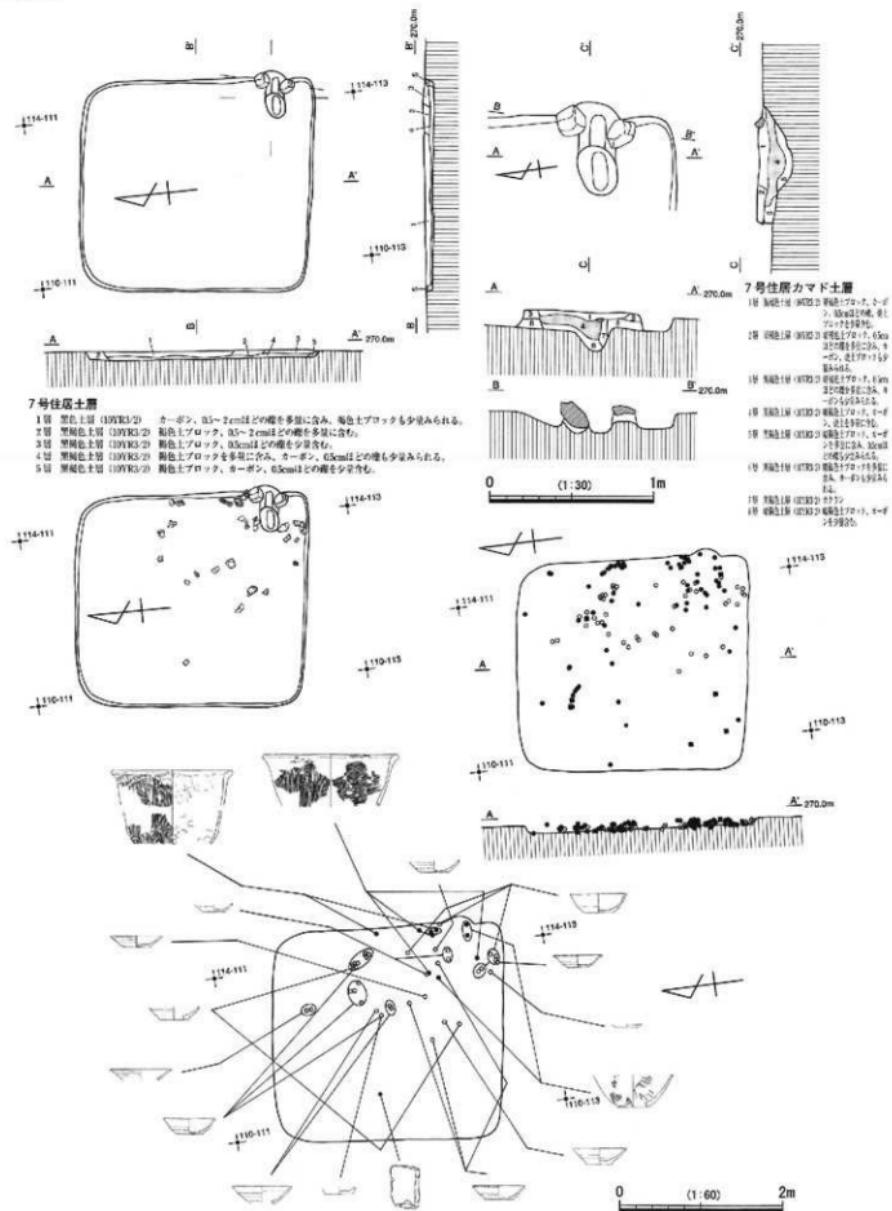


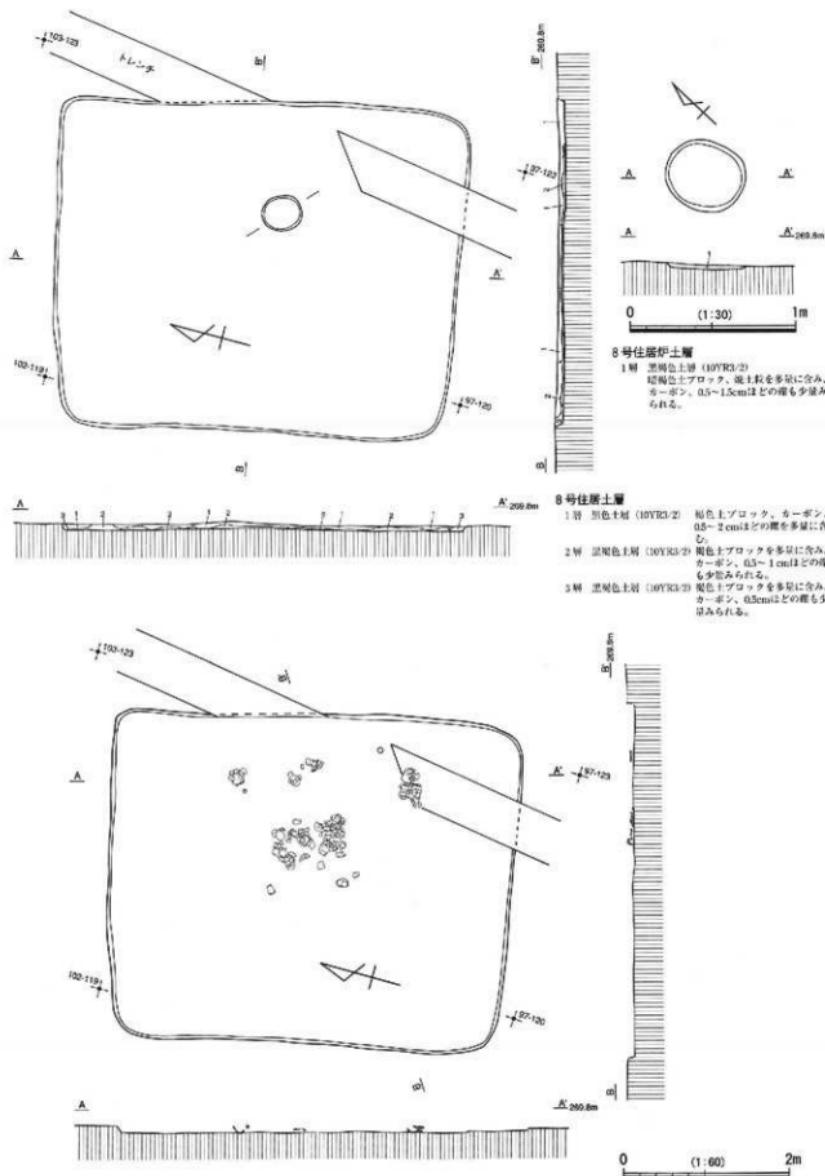
5号竖穴住居遺物分布図（2）



6号竪穴住居平面・遺物分布図

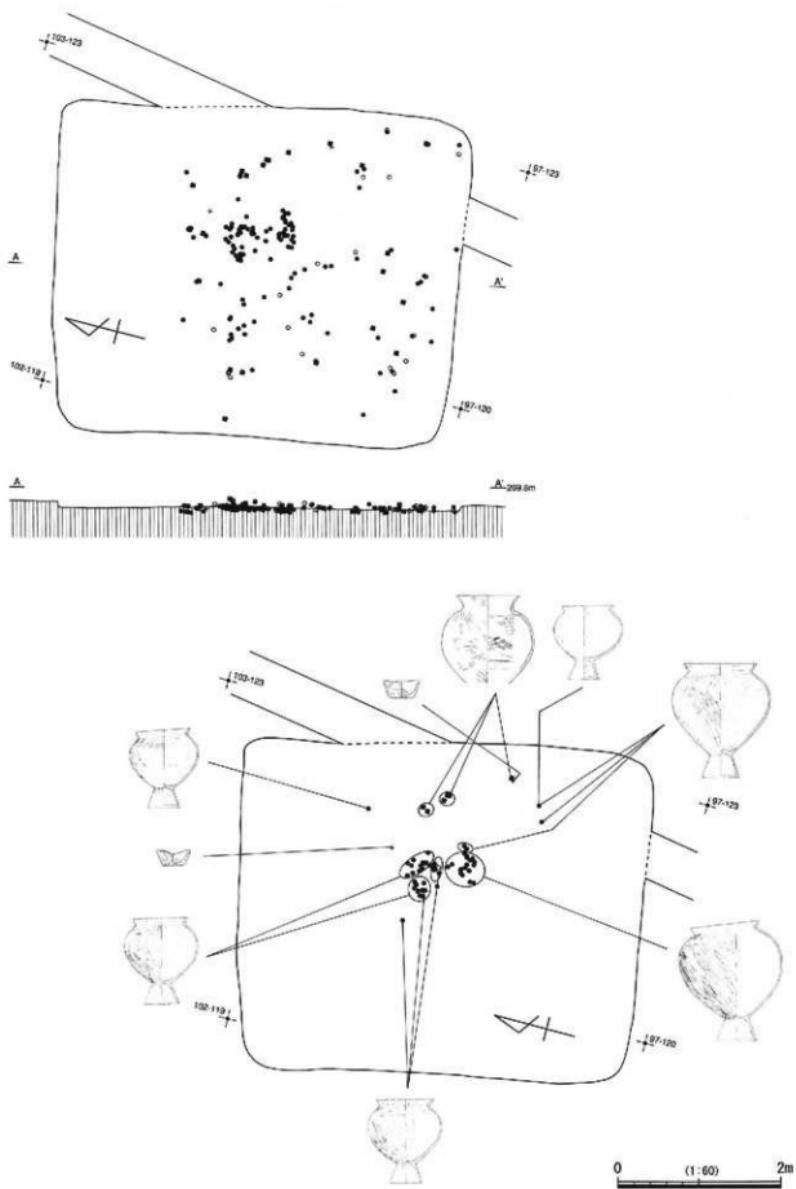
図版13



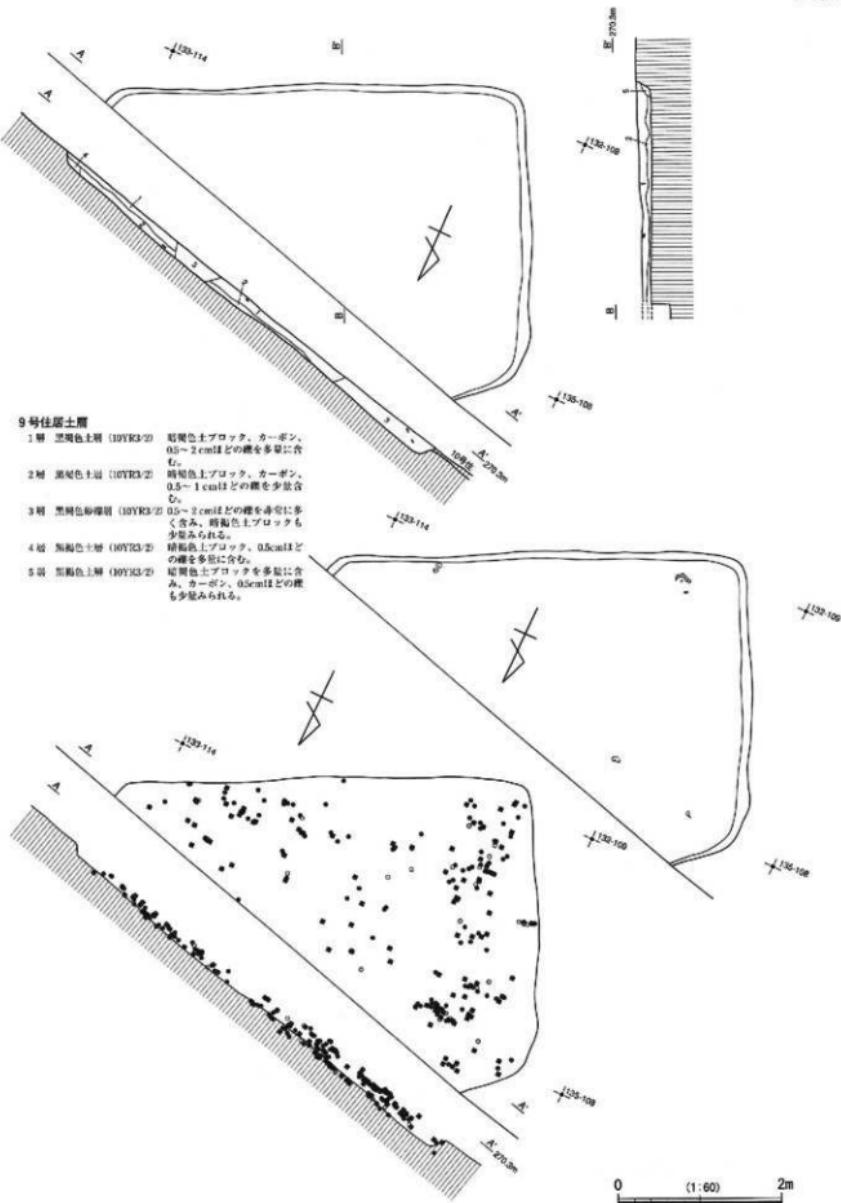


### 8号竪穴住居・炉平面図、遺物分布図（1）

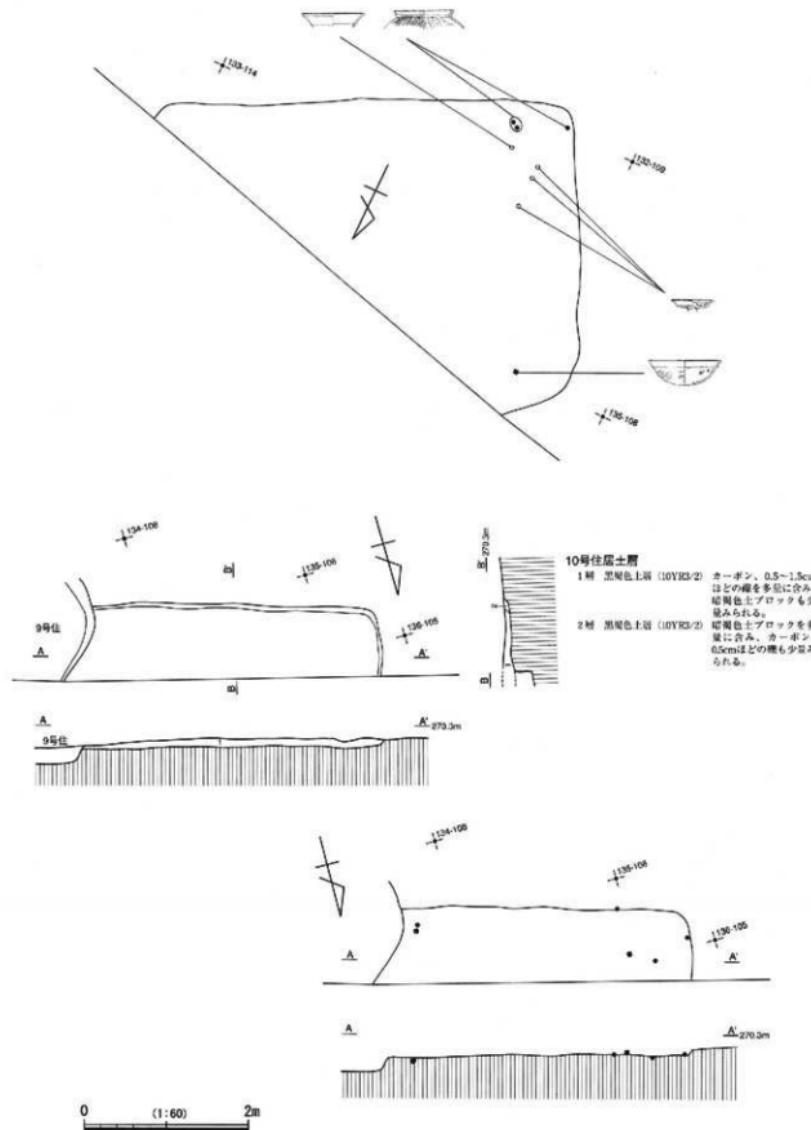
図版15



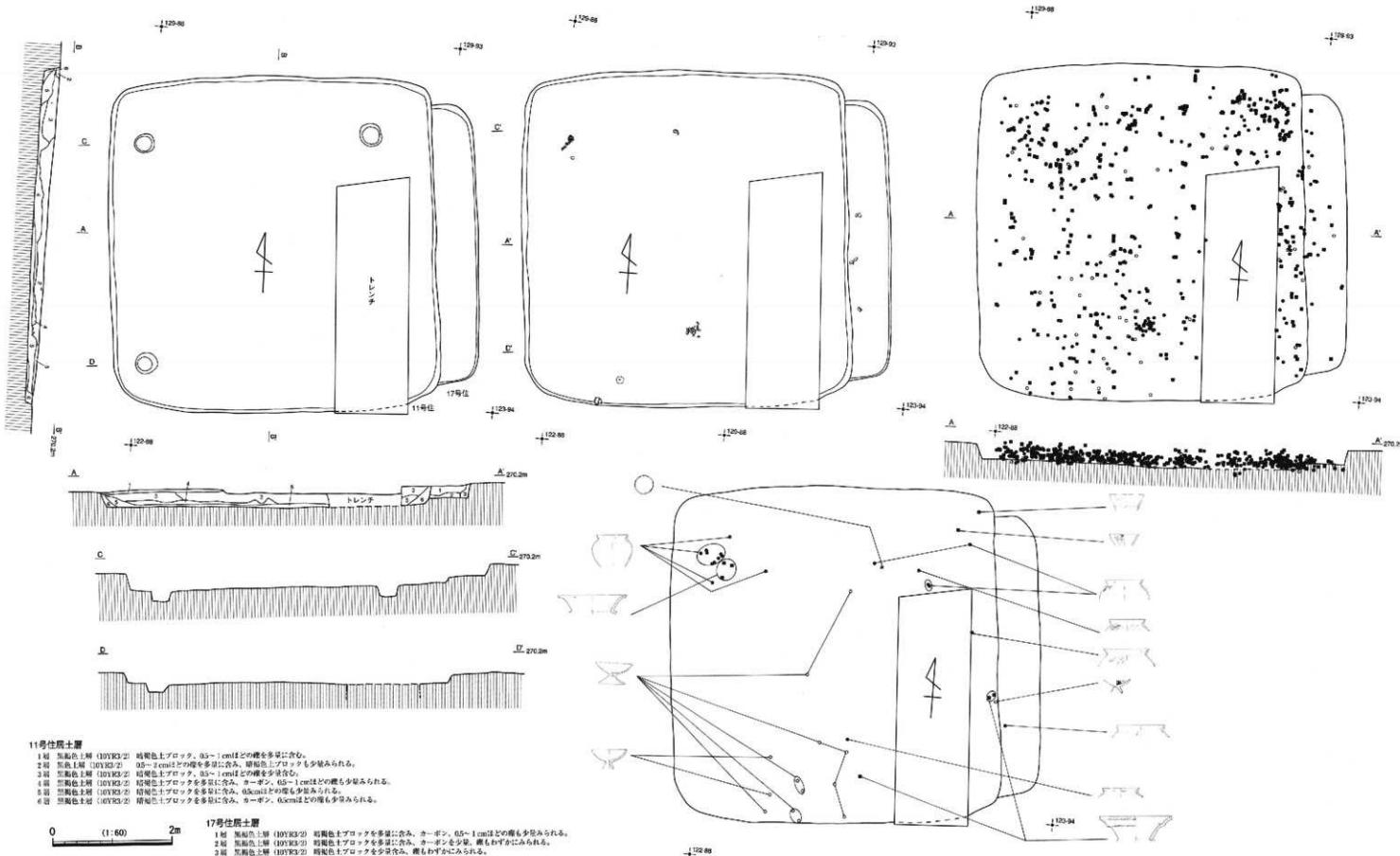
8号竖穴住居遺物分布図（2）



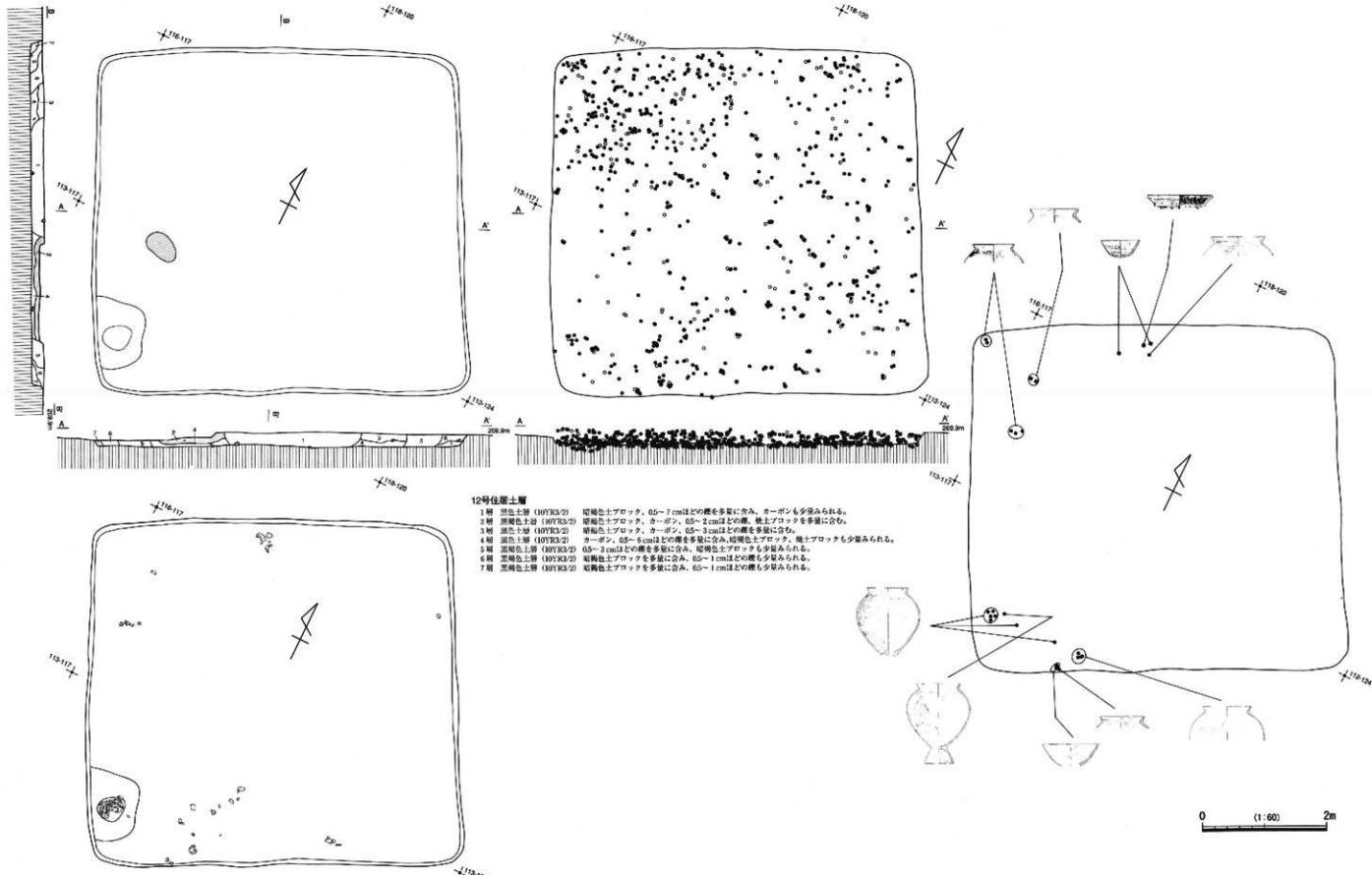
9号竖穴住居平面・遺物分布図 (1)



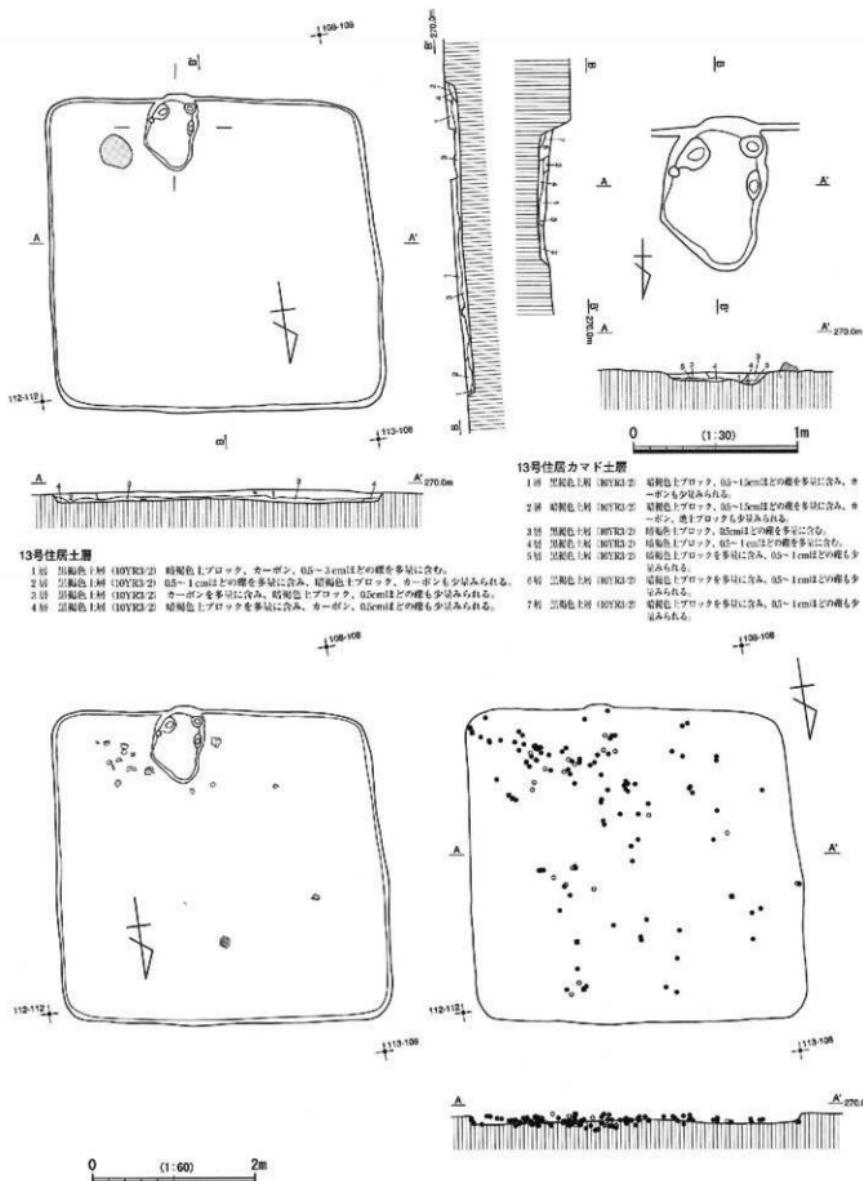
9号竪穴住居遺物分布図(2)、10号竪穴住居平面・遺物分布図



11・17号竪穴住居平面・遺物分布図

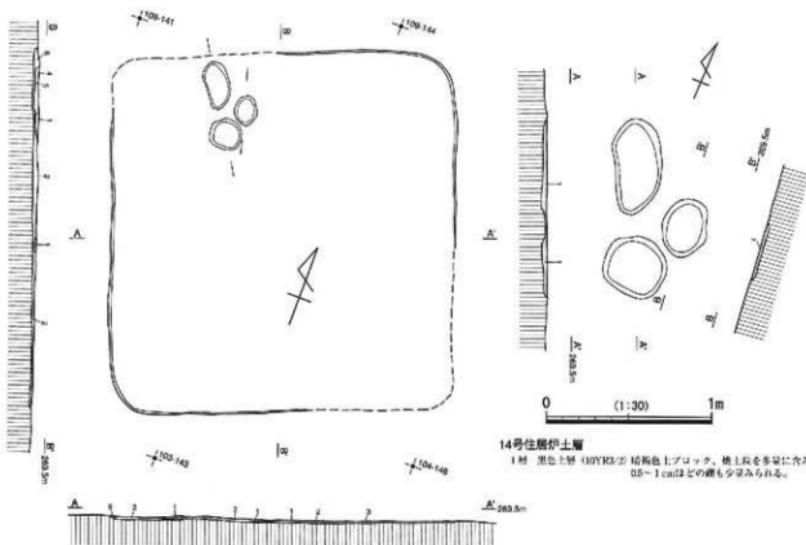
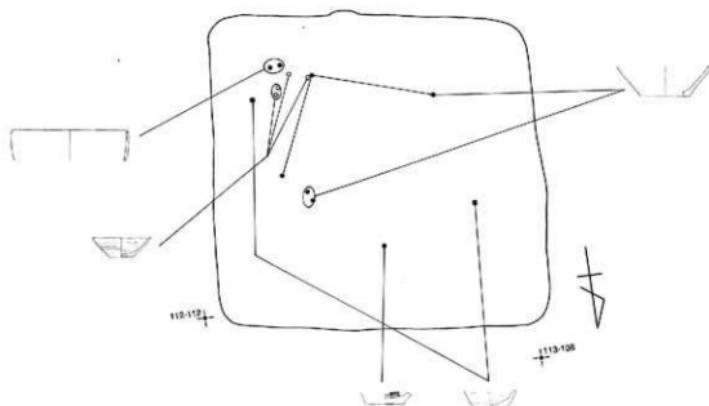


12号竪穴住居平面・遺物分布図



圖版21

1-508-108



14号住居土層

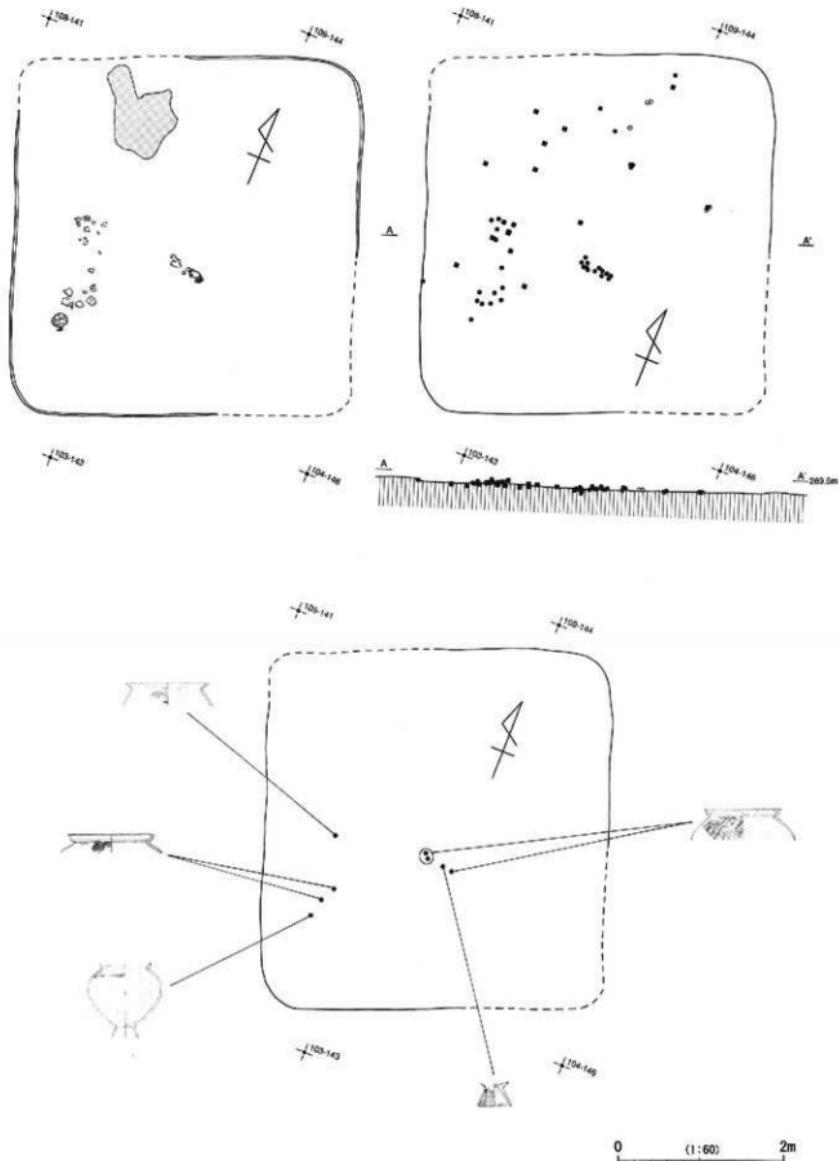


14号住居伊士蘭

1層 黒色土層 (BOYR3/2) 培養土ブロック、植土糞を多量に含み、  
0.5~1cmほどの中粒も少量みられる。

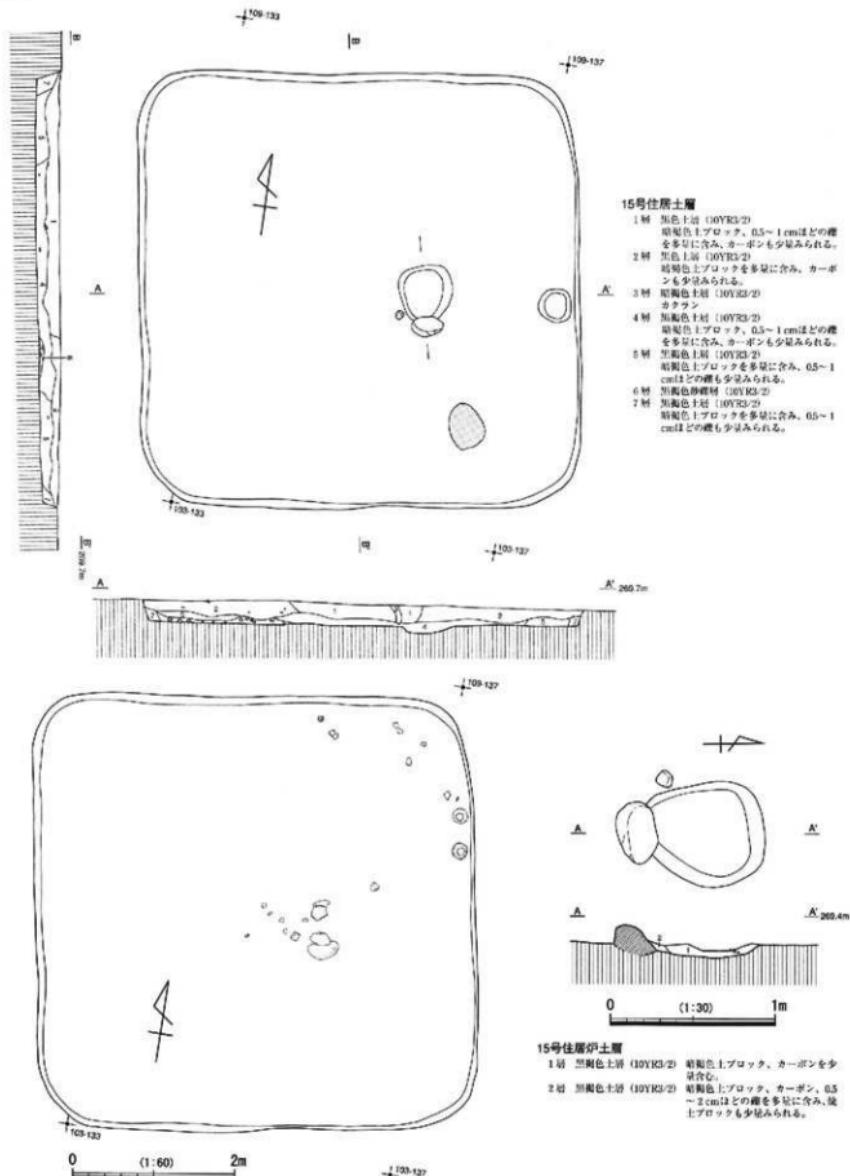
0 (1:60) 2m

13号竪穴住居遺物分布図（2）、14号竪穴住居・炉平面図

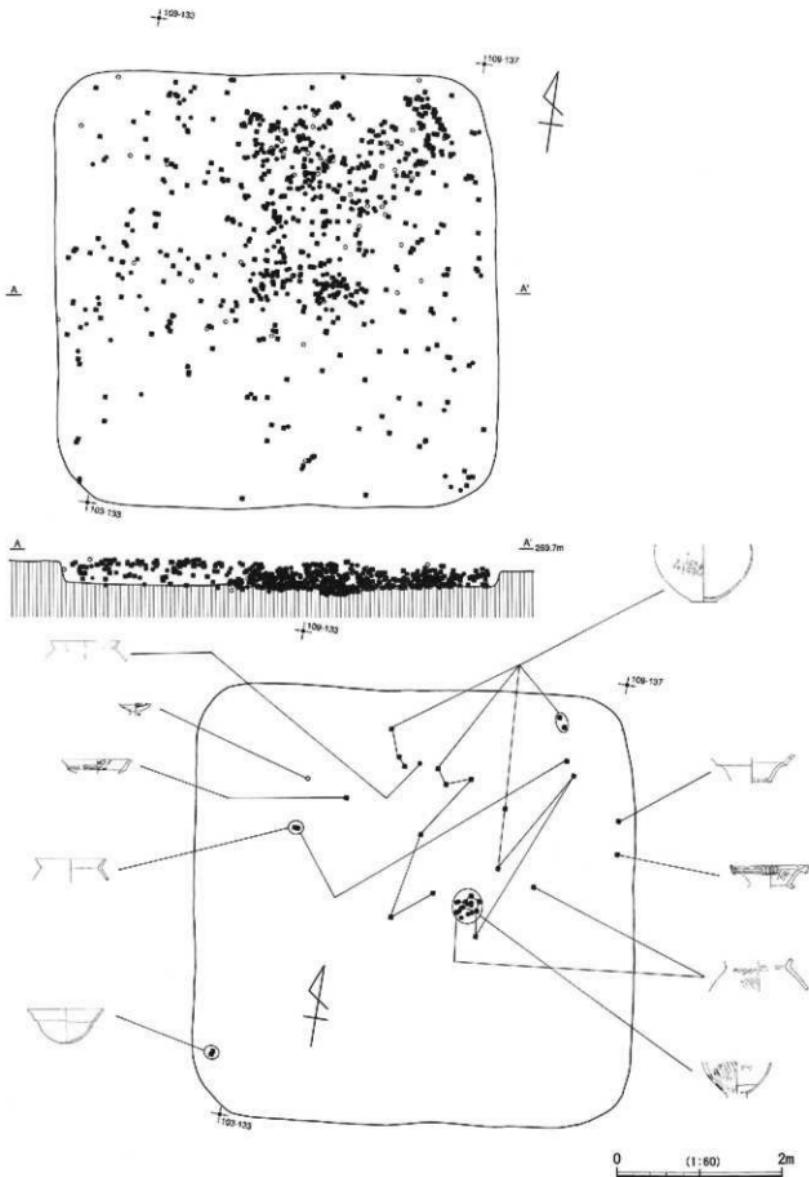


14号竪穴住居遺物分布図

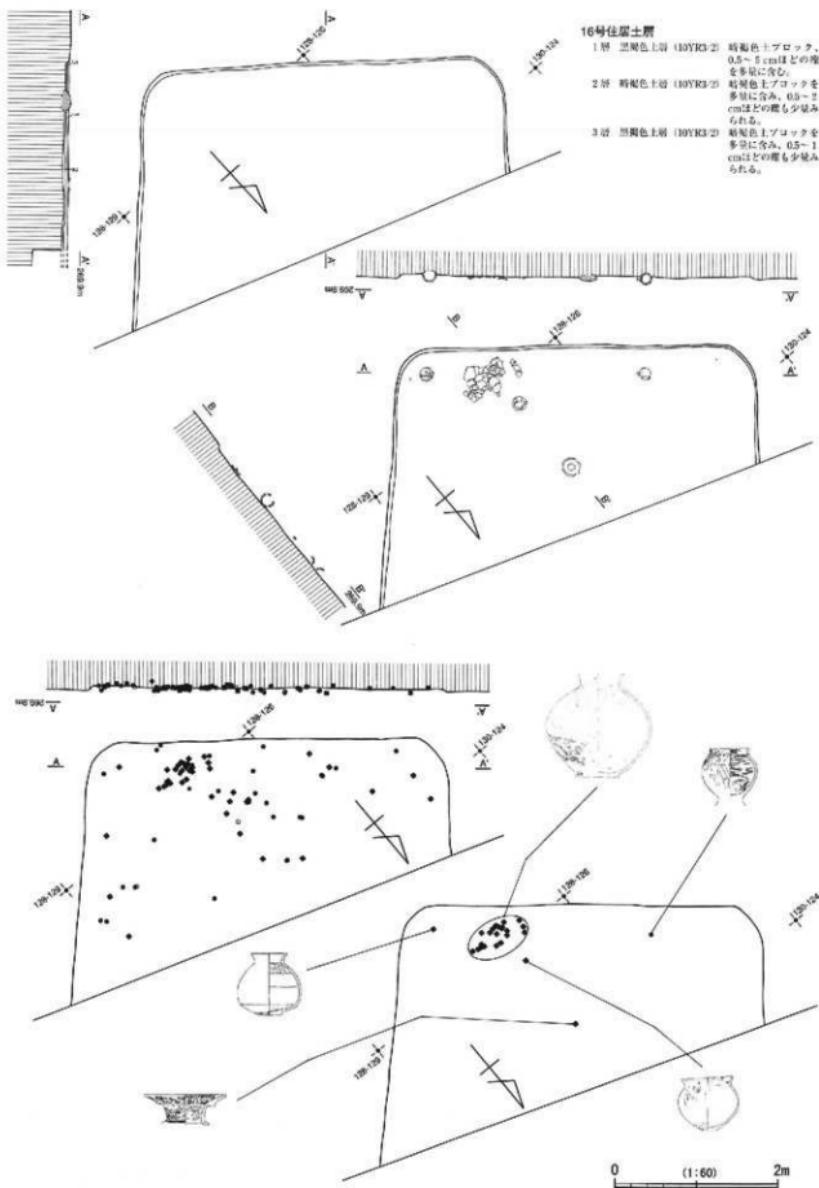
図版23

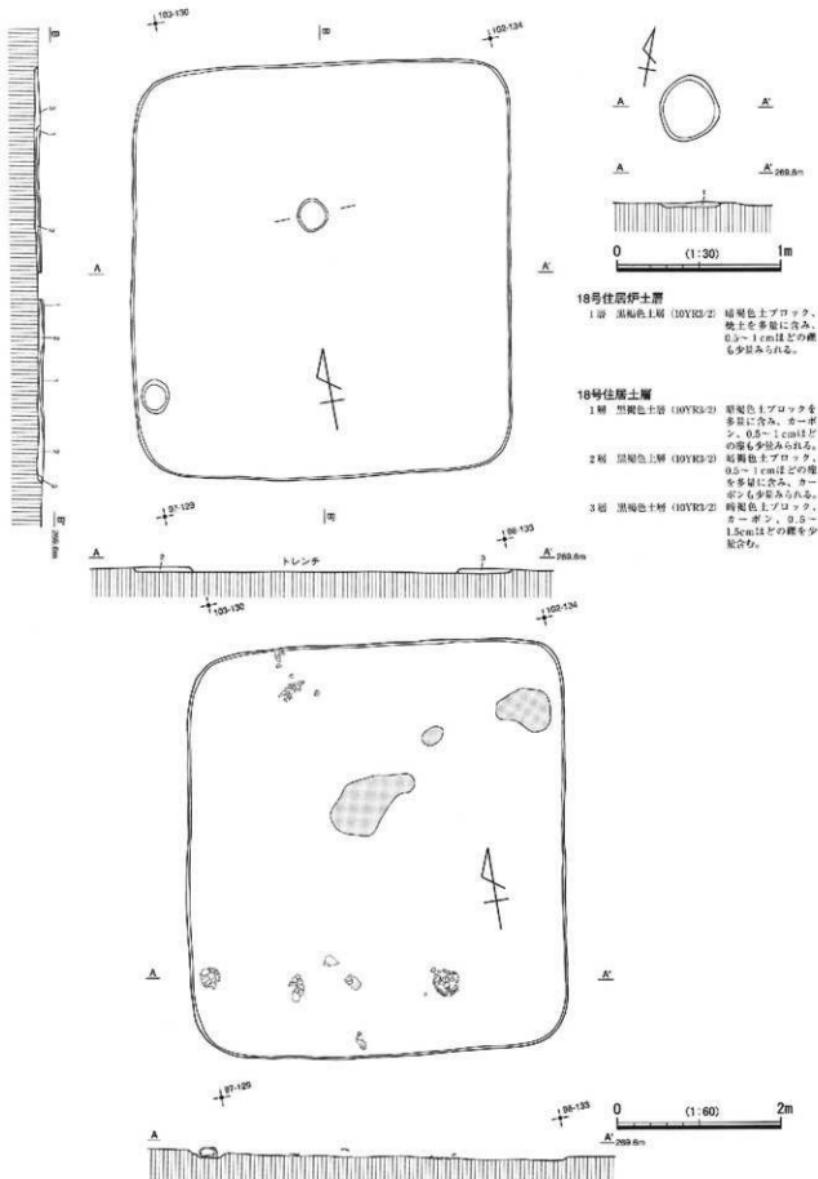


15号竪穴住居・炉平面図・遺物分布図（1）



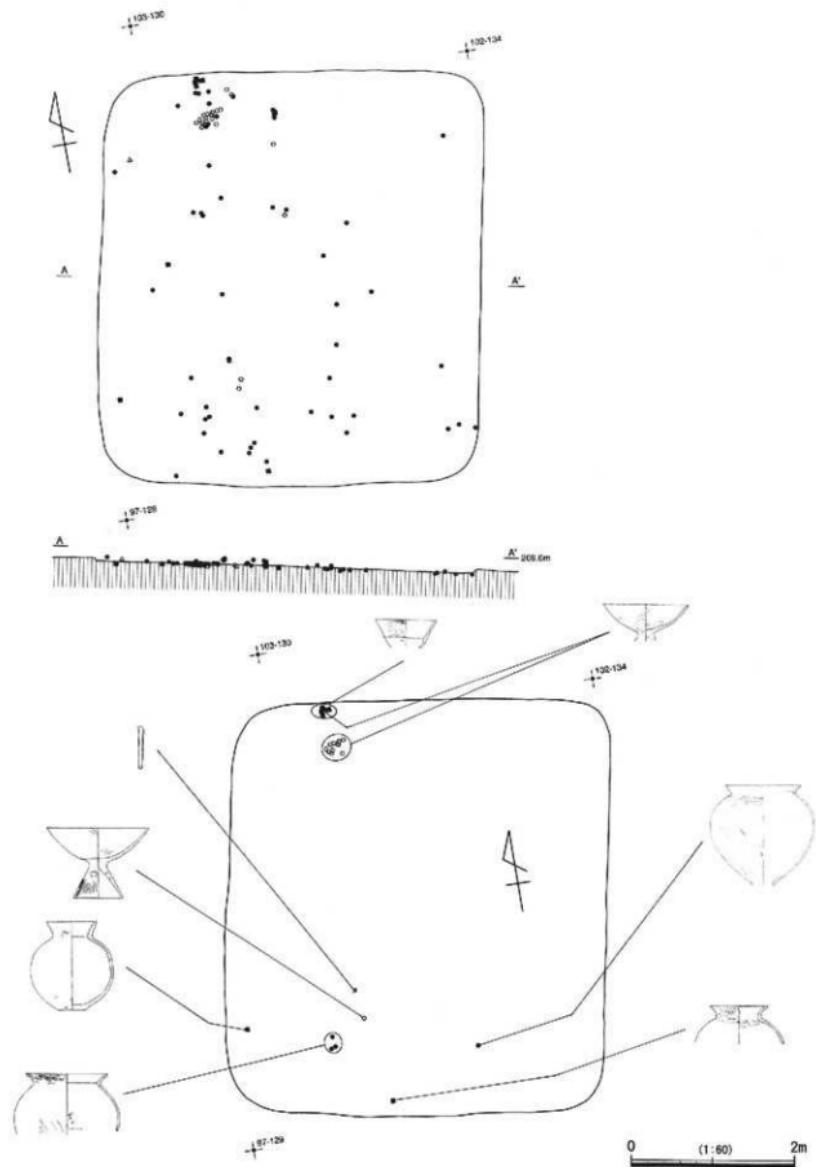
図版25



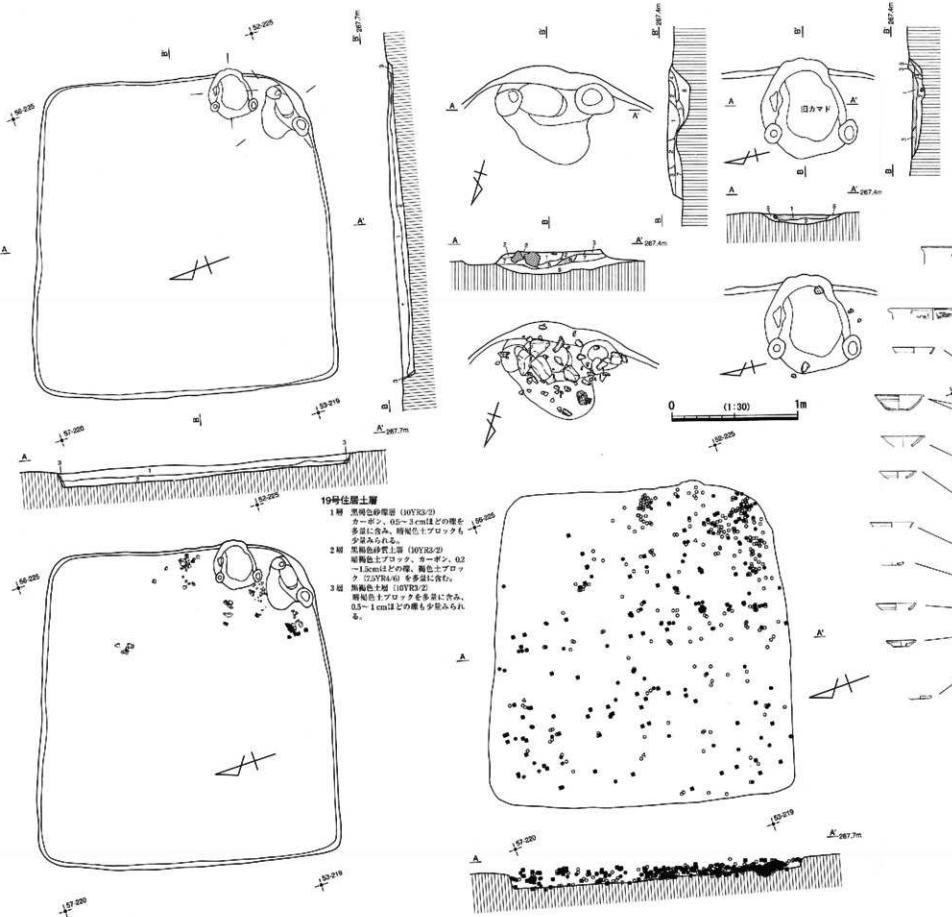


18号竪穴住居平面・炉平面図、遺物分布図(1)

図版27



18号竪穴住居遺物分布図（2）



19号住居内下層

1号 住居内土壁 (10Y32-2) カーボン、0.5~2cmほど隙間を多く含む。焼褐色土ブロックを多く含む。

2号 住居内土壁 (10Y32-2) 0.5~1cmほど隙間を多く含み、焼褐色土ブロックを多く含む。カーボン、焼土ブロックを多く含む。

3号 住居内土壁 (10Y32-2) 焼褐色土ブロックを多く含み、焼褐色土ブロックを多く含む。カーボン、焼土ブロックを多く含む。

4号 住居内土壁 (10Y32-2) 焼褐色土ブロックを多く含み、焼褐色土ブロックを多く含む。カーボン、焼土ブロックを多く含む。

5号 住居内土壁 (10Y32-2) 焼褐色土ブロックを多く含み、焼褐色土ブロックを多く含む。0.5~1cmほど隙間を多く含む。

6号 住居内土壁 (10Y32-2) カーボン、底土を多く含む。焼褐色土ブロック、0.5~1cmほど隙間を多く含む。

7号 住居内土壁 (10Y32-2) 焼褐色土ブロックを多く含む。A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z。

8号 住居内土壁 (10Y32-2) 焼褐色土ブロックを多く含む。カーボン、0.5~1cmほど隙間を多く含む。

## 19号住居内カマド

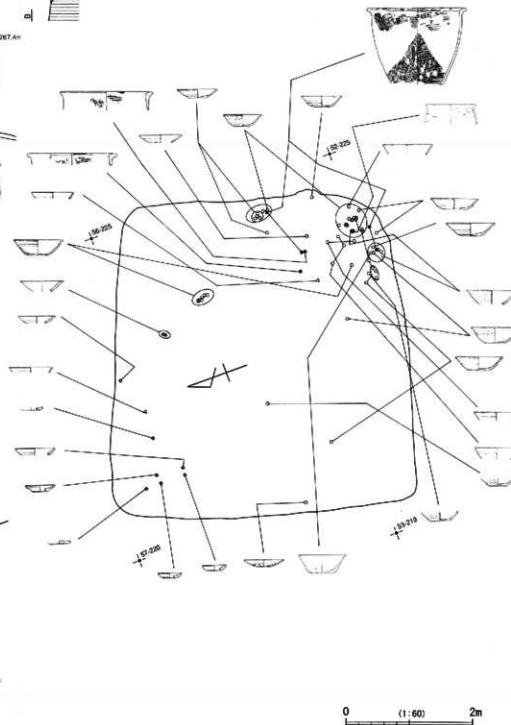
1号 住居内土壁 (10Y32-2) カーボン、焼褐色土ブロックを多く含み、焼褐色土ブロックを多く含む。

2号 住居内土壁 (10Y32-2) 0.5~2cmほど隙間を多く含み、焼褐色土ブロックを多く含む。

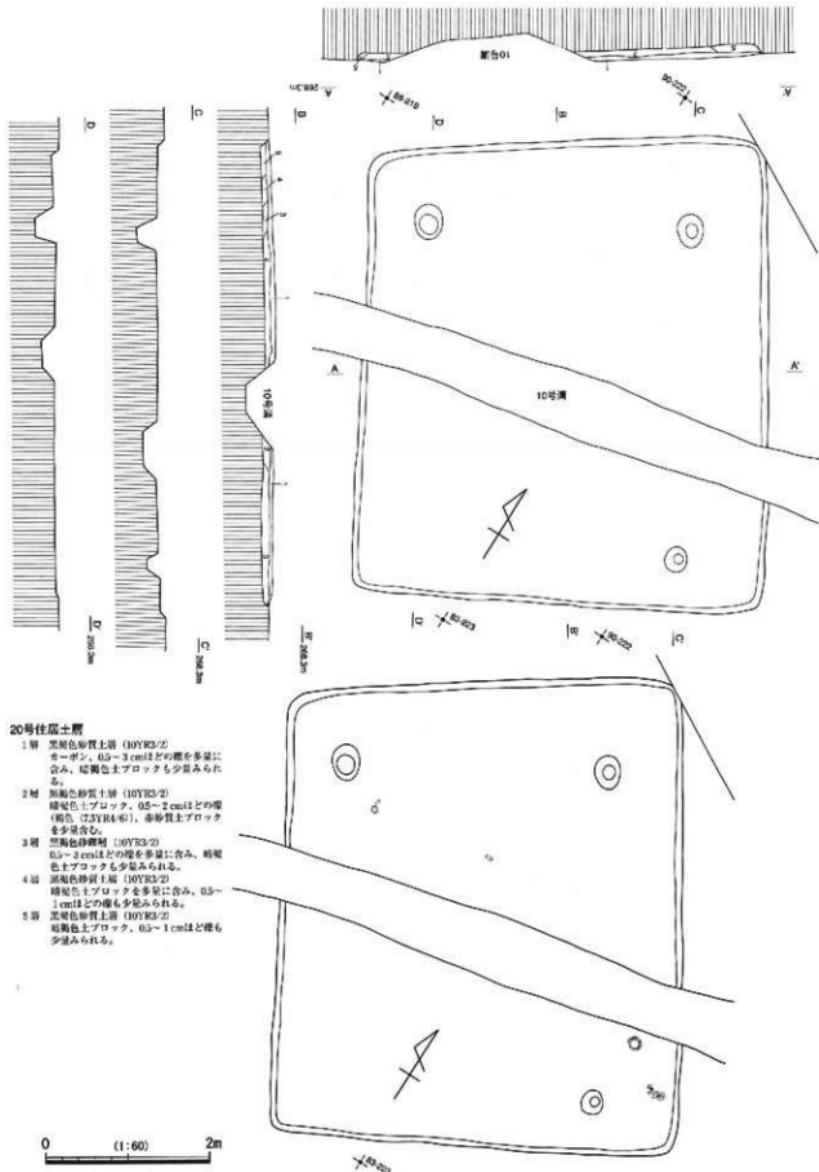
3号 住居内土壁 (10Y32-2) 焼褐色土ブロックを多く含み、焼褐色土ブロックを多く含む。カーボン、0.5~1cmほど隙間を多く含む。

4号 住居内土壁 (10Y32-2) 焼褐色土ブロックを多く含み、焼褐色土ブロックを多く含む。カーボン、焼土ブロックを多く含む。

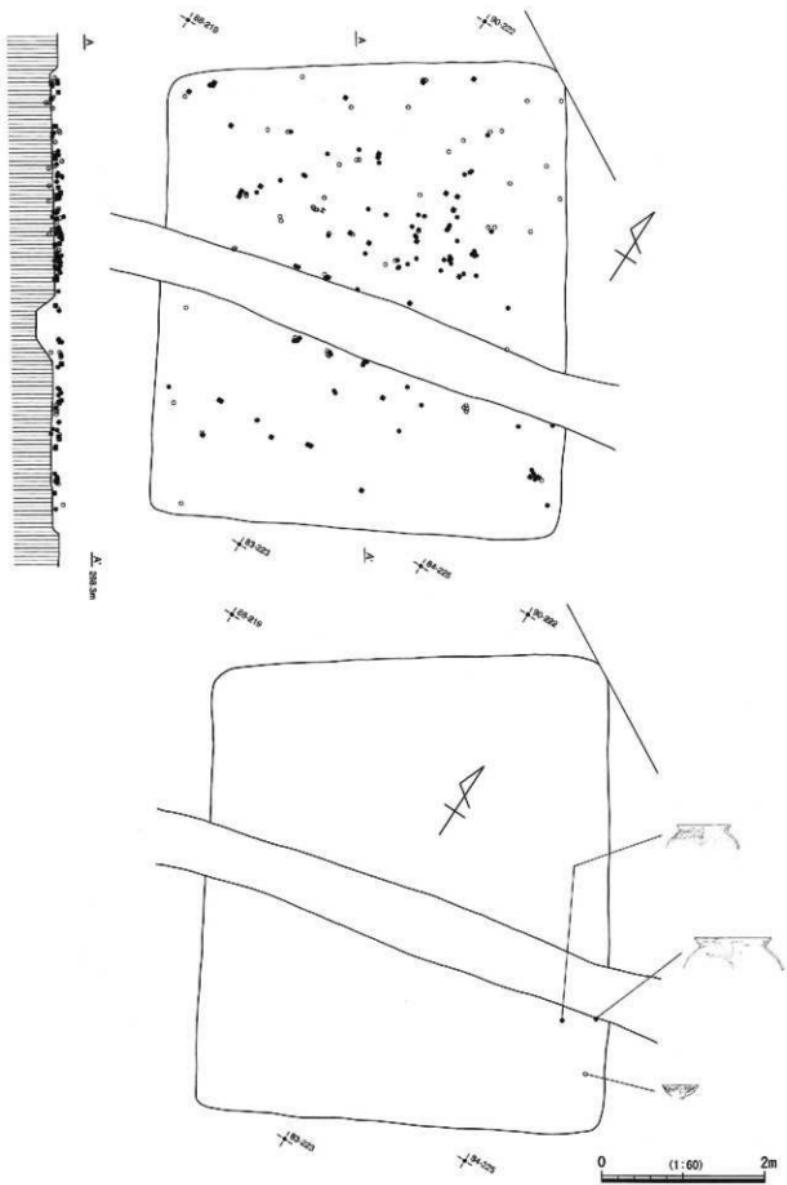
5号 住居内土壁 (10Y32-2) 焼褐色土ブロックを多く含み、焼褐色土ブロックを多く含む。カーボン、焼土ブロックを多く含む。



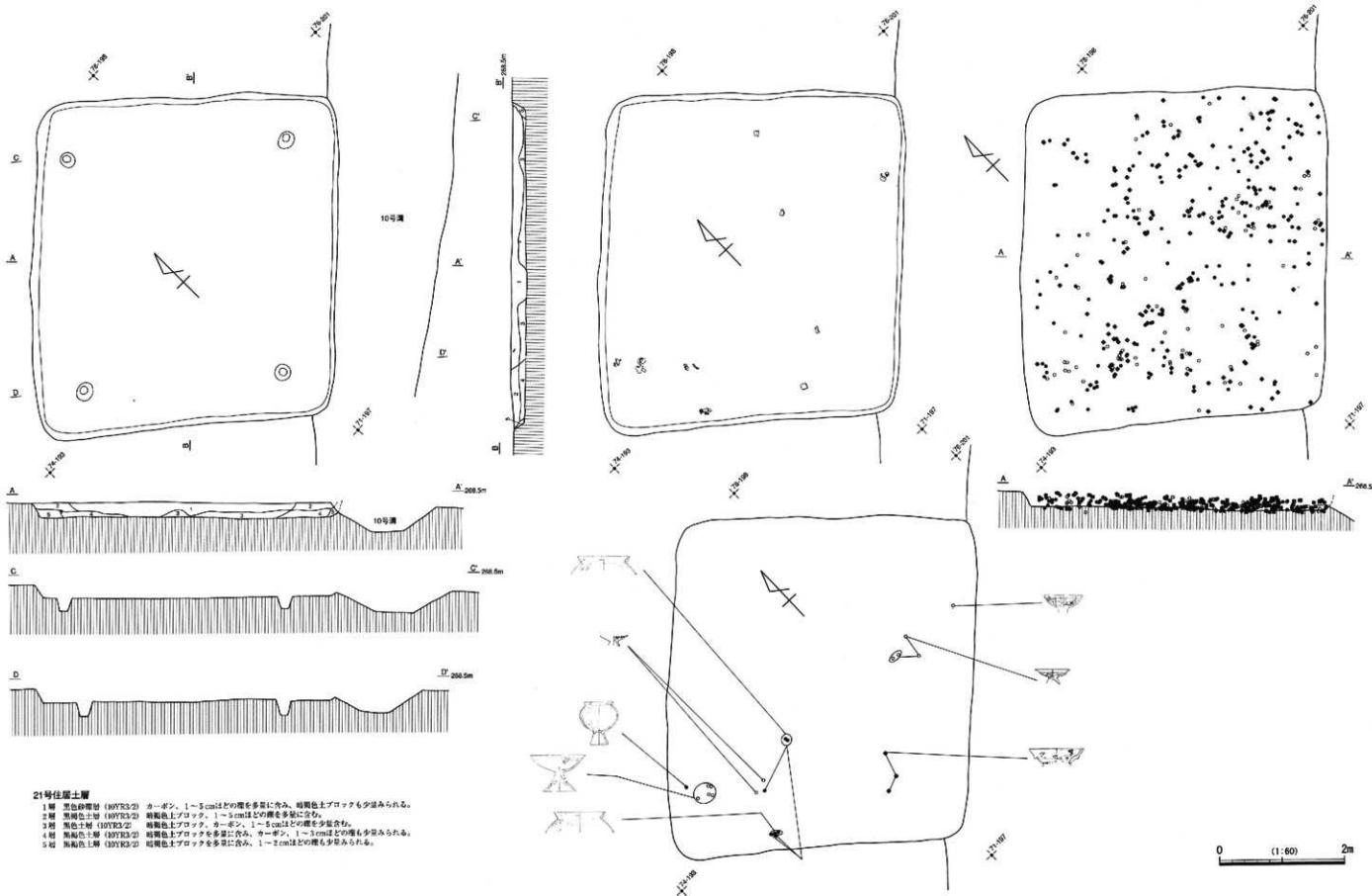
19号竪穴住居・新旧カマド平面・遺物分布図



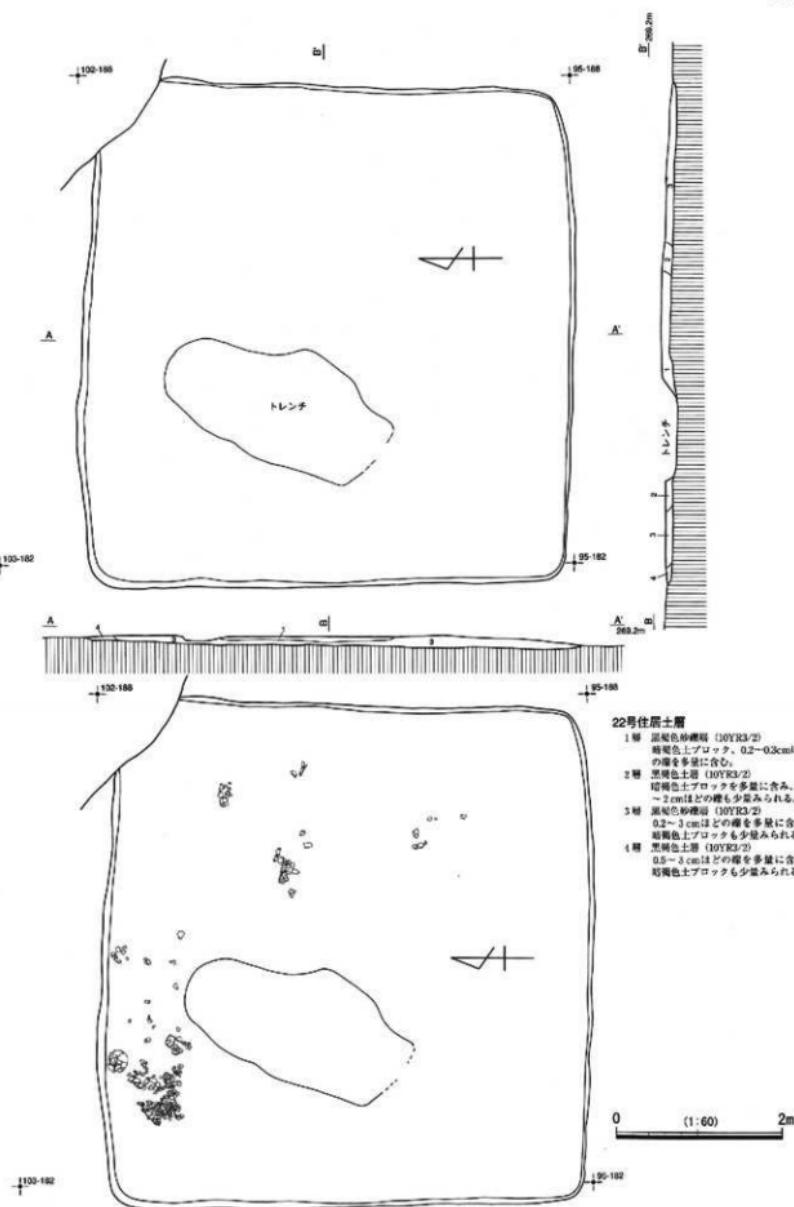
20号竪穴住居平面図・遺物分布図（1）



20号竖穴住居遺物分布図（2）

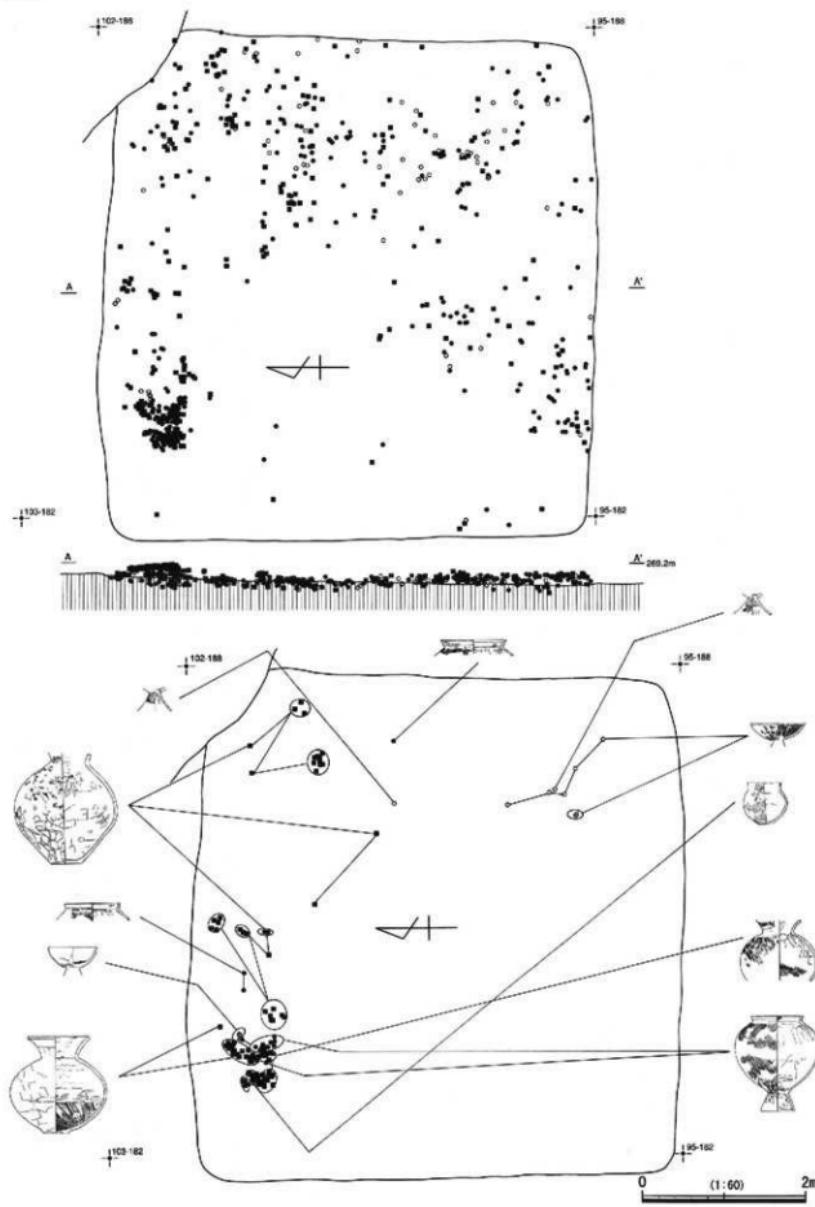


21号竪穴住居平面・遺物分布図

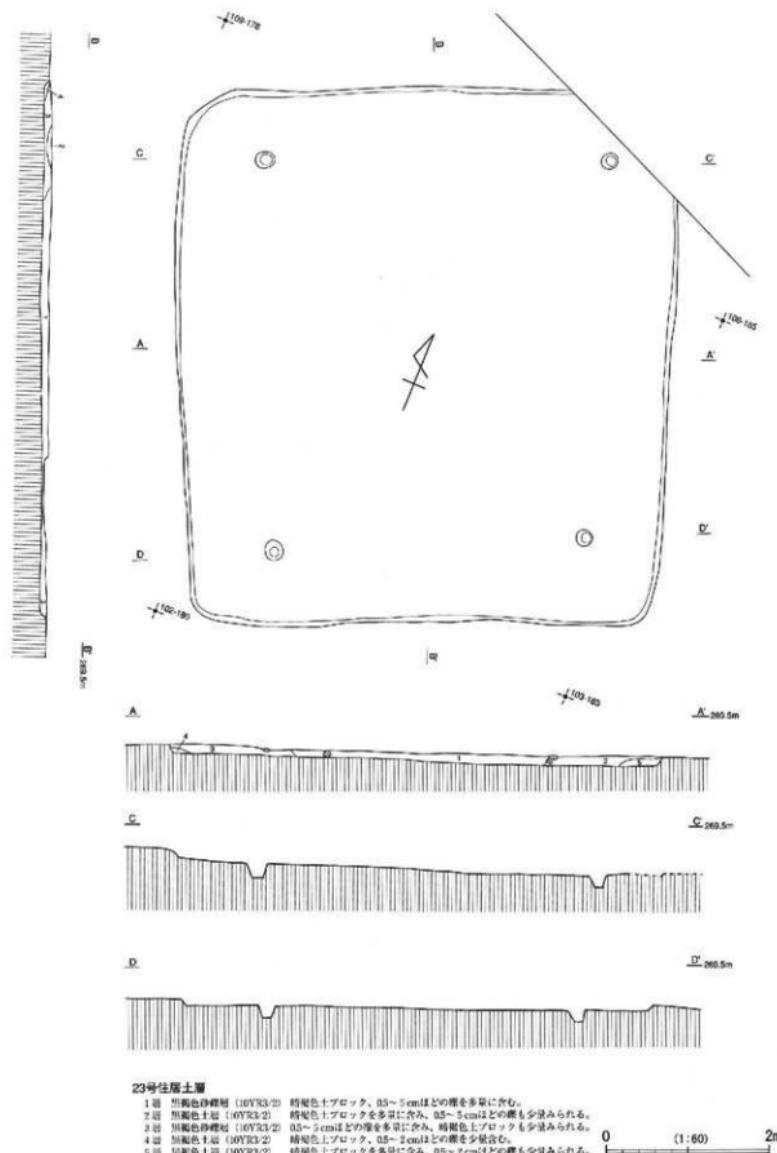


22号竪穴住居平面図・遺物分布図（1）

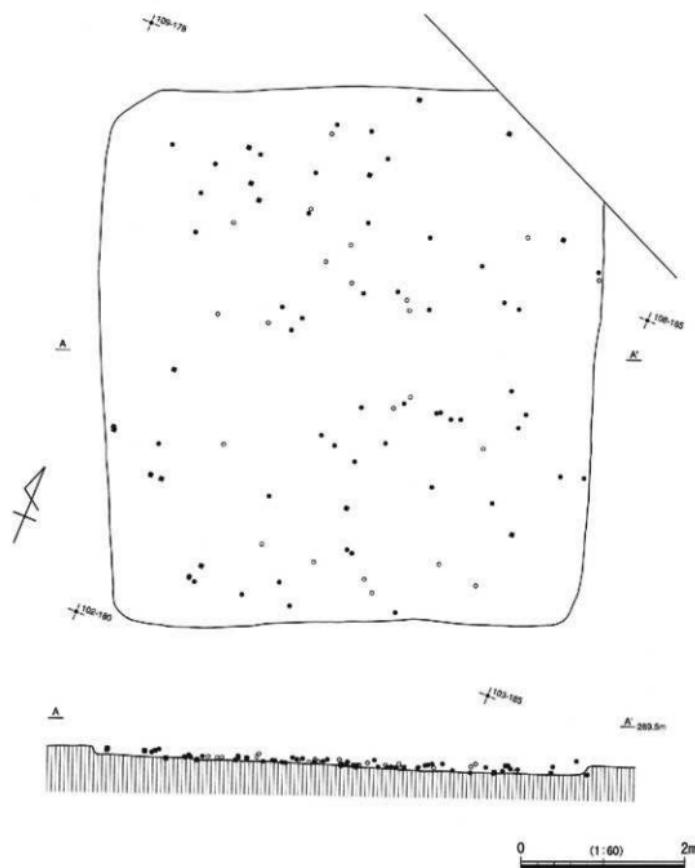
図版33



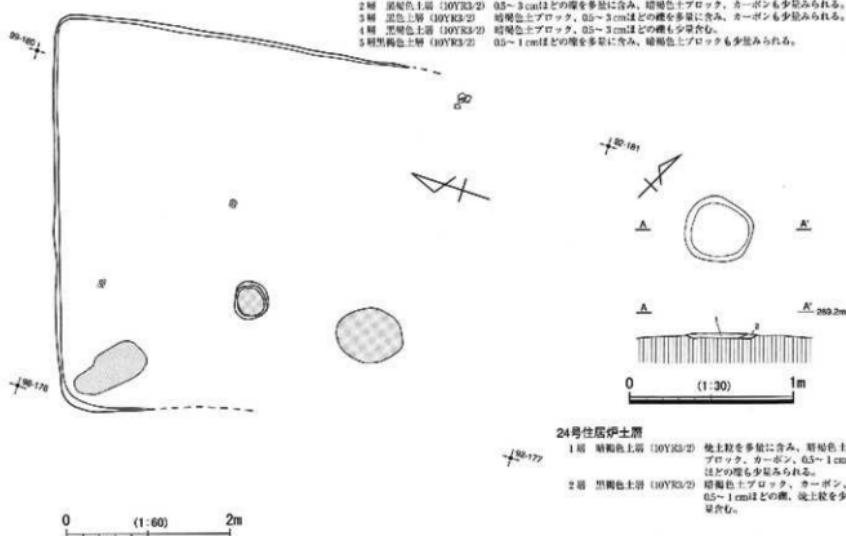
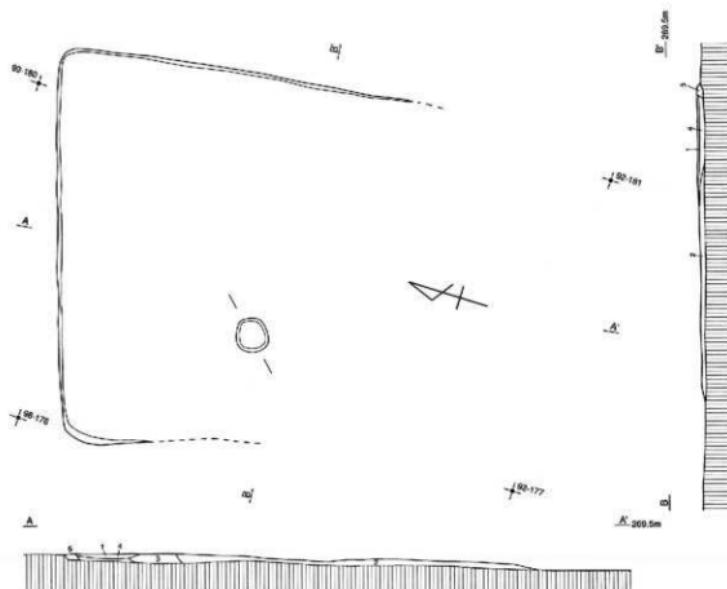
### 22号竪穴住居遺物分布図（2）



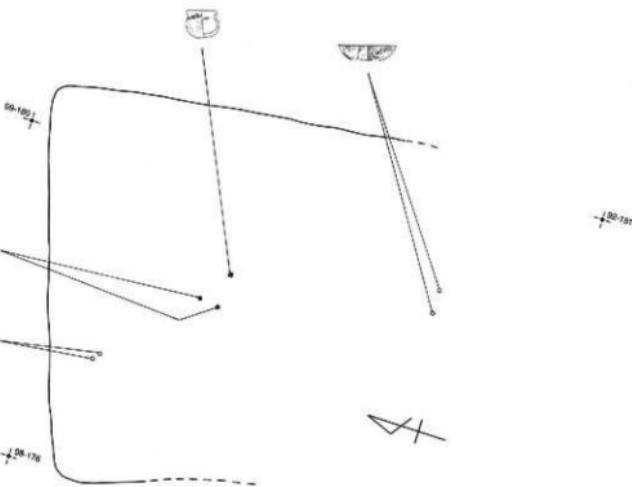
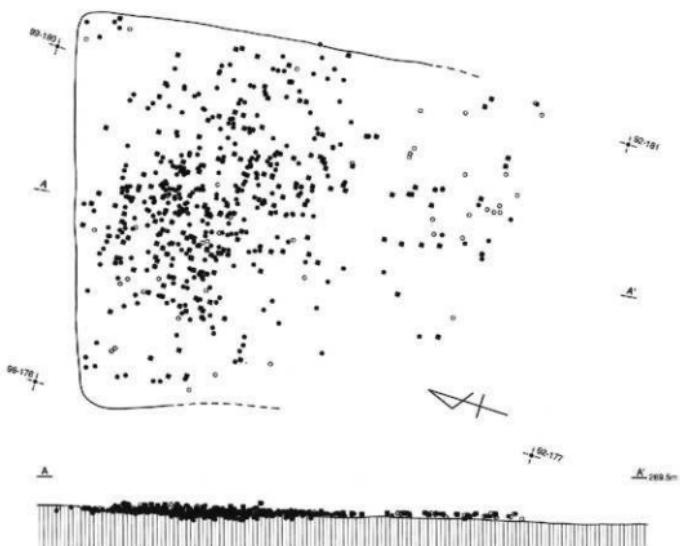
23号竪穴住居平面図



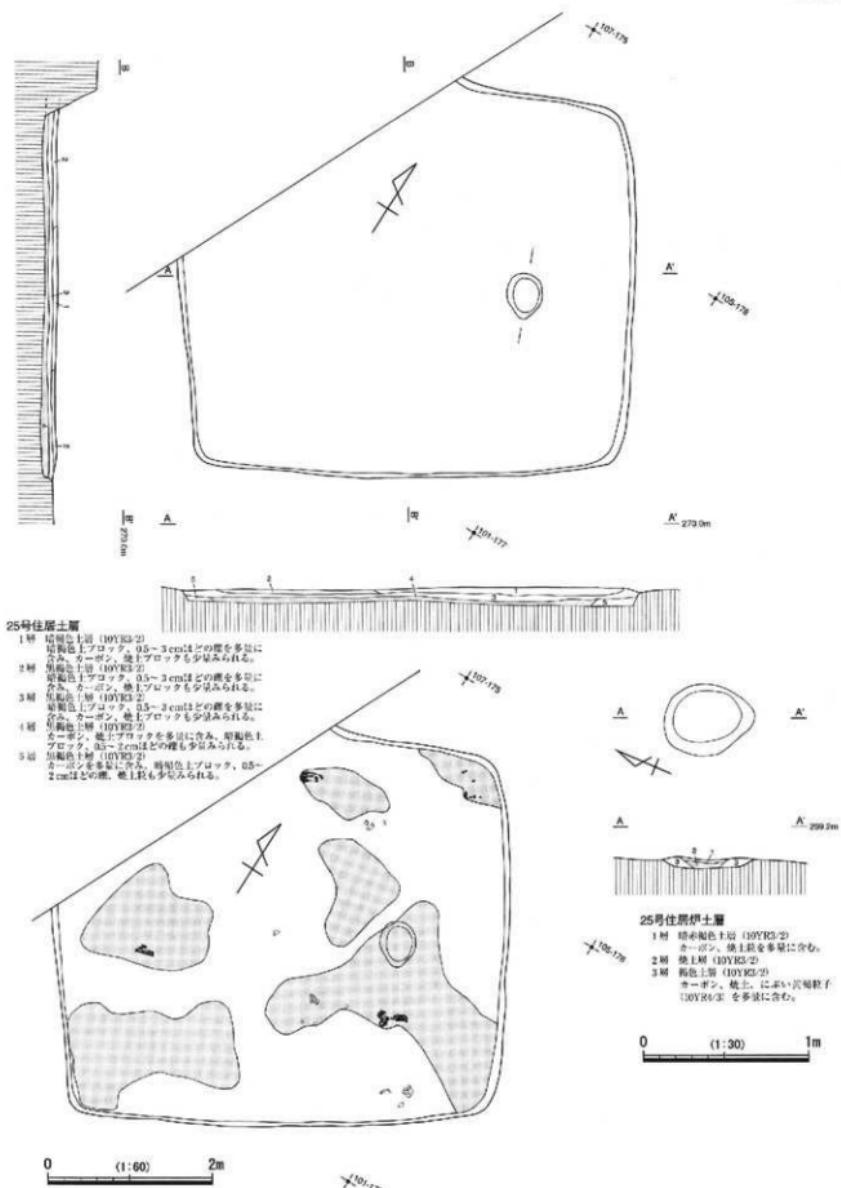
23号竪穴住居遺物分布図

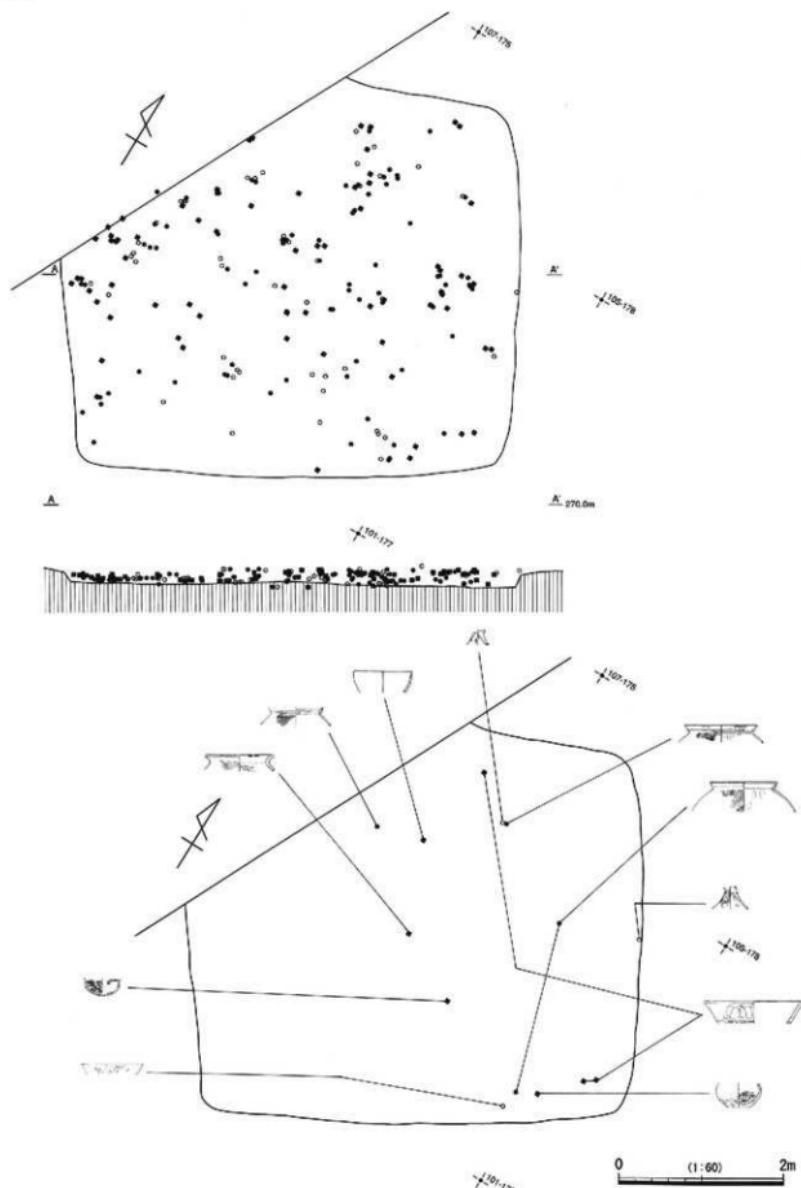


24号竪穴住居・炉平面図、遺物分布図（1）

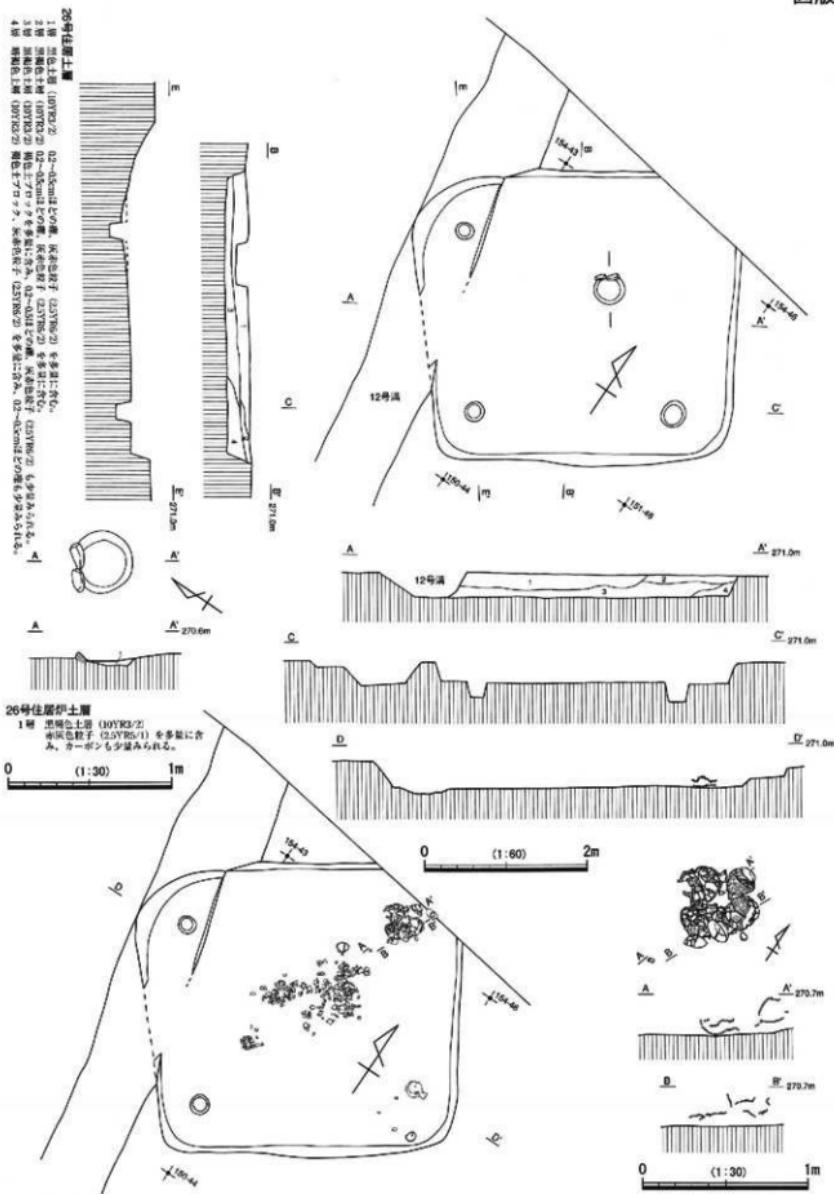


24号竖穴住居遺物分布図（2）



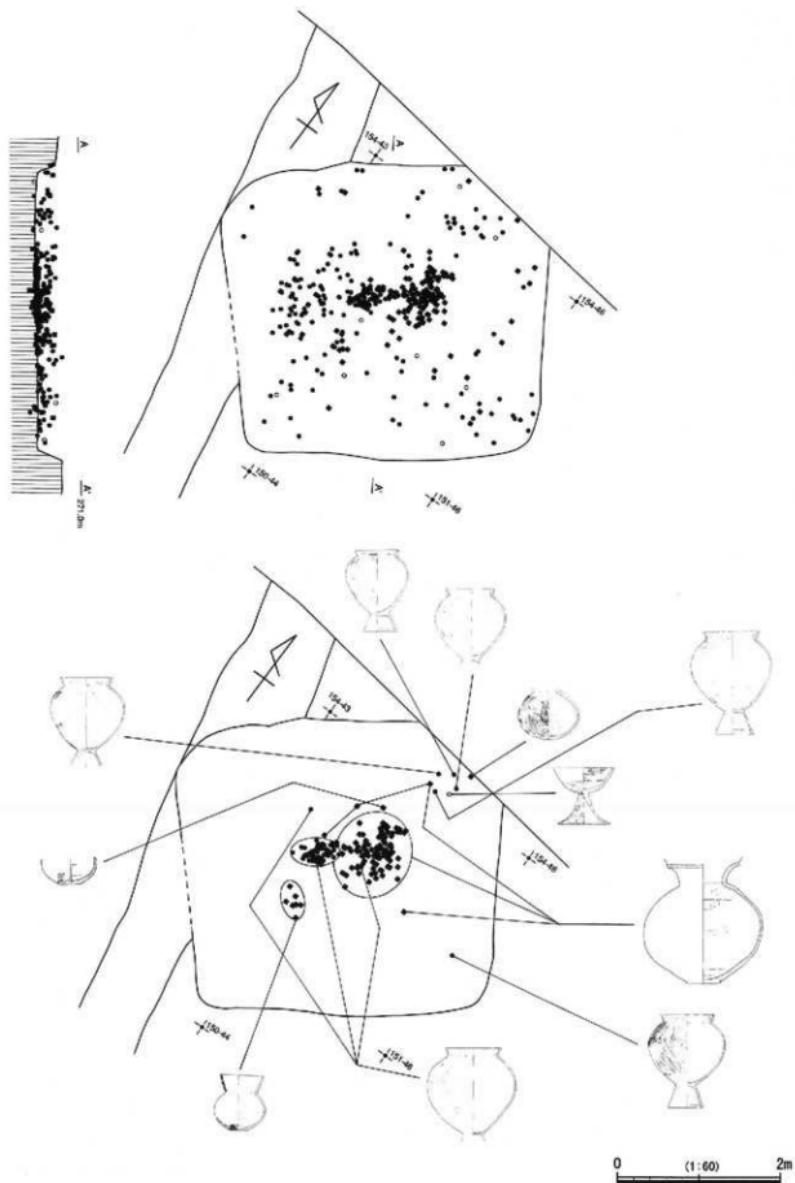


25号竖穴住居遺物分布図（2）

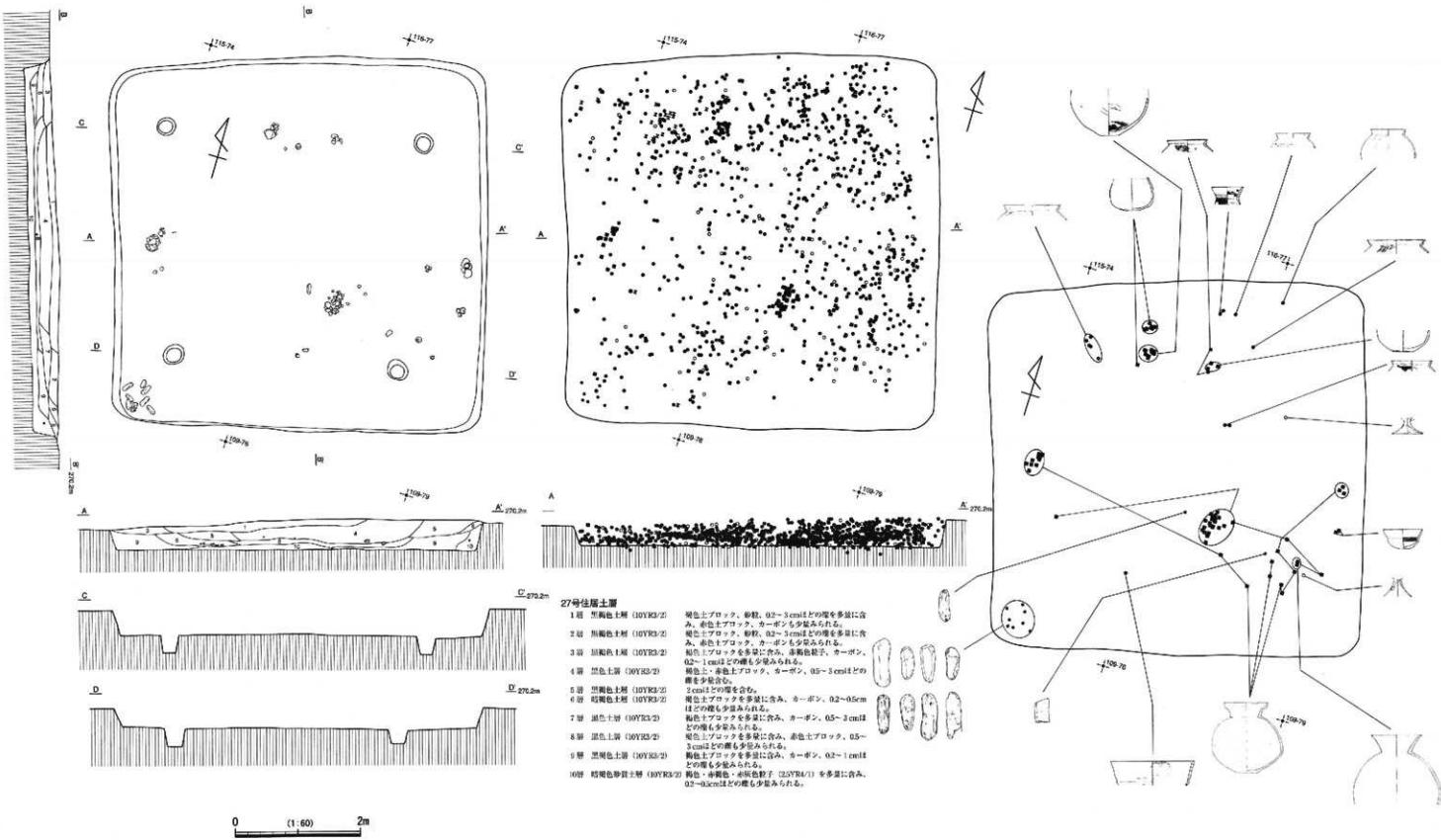


### 26号竪穴住居・炉平面図、遺物分布図（1）

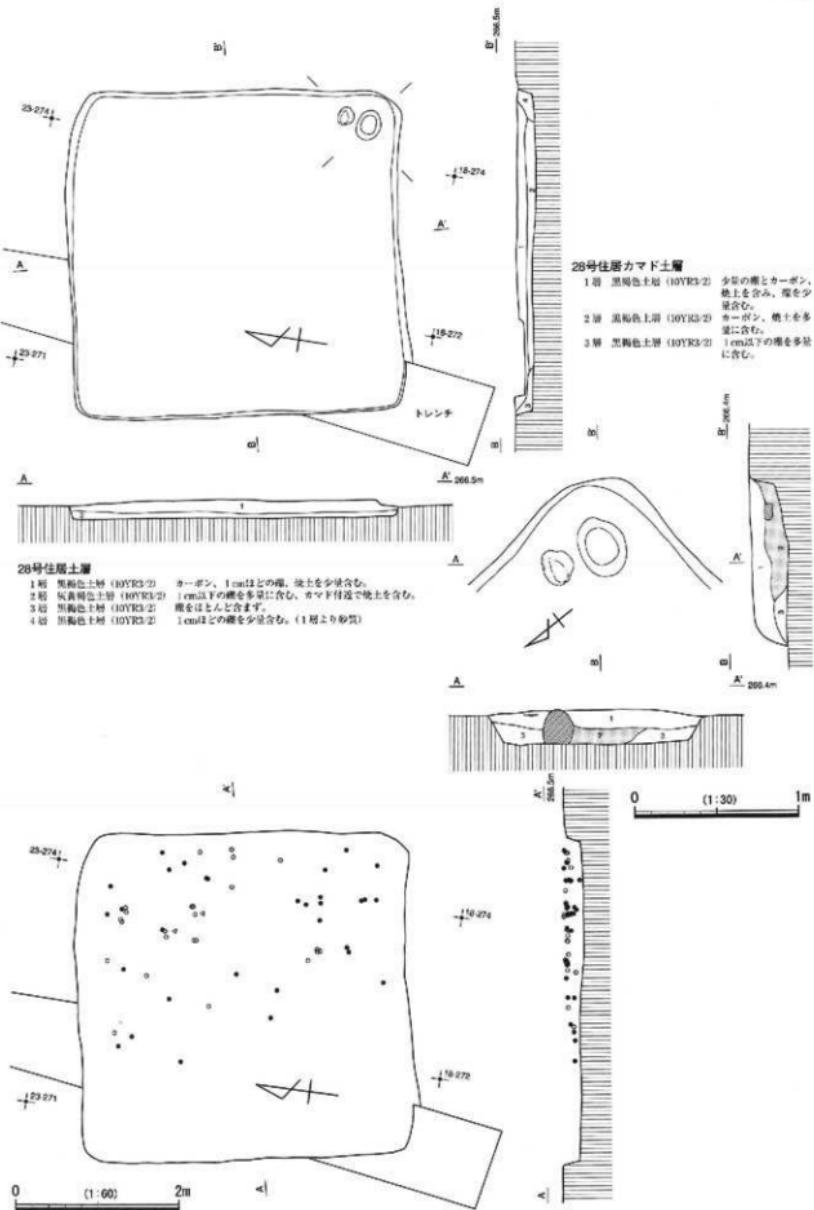
図版41



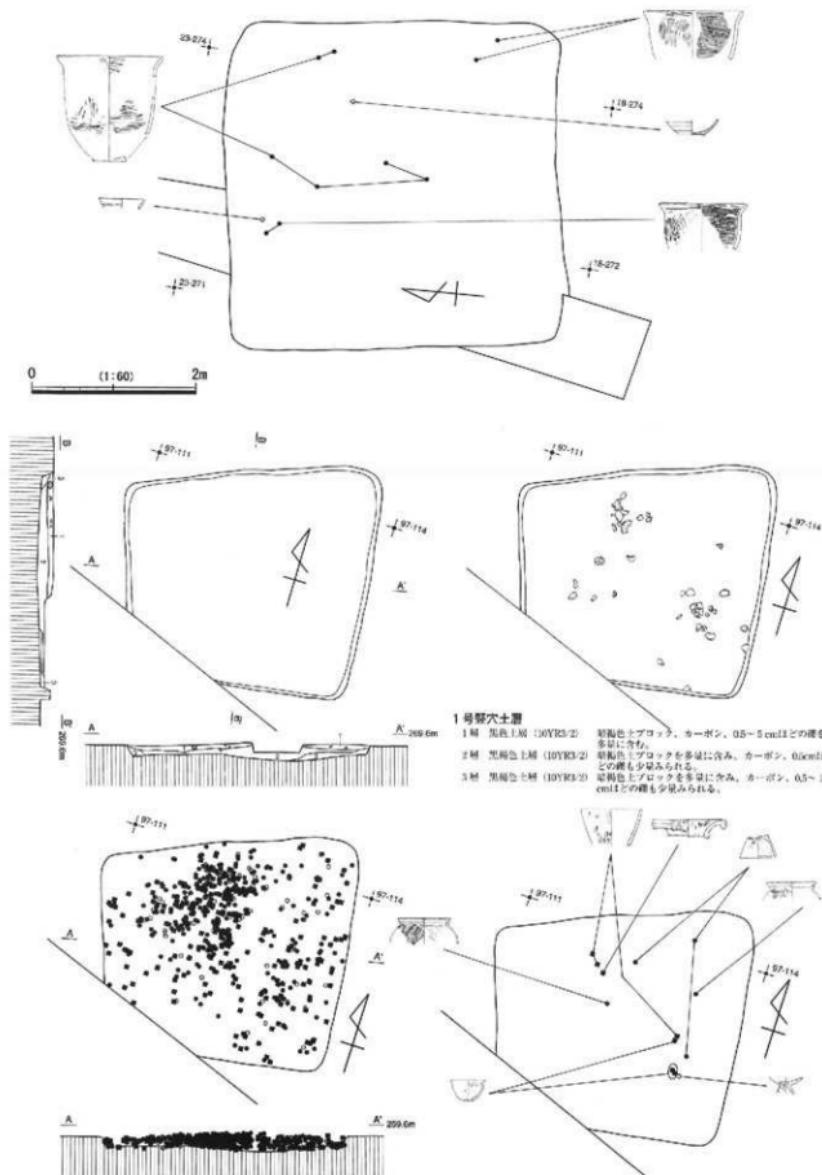
26号竖穴住居遺物分布図（2）



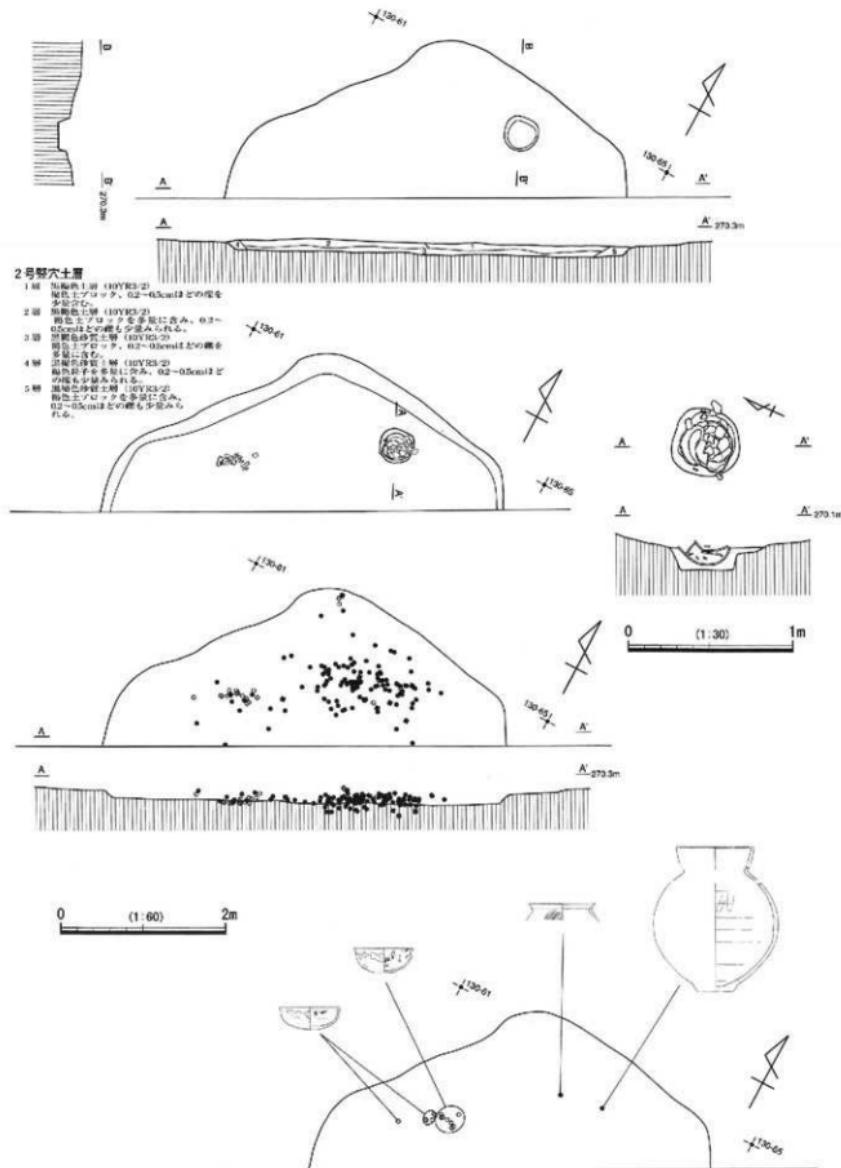
27号竪穴住居平面・遺物分布図



図版44

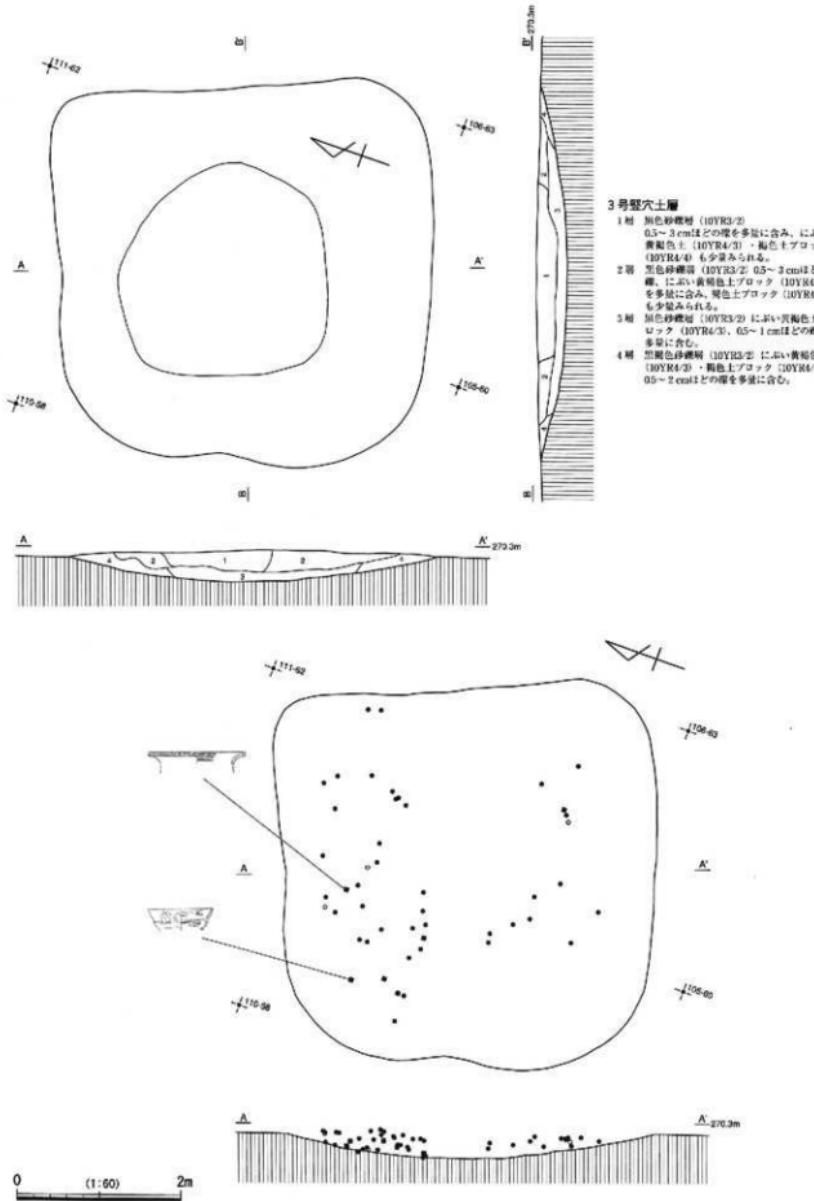


28号竪穴住居遺物分布図(2)、1号竪穴状遺構平面・遺物分布図

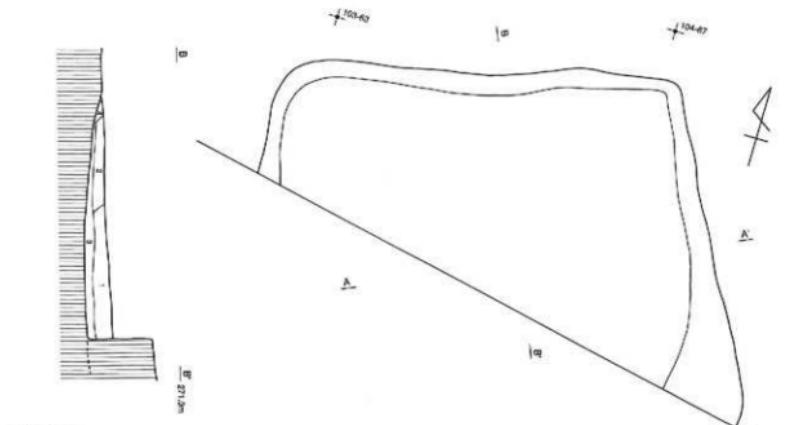


2号竖穴状遺構平面・遺物分布図

図版46

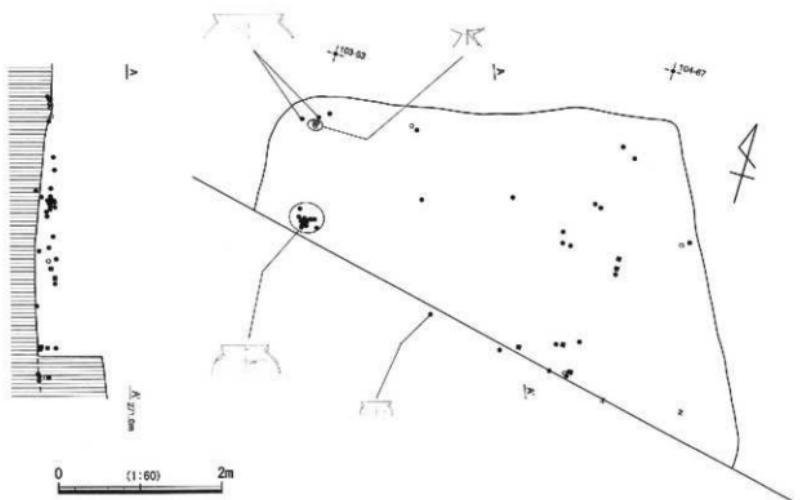


3号竖穴状遺構平面・遺物分布図



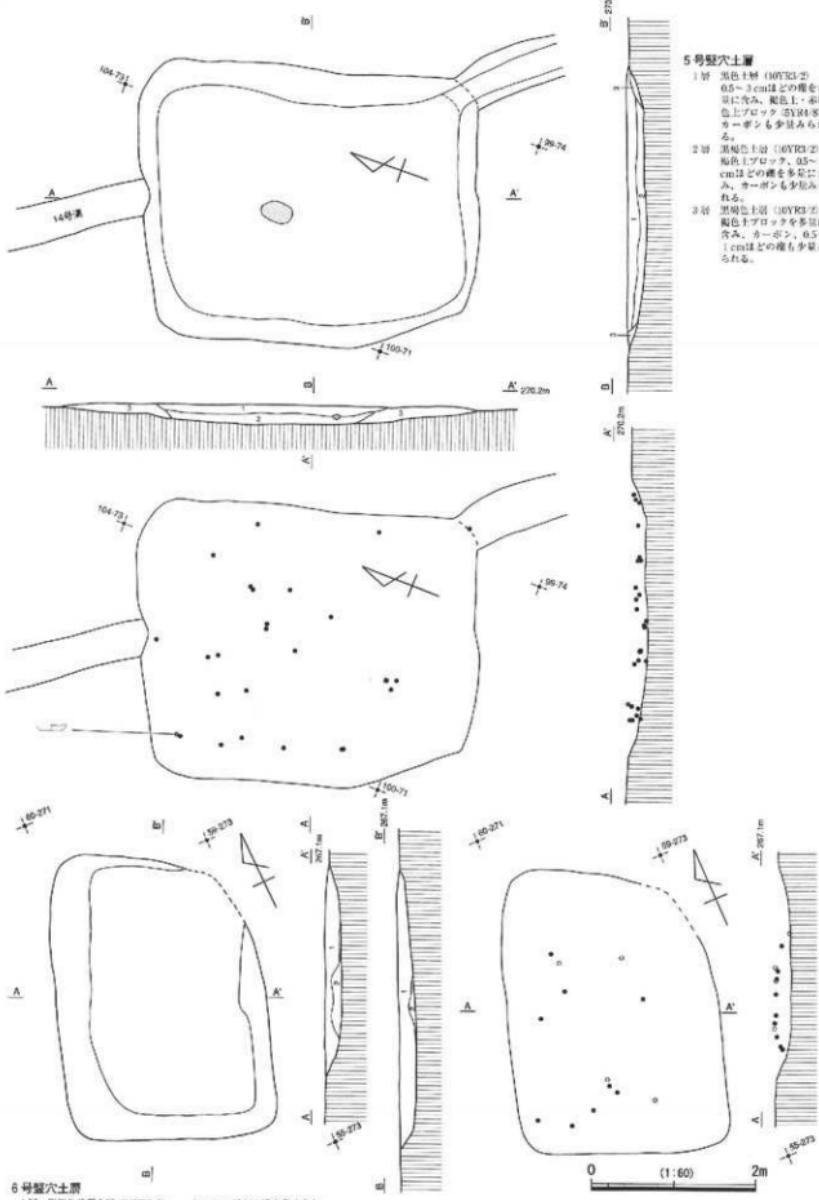
## 4号竖穴土层

- 1層 黒色砂質層 (10YR3/2) 0.5~2 cmほどの礫を多量に含み、褐色土アロカク、も少し見られる。
- 2層 黑褐色砂礫層 (10YR3/2) 褐色土アロカク、0.5~2 cmほどほどの礫を多量含む。
- 3層 黑色土層 (10YR3/2) 褐色土アロカク、0.5~2 cmほどほどの礫を多量含む。
- 4層 黑褐色土層 (10YR3/2) 褐色土アロカクを多量に含み、0.5~2 cmほどほどの礫も少しきらる。

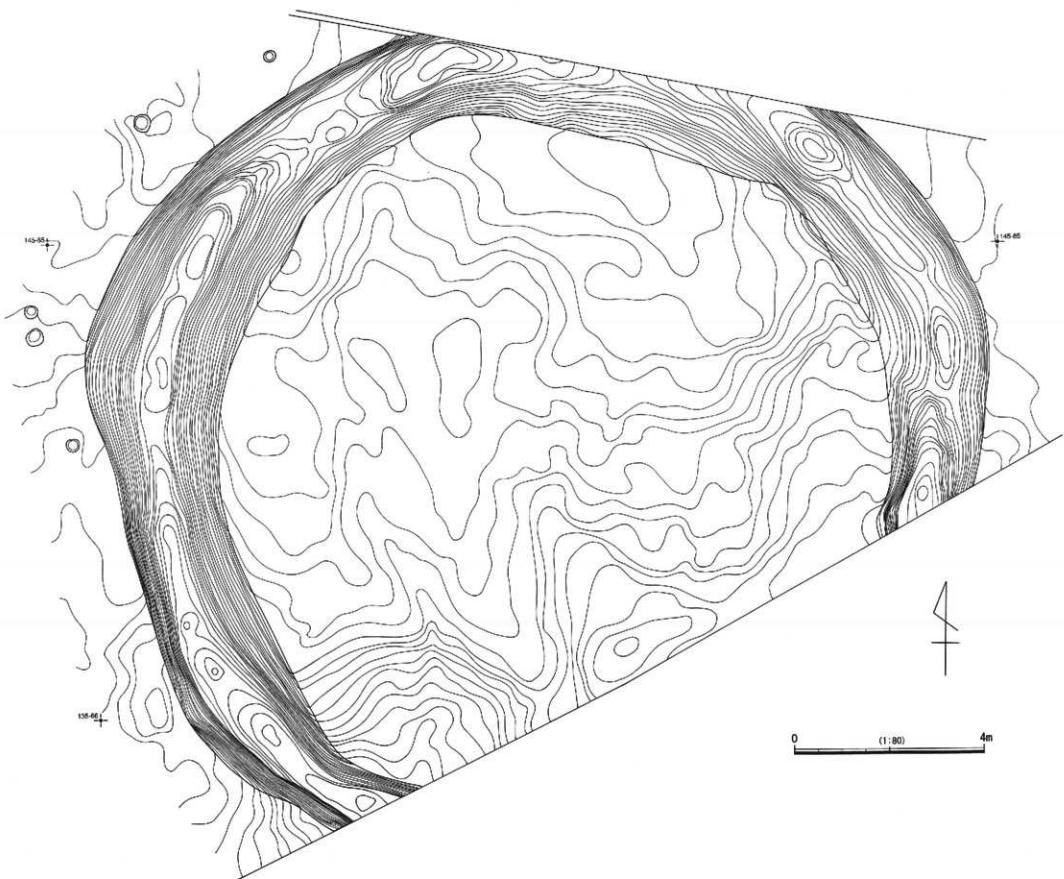


4号竖穴状墓平面・遺物分布図

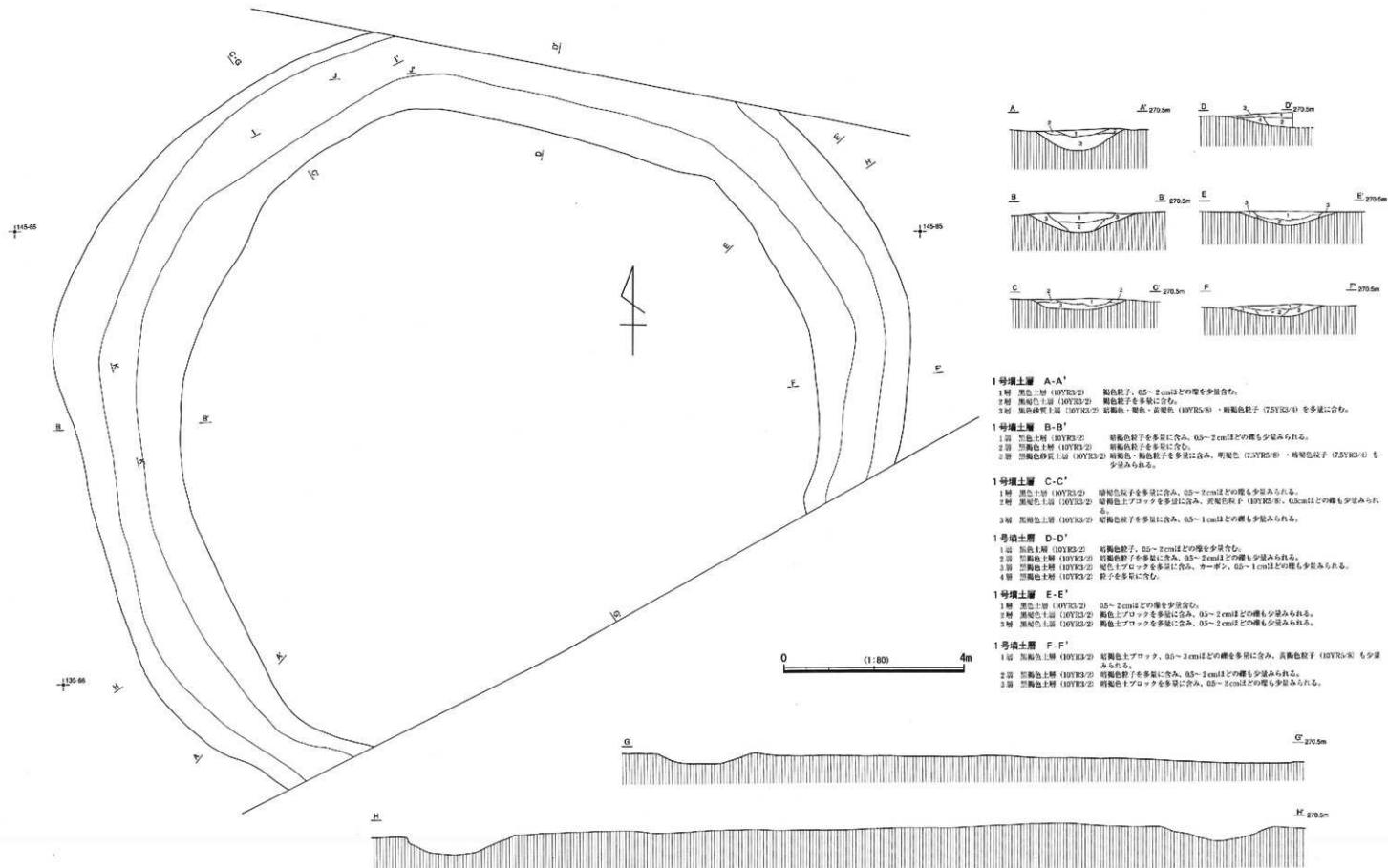
図版48

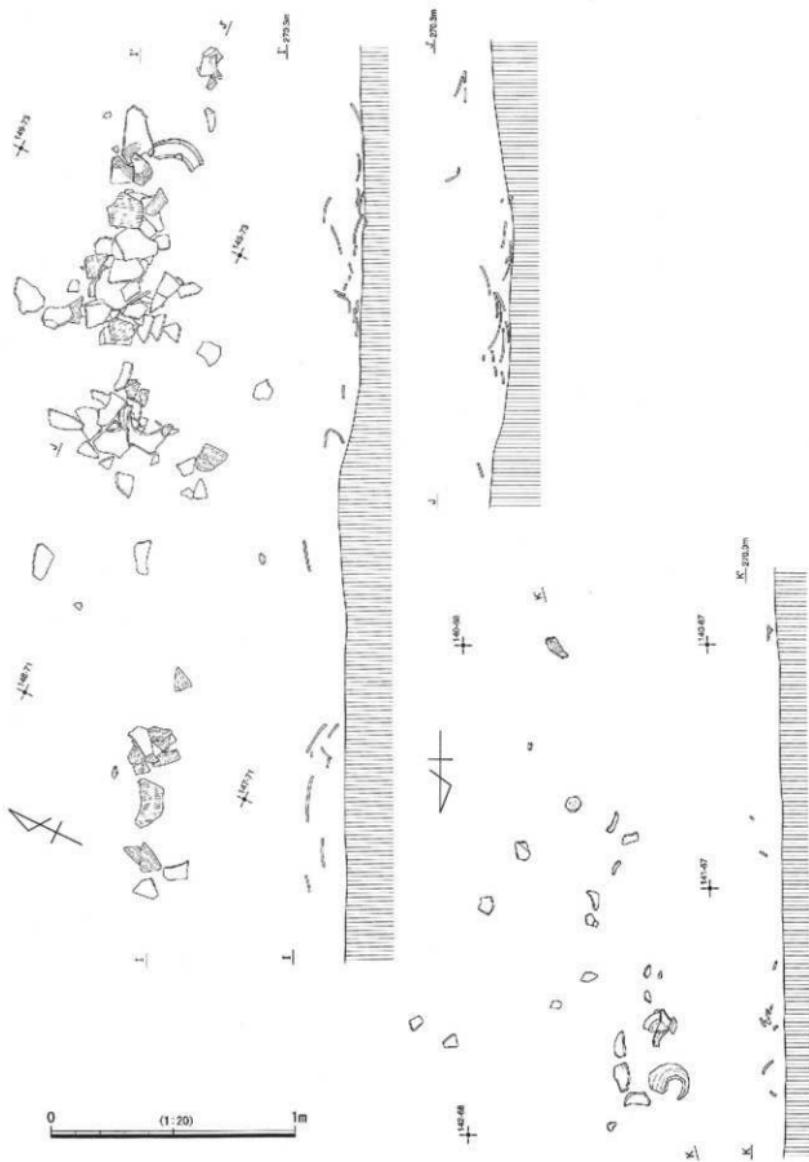


5号竖穴状遺構平面・遺物分布図、6号竖穴状遺構平面・遺物分布図



1号墳平面図 (1)



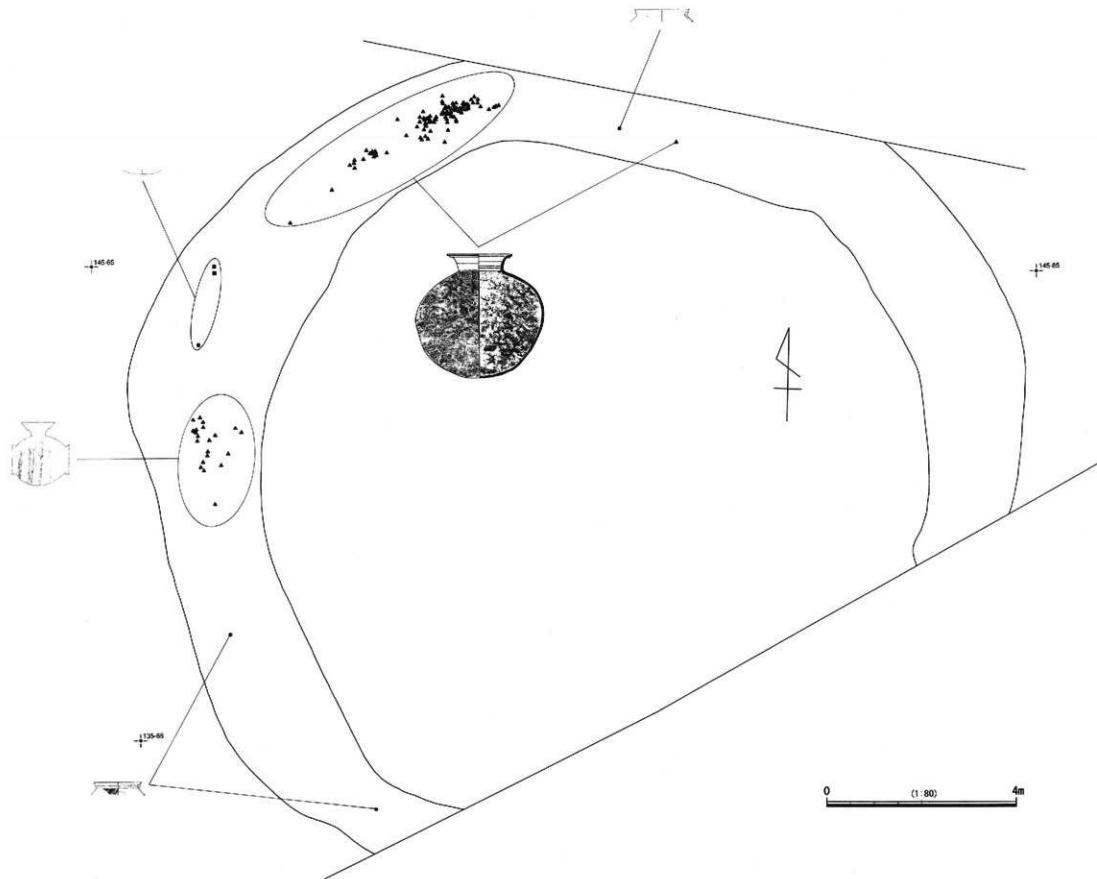


### 1号墳遺物微細図

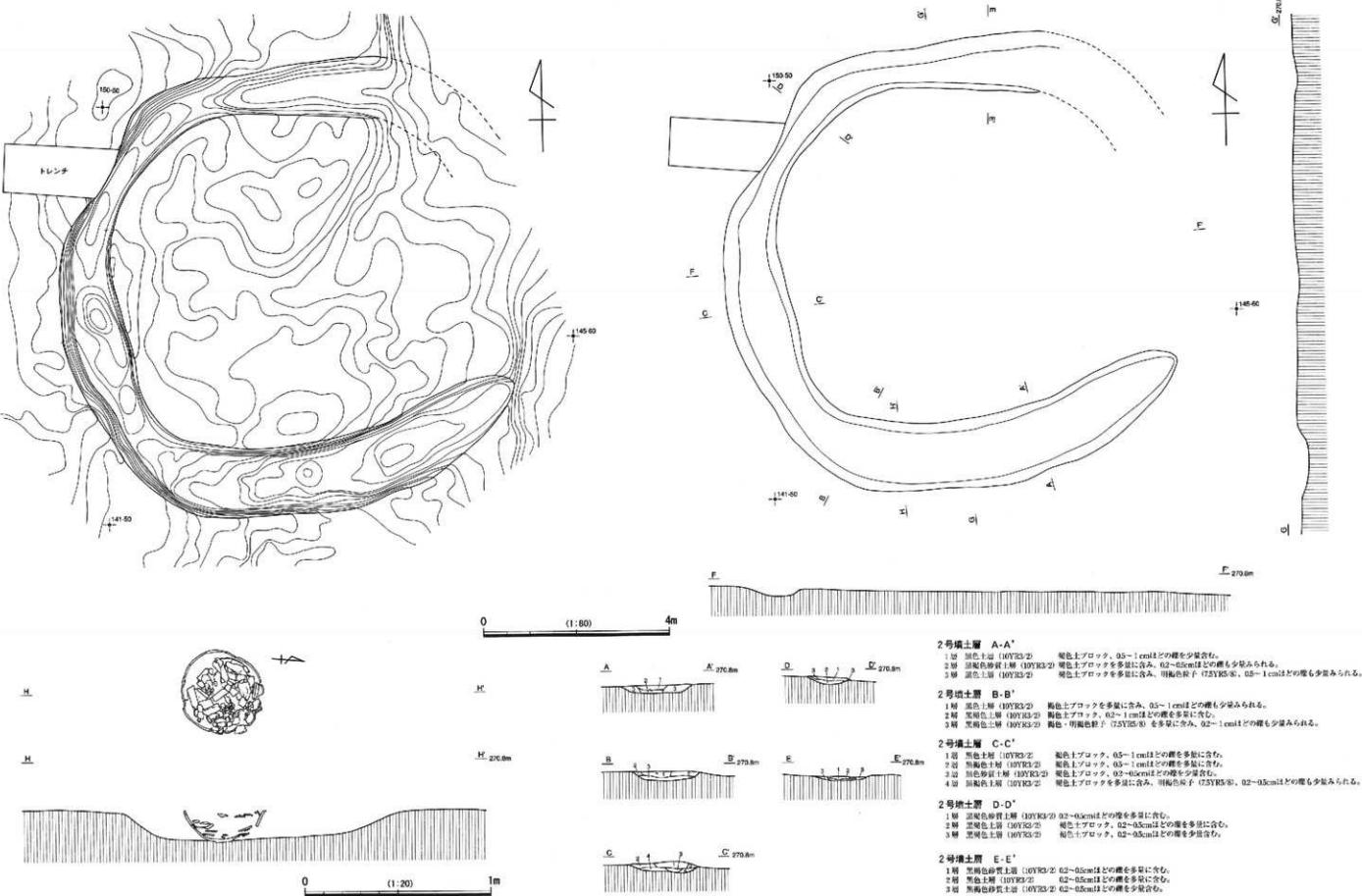




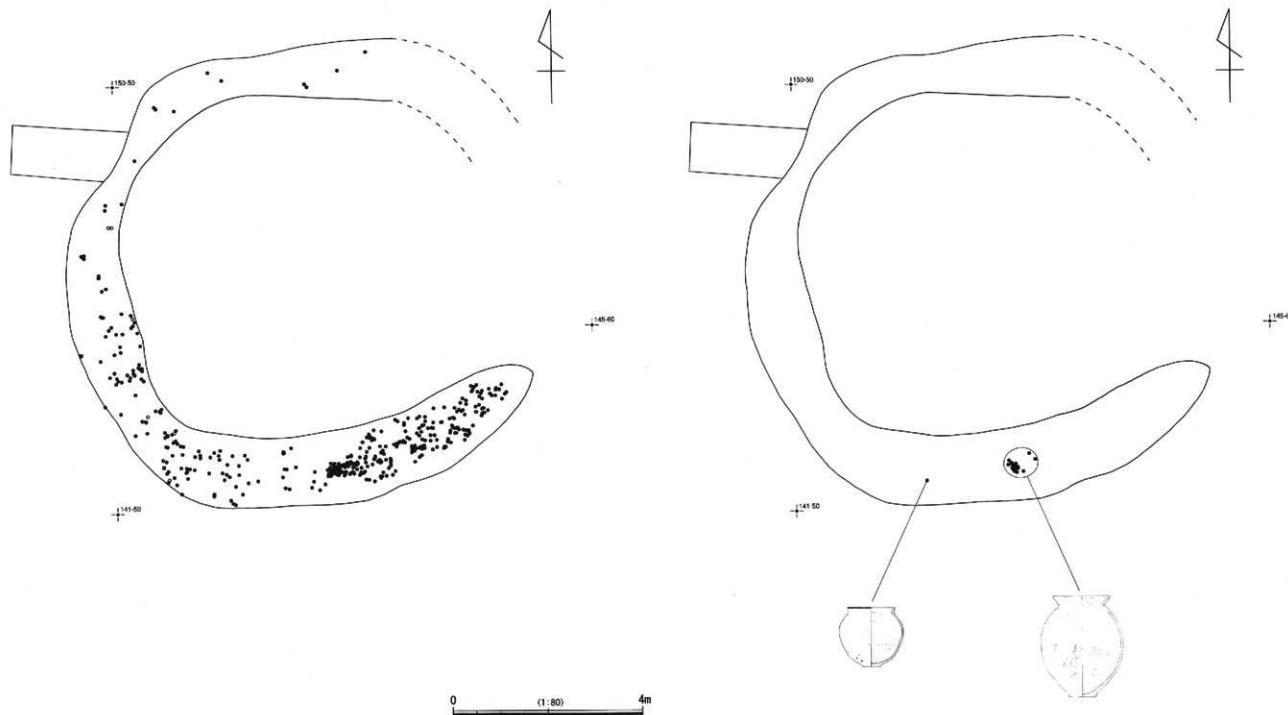
1号填遺物分布図（1）



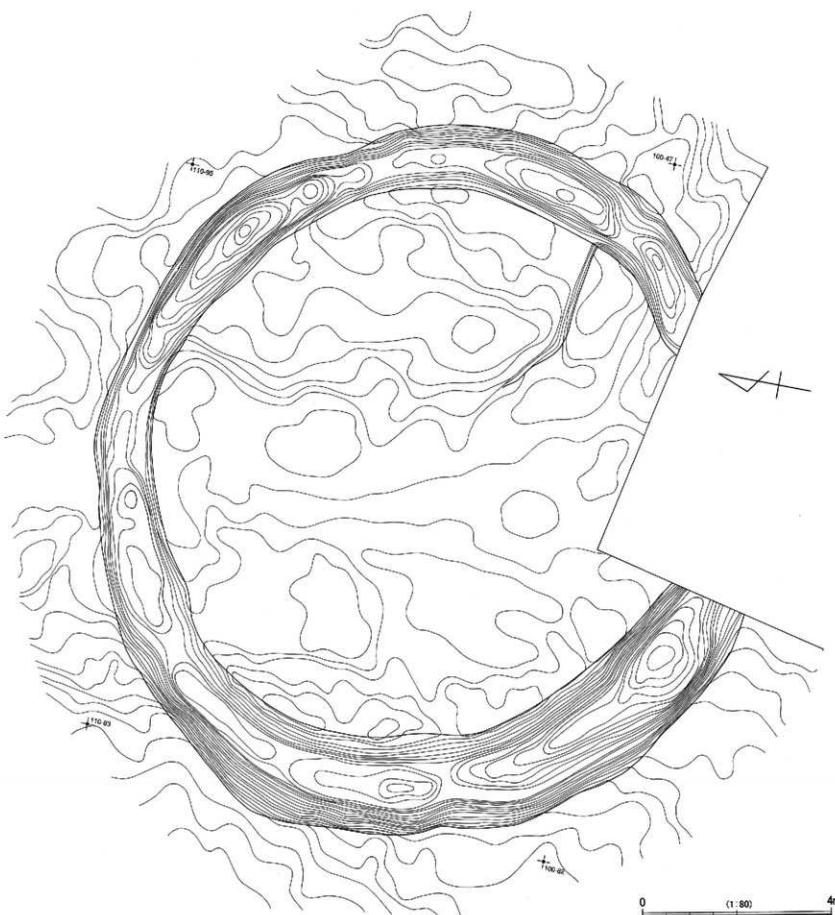
1号墳遺物分布図（2）



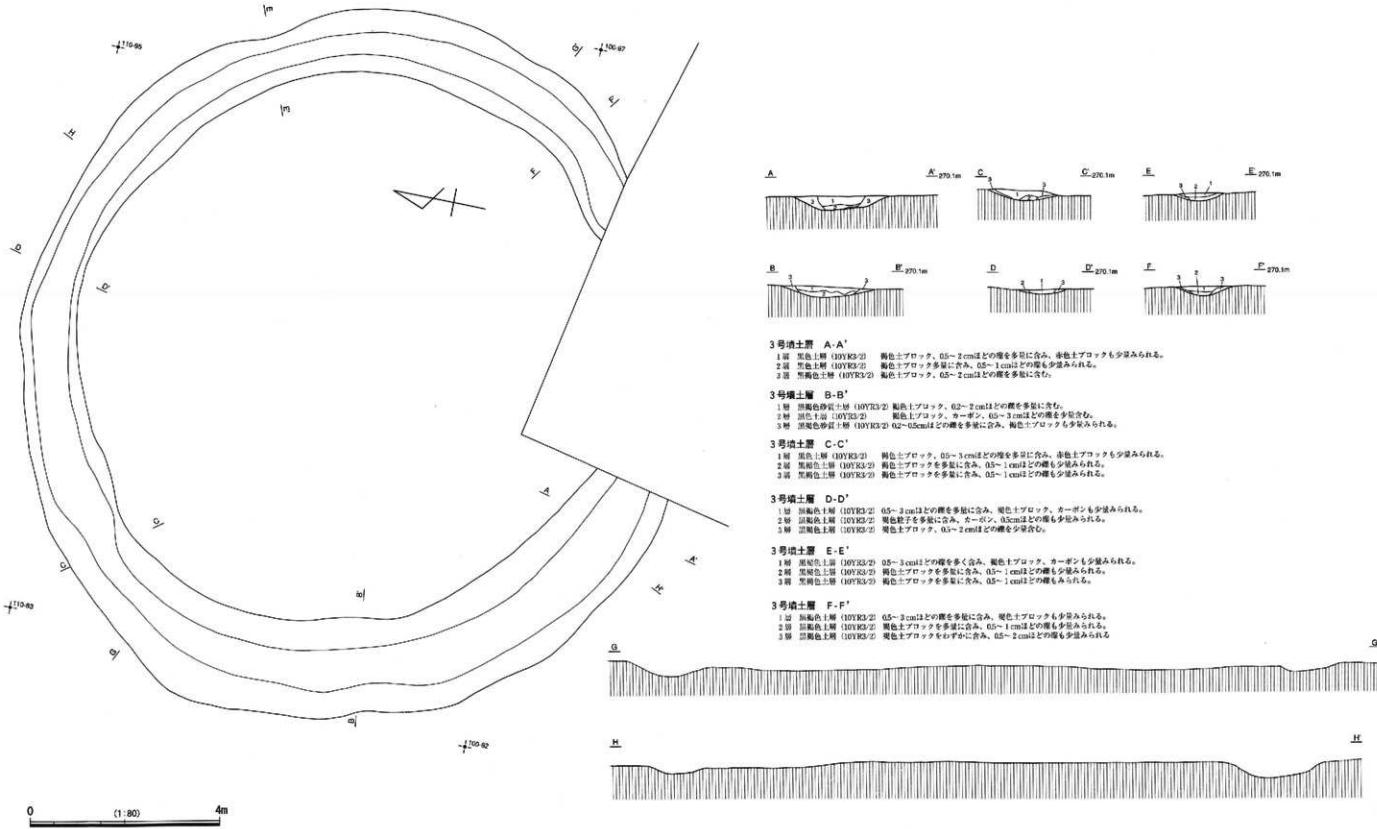
2号墳平面図

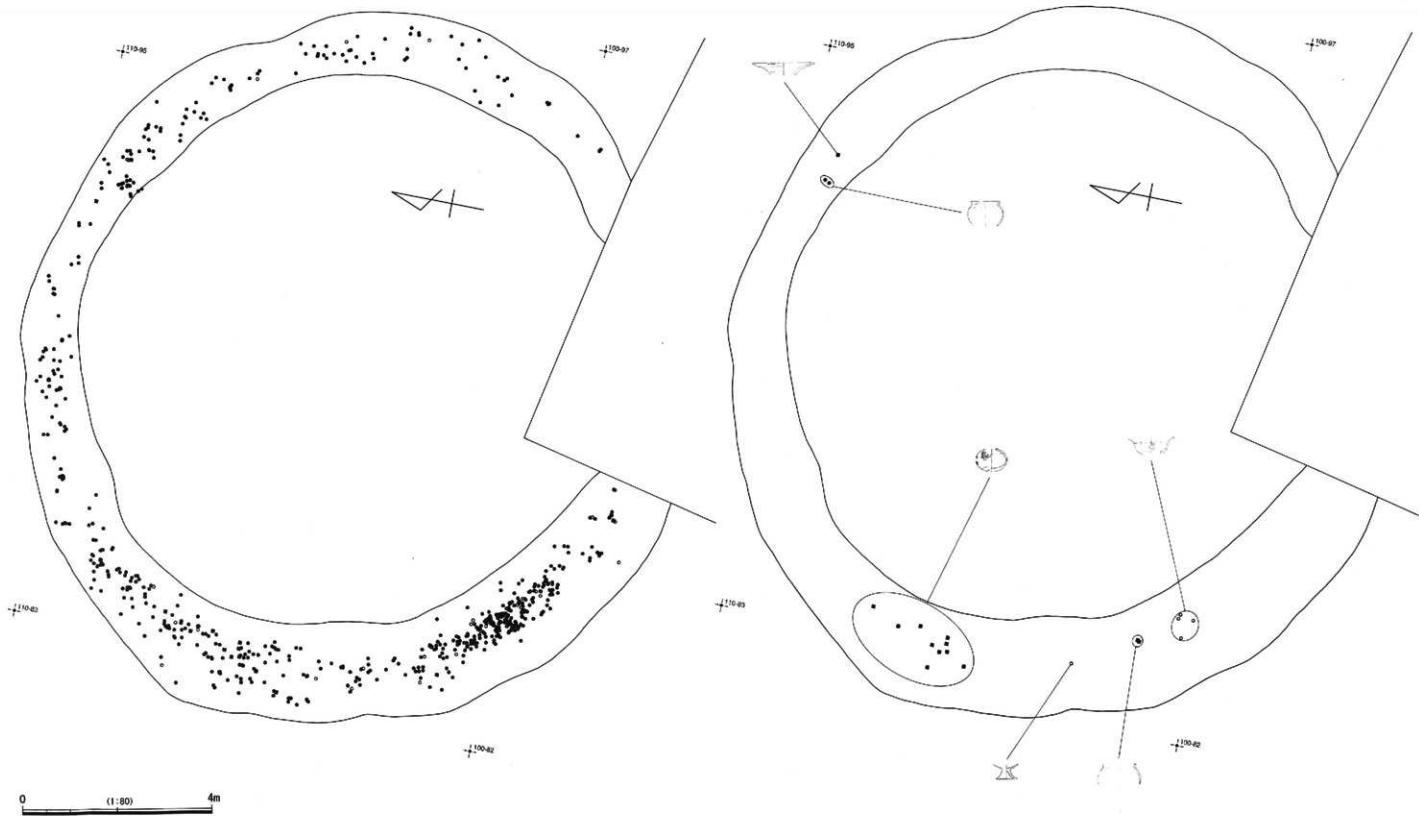


2号墳遺物分布図



3号填平面図（1）



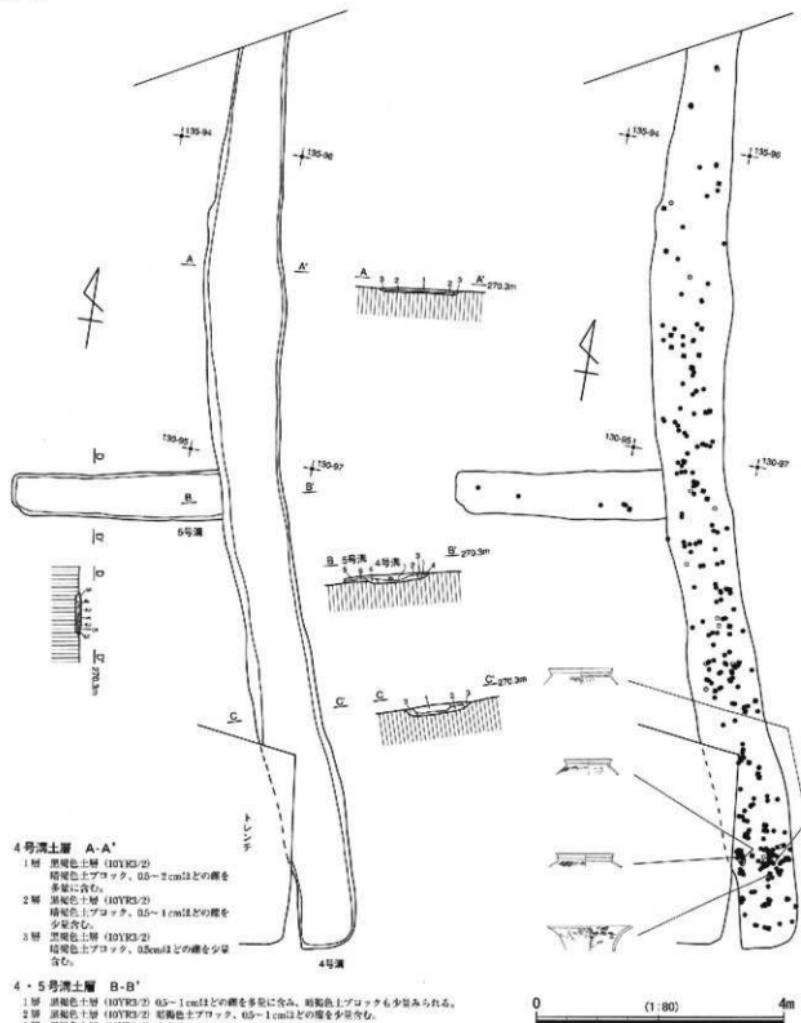


3号墳遺物分布図



1~3号溝平面・遺物分布図

図版60

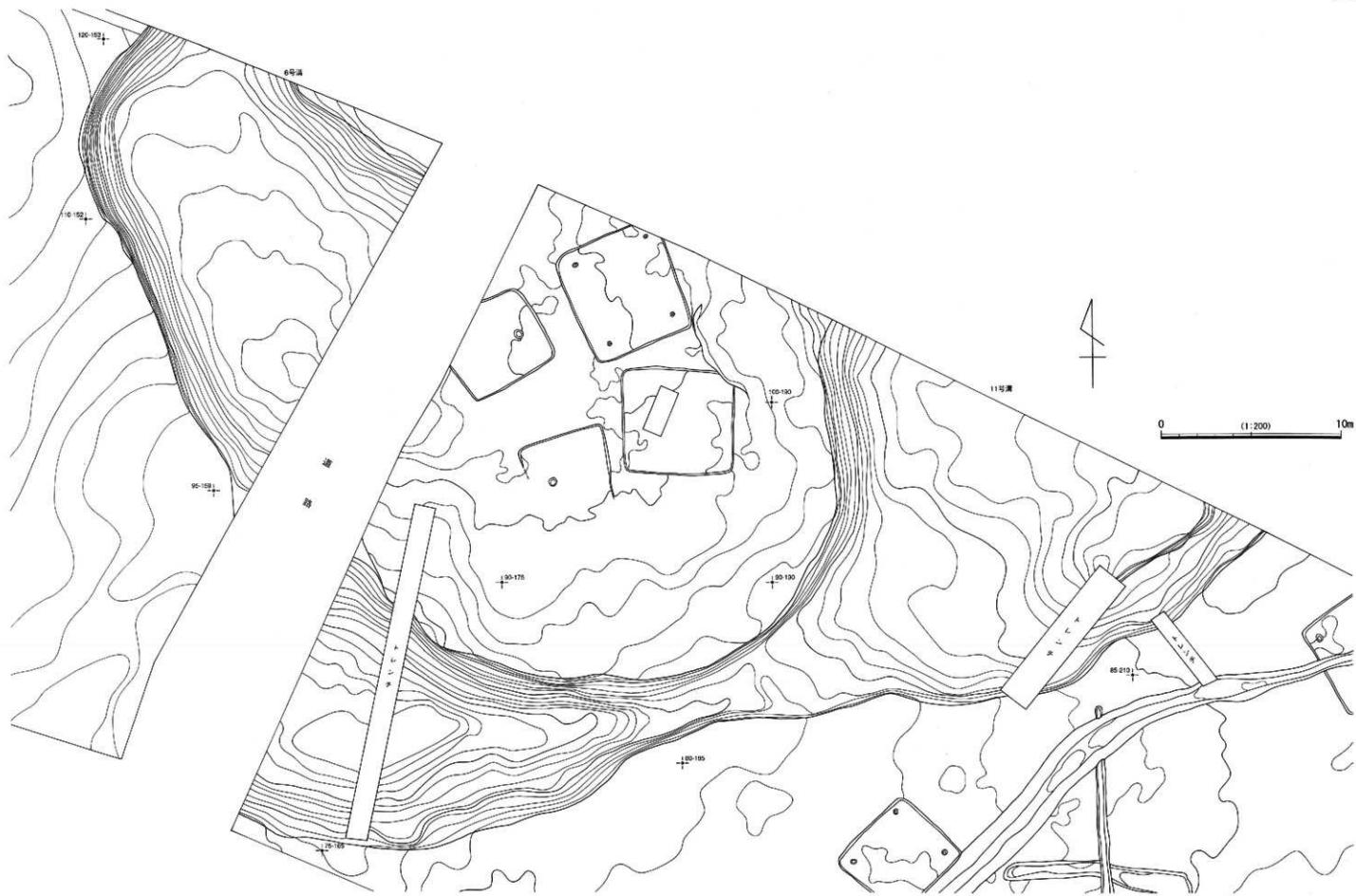
**4号溝土層 C-C'**

- 1層 黒褐色土層 (10YR3/2) 0.0~1cmほどの礫を多量に含み、硫酸色土ブロックも少量みられる。
- 2層 黒褐色土層 (10YR3/2) 硫酸色土ブロックを多量に含み、0.0cmほどの礫を少量みられる。
- 3層 黒褐色土層 (10YR3/2) 硫酸色土ブロックを多量に含み、0.0cmほどの礫を少量みられる。

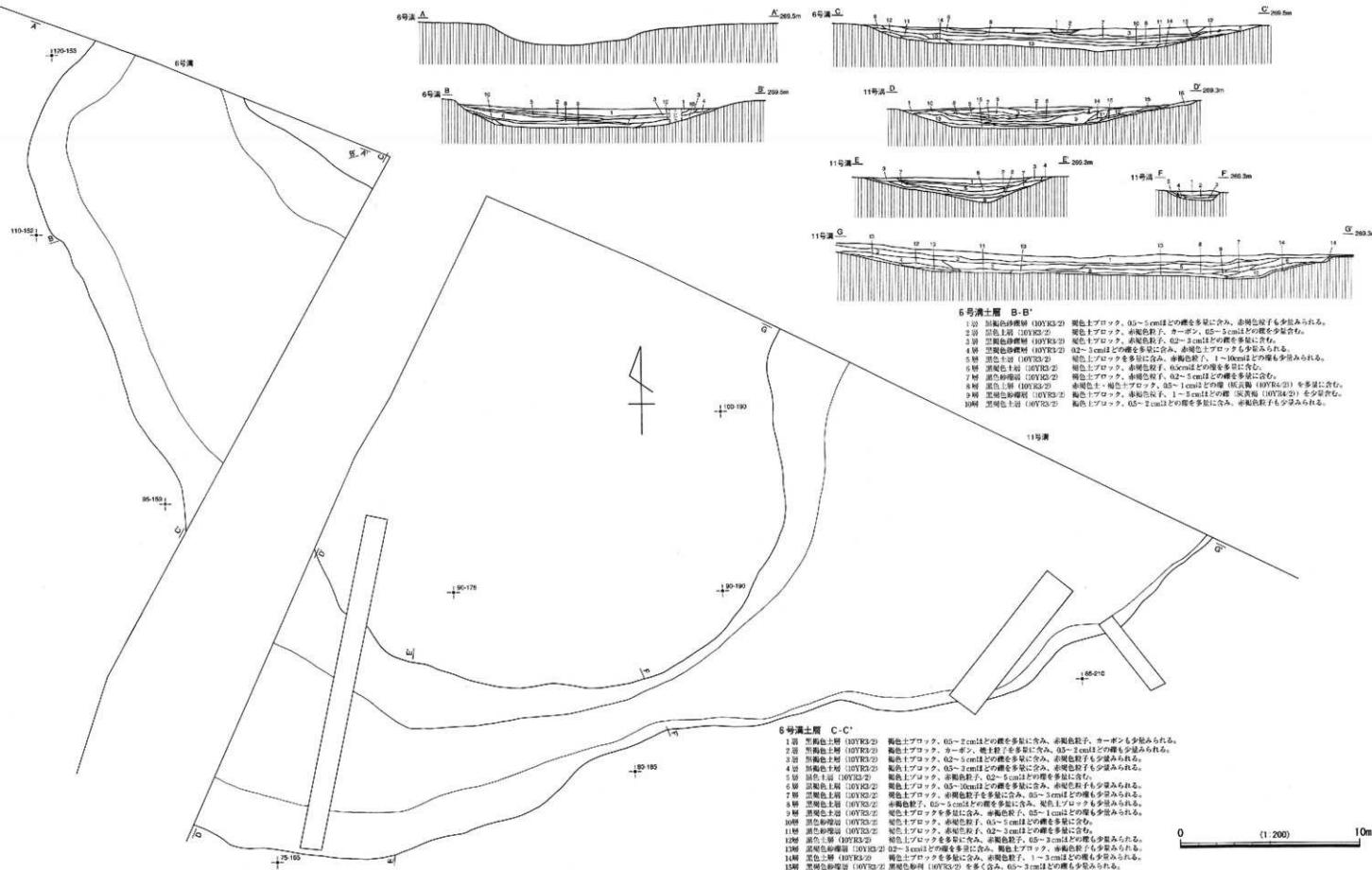
**5号溝土層 D-D'**

- 1層 黒褐色土層 (10YR3/2) 硫酸色土ブロック、0.0~1cmほどの礫を多量に含む。
- 2層 黒褐色土層 (10YR3/2) 硫酸色土ブロック、0.0~1cmほどの礫を多量に含む。
- 3層 黒褐色土層 (10YR3/2) 硫酸色土ブロック、0.0~1cmほどの礫を多量に含む。
- 4層 黒褐色土層 (10YR3/2) 硫酸色土ブロック、0.0cmほどの礫を少量含む。
- 5層 黑褐色土層 (10YR3/2) 硫酸色土ブロック、0.0cmほどの礫を少量含む。

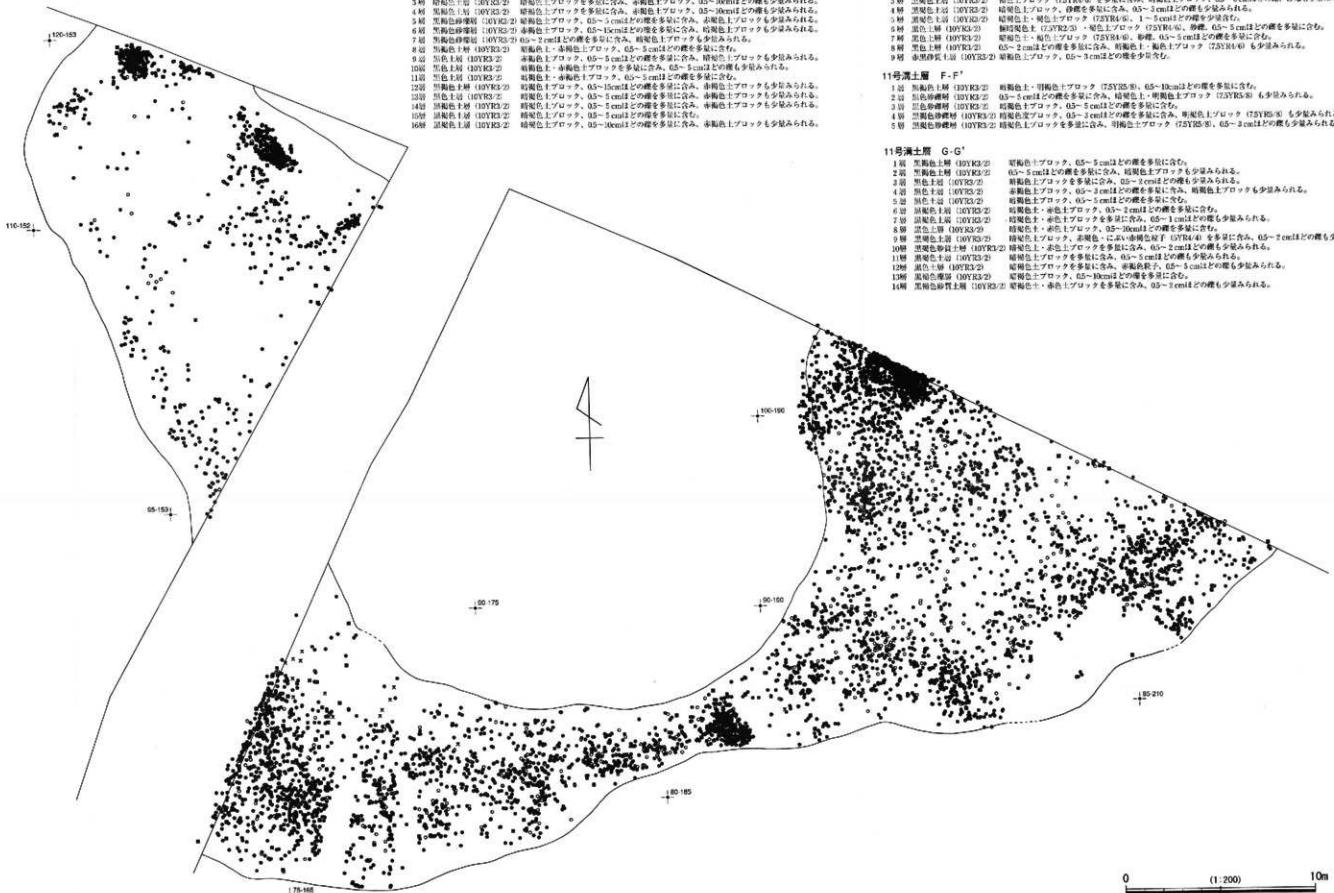
4・5号溝平面・遺物分布図



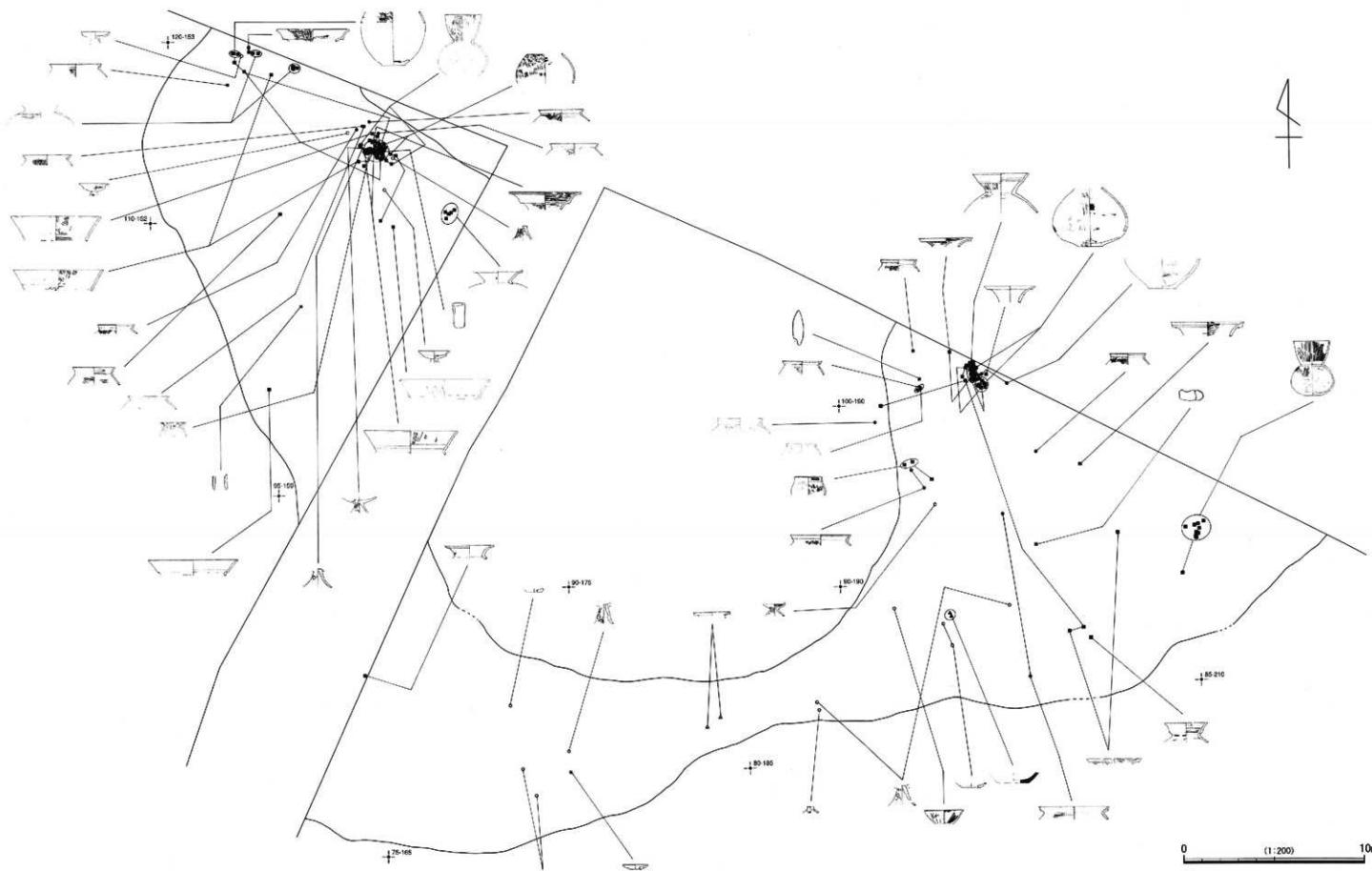
6・11号溝平面図(1)



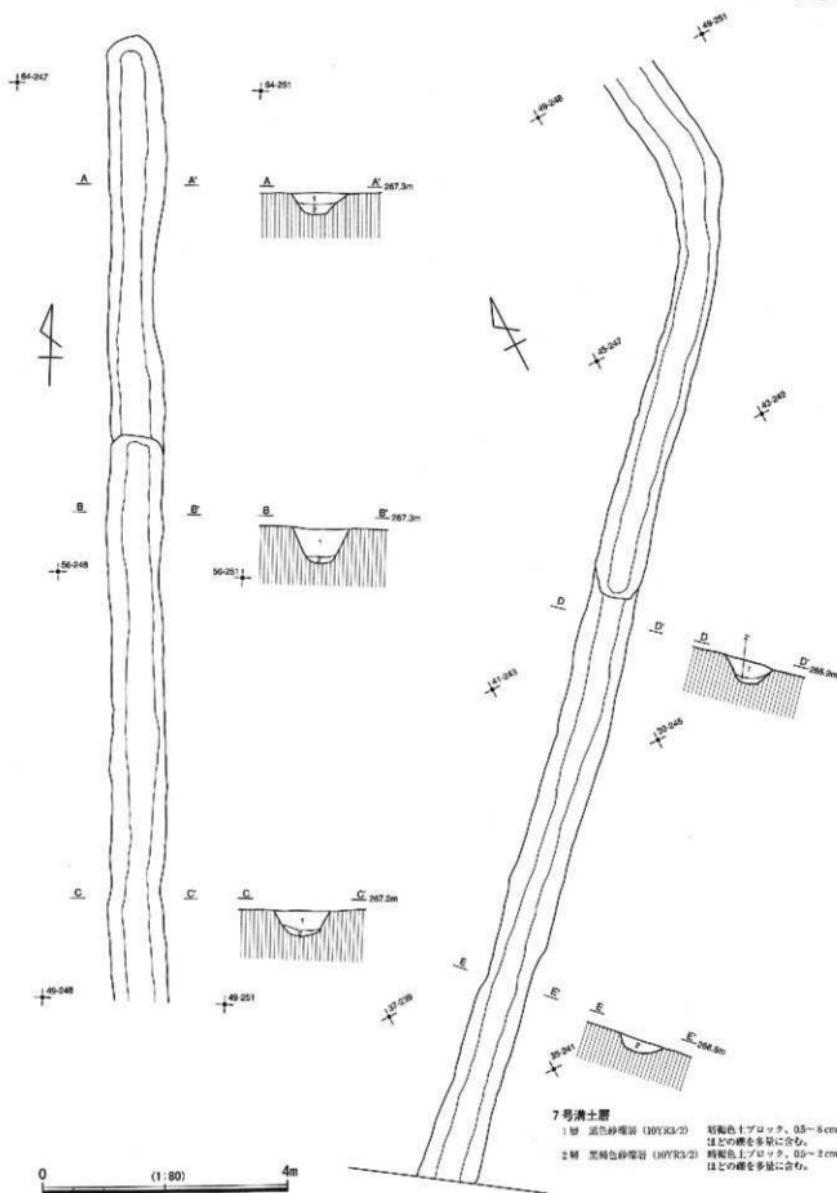
### 6・11号溝平面図(2)

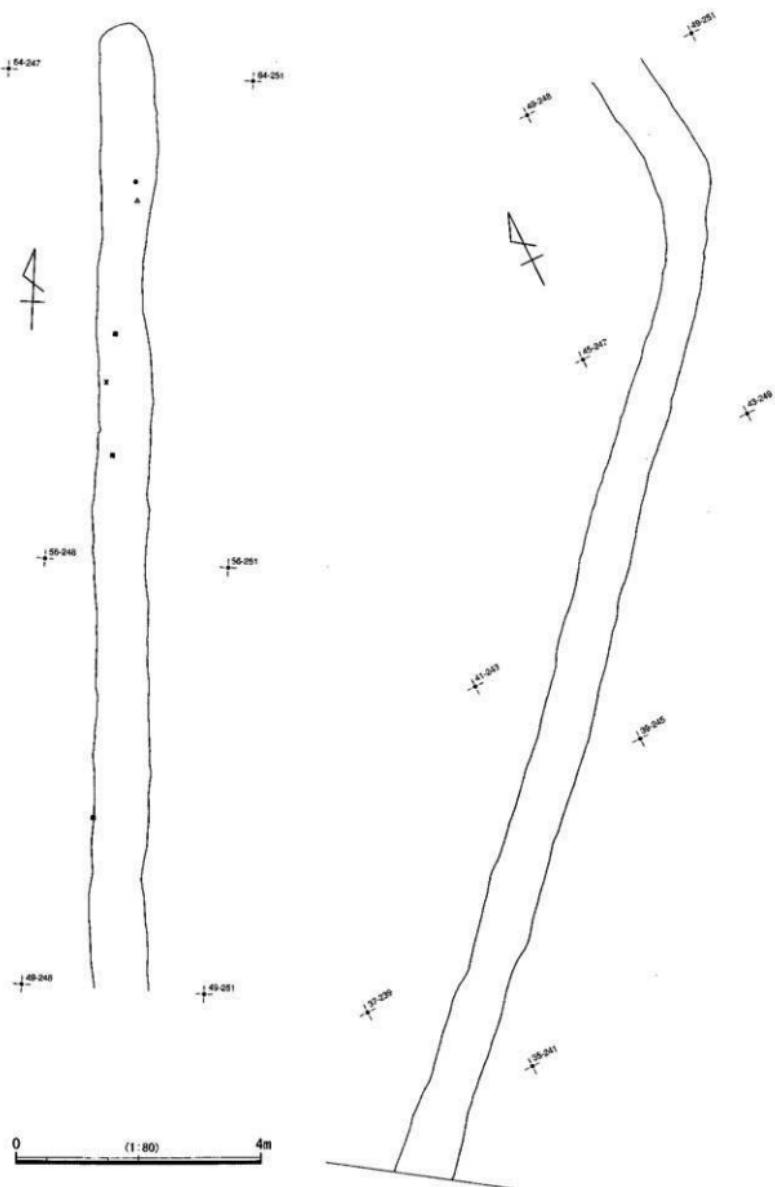


6・11号溝遺物分布図（1）

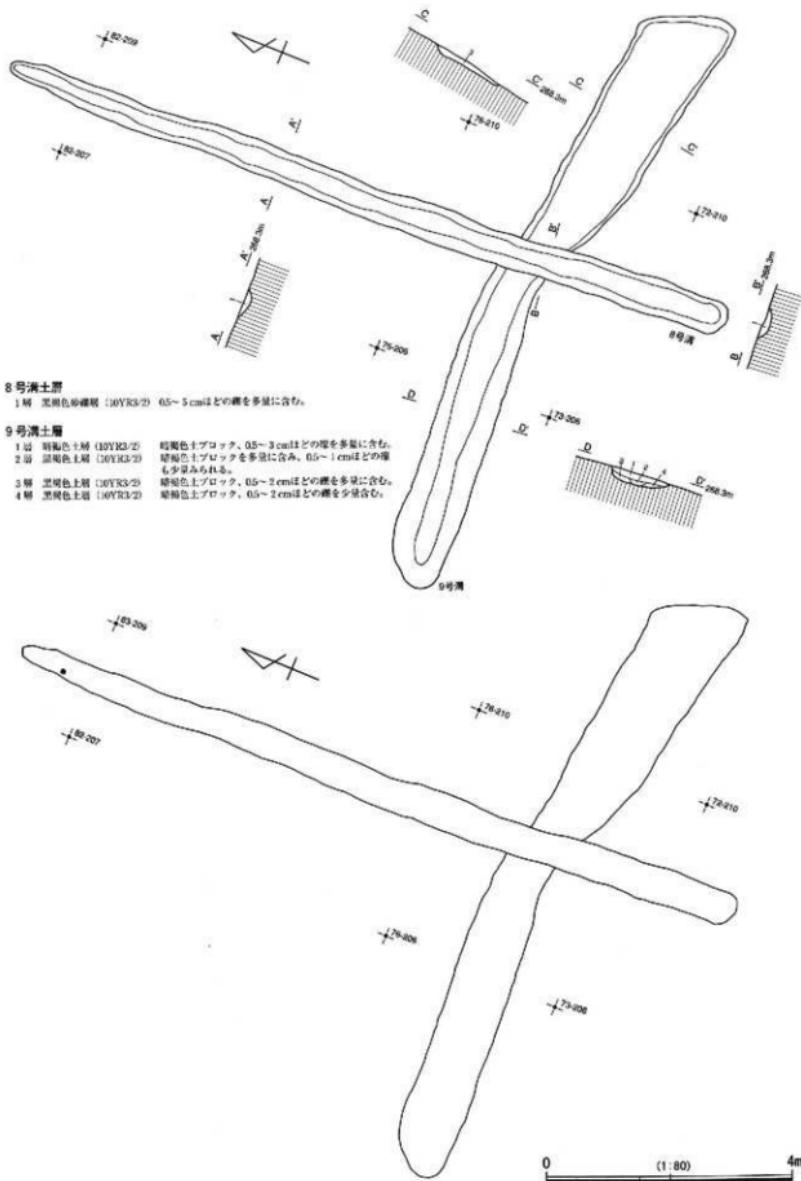


6・11号溝遺物分布図（2）



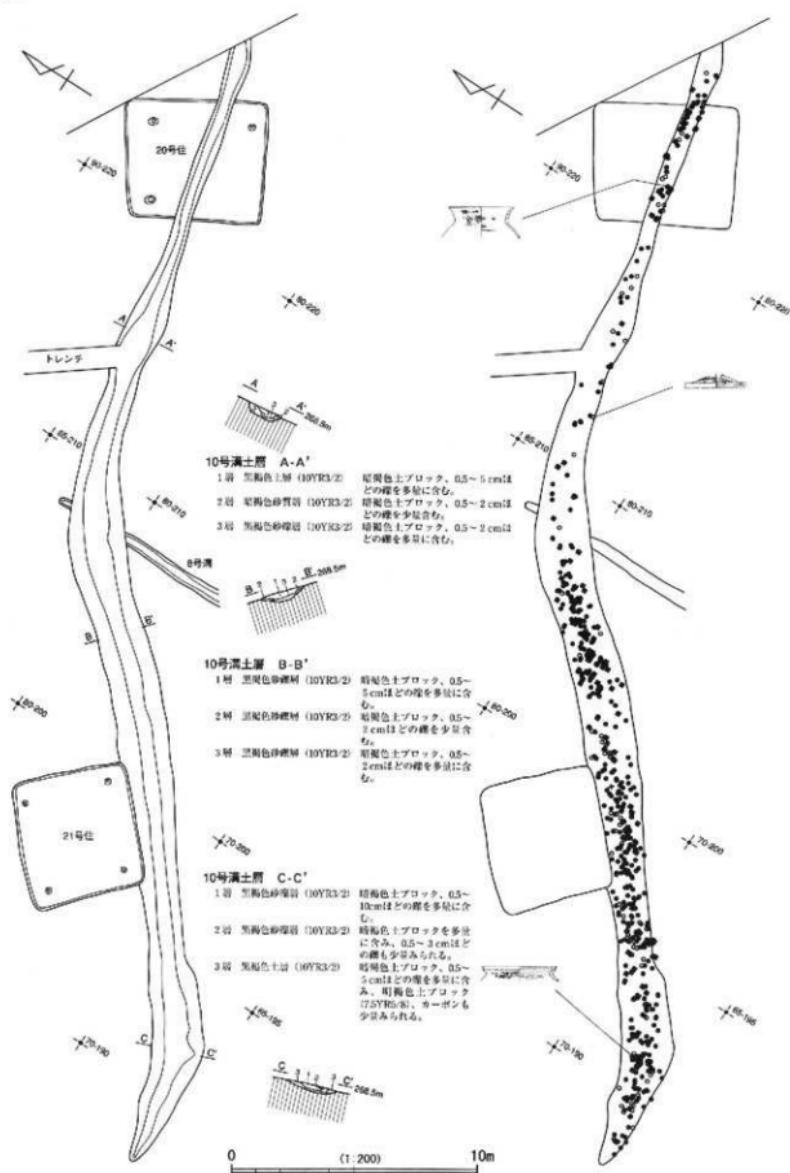


7号溝遺物分布図

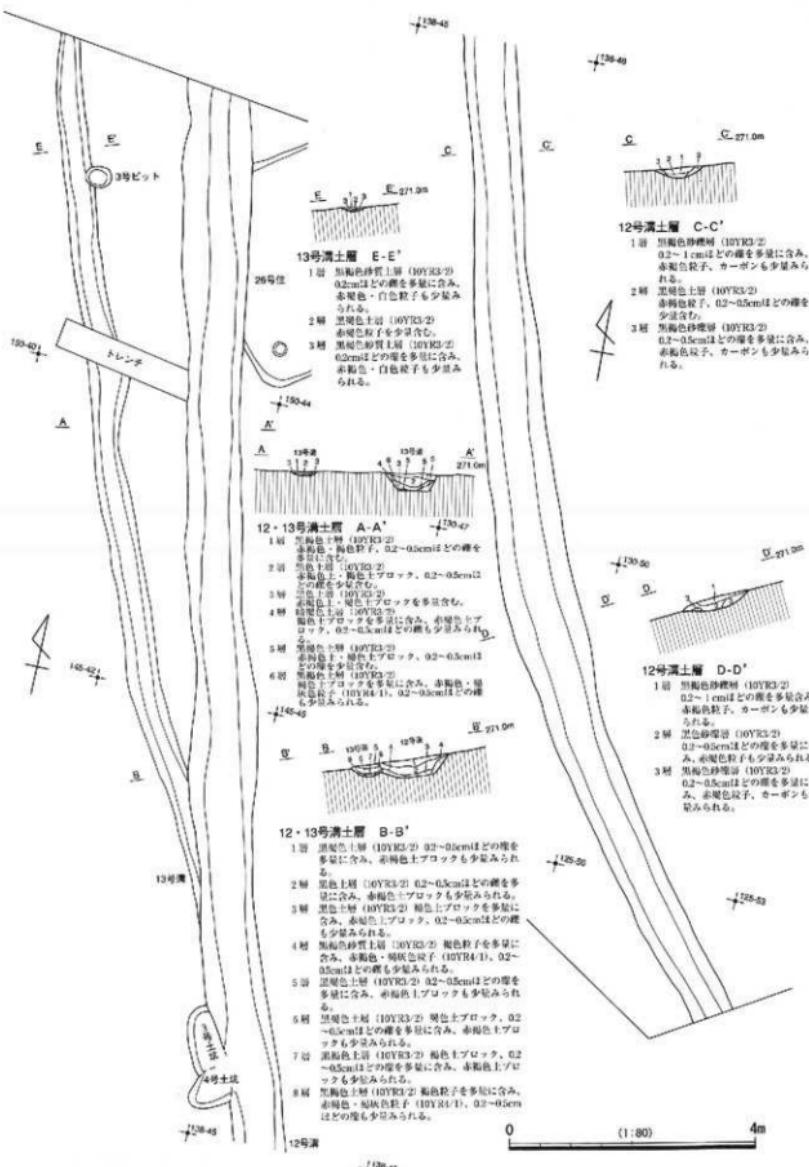


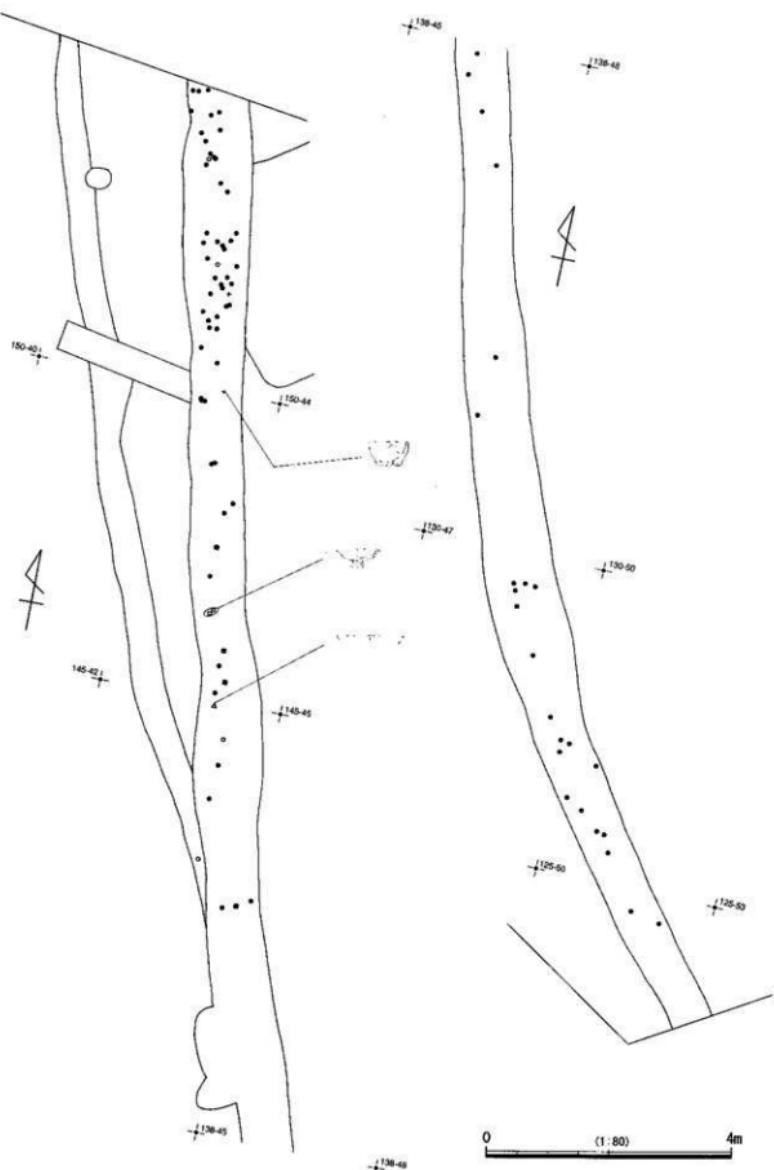
8・9号溝平面・遺物分布図

図版68

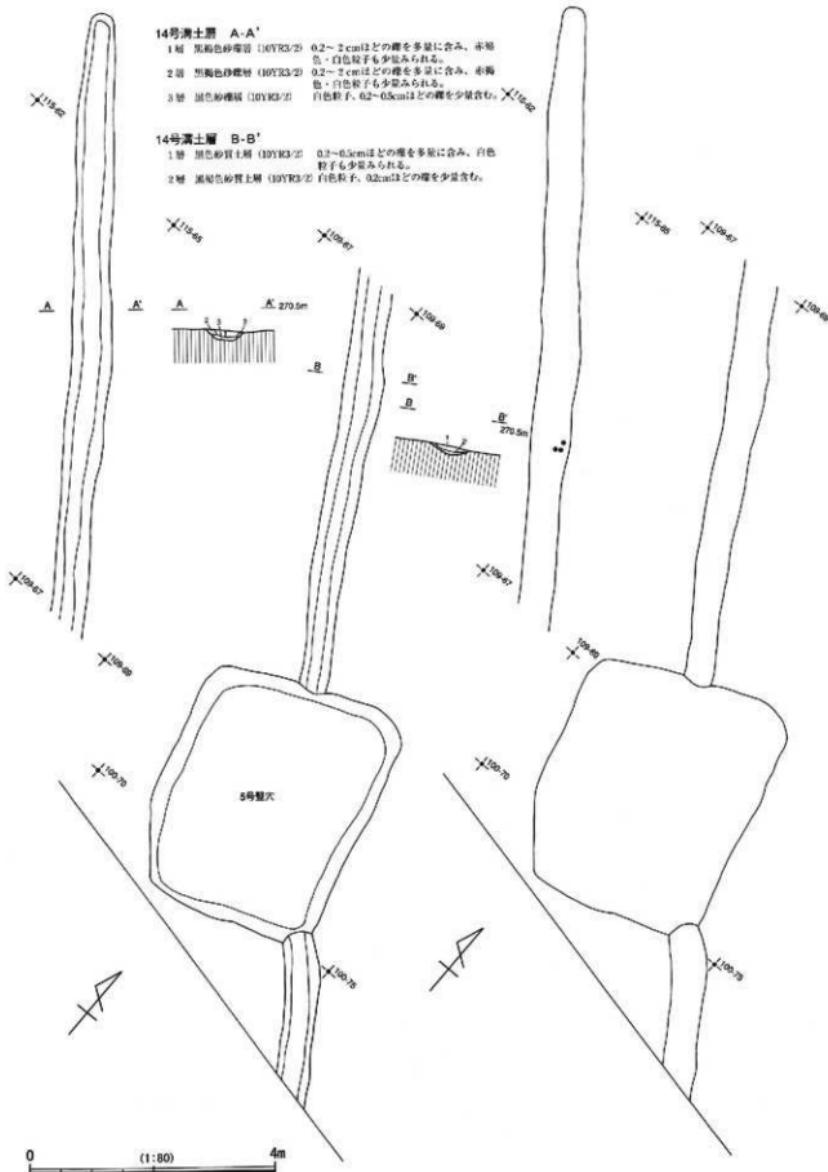


### 10号溝平面・遺物分布図



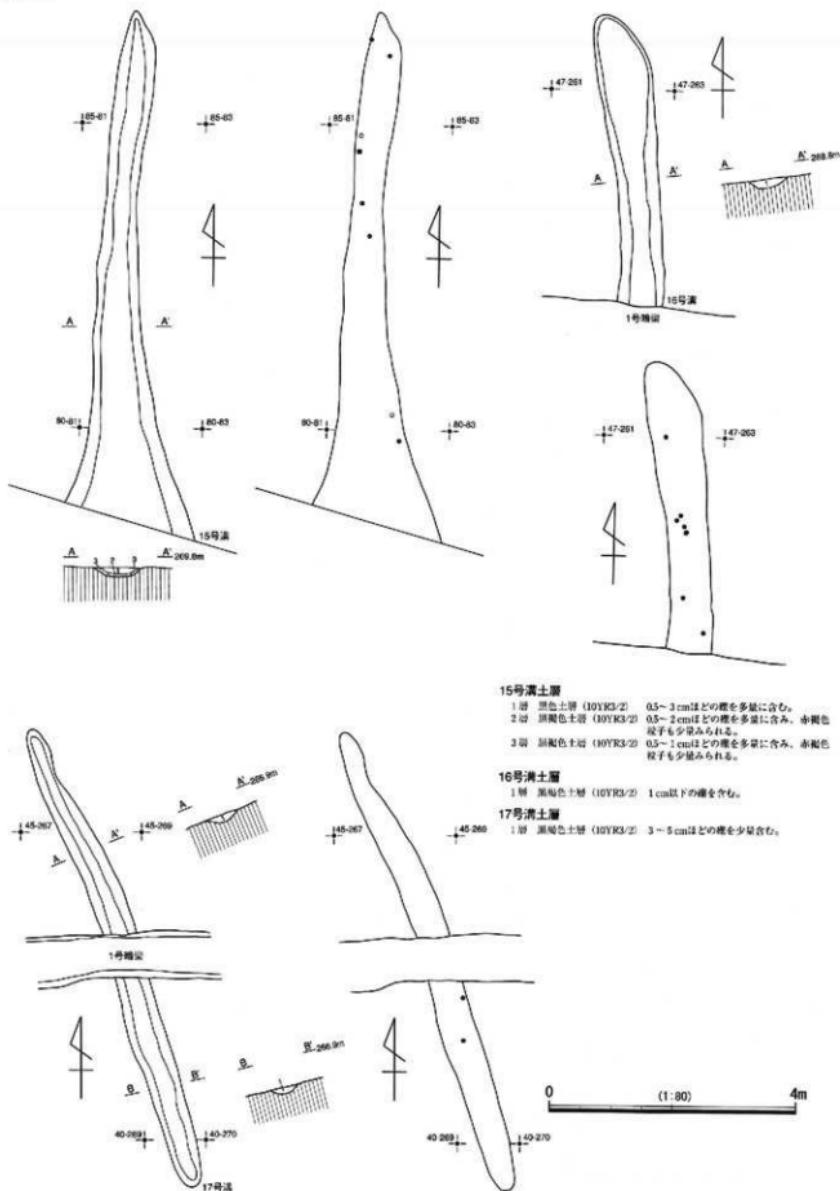


12・13号溝遺物分布図

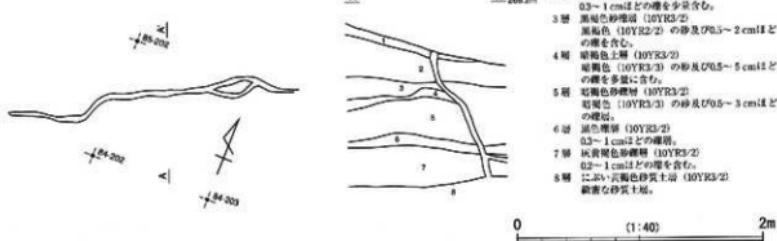
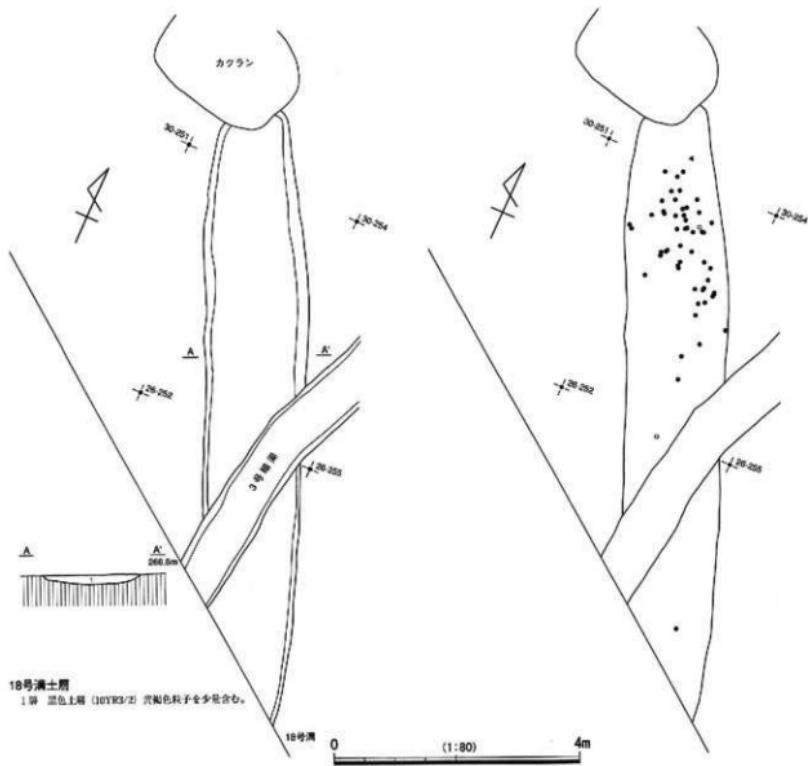


14号溝平面・遺物分布図

図版72

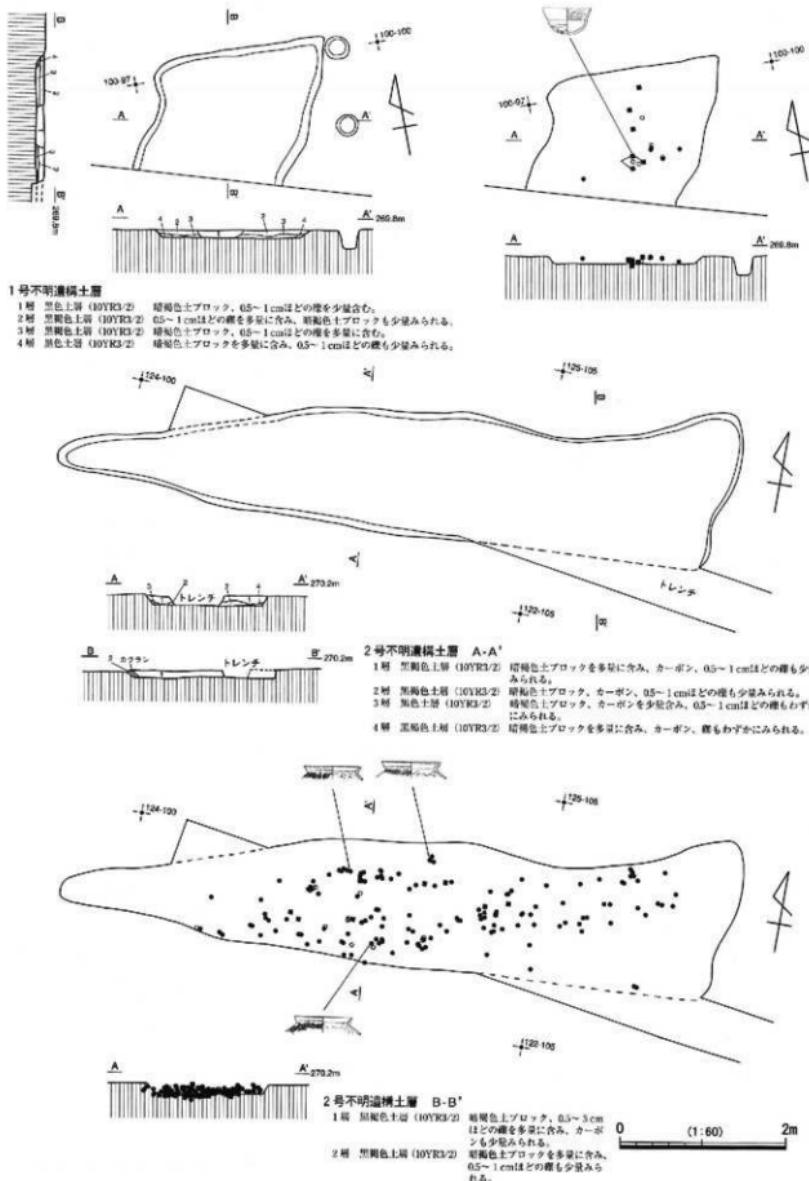


15~17号溝平面・遺物分布図



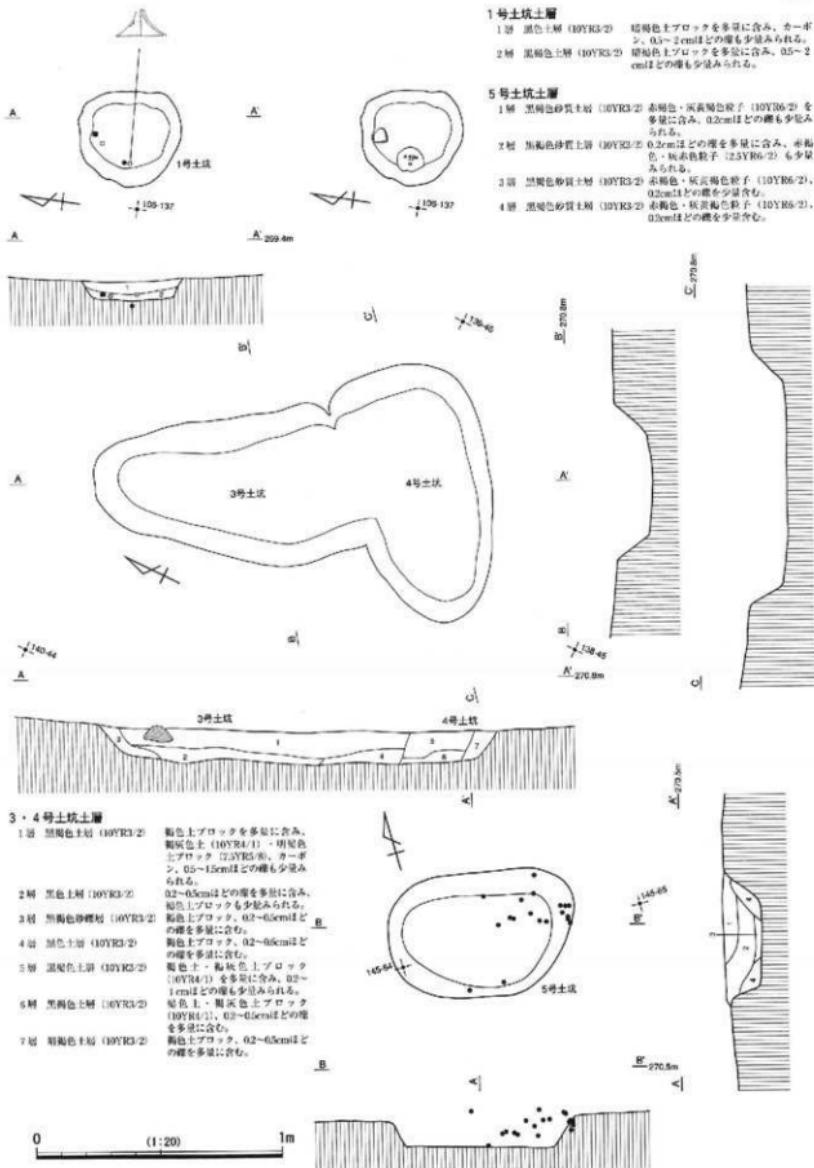
### 18号溝平面・遺物分布図、地割丸跡平面図

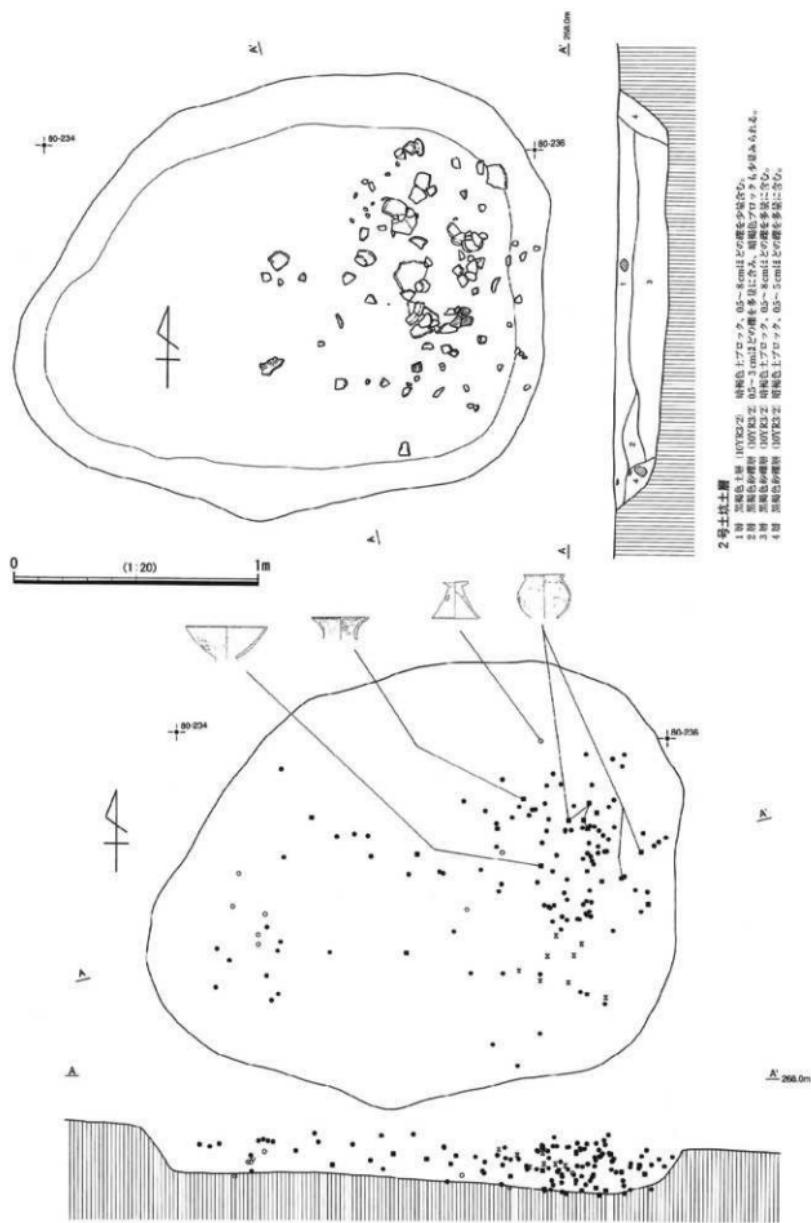
図版74



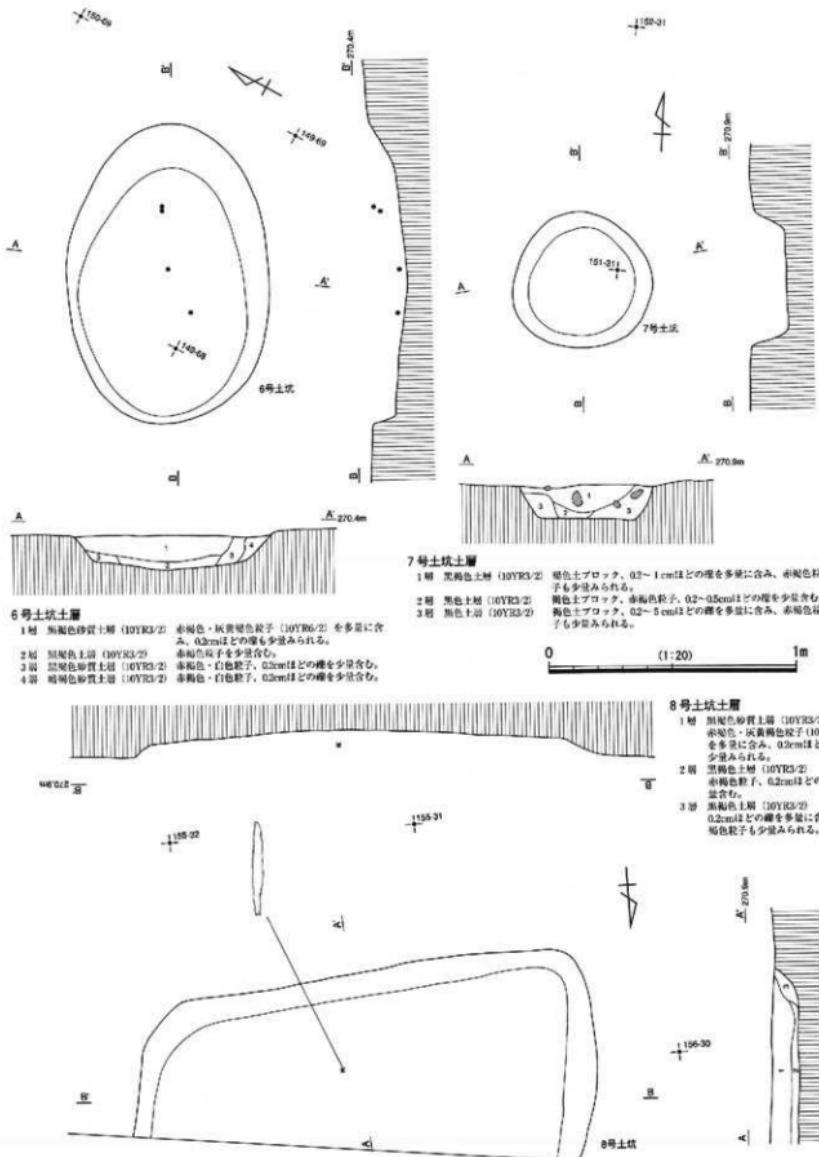
1・2号性格不明遺構平面・遺物分布図

図版75



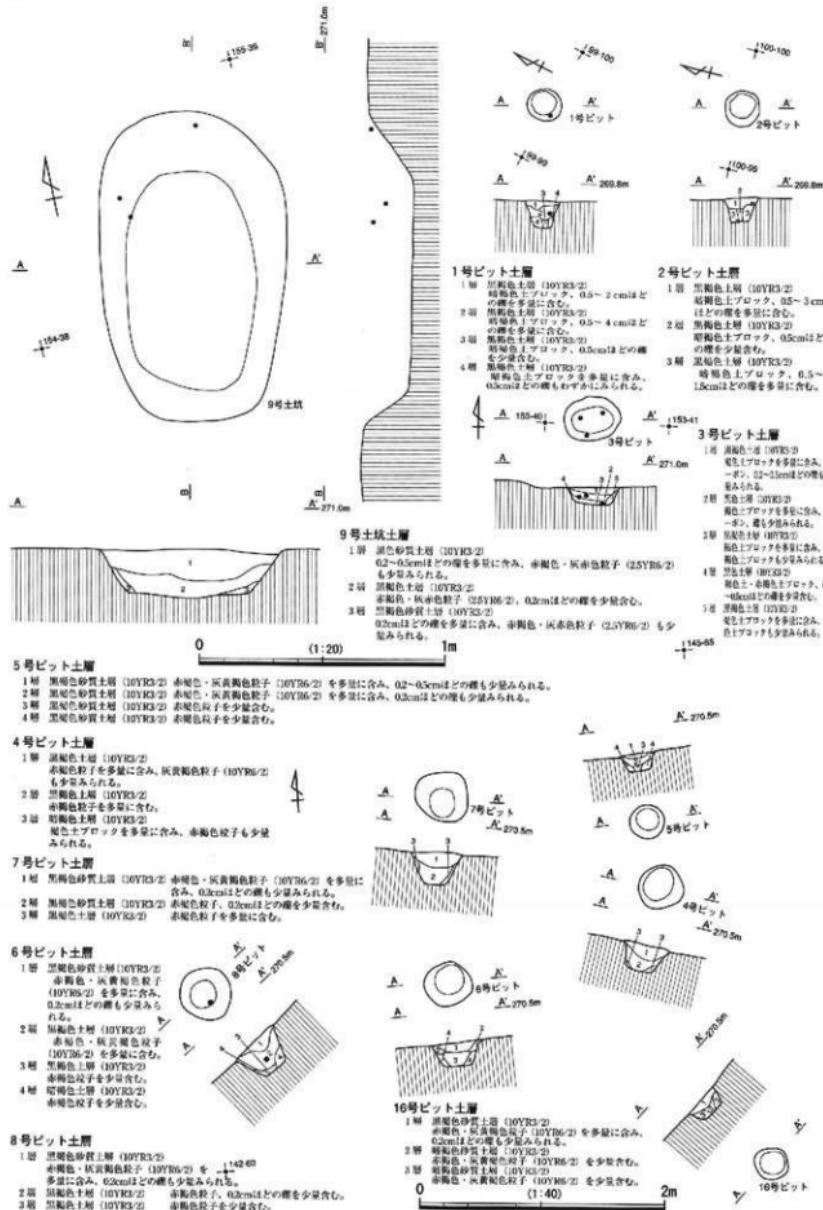


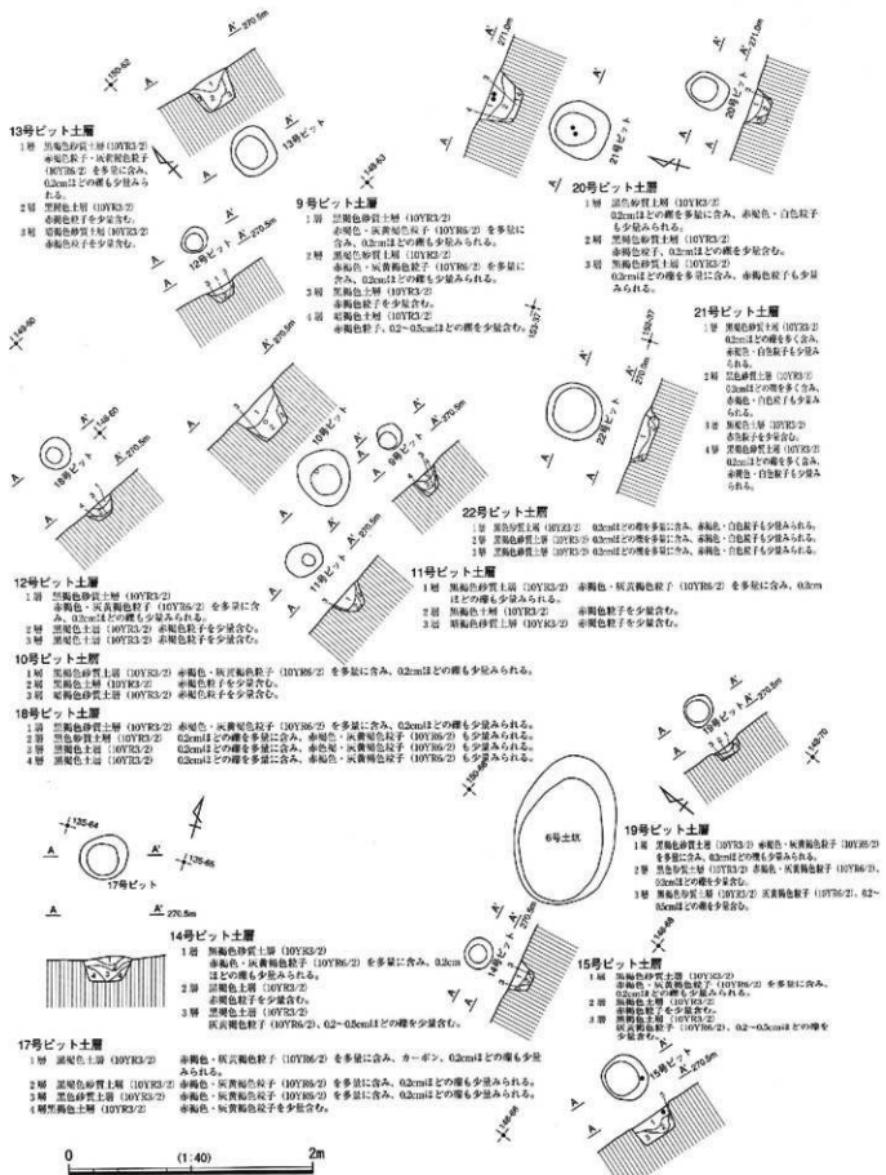
土坑平面・遺物分布図（2）



土坑平面・遺物分布図（3）

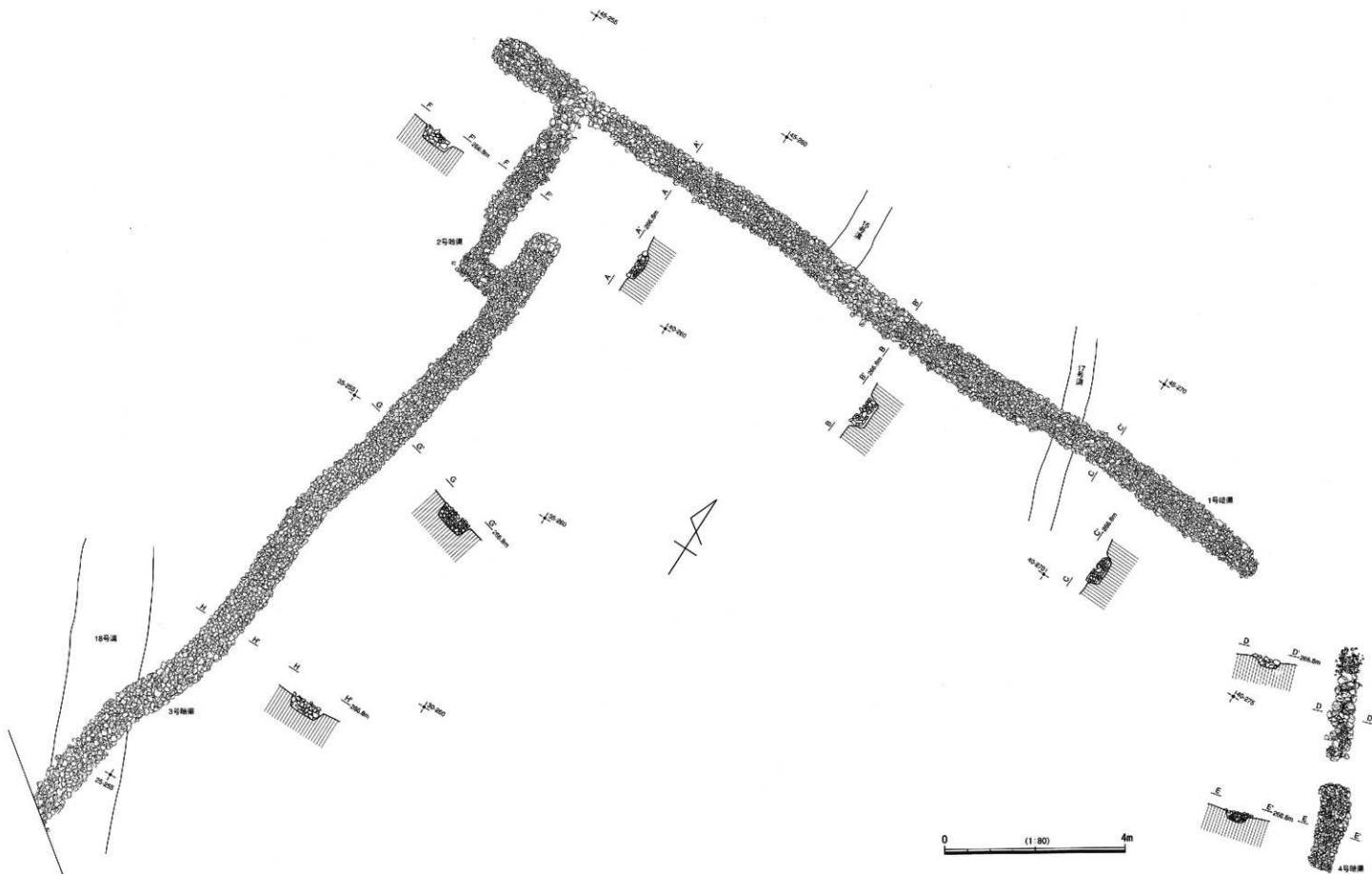
# 図版78



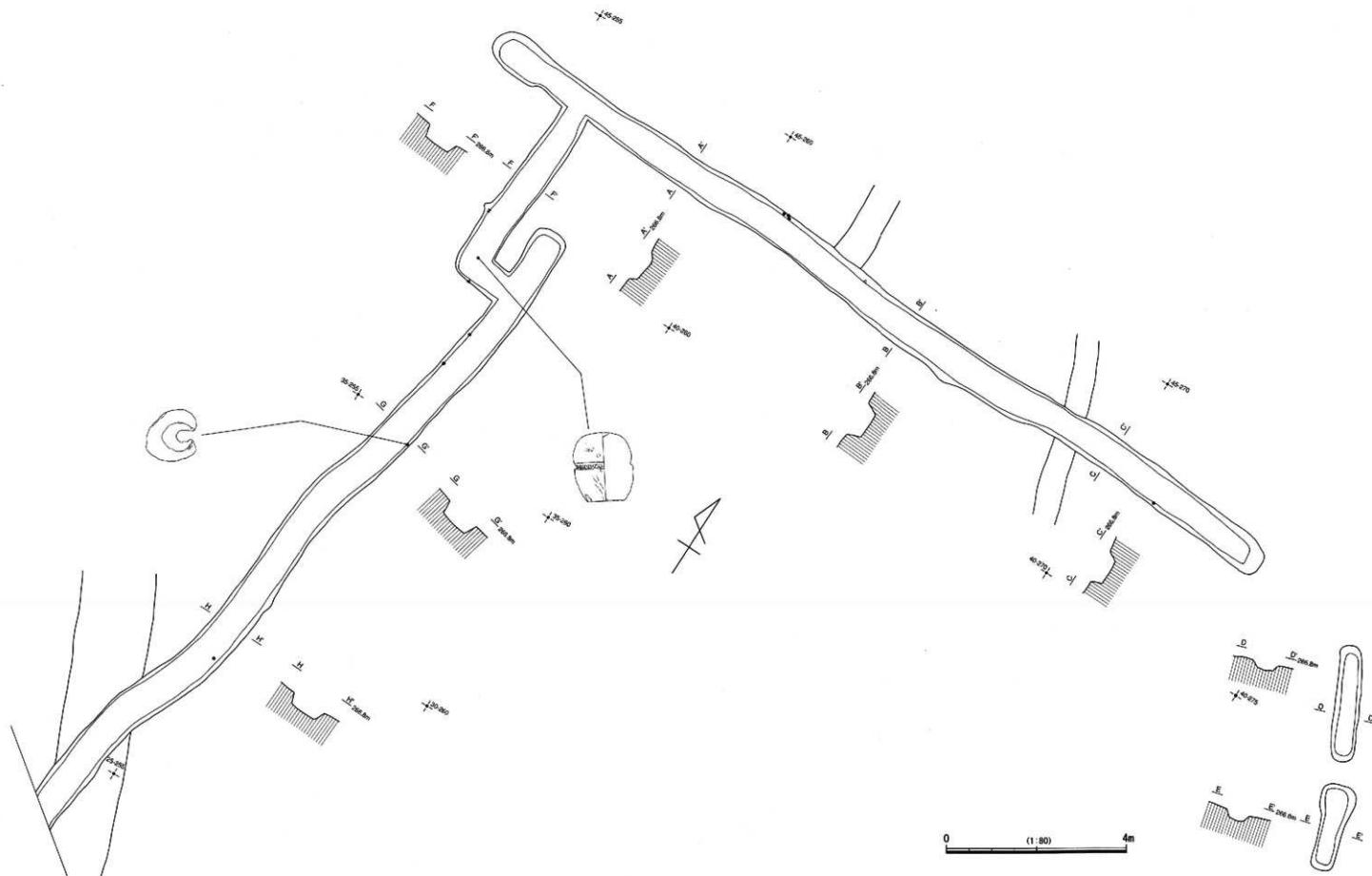


ピット平面・遺物分布図（2）

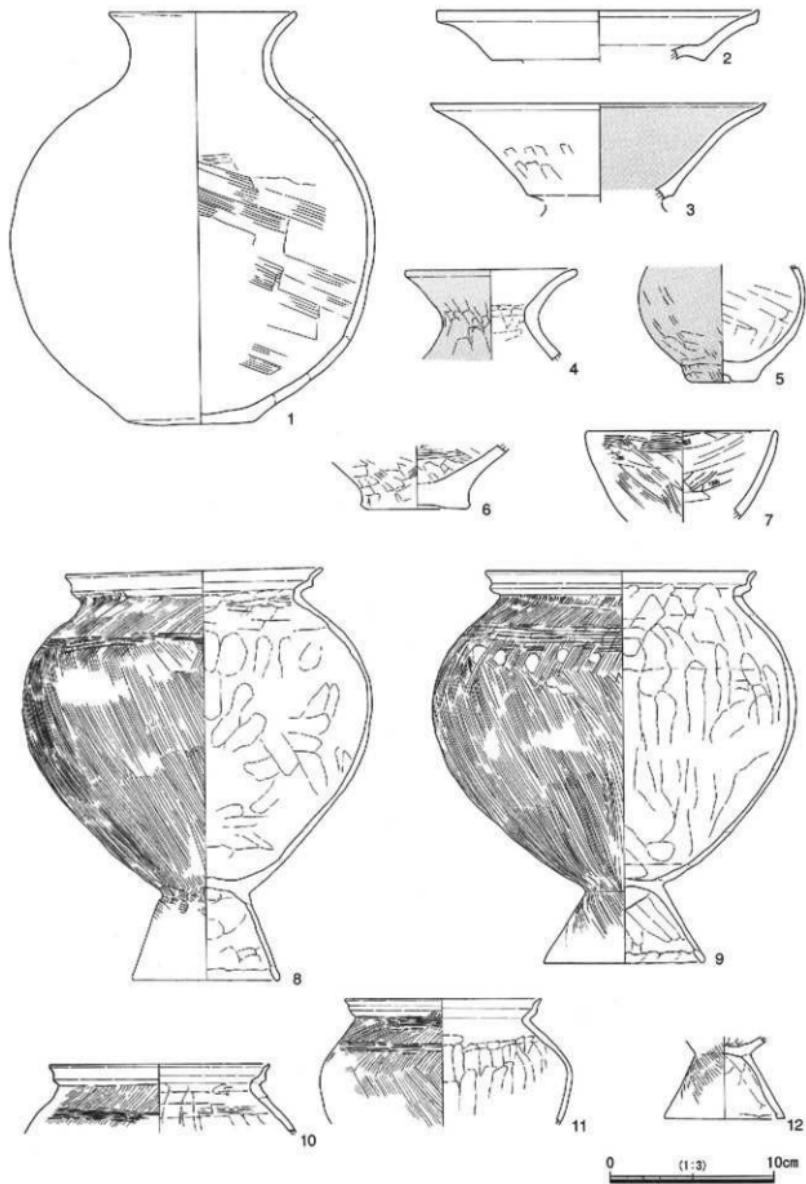




1~4号暗渠平面図

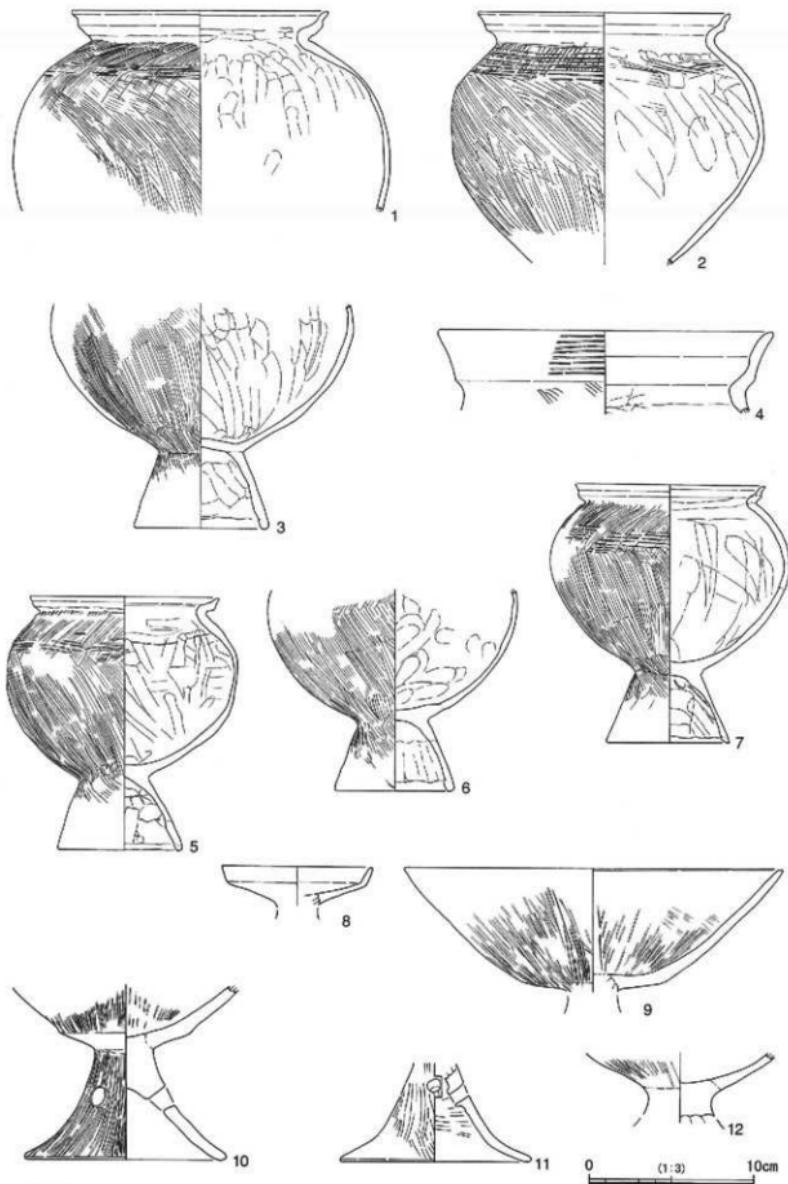


1～4号暗渠掘り方



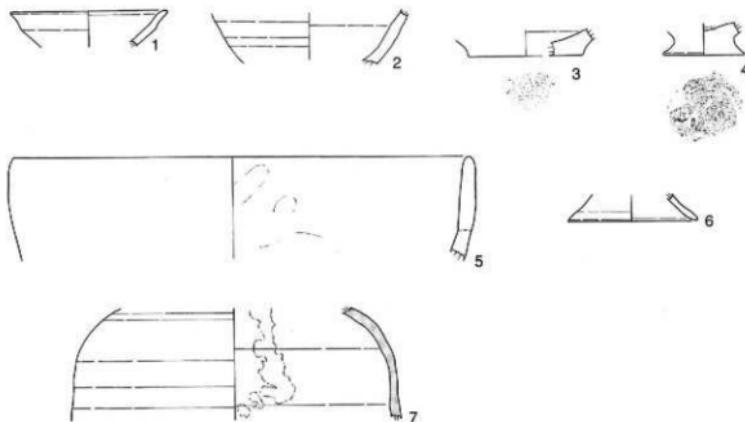
1号住居

出土遺物 (1)

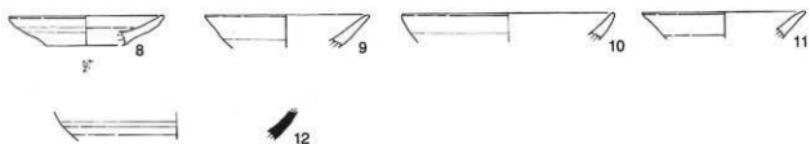


1号住居

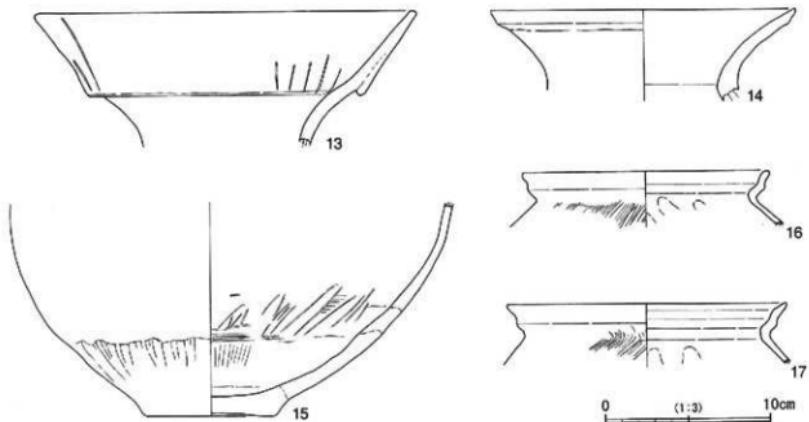
出土遺物 (2)



2号住居



3号住居

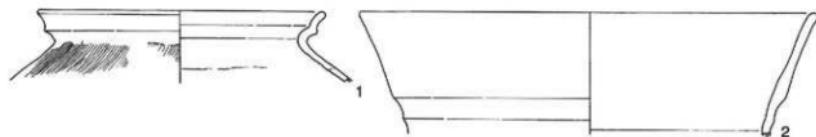


0 (1:3) 10cm

4号住居

出土遺物 (3)

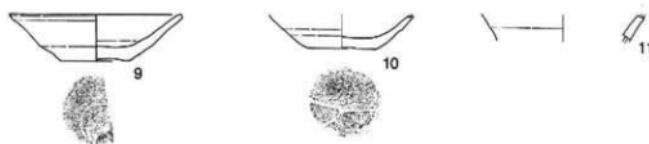
図版85



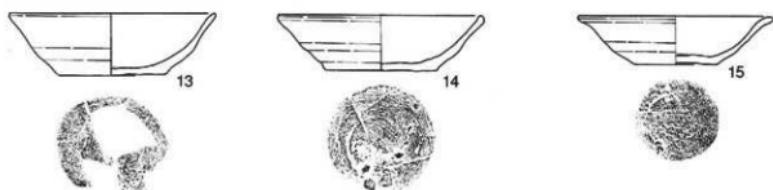
4号住居



5号住居



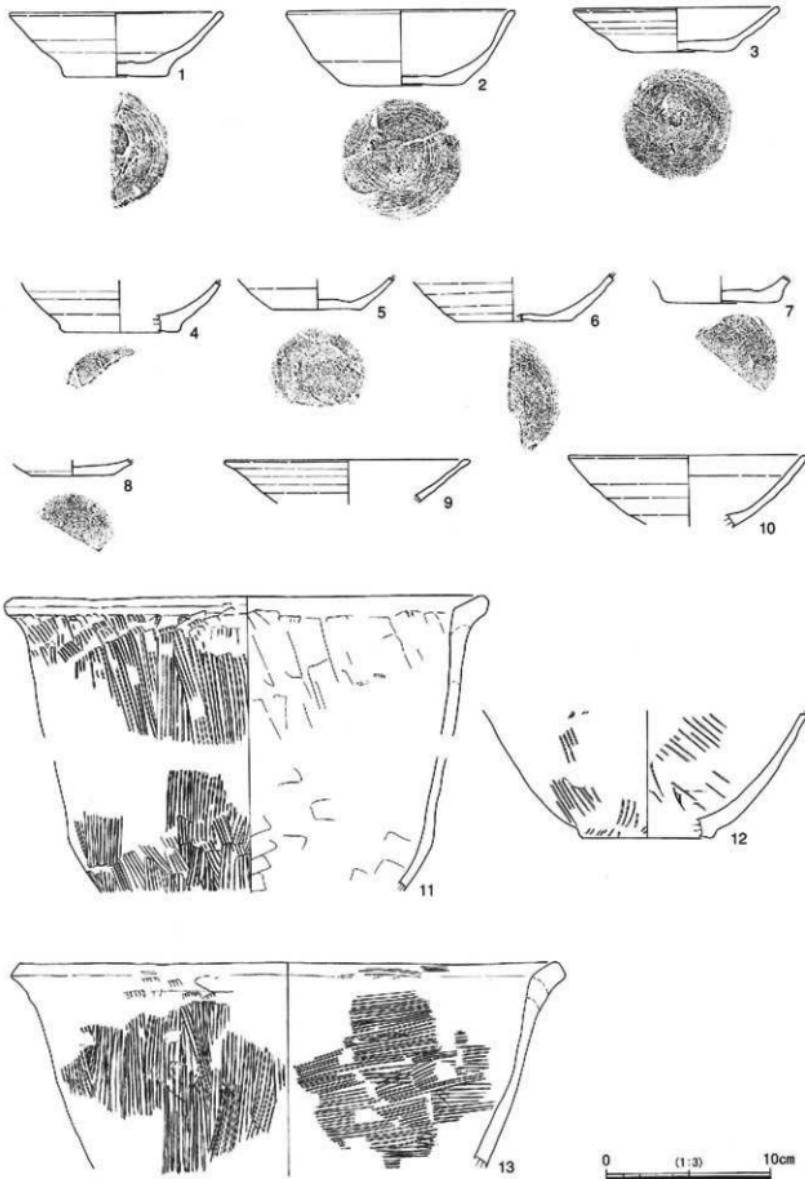
6号住居



0 (1:3) 10cm

7号住居

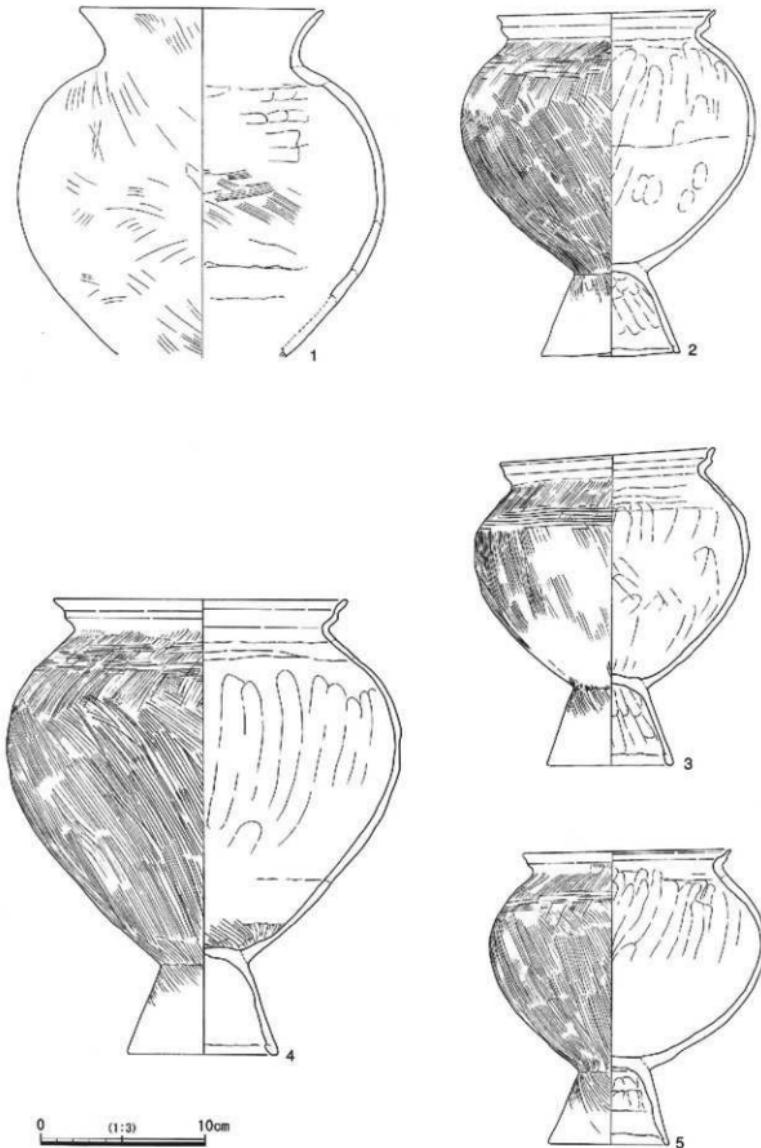
出土遺物 (4)



7号住居

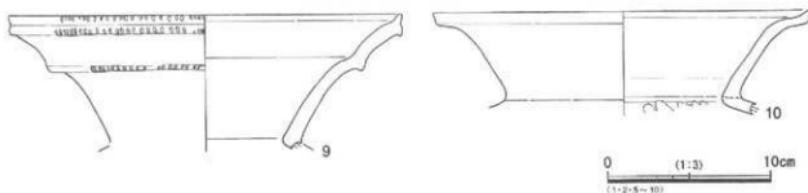
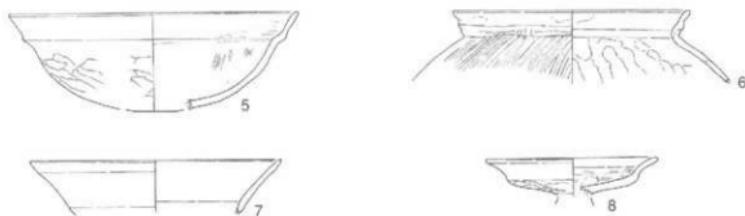
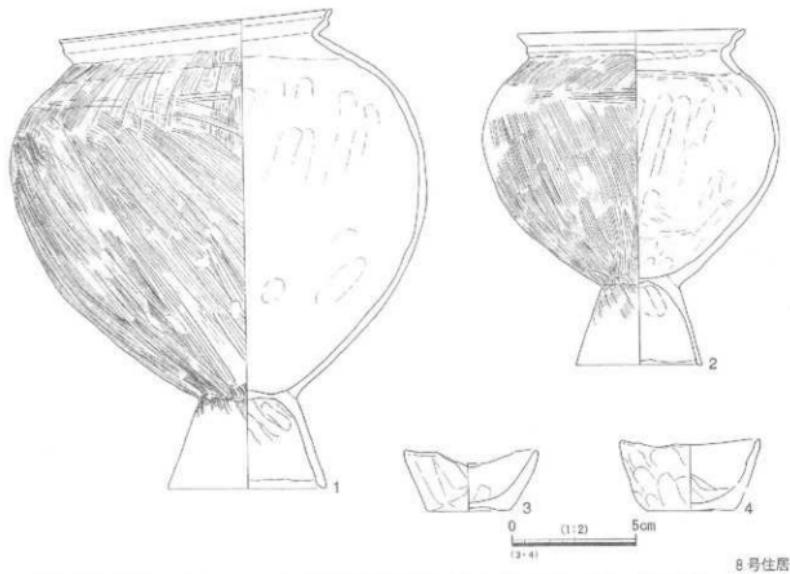
出土遺物 (5)

図版87



出土遺物 (6)

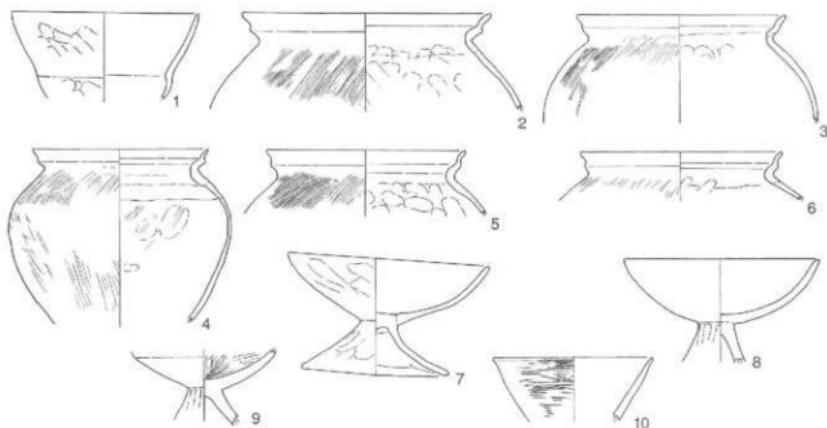
8号住居



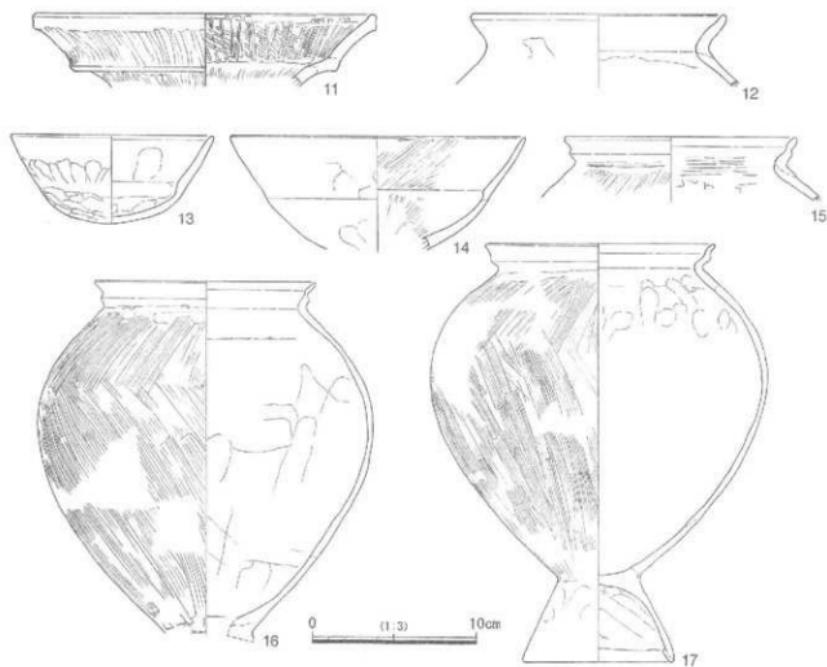
11号住居

出土遺物 (7)

図版89

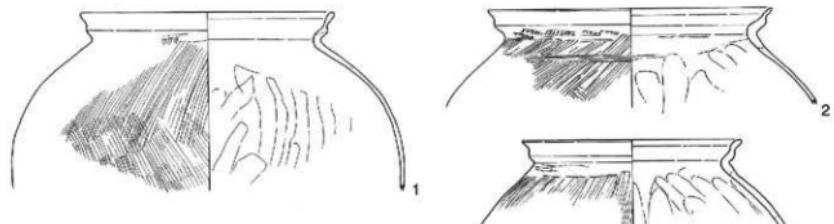


11号住居

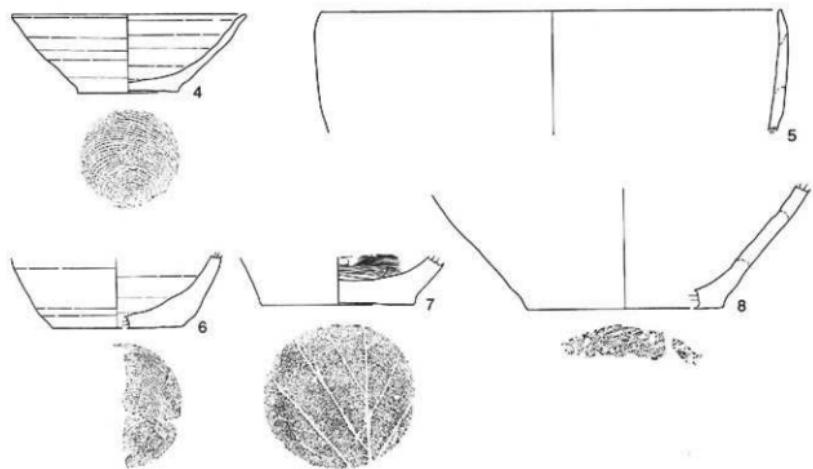


12号住居

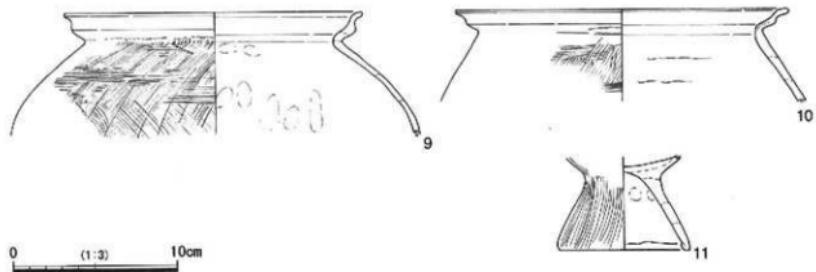
出土遺物 (8)



12号住居



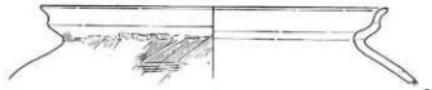
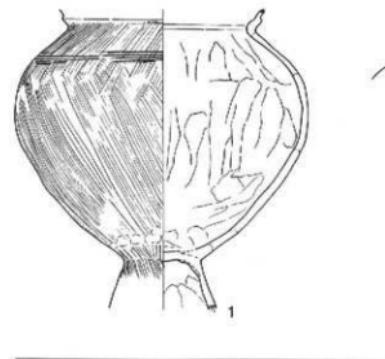
13号住居



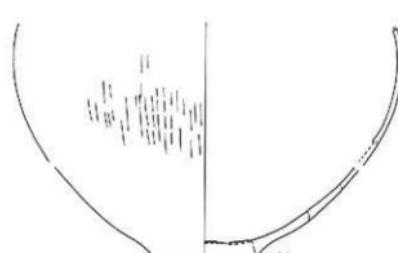
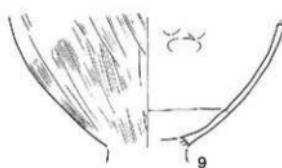
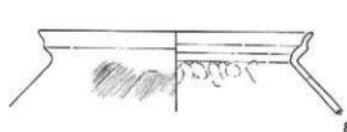
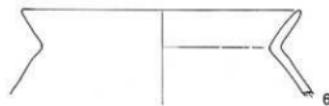
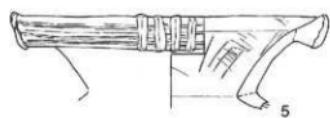
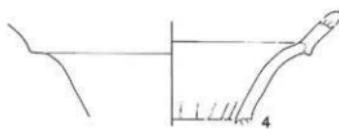
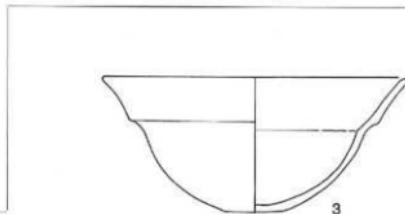
14号住居

出土遺物 (9)

図版91



14号住居

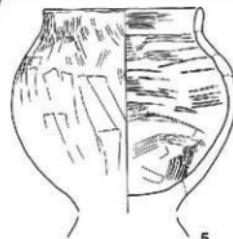
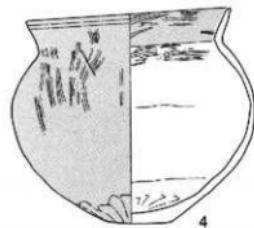
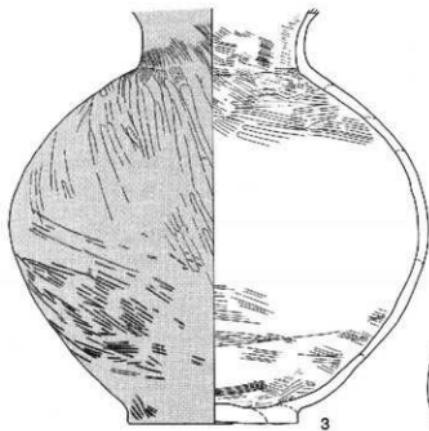
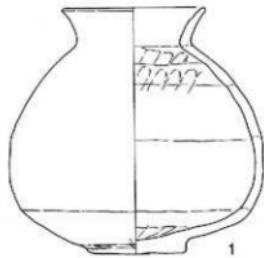


0 (1:3) 10cm



0 (1:6) 20cm

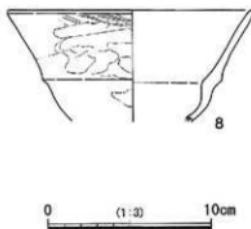
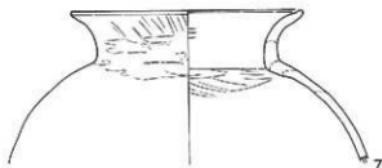
出土遺物 (10)



16号住居



17号住居

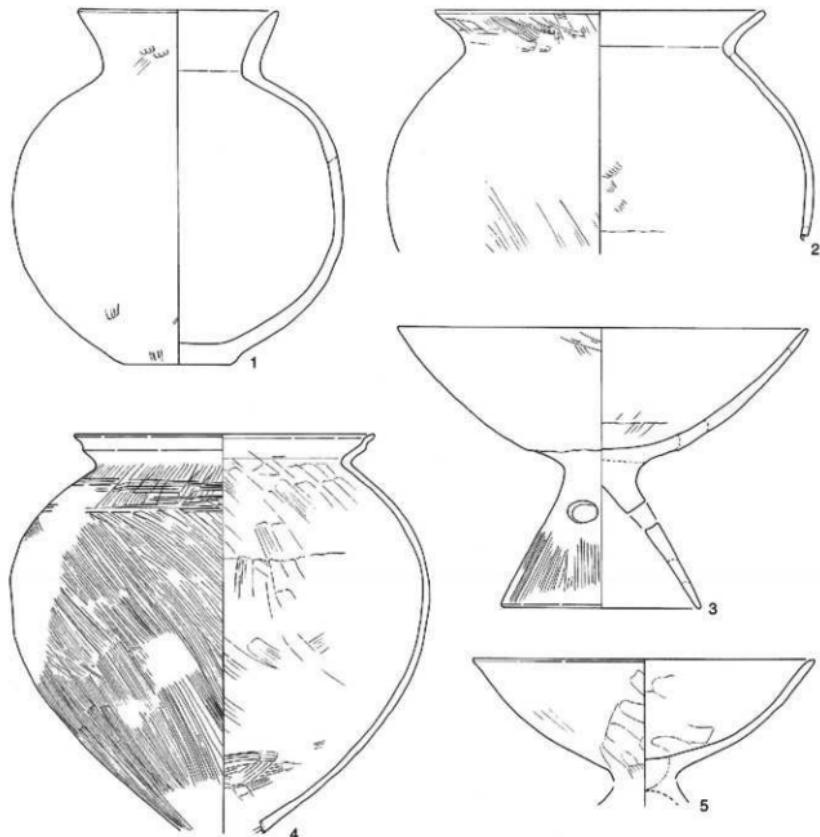


0 (1:3) 10cm

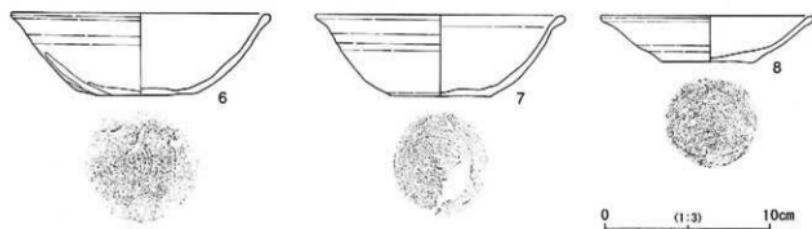
18号住居

出土遺物 (11)

図版93

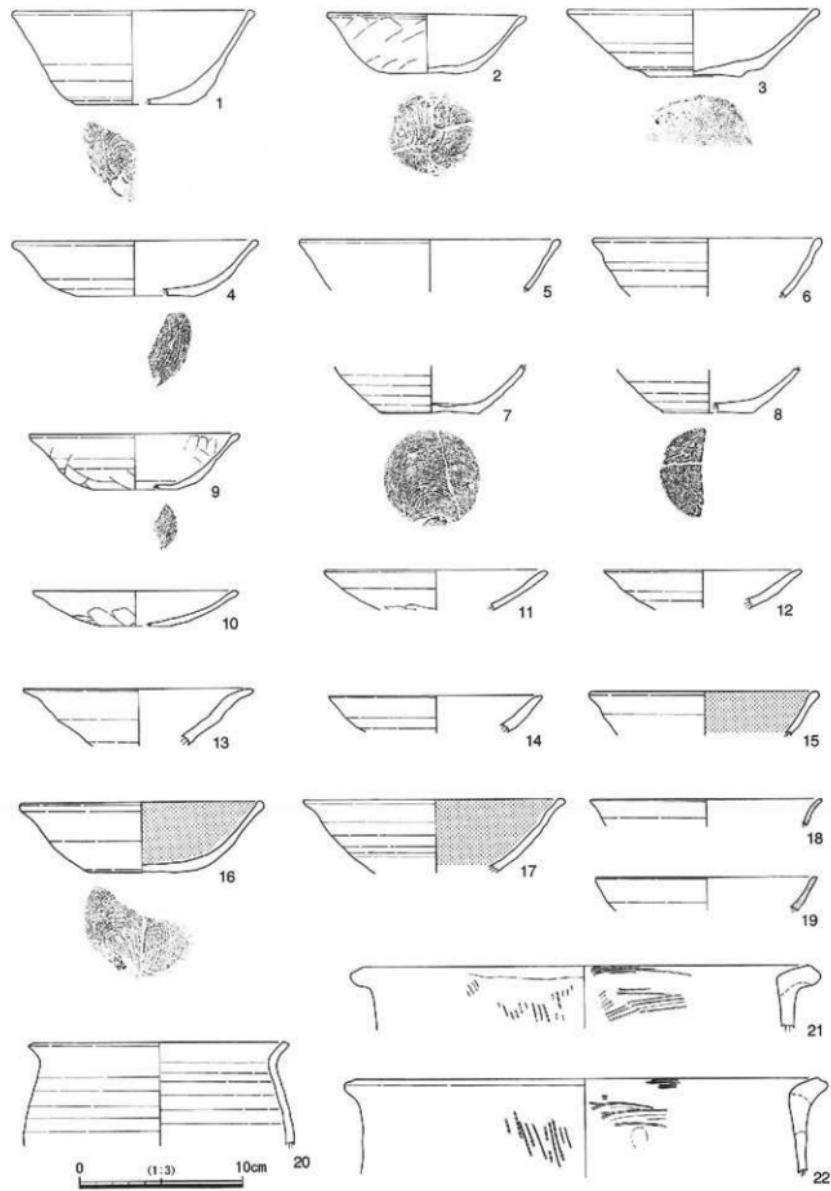


18号住居



19号住居

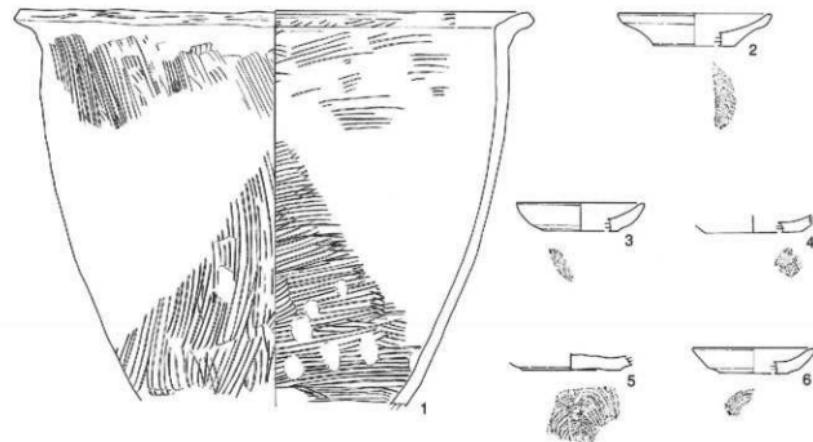
出土遺物 (12)



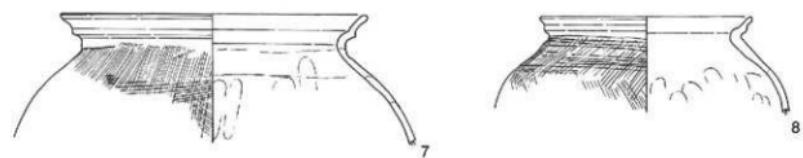
出土遺物 (13)

19号住居

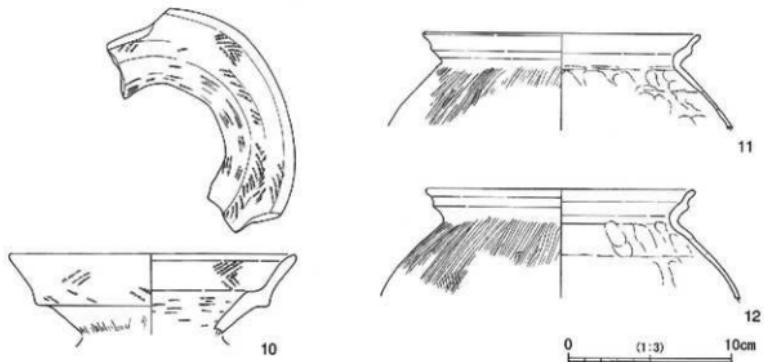
図版95



19号住居

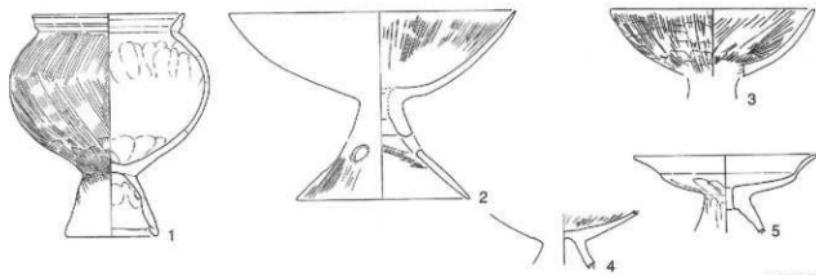


20号住居

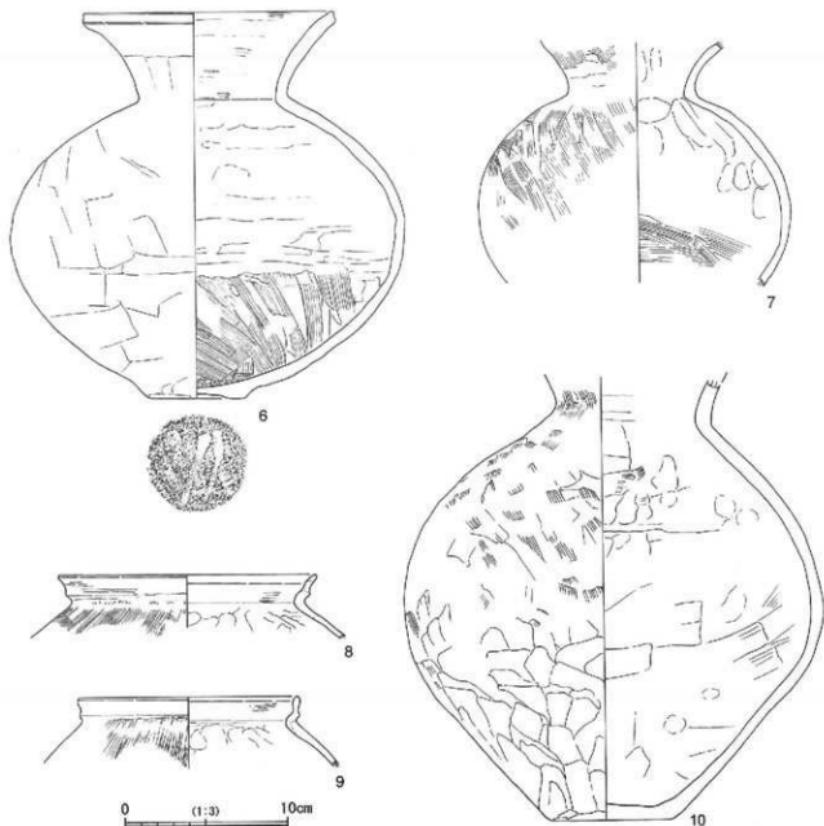


21号住居

出土遺物 (14)



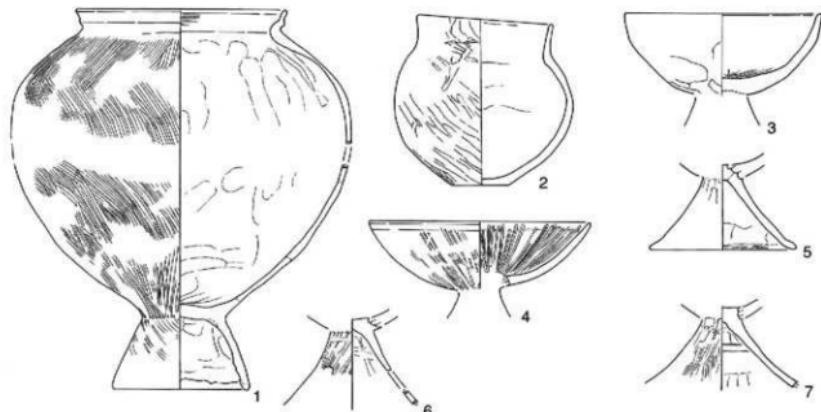
21号住居



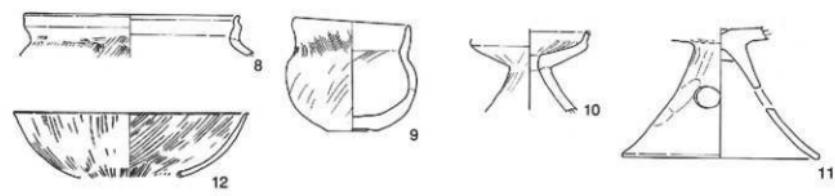
22号住居

出土遺物 (15)

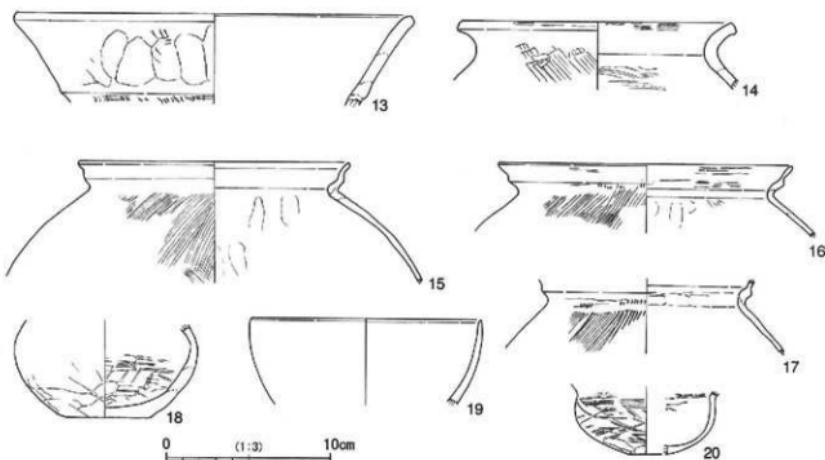
図版97



22号住居



24号住居

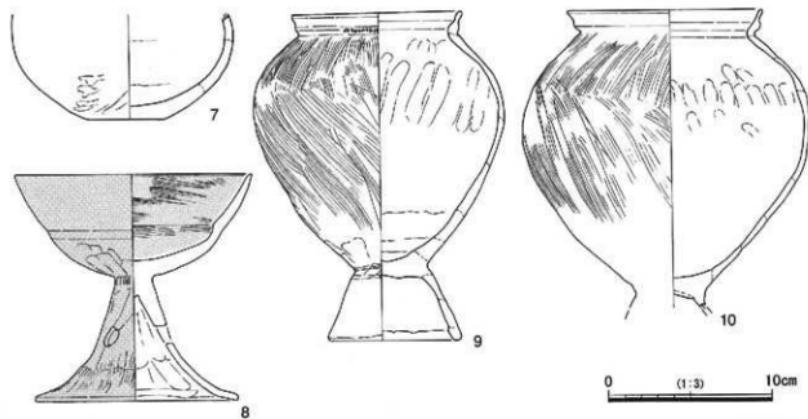
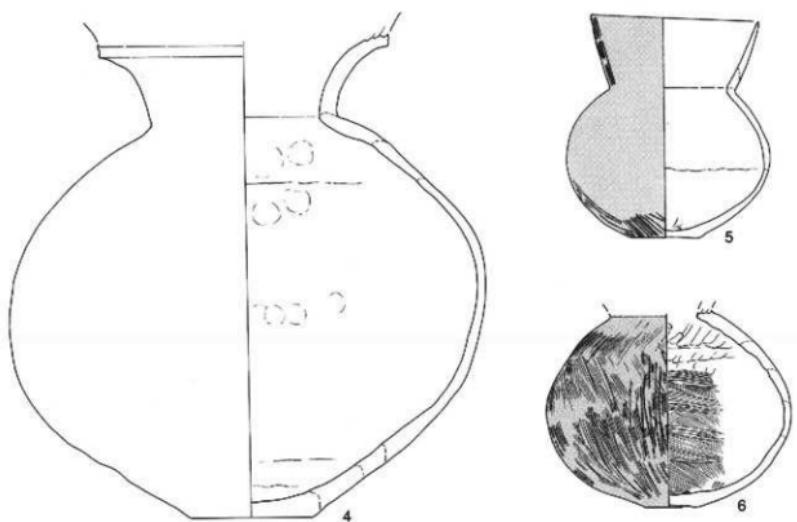


25号住居

出土遺物 (16)



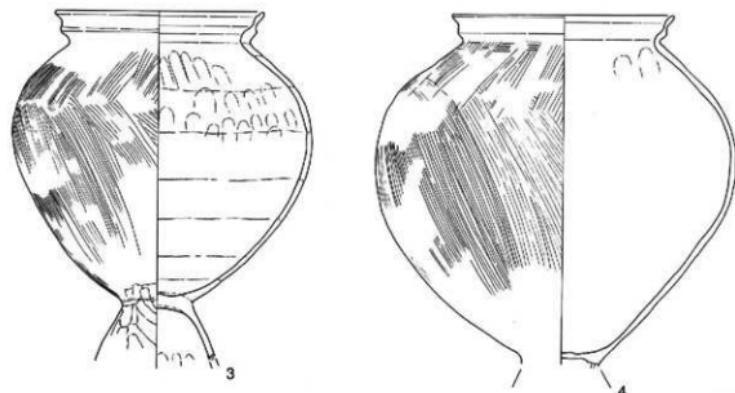
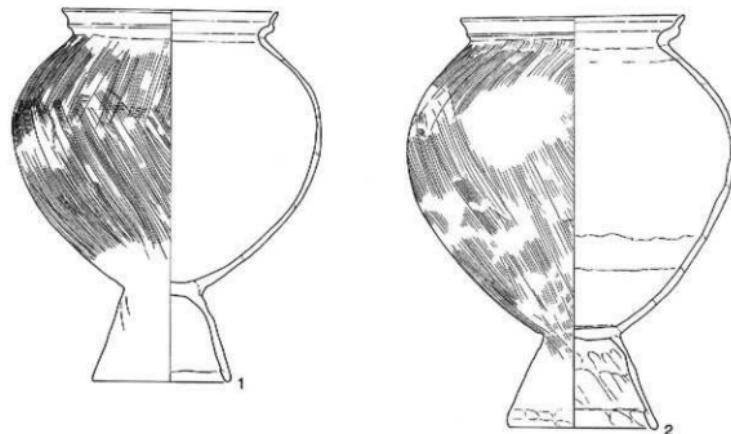
25号住居



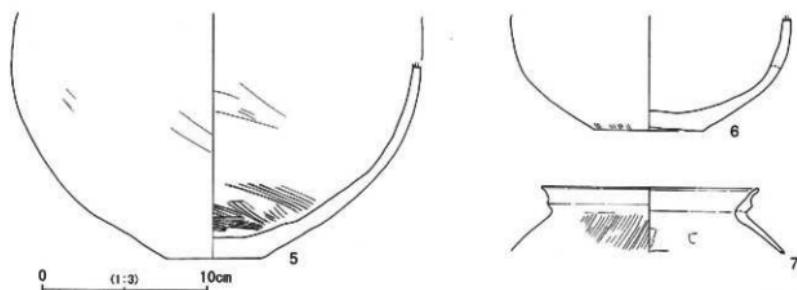
26号住居

出土遺物 (17)

図版99

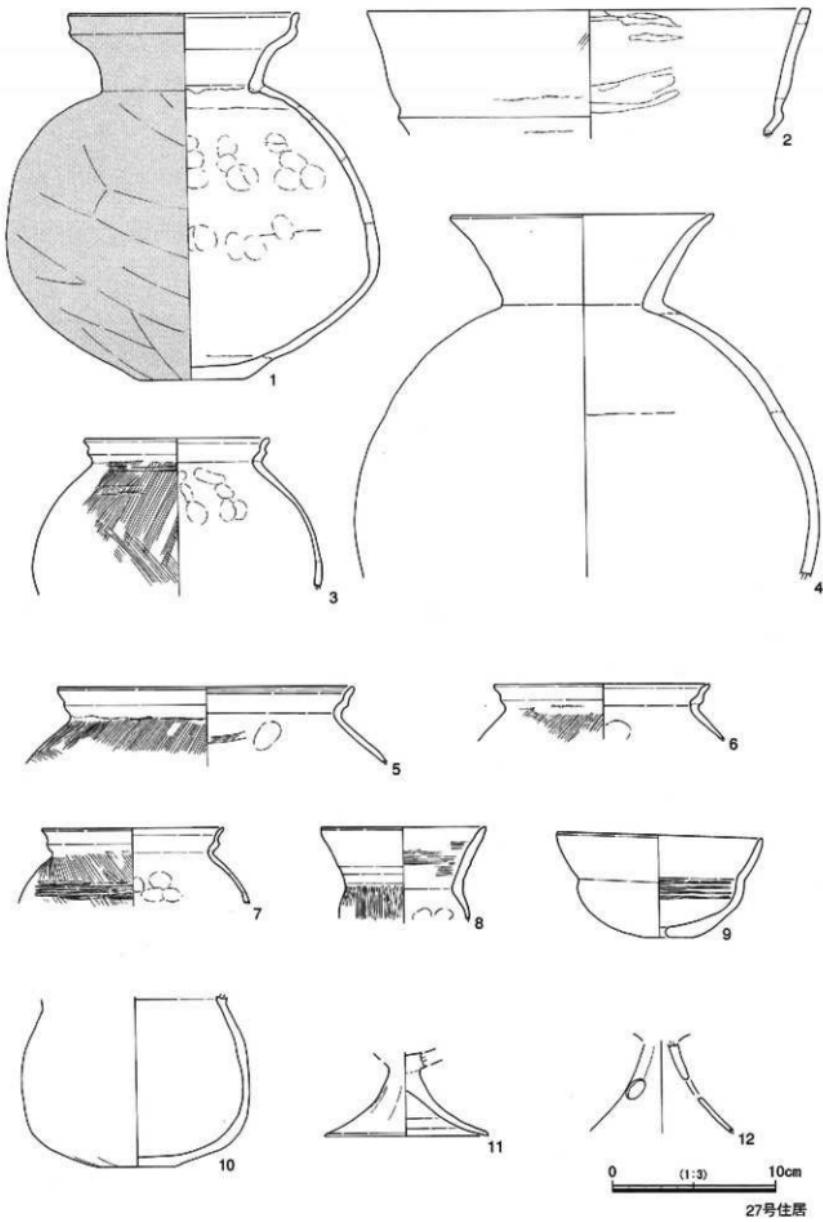


26号住居



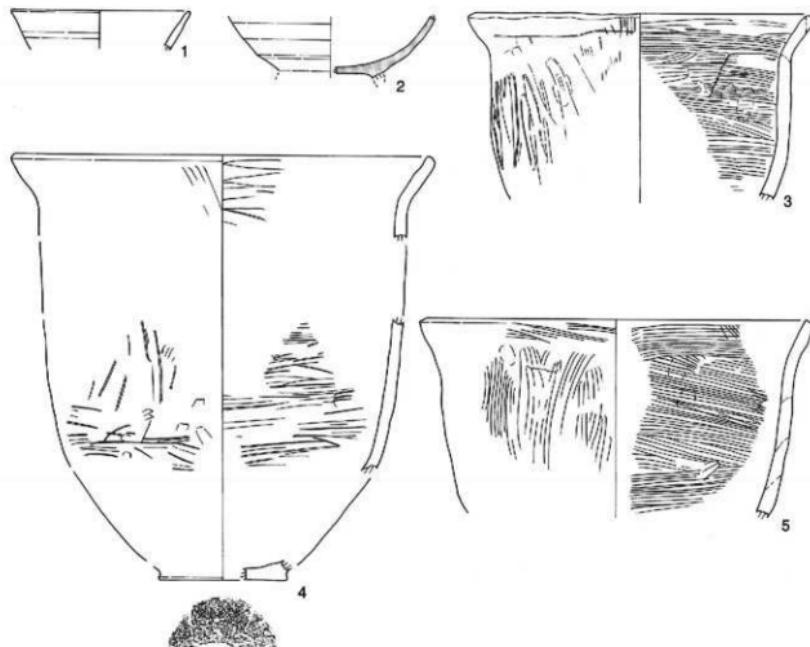
27号住居

出土遺物 (18)

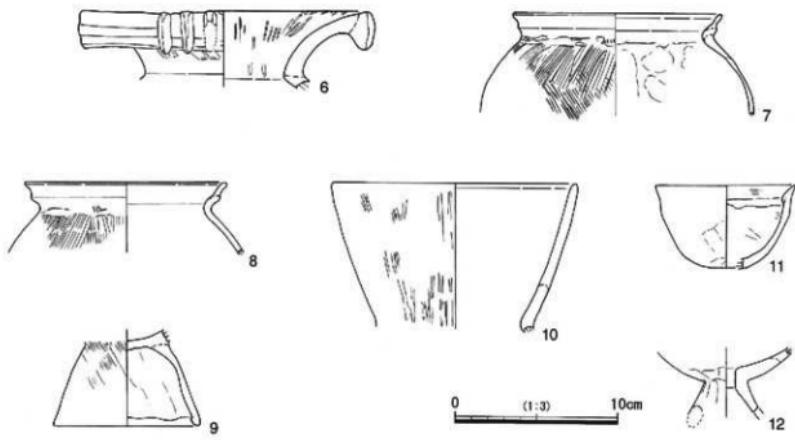


出土遺物 (19)

図版101

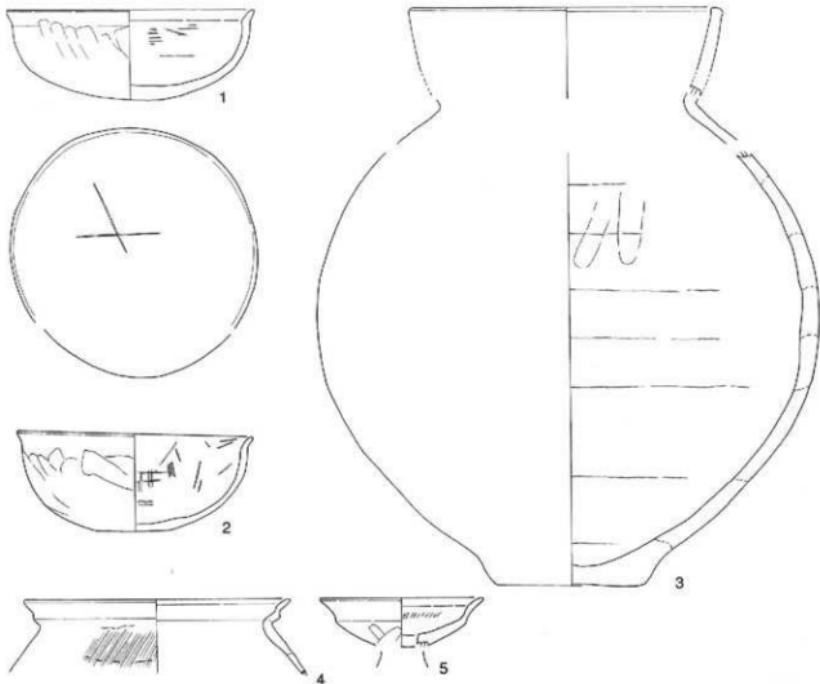


28号住居



出土遺物 (20)

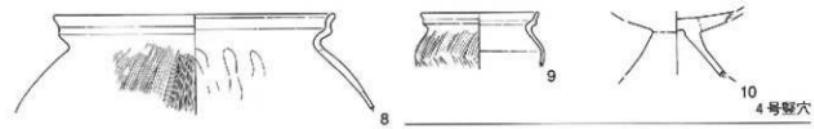
1号竪穴



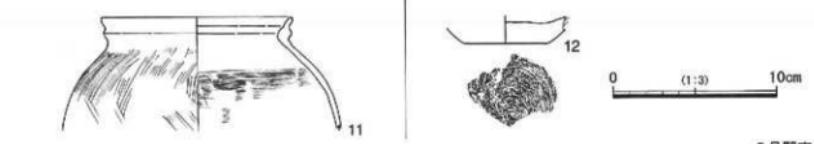
2号竪穴



3号竪穴



4号竪穴

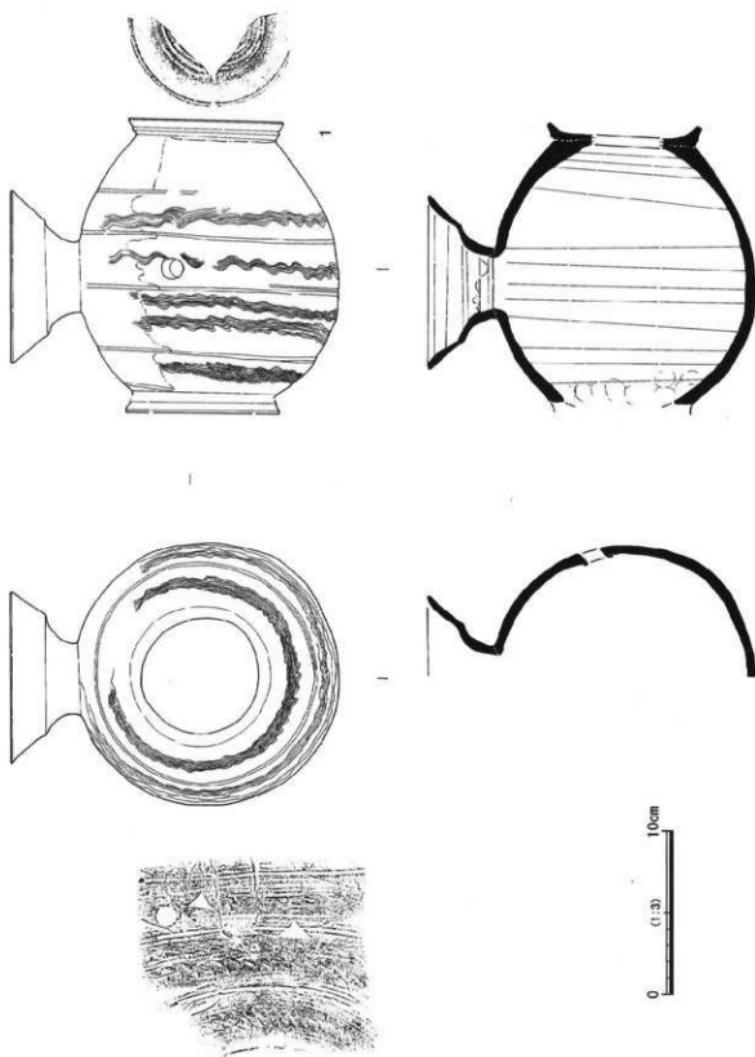


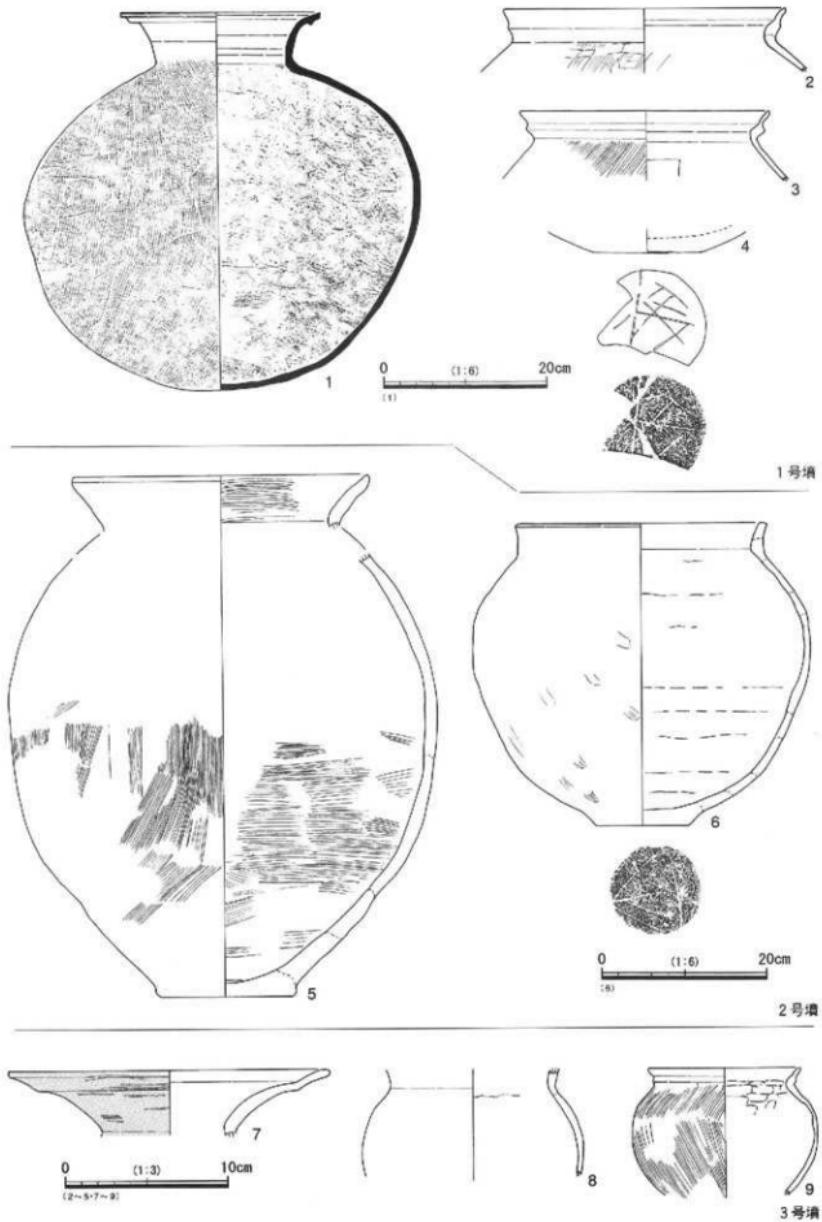
0 (1:3) 10cm

5号竪穴

出土遺物 (21)

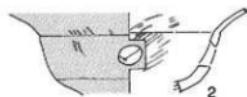
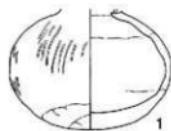
図版103



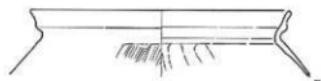
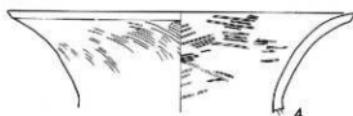


第104図 出土遺物 (23)

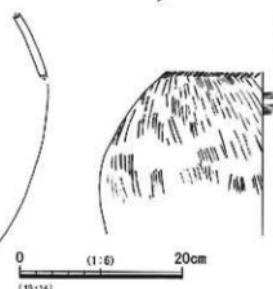
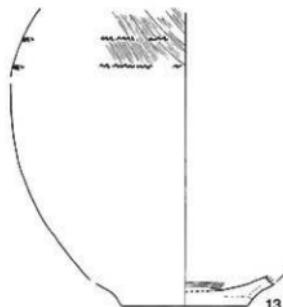
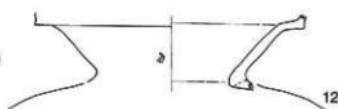
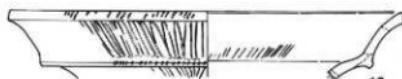
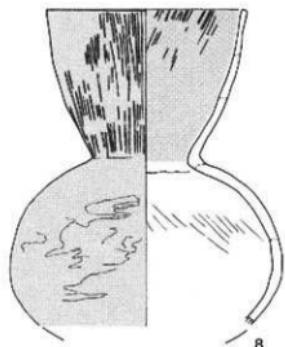
図版105



3号埴



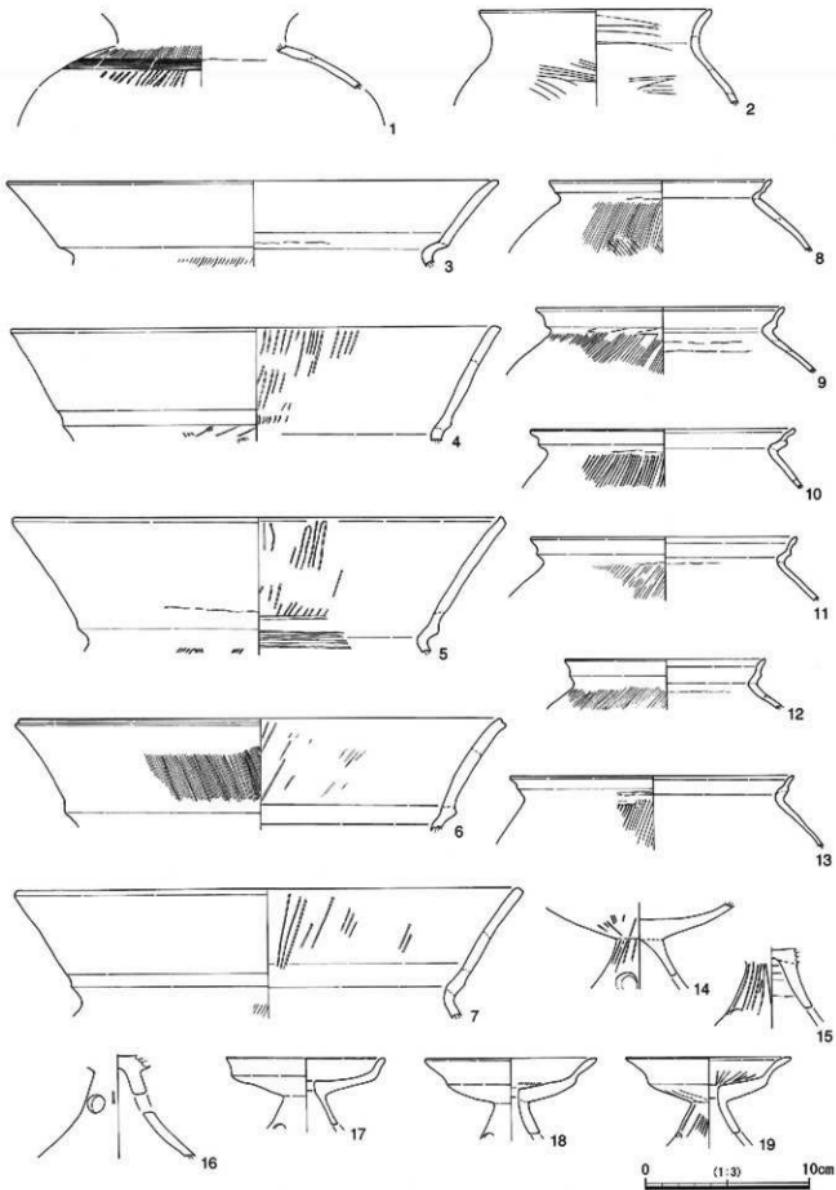
4号溝



0 (1:3) 10cm  
(1-12)

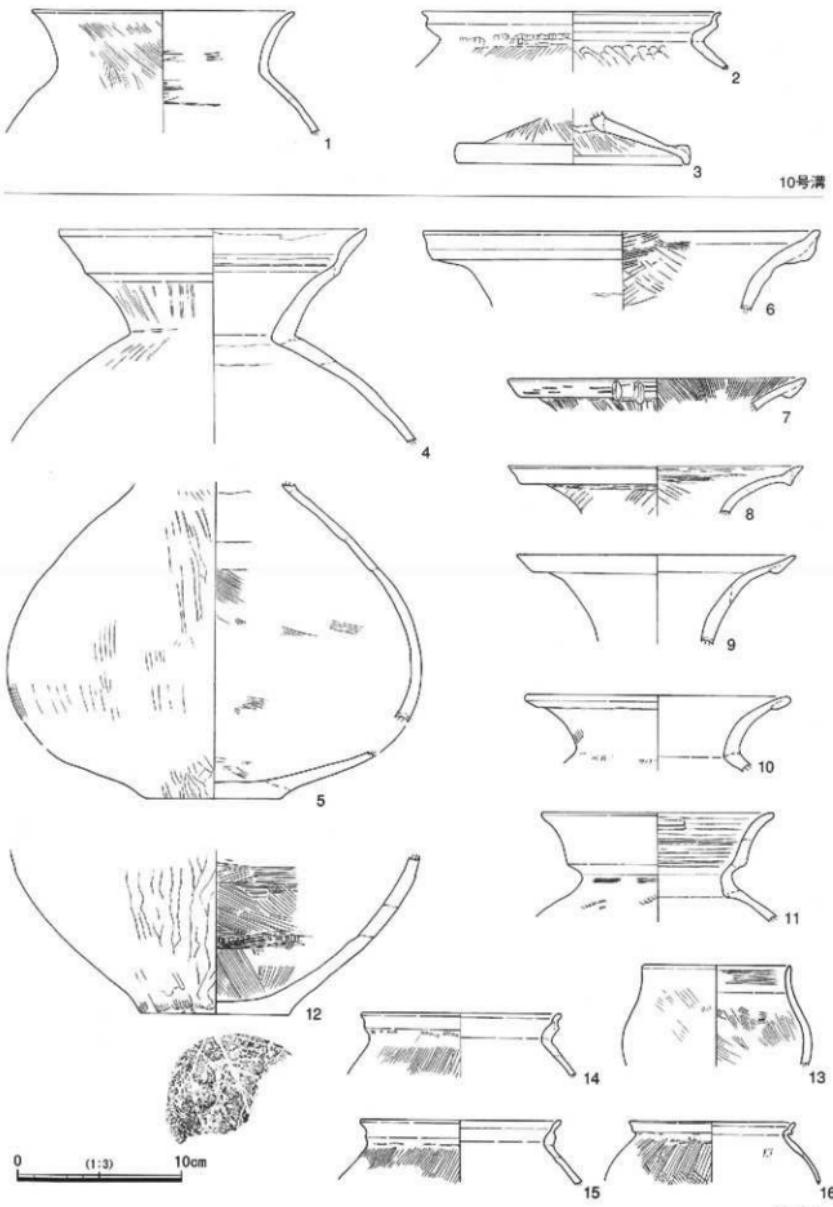
6号溝

出土遺物 (24)

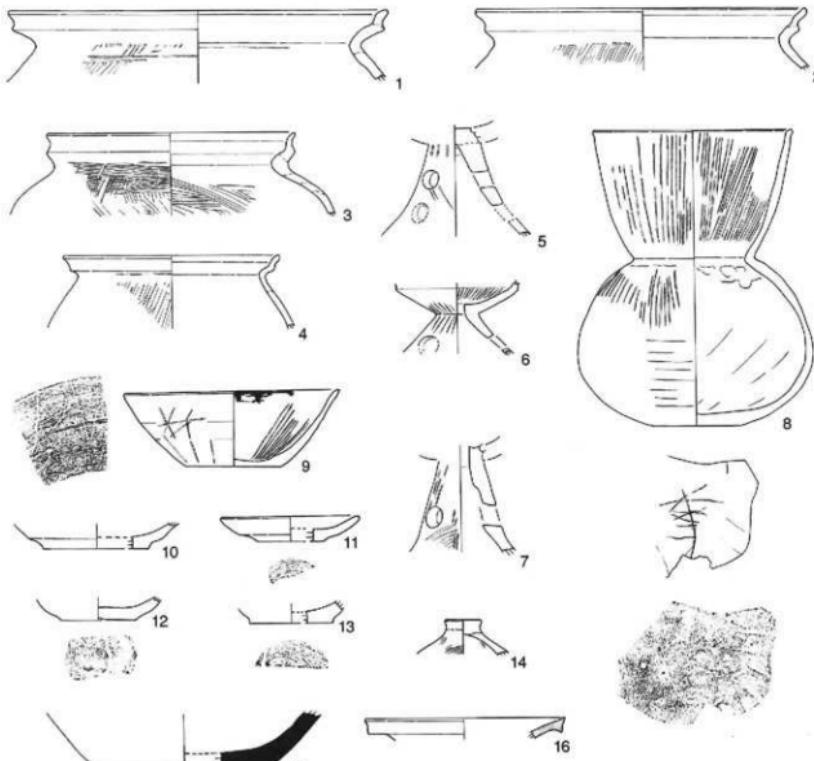


出土遺物 (25)

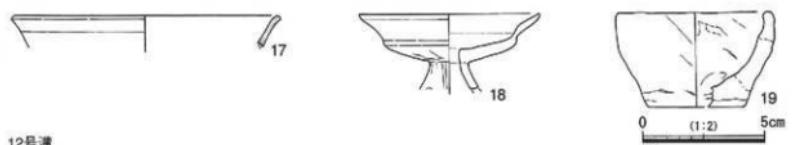
図版107



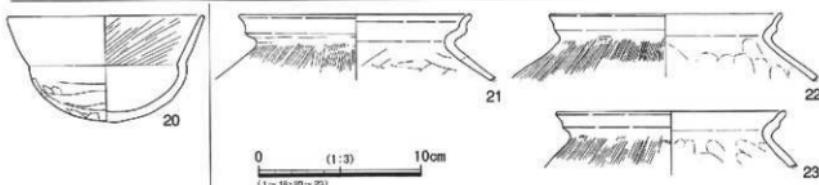
出土遺物 (26)



11号溝



12号溝

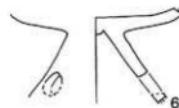
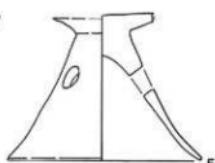
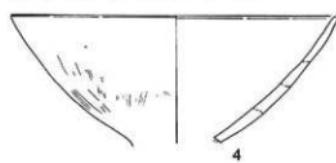
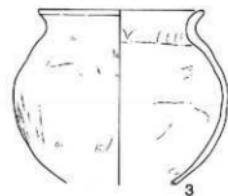
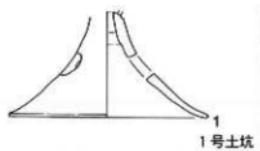


1号不明遺構

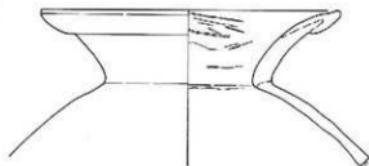
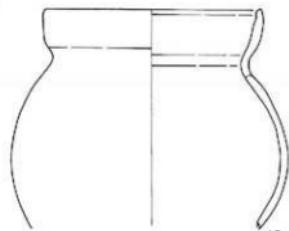
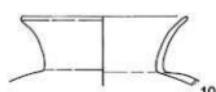
2号不明遺構

出土遺物 (27)

図版109



2号土坑

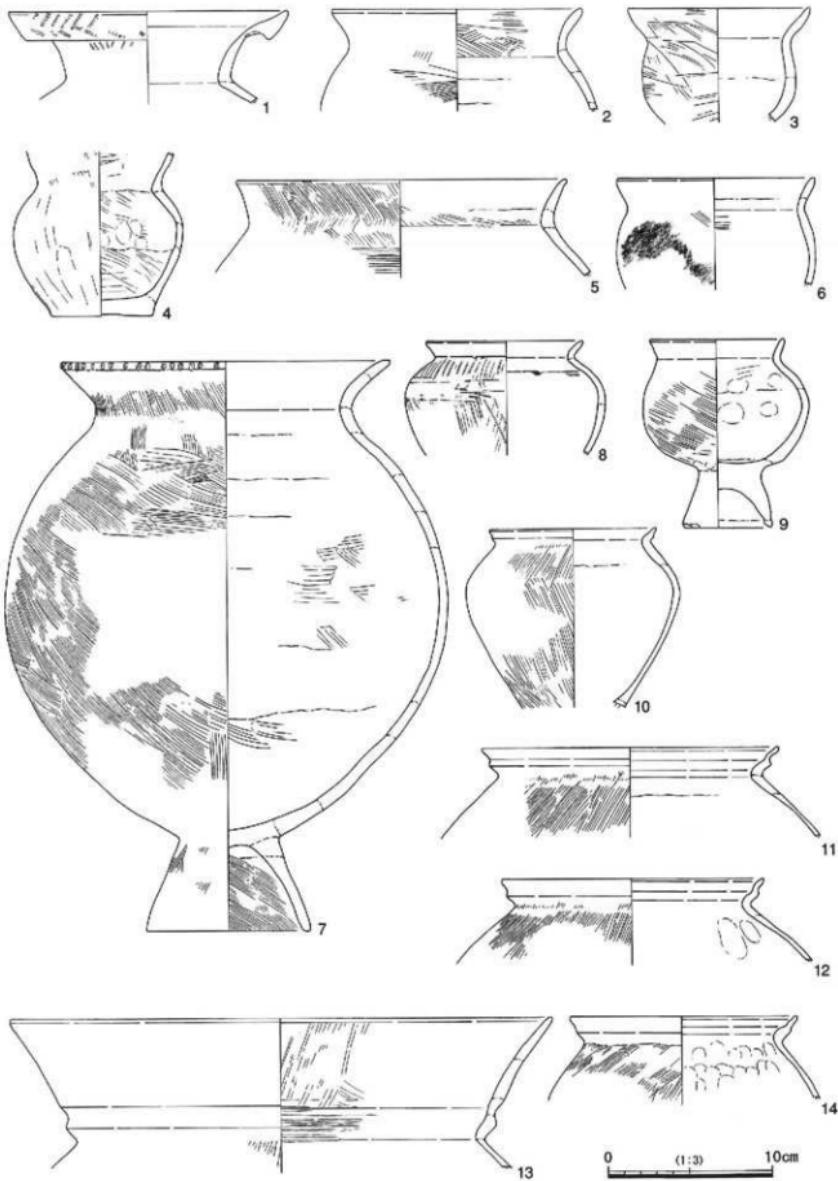


0 (1:3) 10cm



出土遺物 (28)

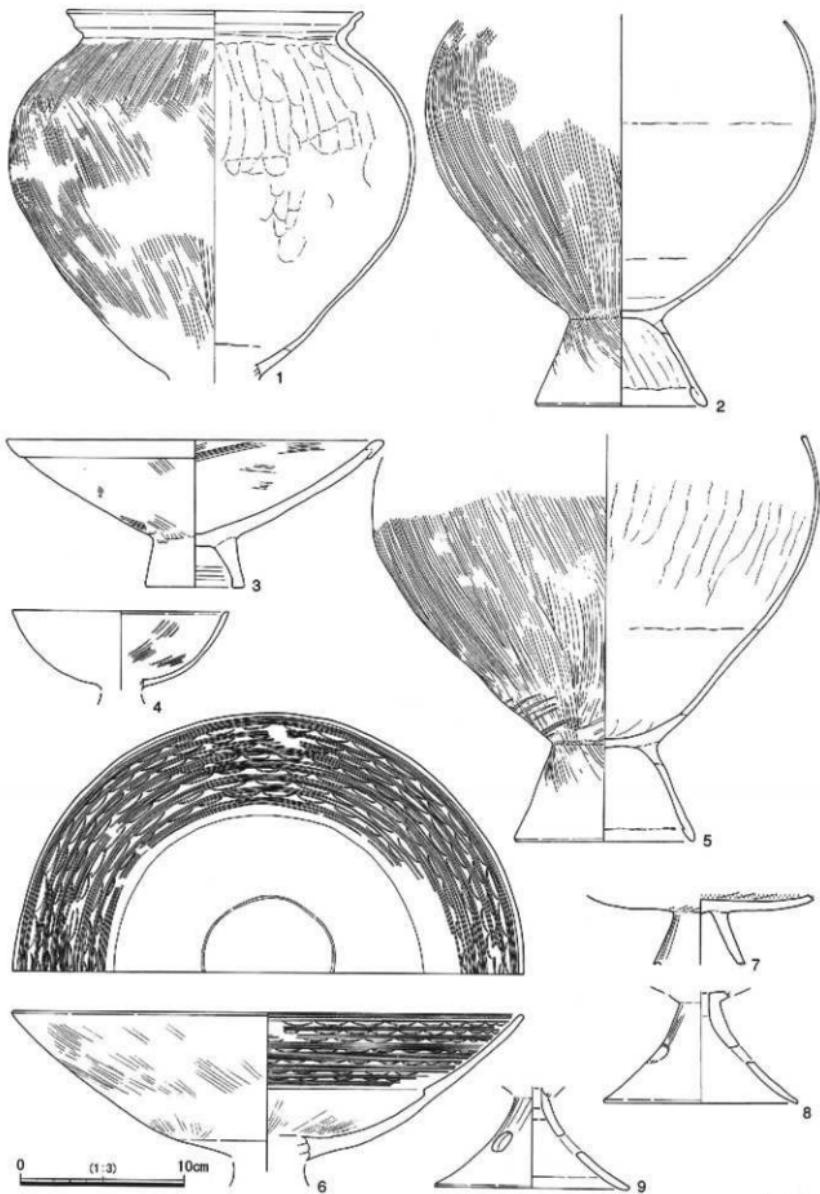
図版110



グリット

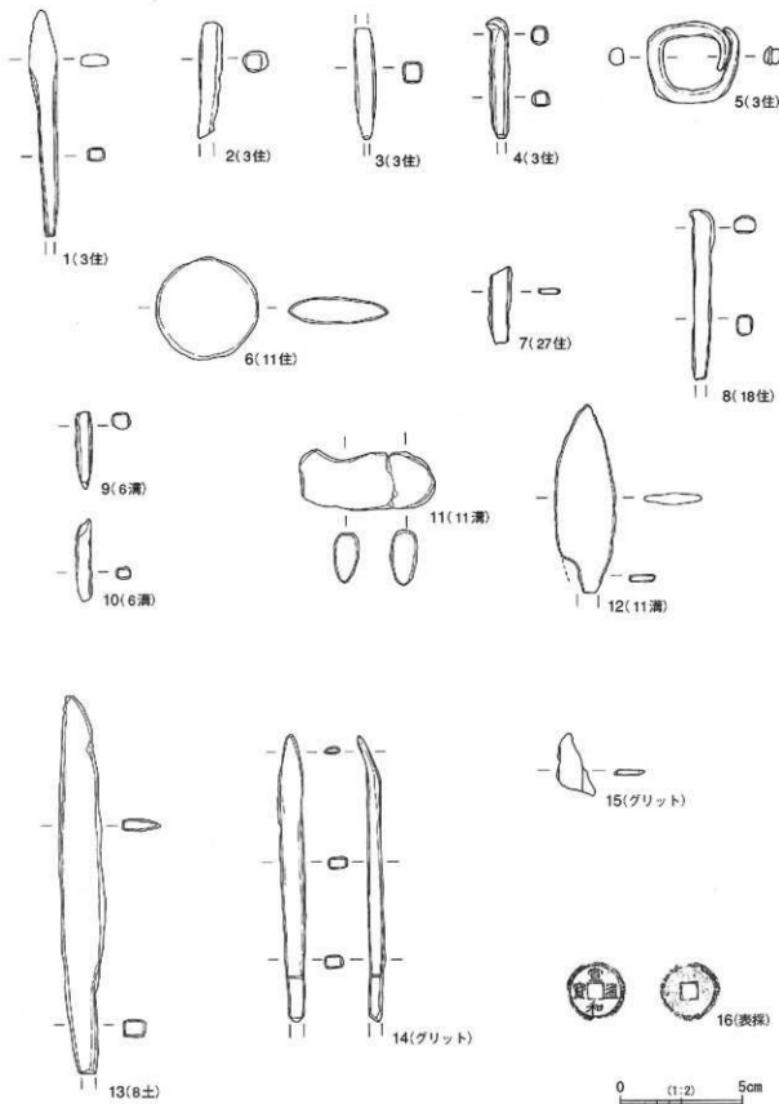
出土遺物 (29)

図版111



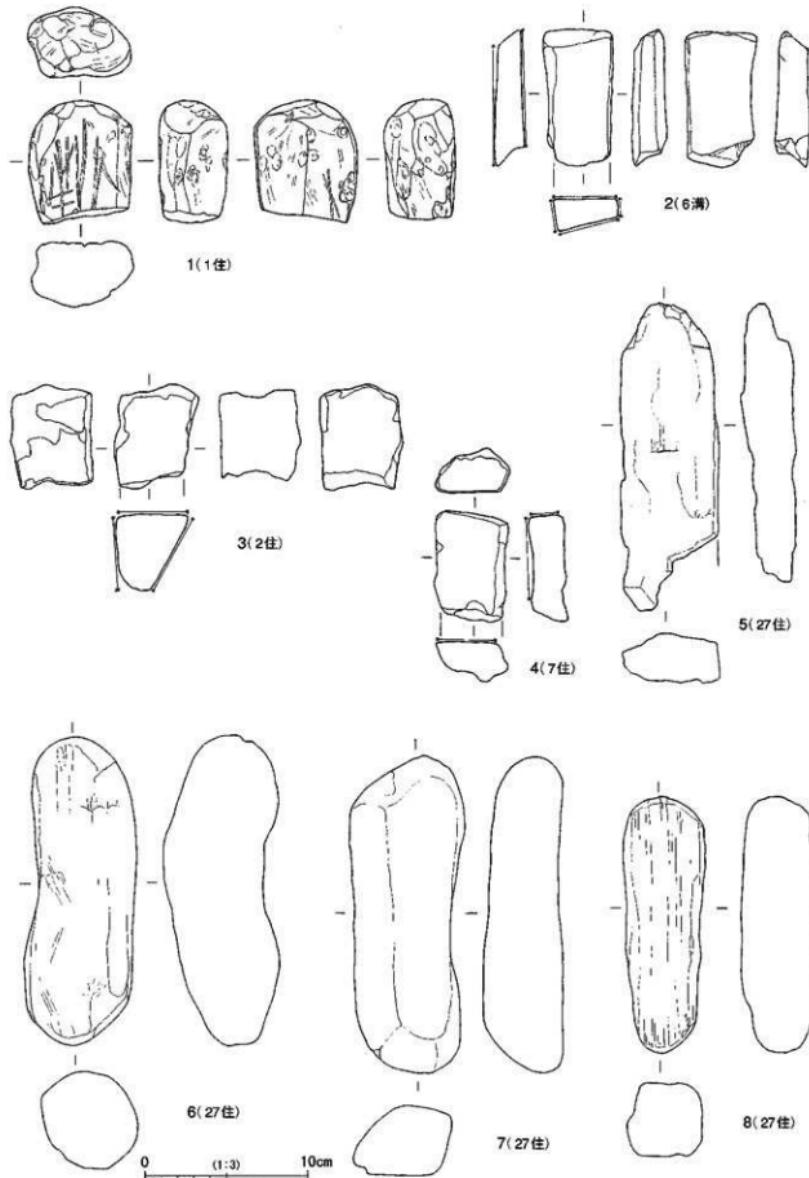
出土遺物 (30)

グリット

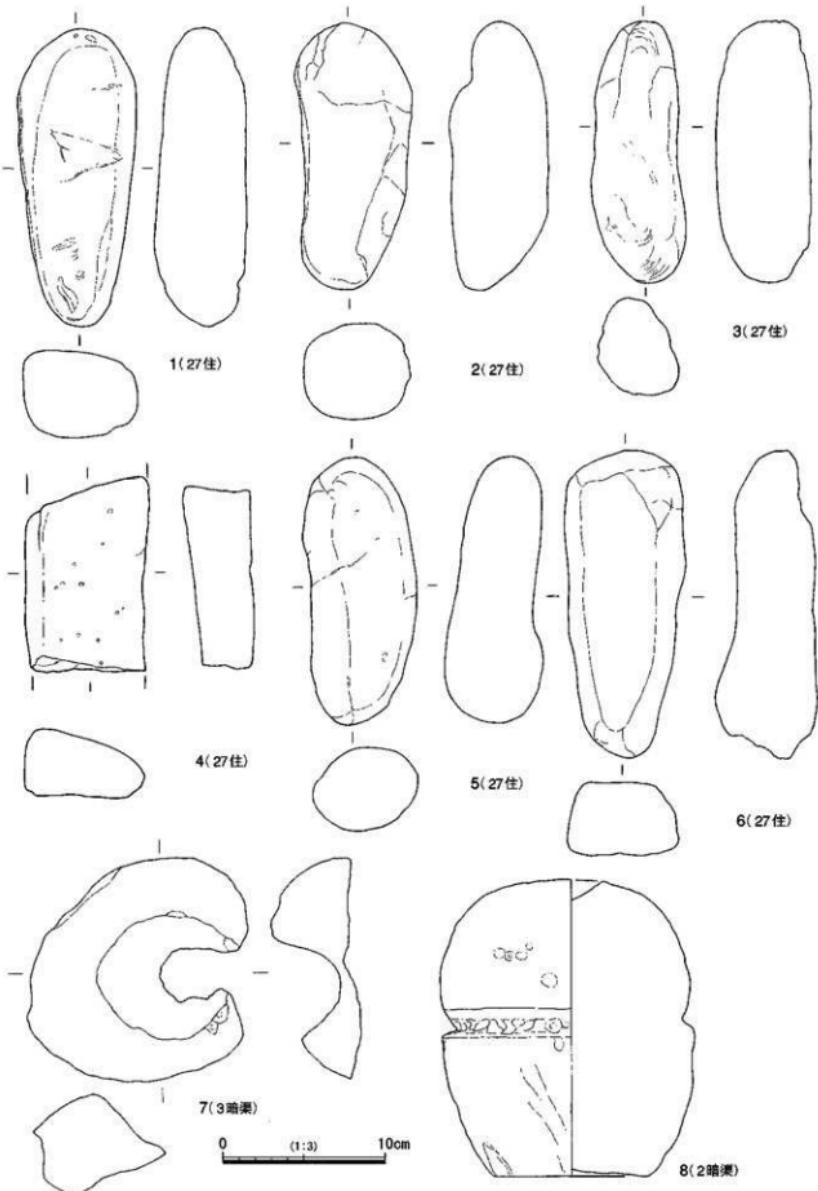


出土鉄器

図版113



出土石器 (1)



出土石器 (2)



1 A区航空写真



2 B区航空写真

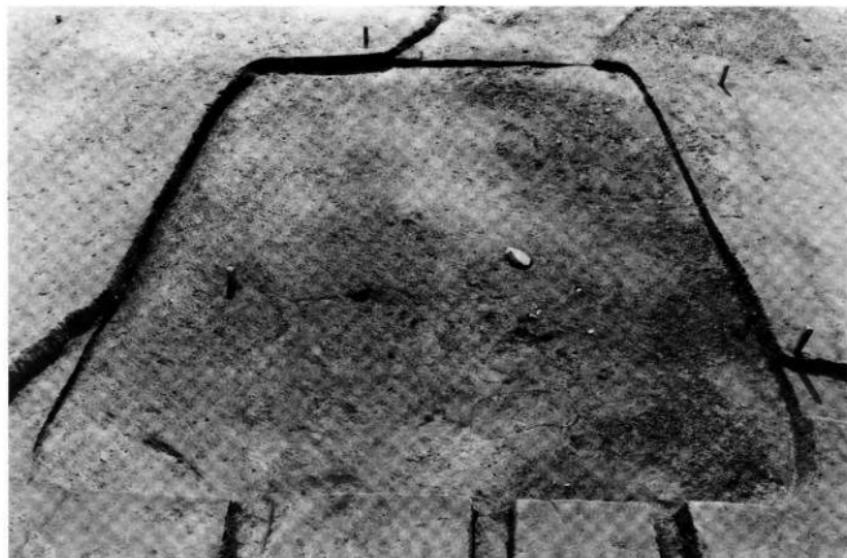
図版116



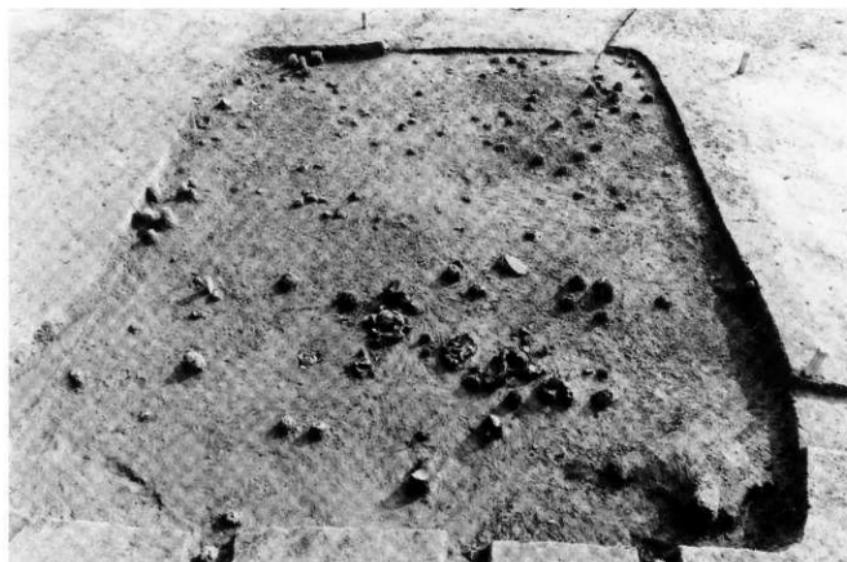
1 C・D区航空写真



2 E区航空写真



1 1号竪穴住居全景



2 同遺物出土状況(1)

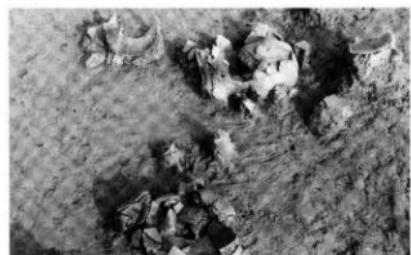
図版118



1 1号竪穴住居遺物出土状況(2)



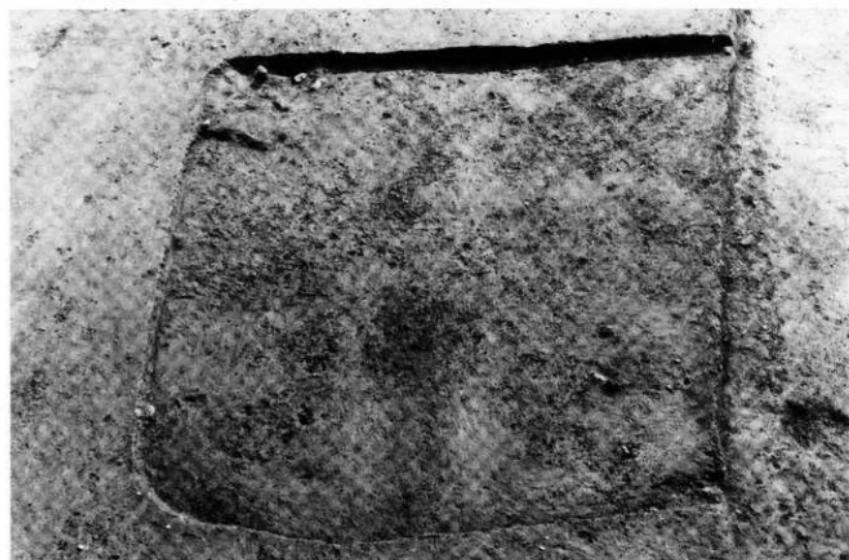
2 同(3)



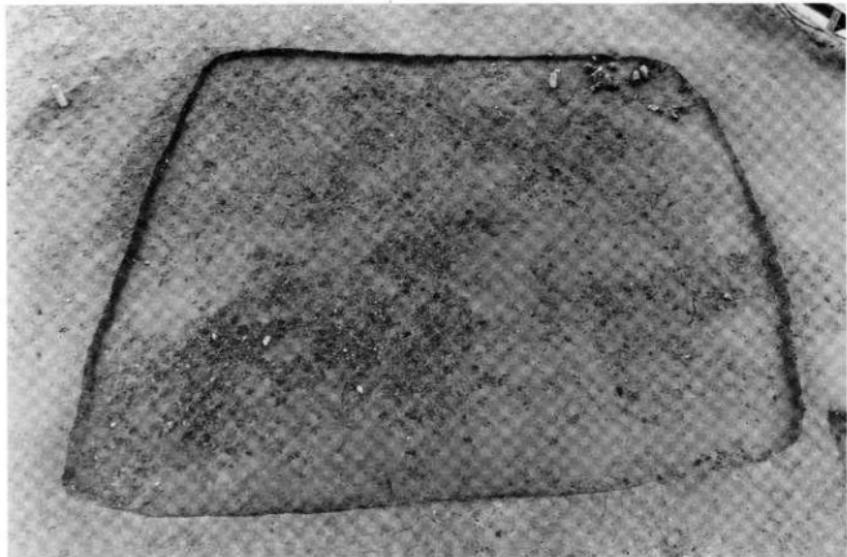
3 同(4)



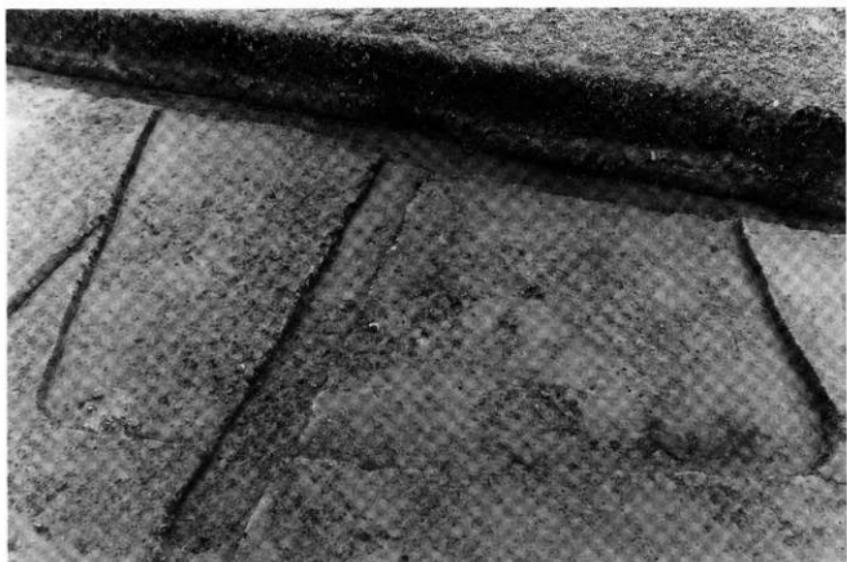
4 同(5)



5 2号竪穴住居全景



1 3号竪穴住居全景



2 4号竪穴住居全景

図版120



1 4号竪穴住居遺物出土状況(1)



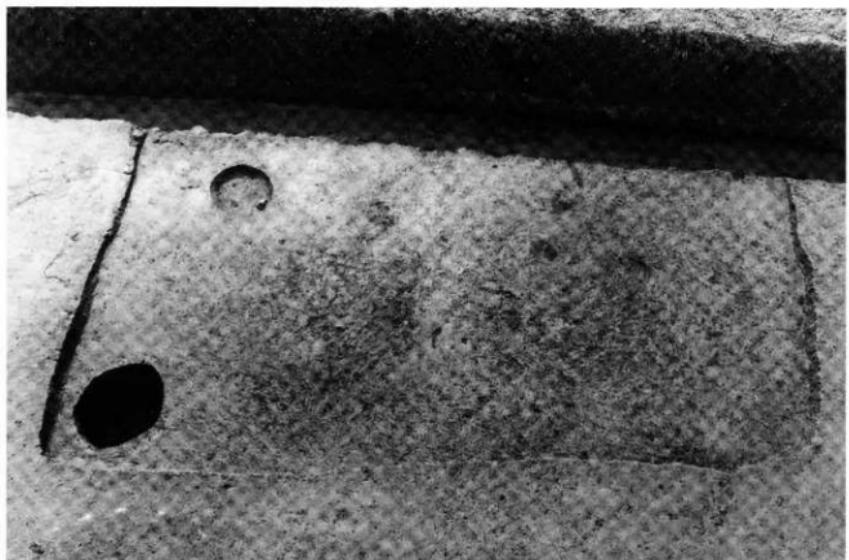
2 同(2)



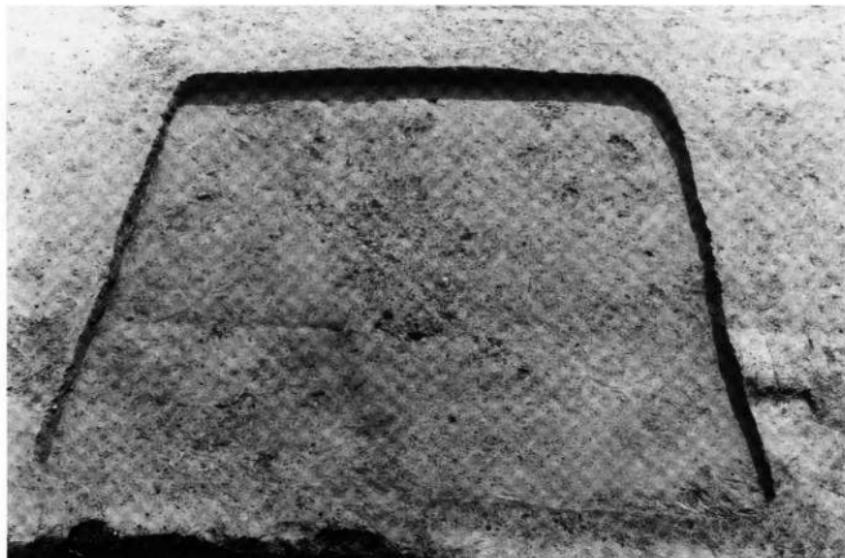
3 同(3)



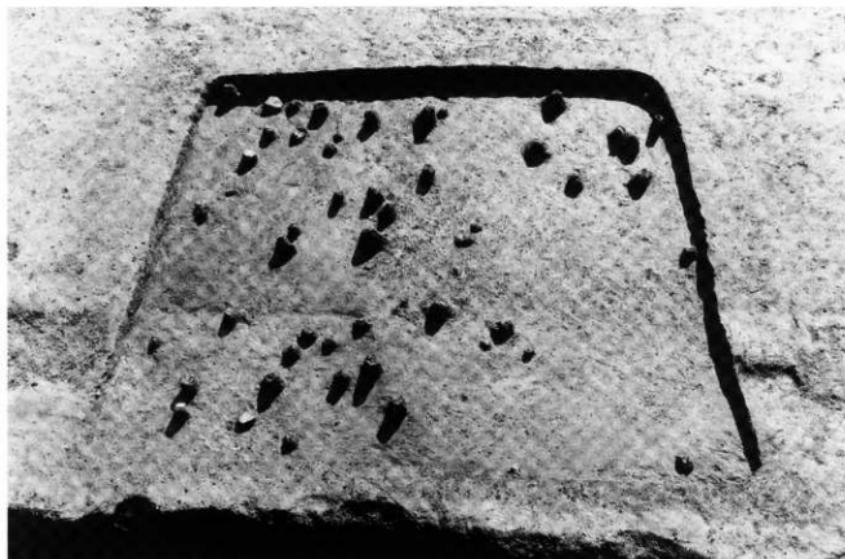
4 同(4)



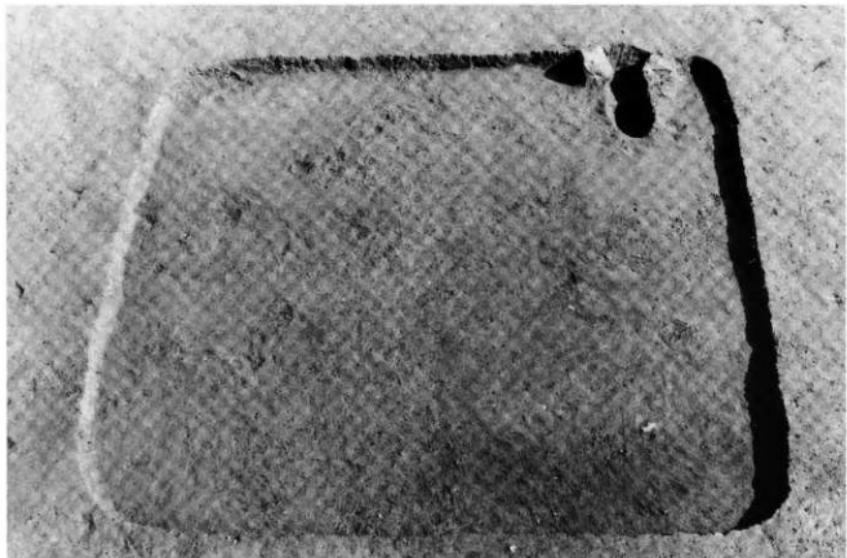
5 5号竪穴住居全景



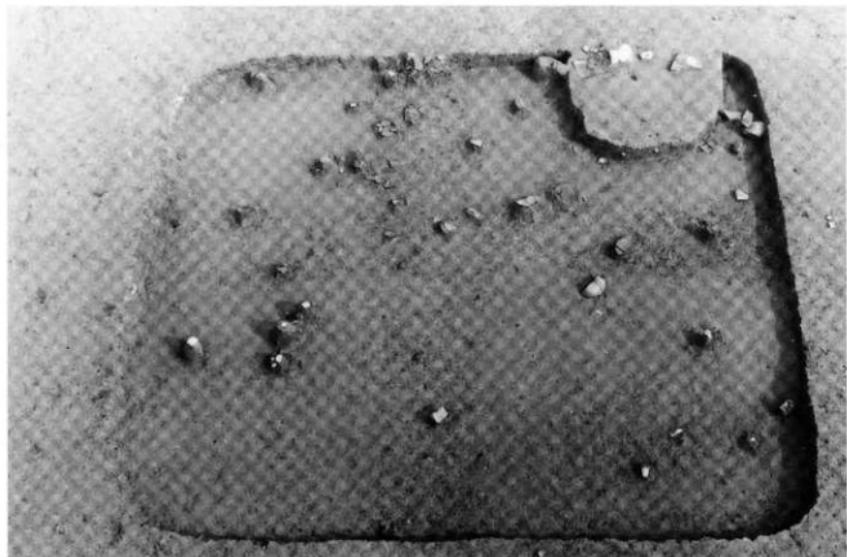
1 6号竪穴住居全景



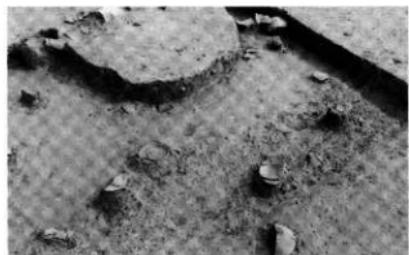
2 同遺物出土状況



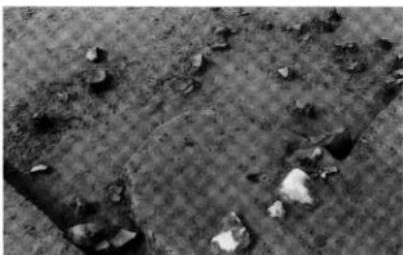
1 7号竪穴住居全景



2 同遺物出土状況(1)



1 7号竪穴住居遺物出土状況(2)



2 同(3)



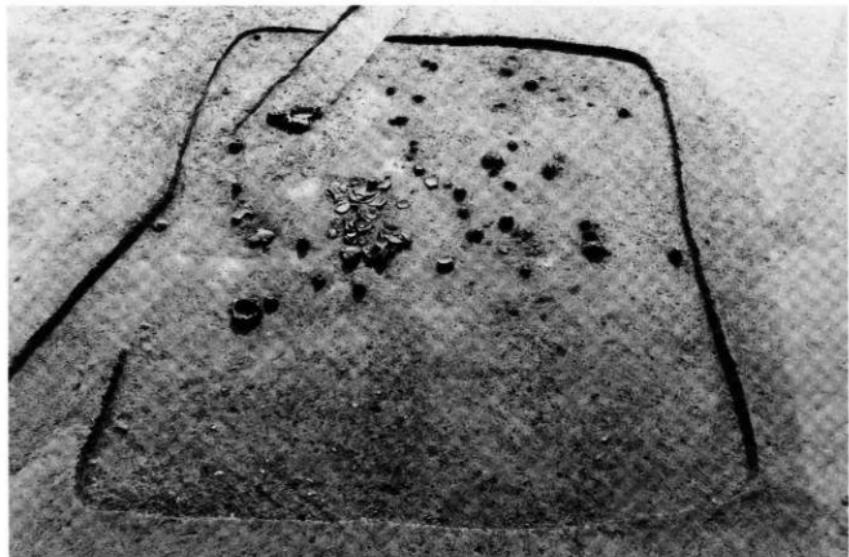
3 同力マド



4 同遺物出土状況



5 8号竪穴住居全景



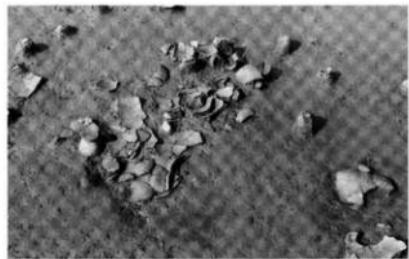
1 8号整穴住居遺物出土状況(1)



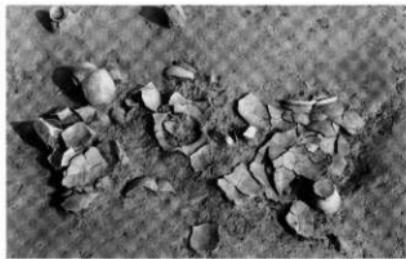
2 同(2)



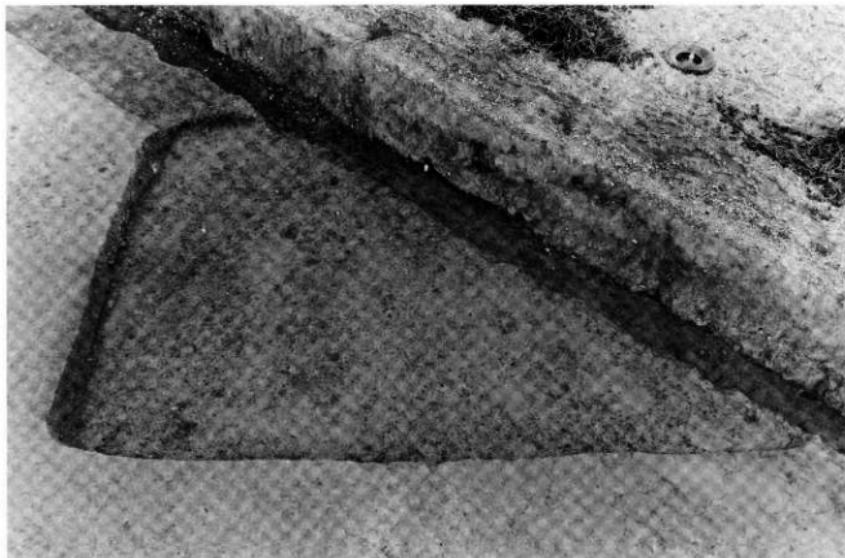
3 同(3)



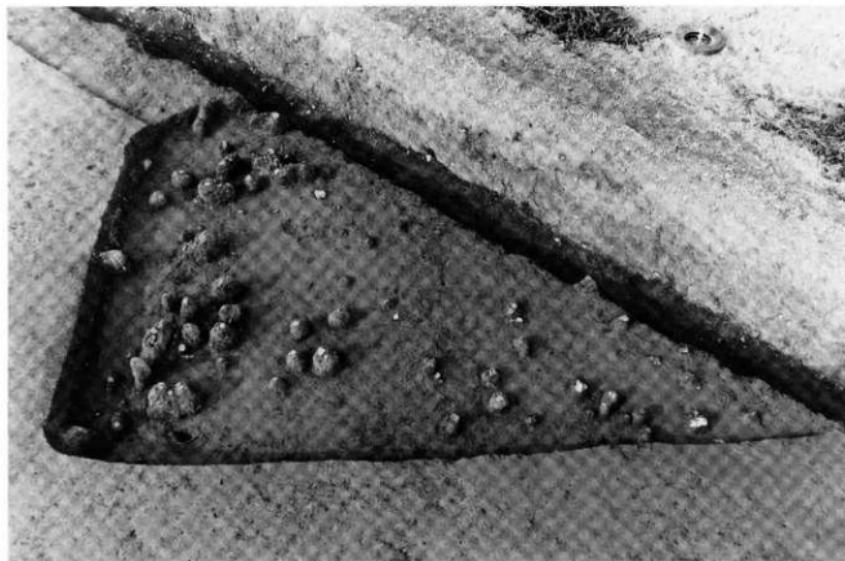
4 同(4)



5 同(5)

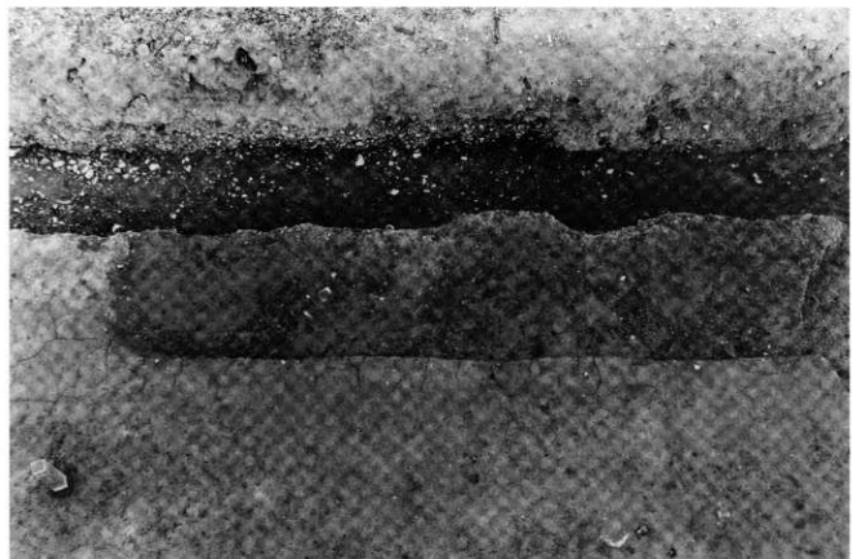


1 9号竪穴住居全景

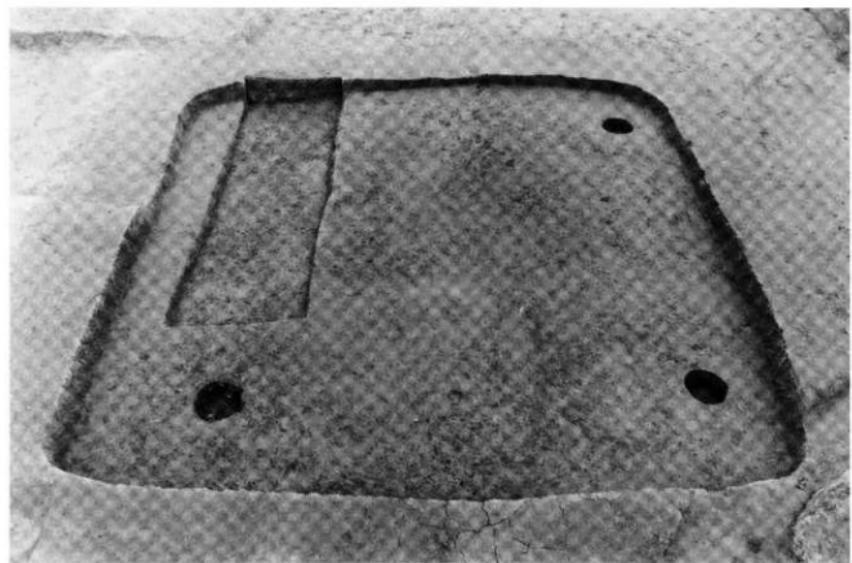


2 同遺物出土状況

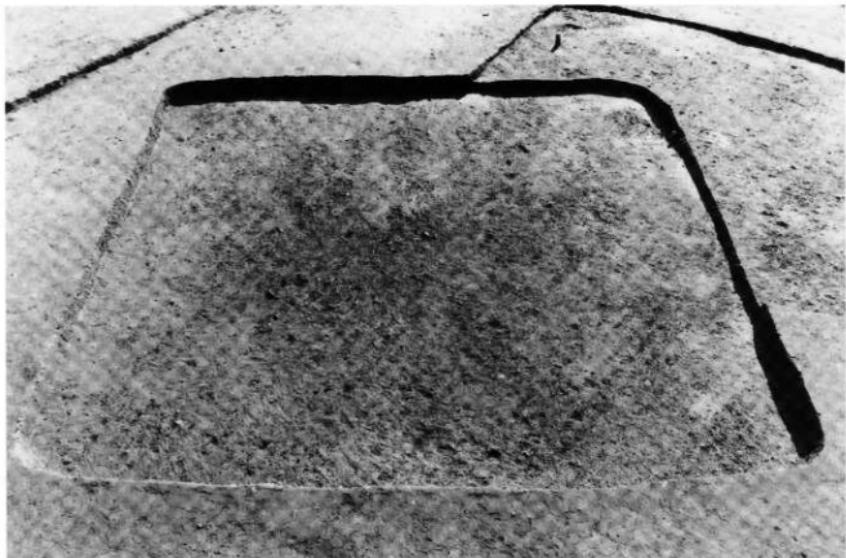
図版126



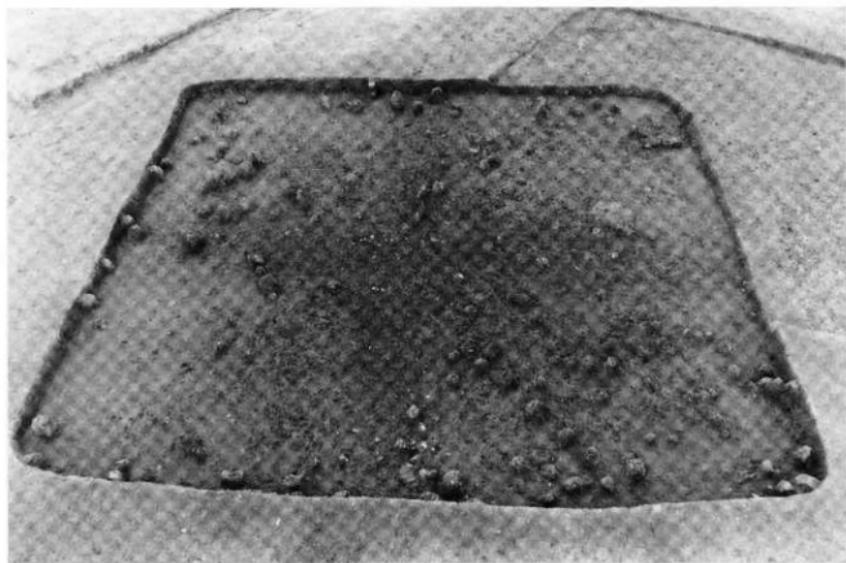
1 10号竪穴住居全景



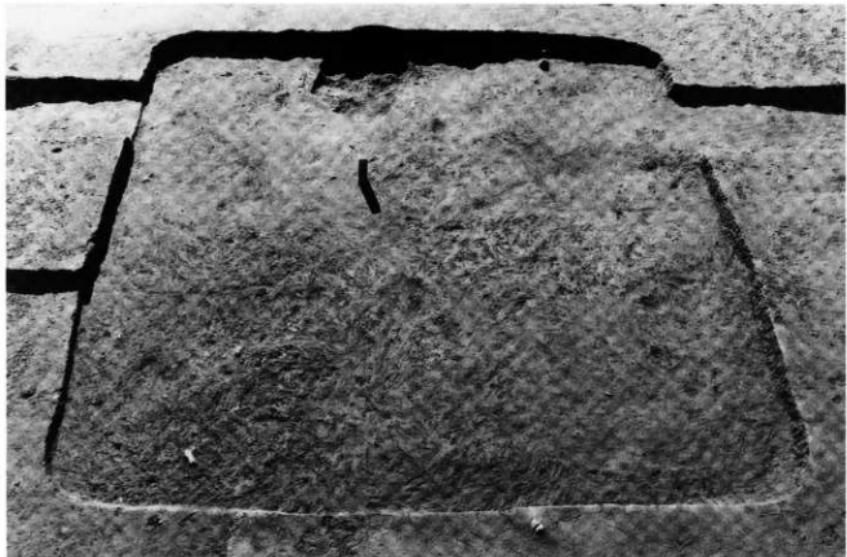
2 11号竪穴住居全景



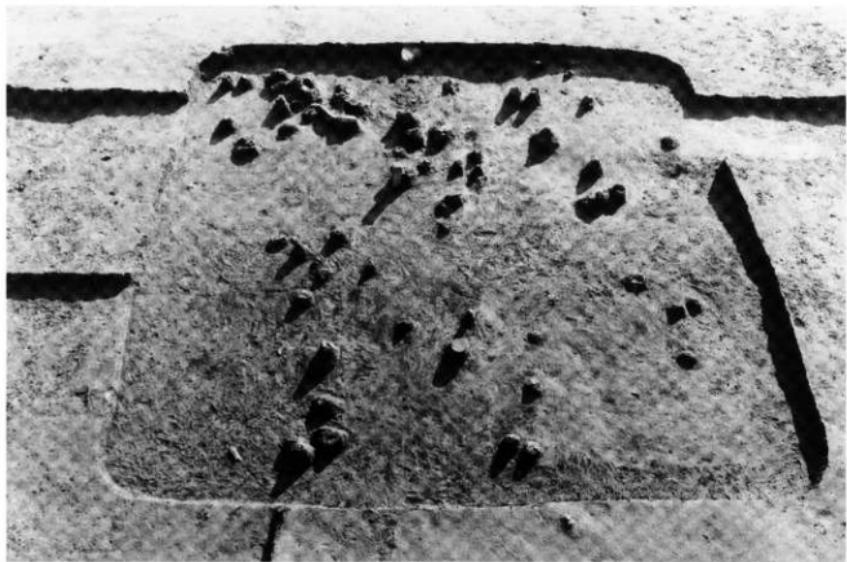
1 12号竪穴住居全景



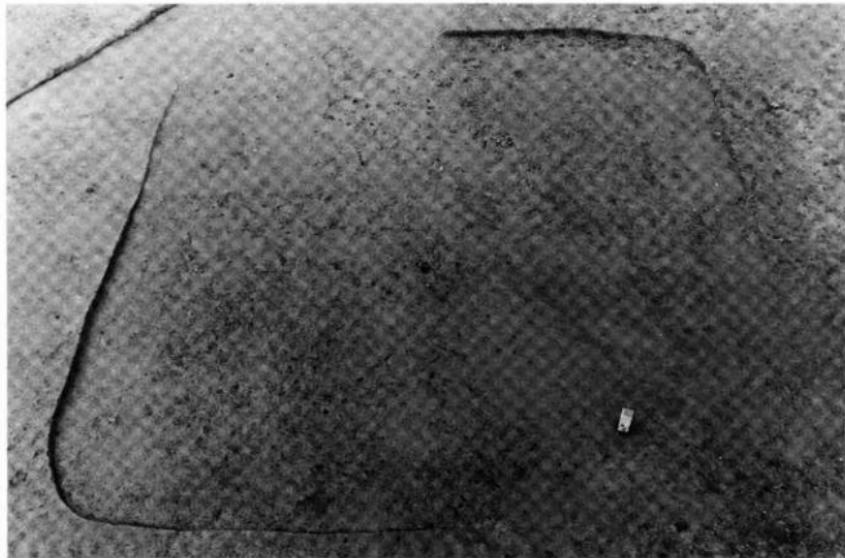
2 同遺物出土状況



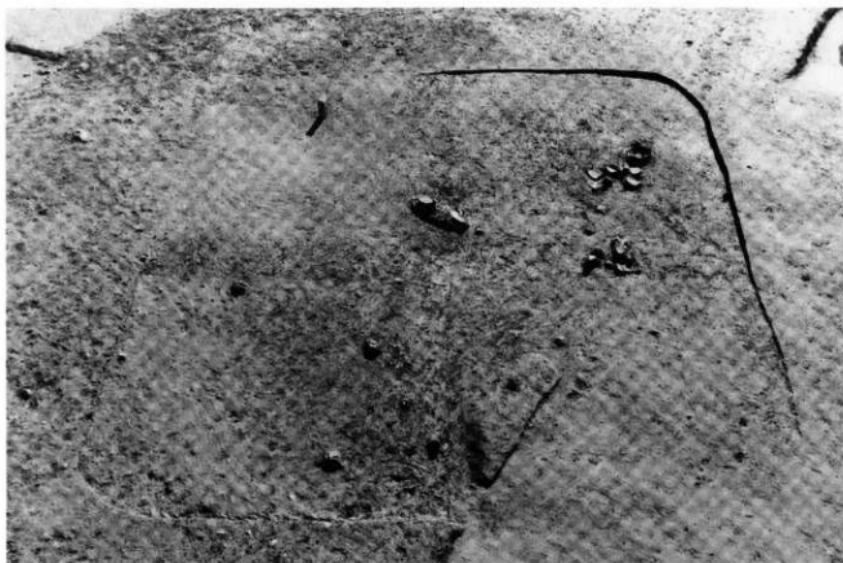
1 13号竪穴住居全景



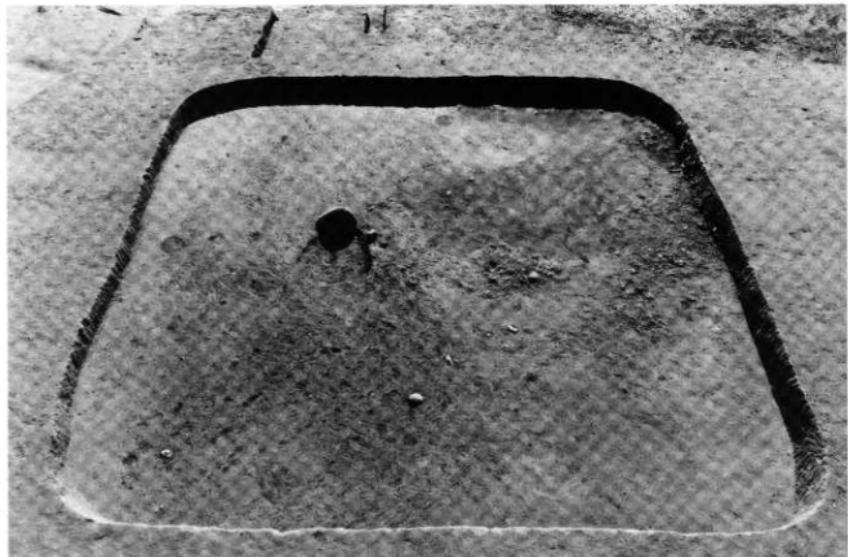
2 同遺物出土状況



1 14号竪穴住居全景



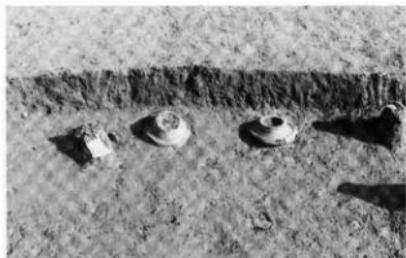
2 同遺物出土状況



1 15号竪穴住居全景



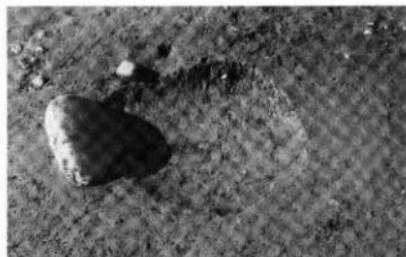
2 同遺物出土状況(1)



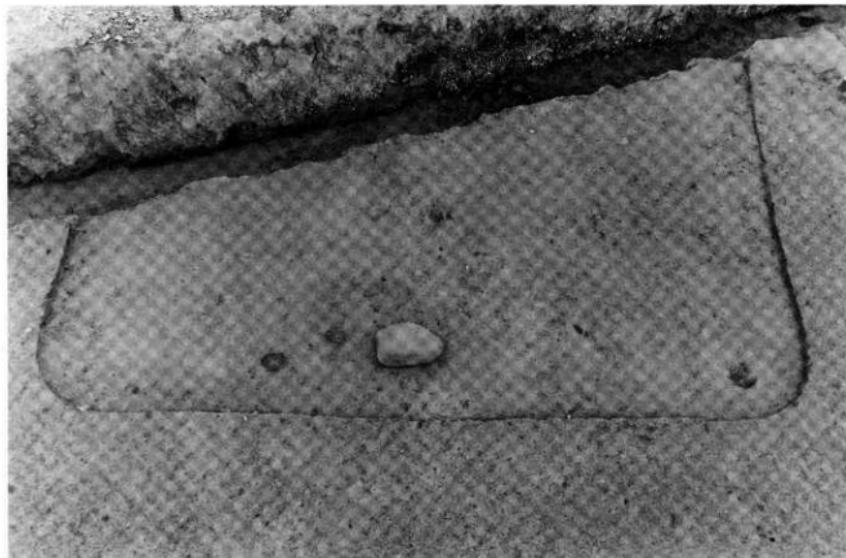
3 同(2)



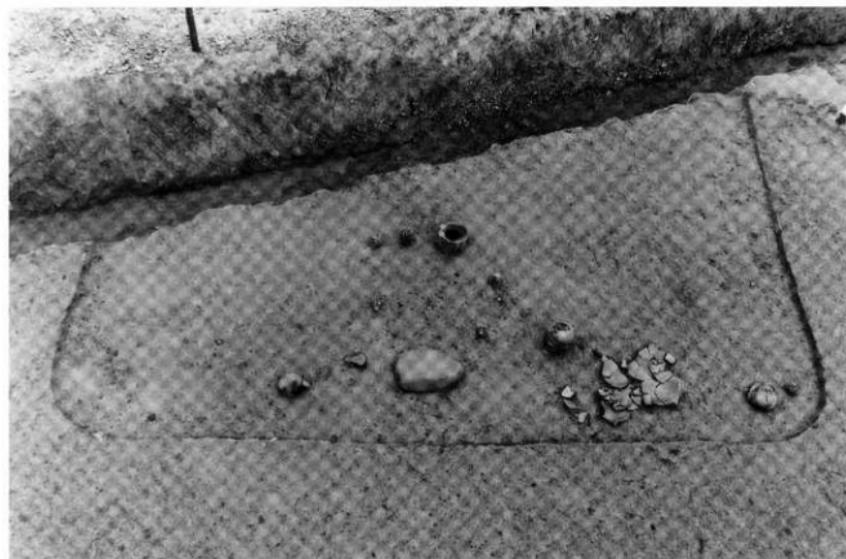
4 同(3)



5 同炉

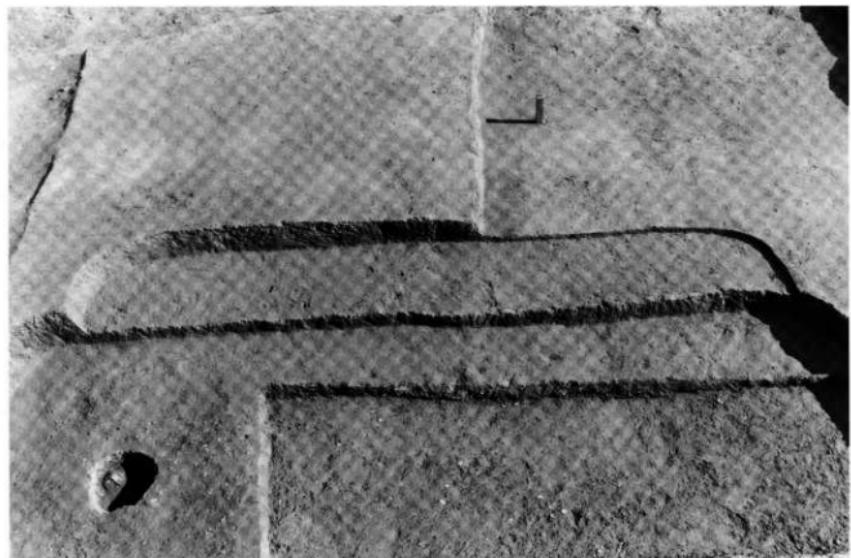


1 16号竪穴住居全景

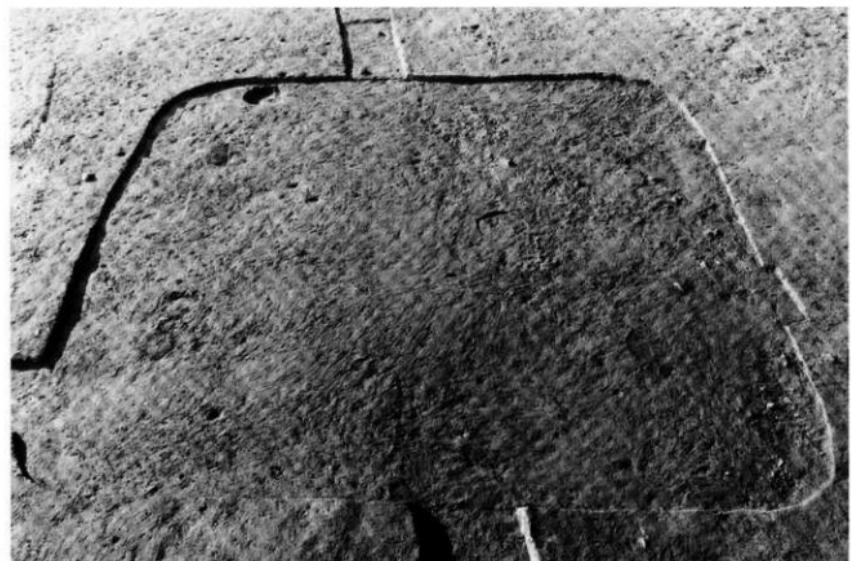


2 同遺物出土状況

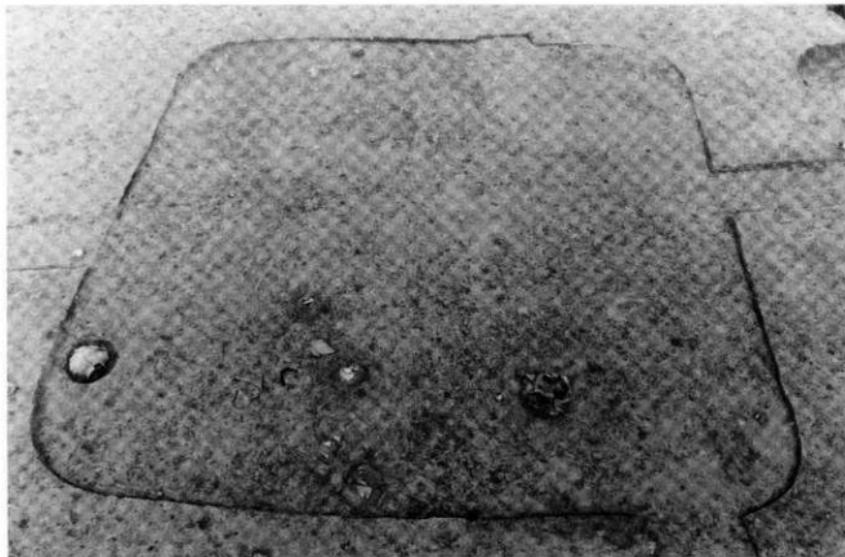
図版132



1 17号竪穴住居全景



2 18号竪穴住居全景



1 18号竪穴住居遺物出土状況(1)



2 同(2)



3 同(3)

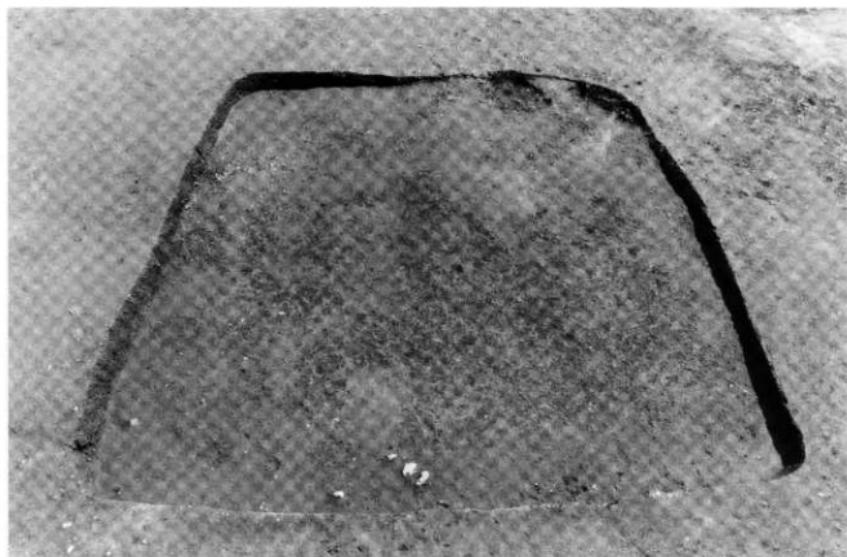


4 同ピット



5 同炉

図版134



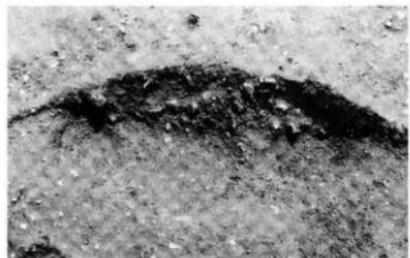
1 19号竪穴住居全景



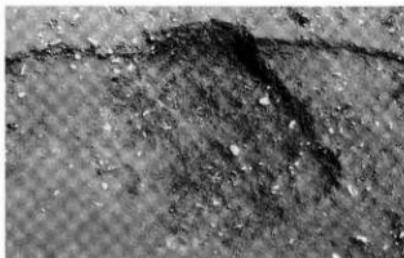
2 同遺物出土状況(1)



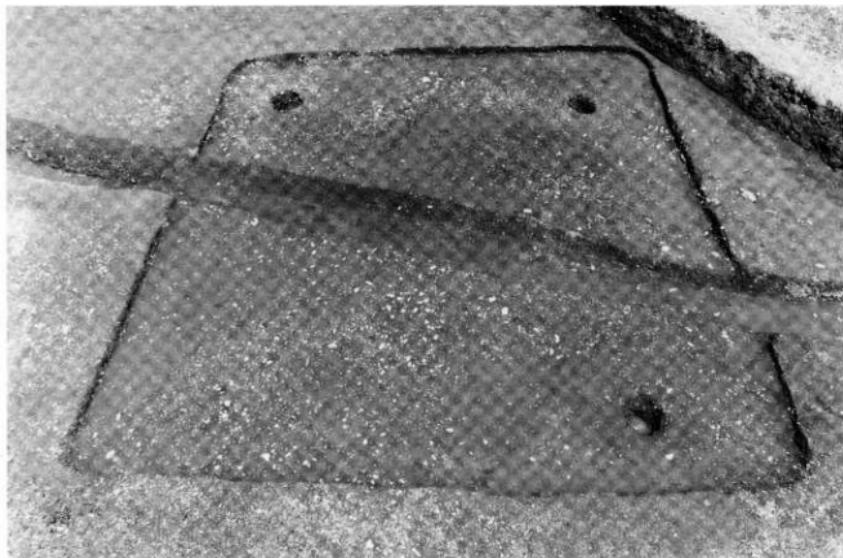
3 同(2)



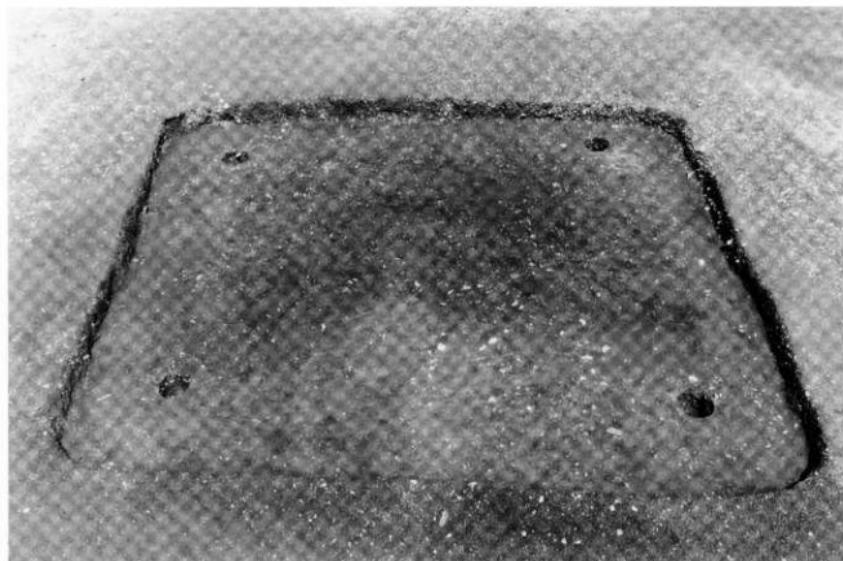
4 同カマド



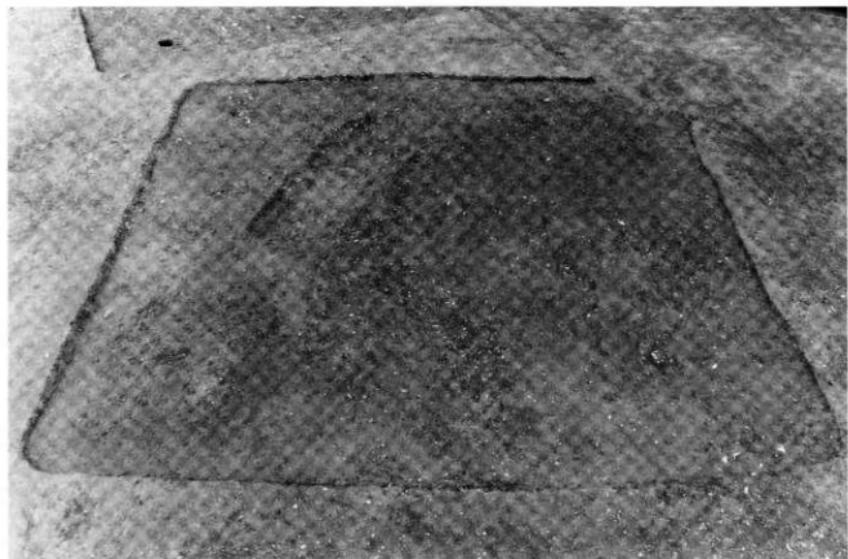
5 同旧カマド



1 20号竪穴住居全景



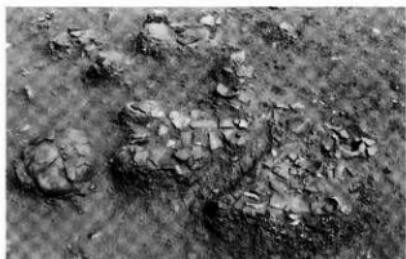
2 21号竪穴住居全景



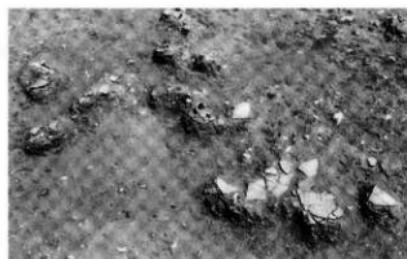
1 22号竪穴住居全景



2 同遺物出土状況(1)



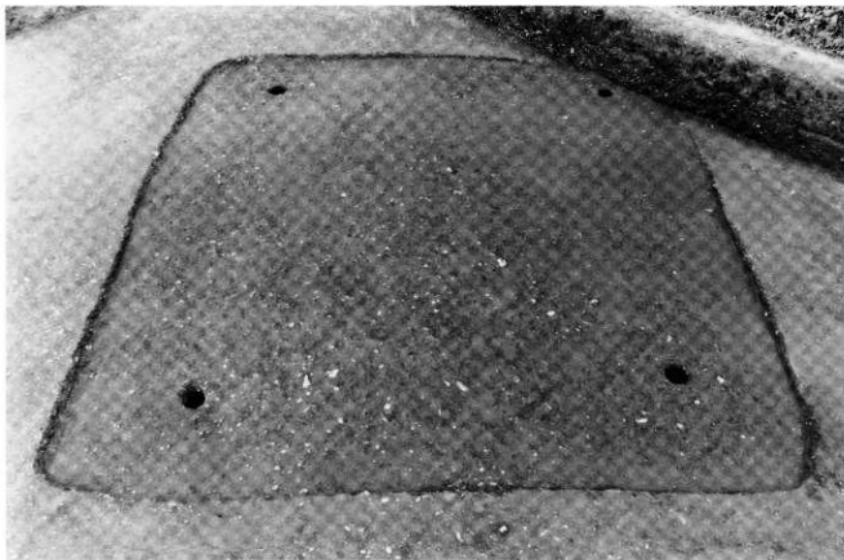
3 同(2)



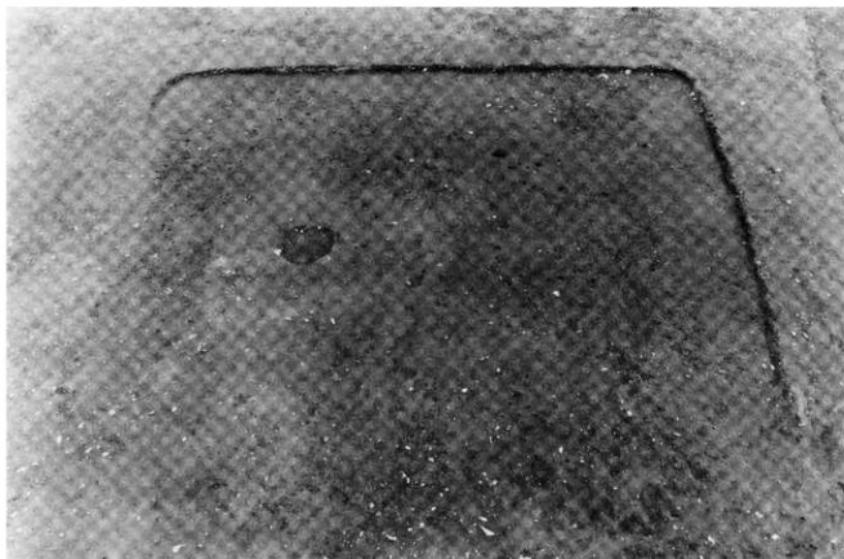
4 同(3)



5 同(4)

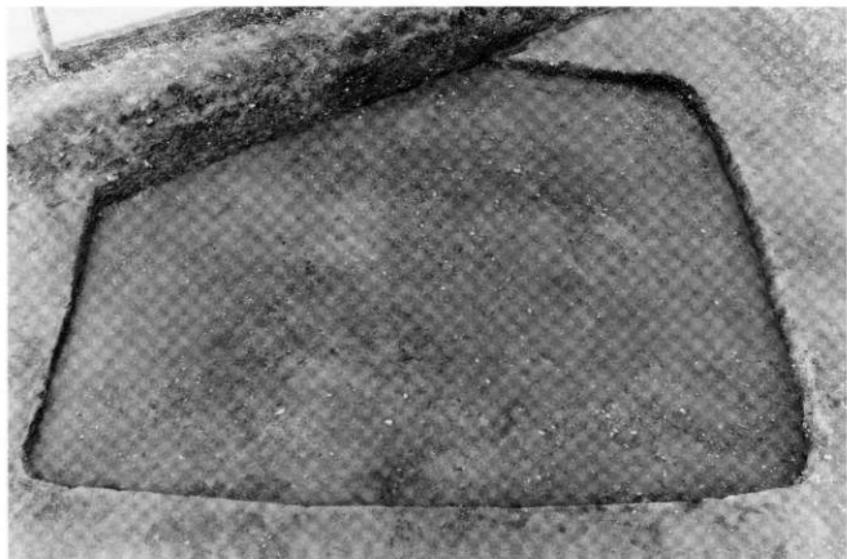


1 23号竪穴住居全景

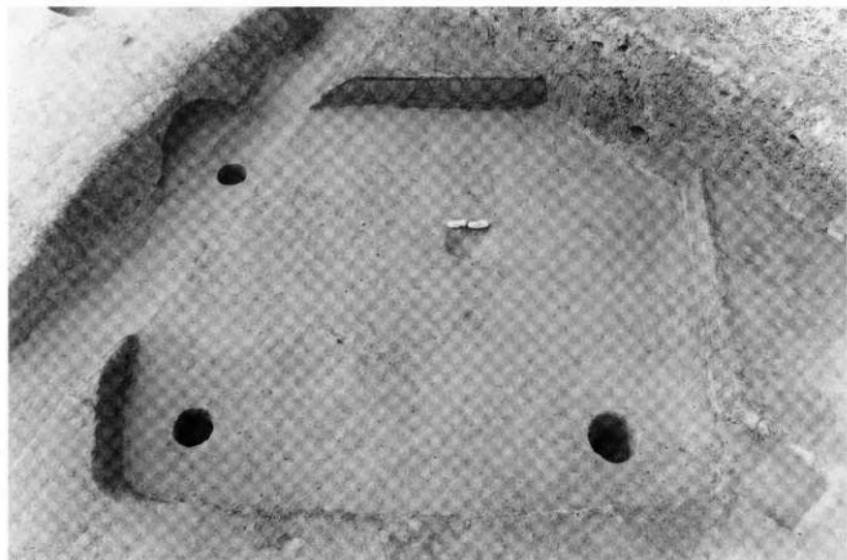


2 24号竪穴住居全景

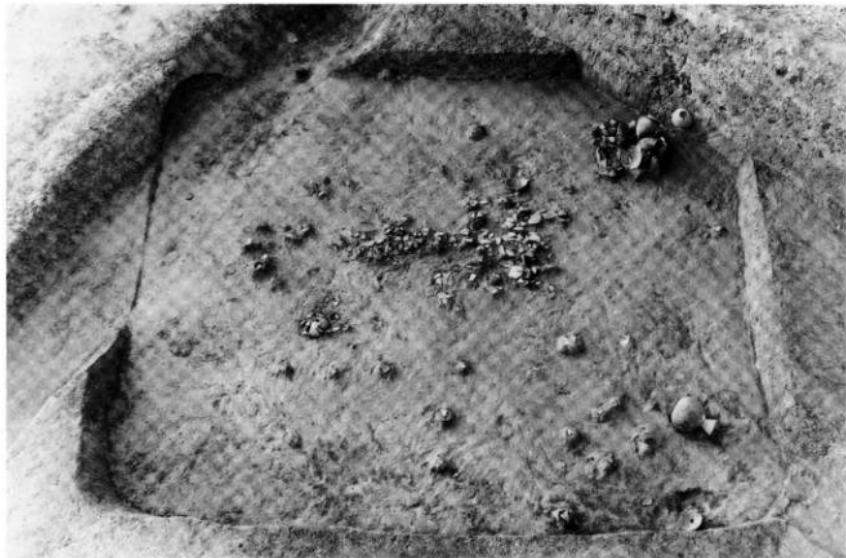
図版138



1 25号竪穴住居全景



2 26号竪穴住居全景



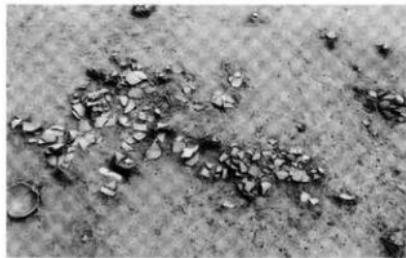
1 26号竪穴住居遺物出土状況(1)



2 同(2)



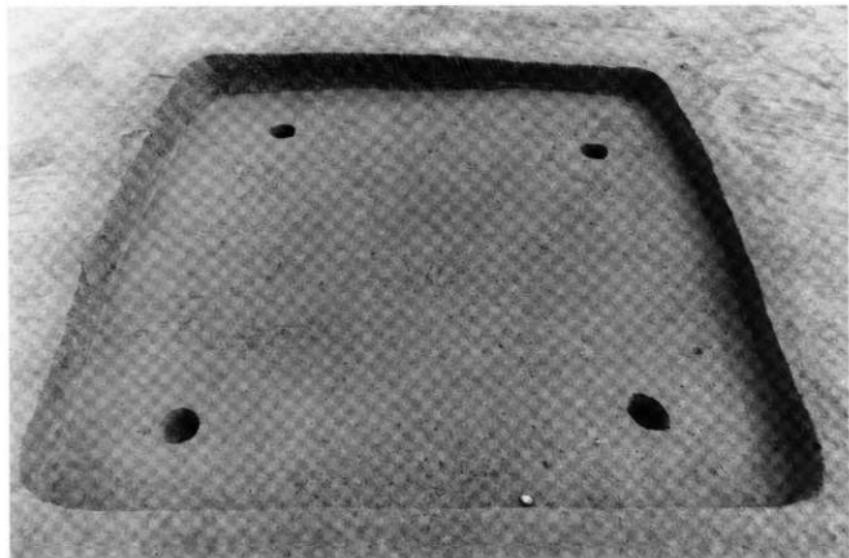
3 同(3)



4 同(4)



5 同炉



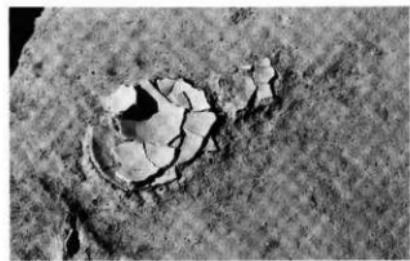
1 27号竪穴住居全景



2 同遺物出土状況(1)



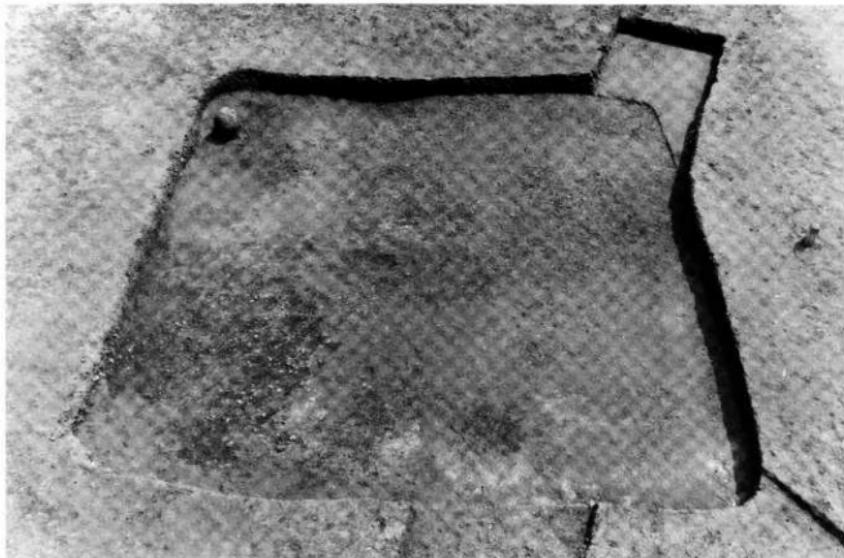
3 同(2)



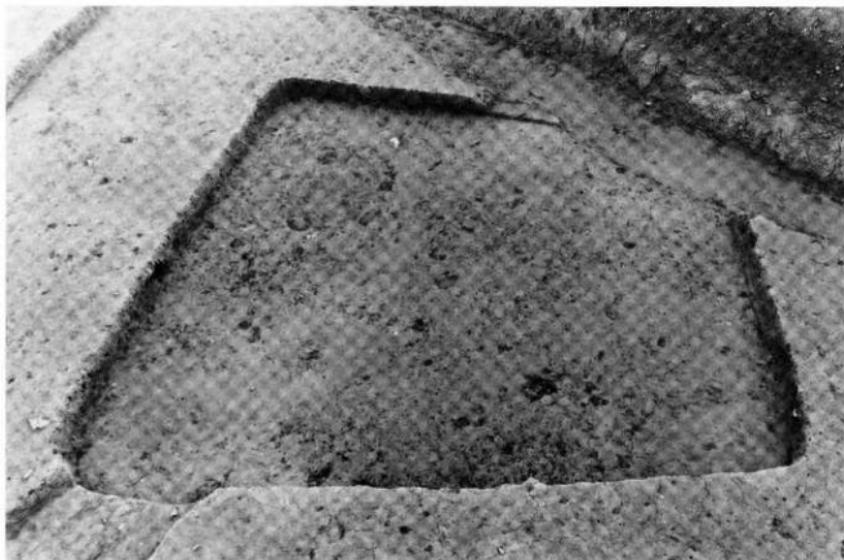
4 同(3)



5 同(4)



1 28号竪穴住居全景



2 1号竪穴状遺構全景



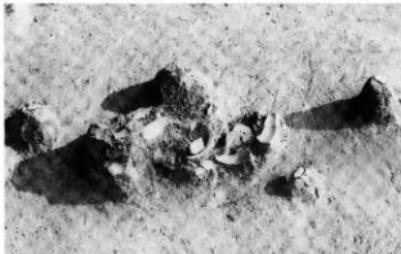
1 1号竪穴状遺構遺物出土状況



2 2号竪穴状遺構全景



1 2号竖穴状遺構遺物出土状況(1)



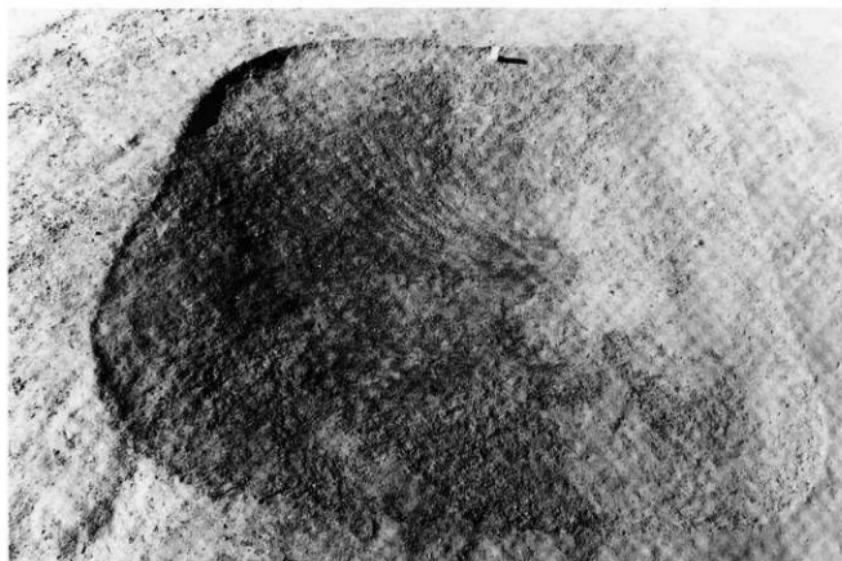
2 同(2)



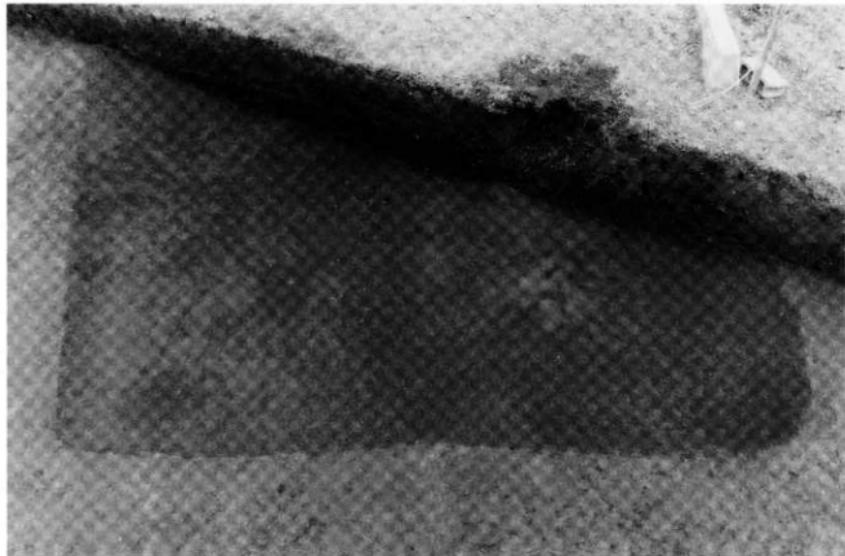
3 同(3)



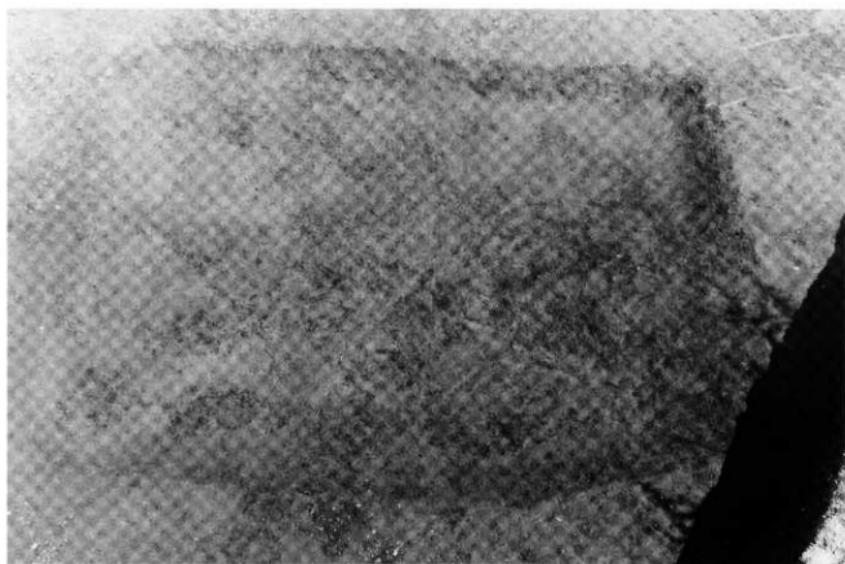
4 地割れ跡



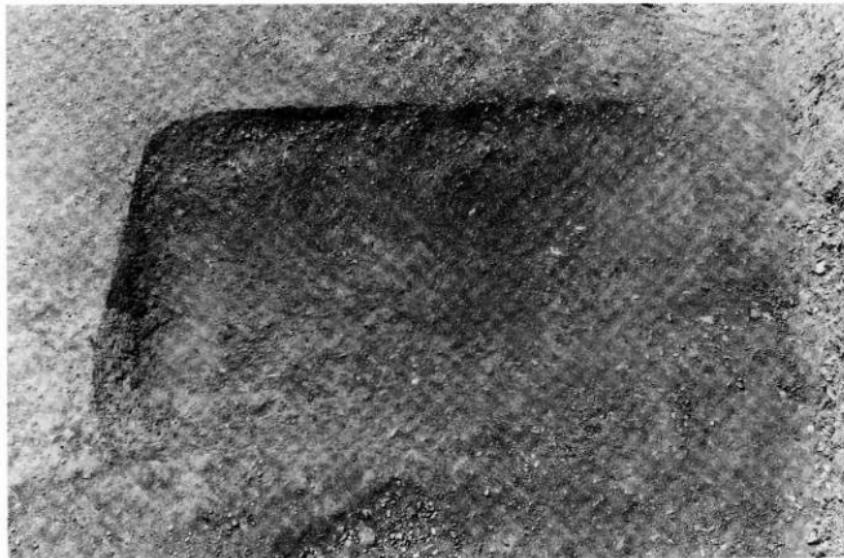
5 3号竖穴状遺構全景



1 4号竪穴状遺構全景



2 5号竪穴状遺構全景

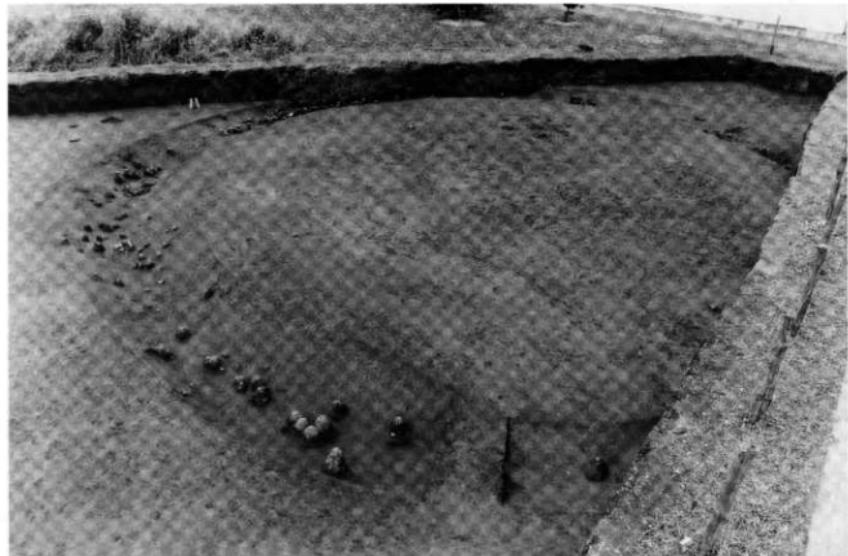


1 6号竪穴状遺構全景



2 1号填全景

図版146



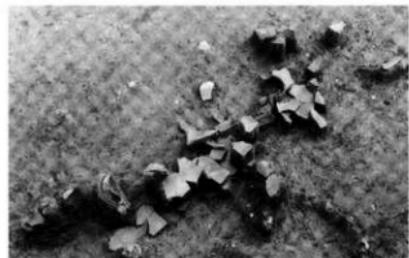
1 1号墳遺物出土状況(1)



2 同(2)



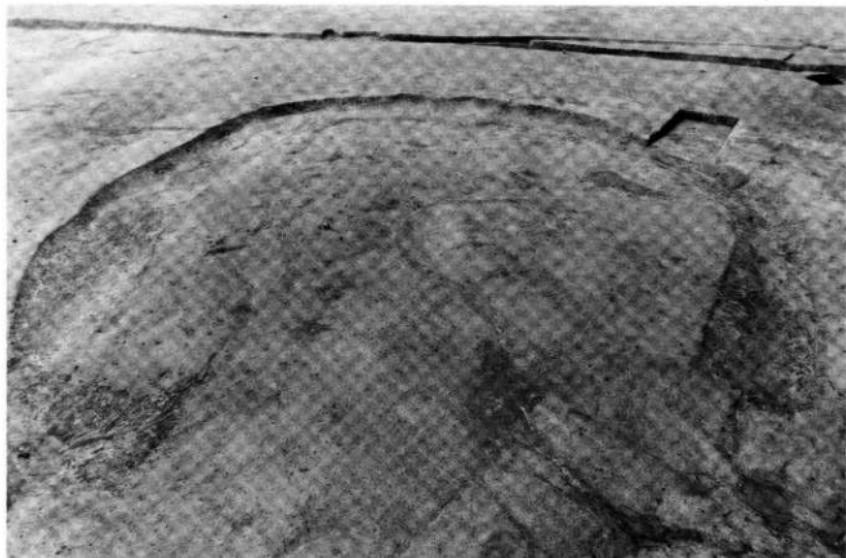
3 同(3)



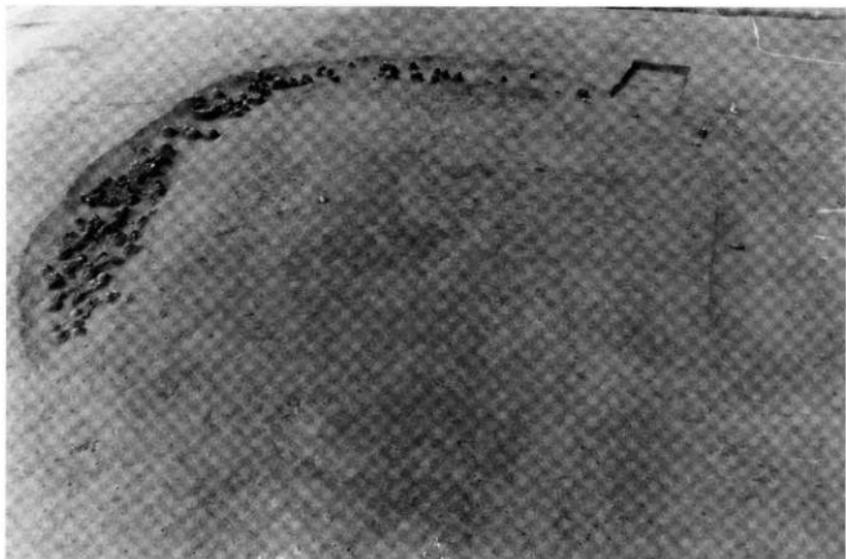
4 同(4)



5 同(5)

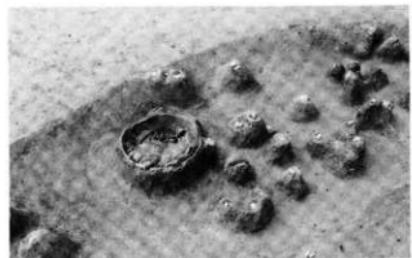


1 2号填全景



2 2号填遺物出土状況(1)

図版148



1 2号墳遺物出土状況(2)



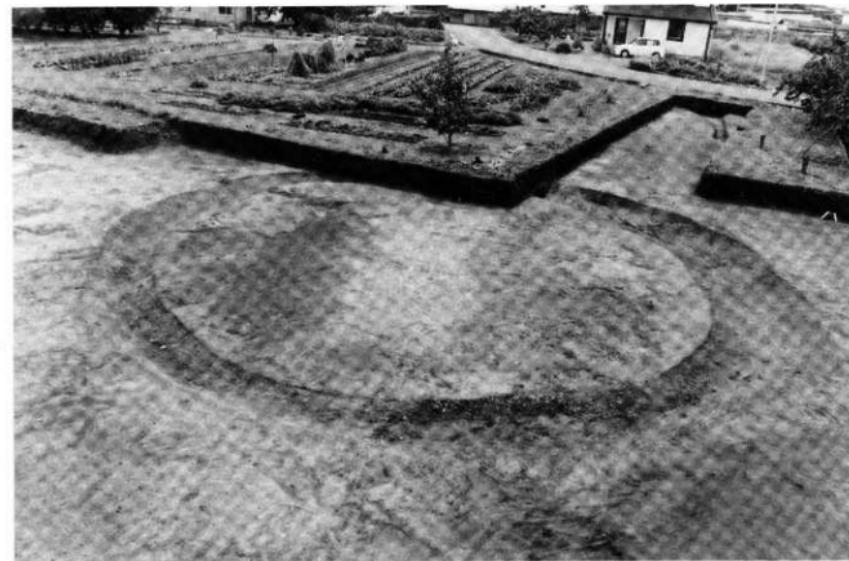
2 同(3)



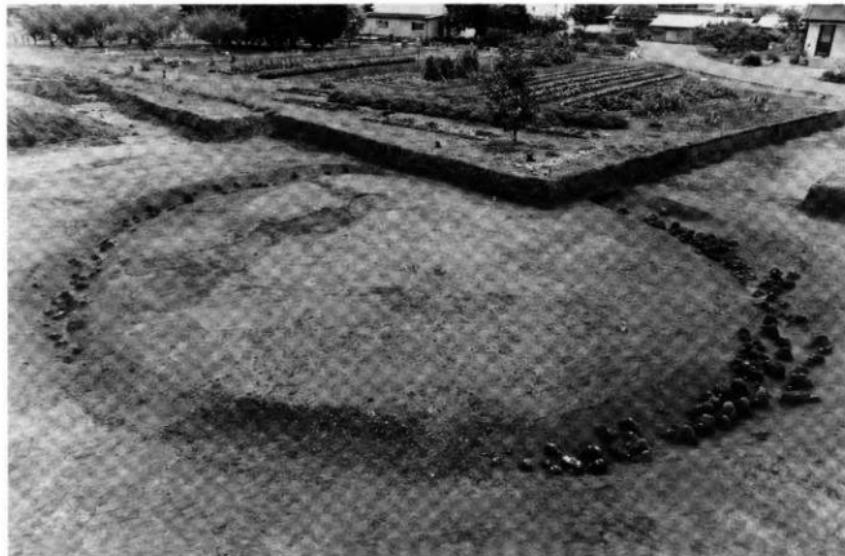
3 3号墳遺物出土状況(1)



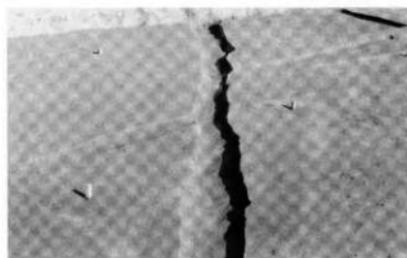
4 同(2)



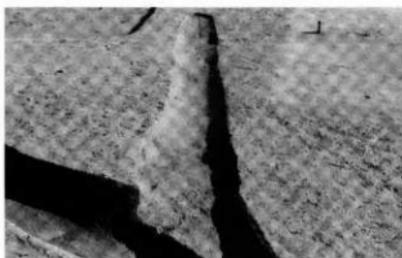
5 3号墳全景



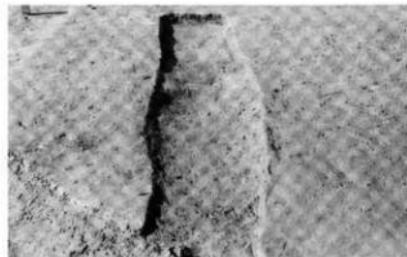
1 3号墳遺物出土状況(3)



2 1号溝全景



3 2号溝全景



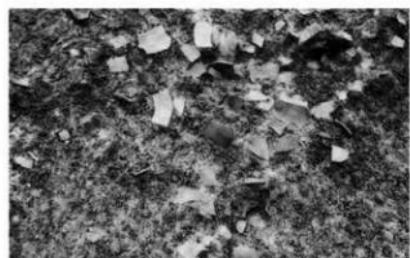
4 3号溝全景



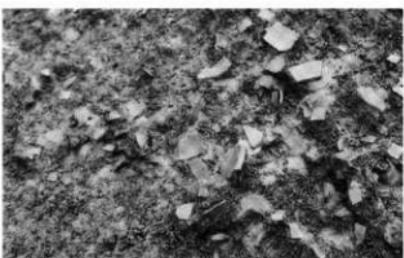
5 4・5号溝全景



1 6号溝全景



2 同遺物出土状況(1)



3 同(2)



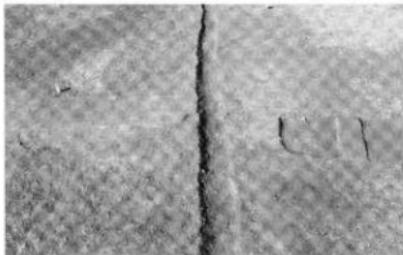
4 同東側セクション(1)



5 同(2)



1 7号溝全景



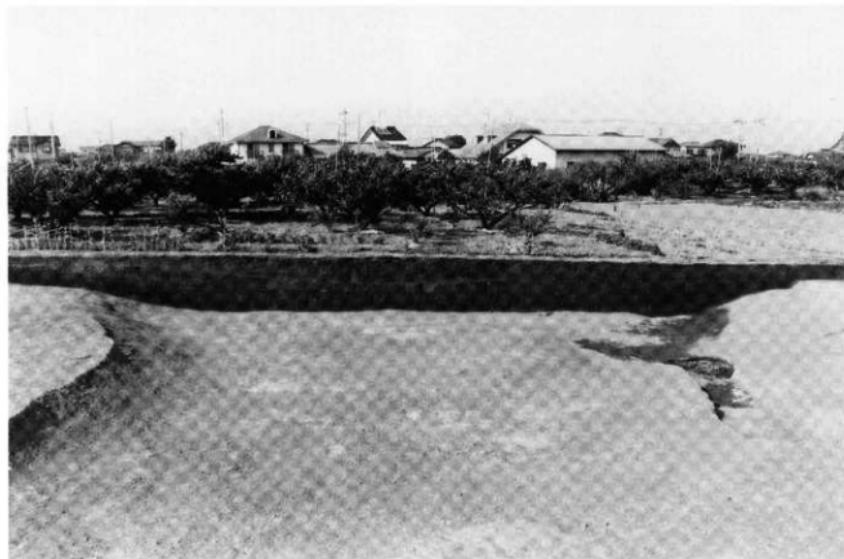
2 8号溝全景



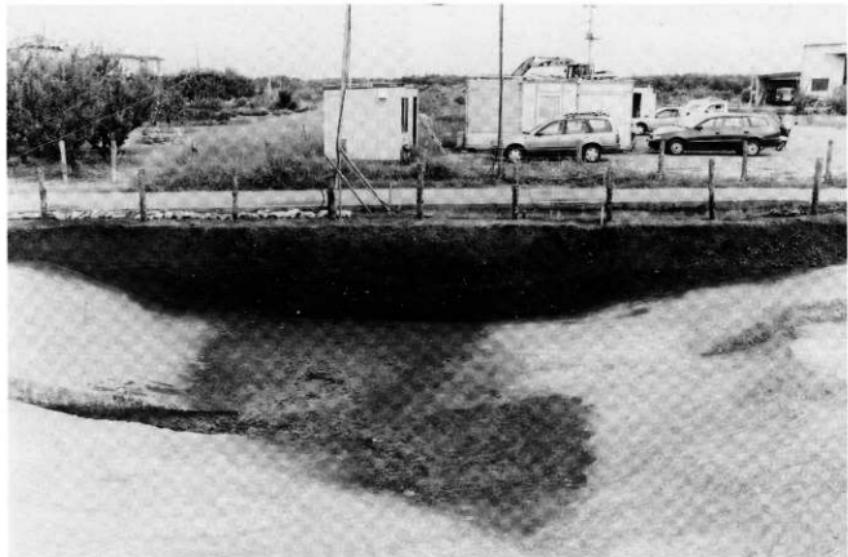
3 9号溝全景



4 10号溝全景



5 11号溝北側全景



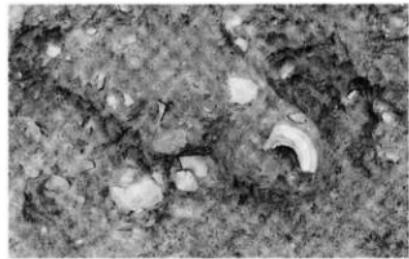
1 11号溝西侧全景



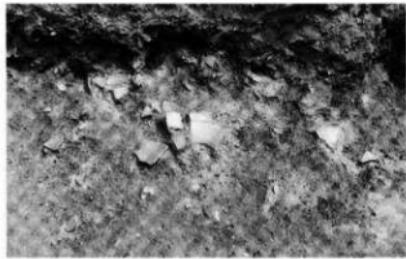
2 同遺物出土状況(1)



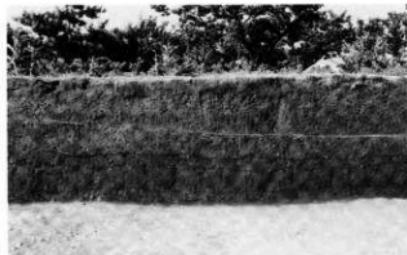
3 同(2)



4 同(3)



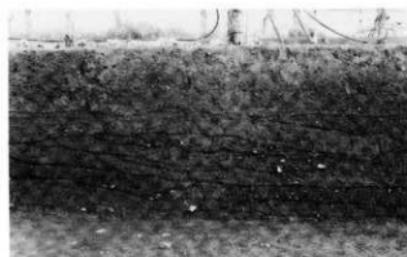
5 同(4)



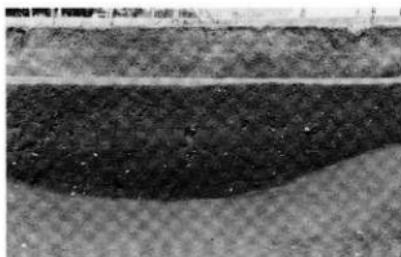
1 11号溝北側セクション(1)



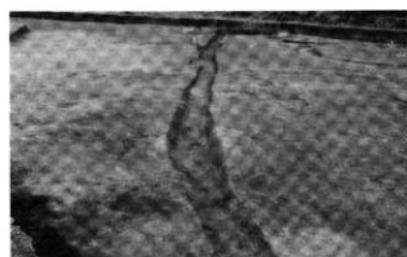
2 同(2)



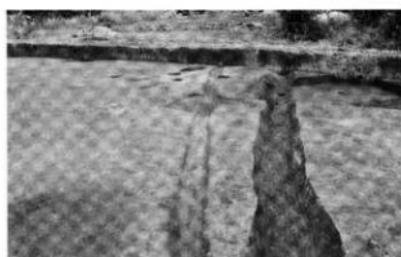
3 同西側セクション



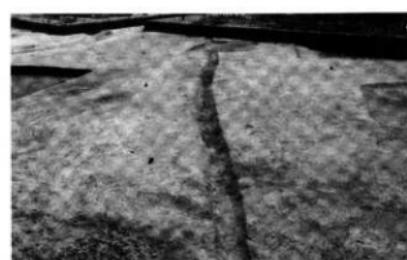
4 同中央セクション



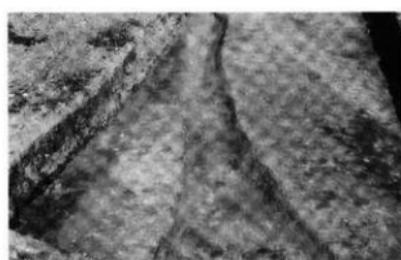
5 12号溝全景



6 13号溝全景

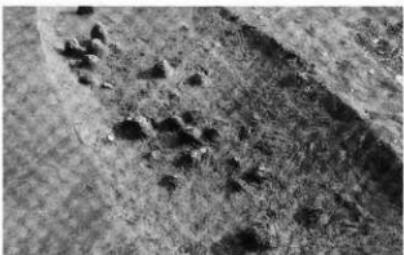
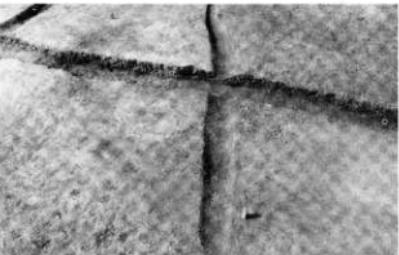


7 14号溝全景



8 15号溝全景

図版154





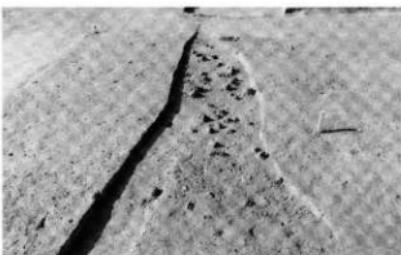
1 1号性格不明遺構遺物出土状況(1)



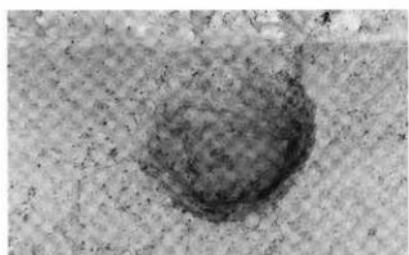
2 同(2)



3 2号性格不明遺構全景



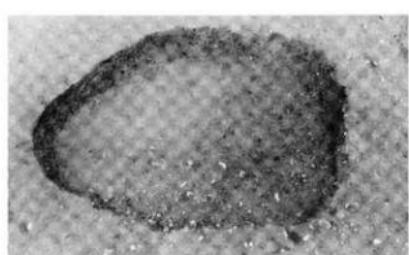
4 同遺物出土状況



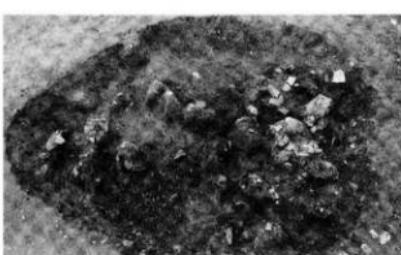
5 1号土坑全景



6 同遺物出土状況



7 2号土坑全景

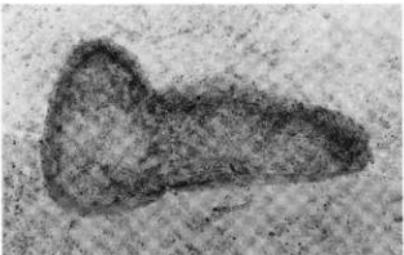


8 同遺物出土状況(1)

图版156



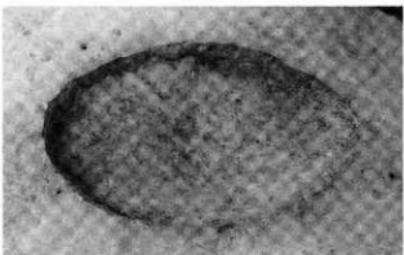
1 2号土坑遗物出土状况(2)



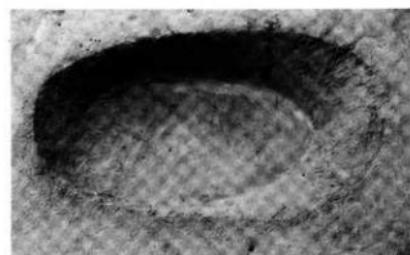
2 3·4号土坑全景



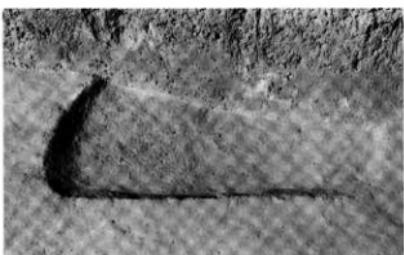
3 5号土坑全景



4 6号土坑全景



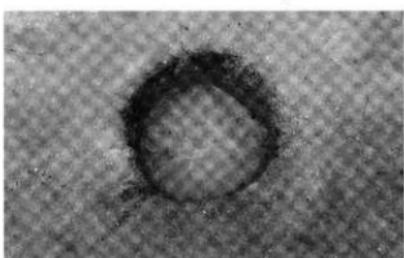
5 7号土坑全景



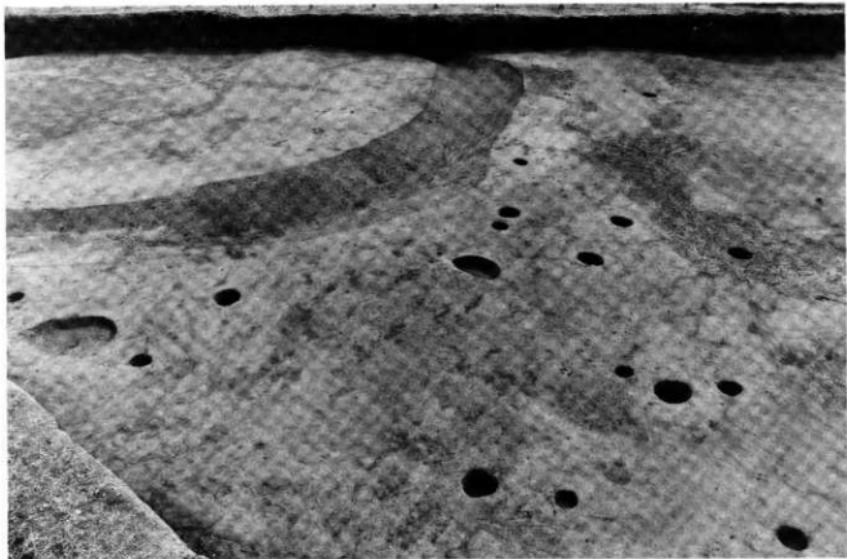
6 8号土坑全景



7 同遗物出土状况



8 9号土坑全景

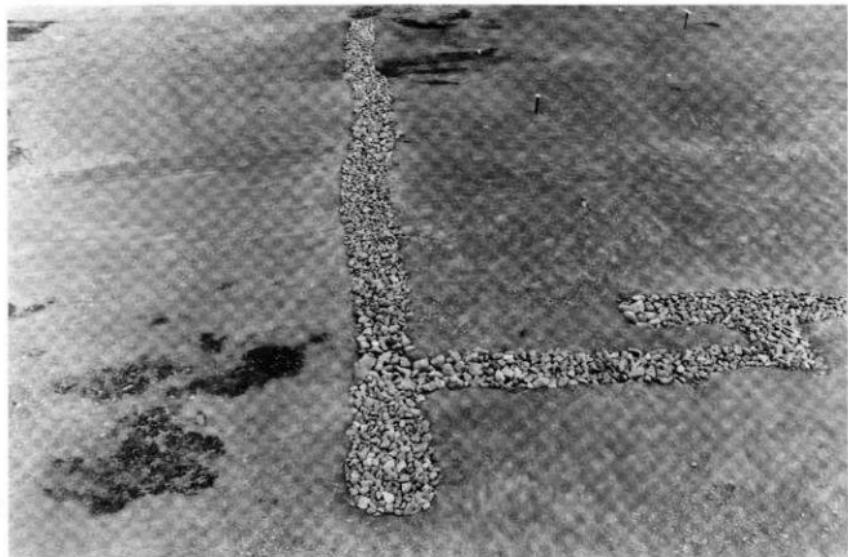


1 ピット群全景

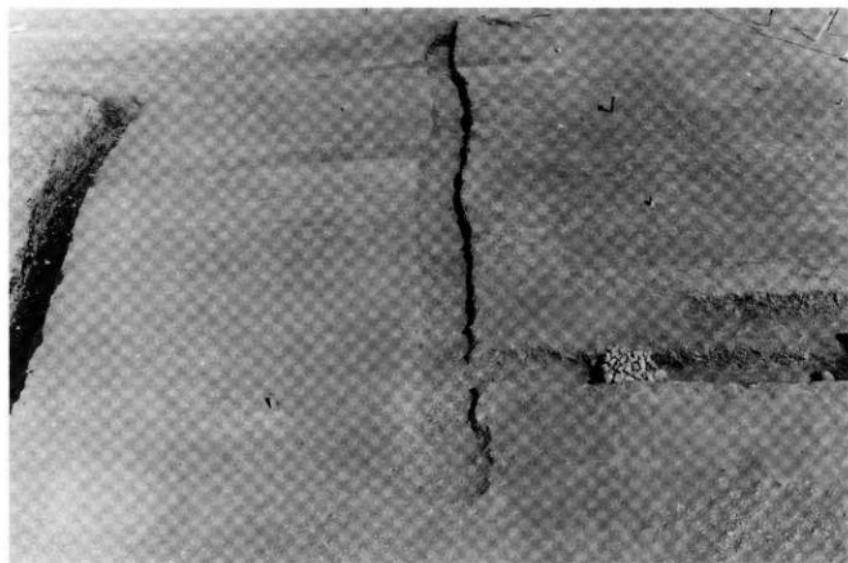


2 1～4号暗渠全景

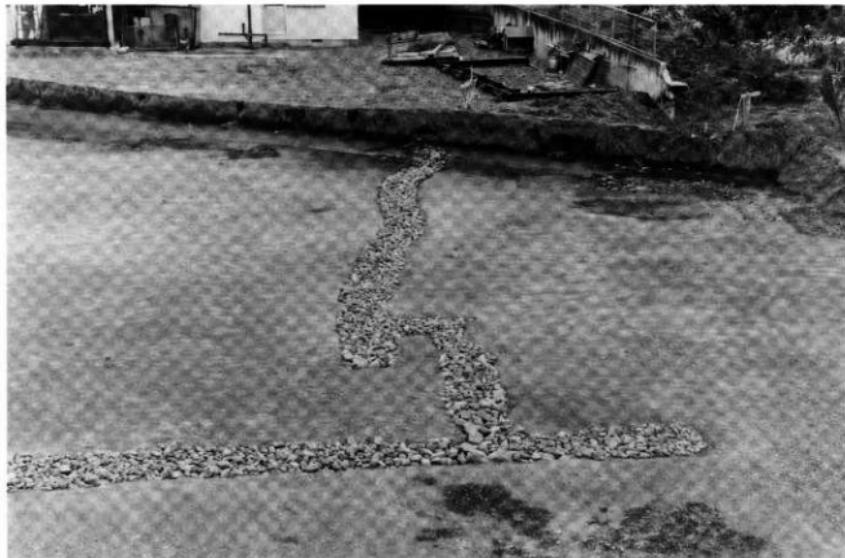
図版158



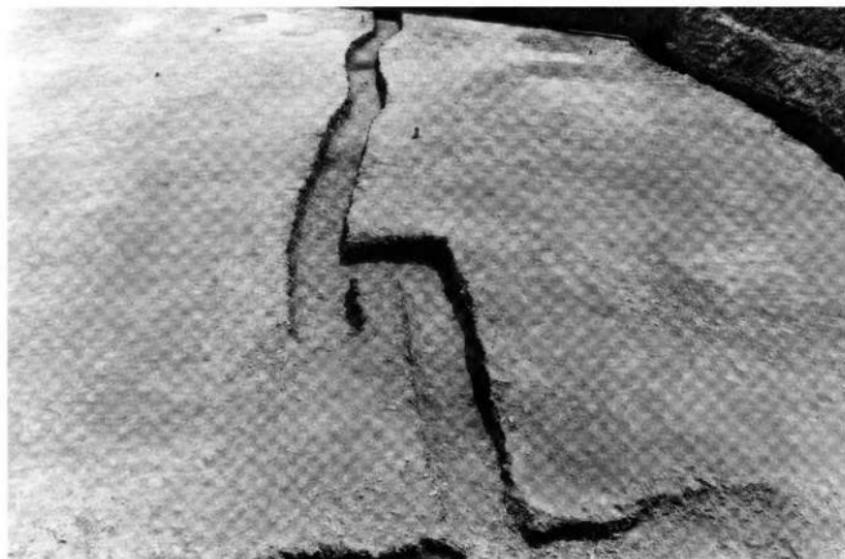
1 1号暗渠全景



2 同壳掘

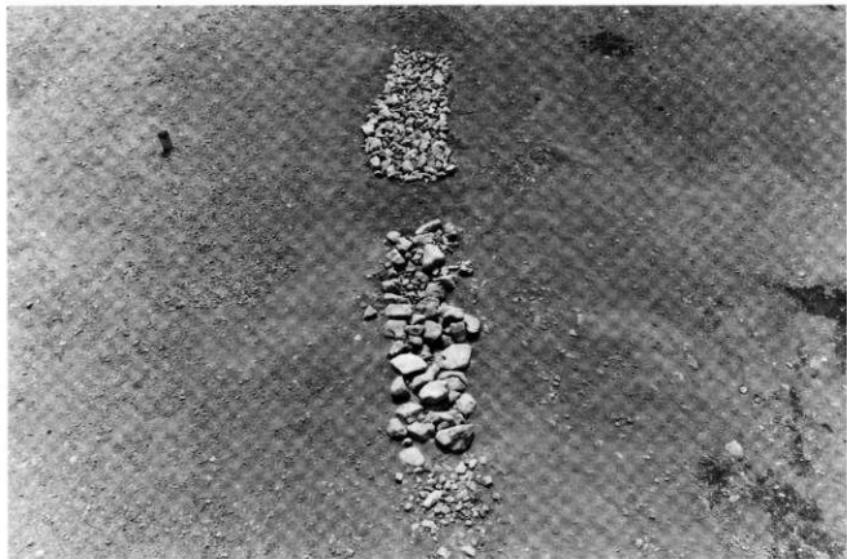


1 2・3号暗渠全景

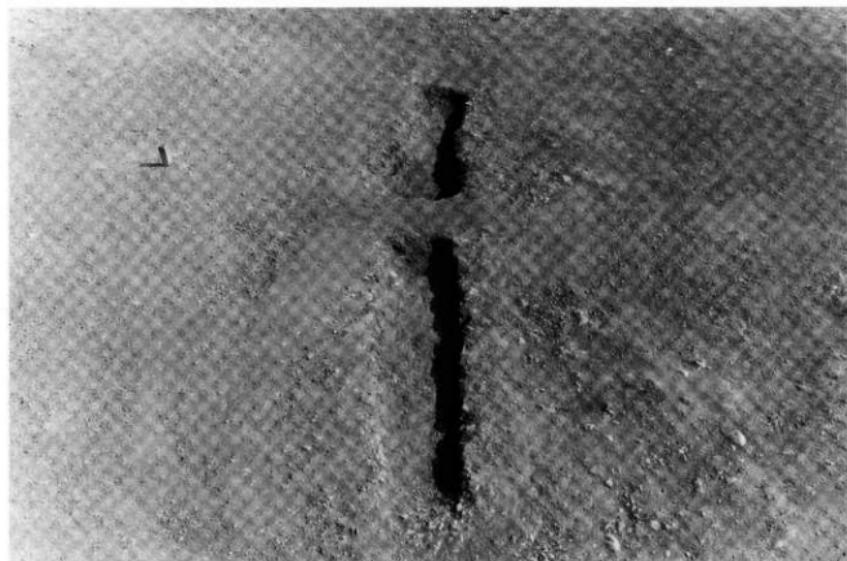


2 同完掘

図版160



1 4号暗渠全景



2 同完掘



1 調査風景(1)



2 同(2)



3 同(3)



4 同(4)



5 同(5)



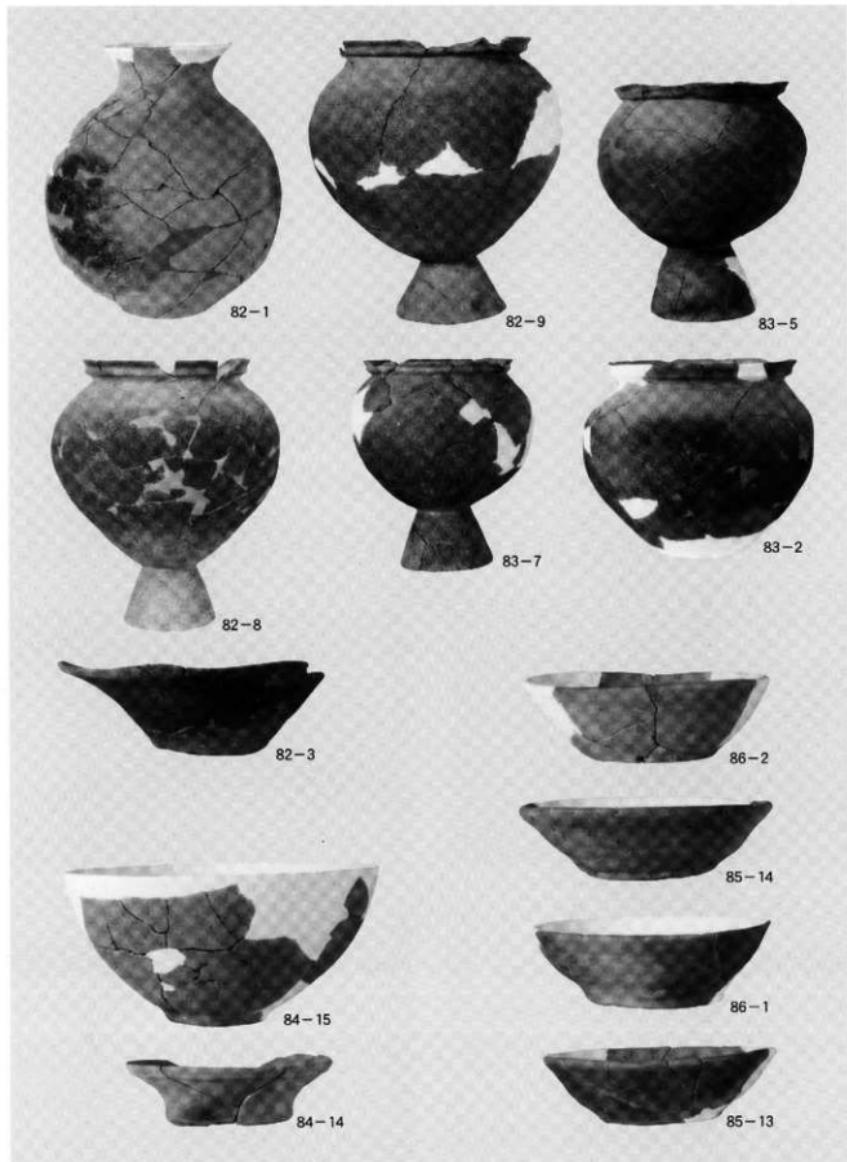
6 サンプリング風景



7 調査区冠水状況(1)



8 同(2)

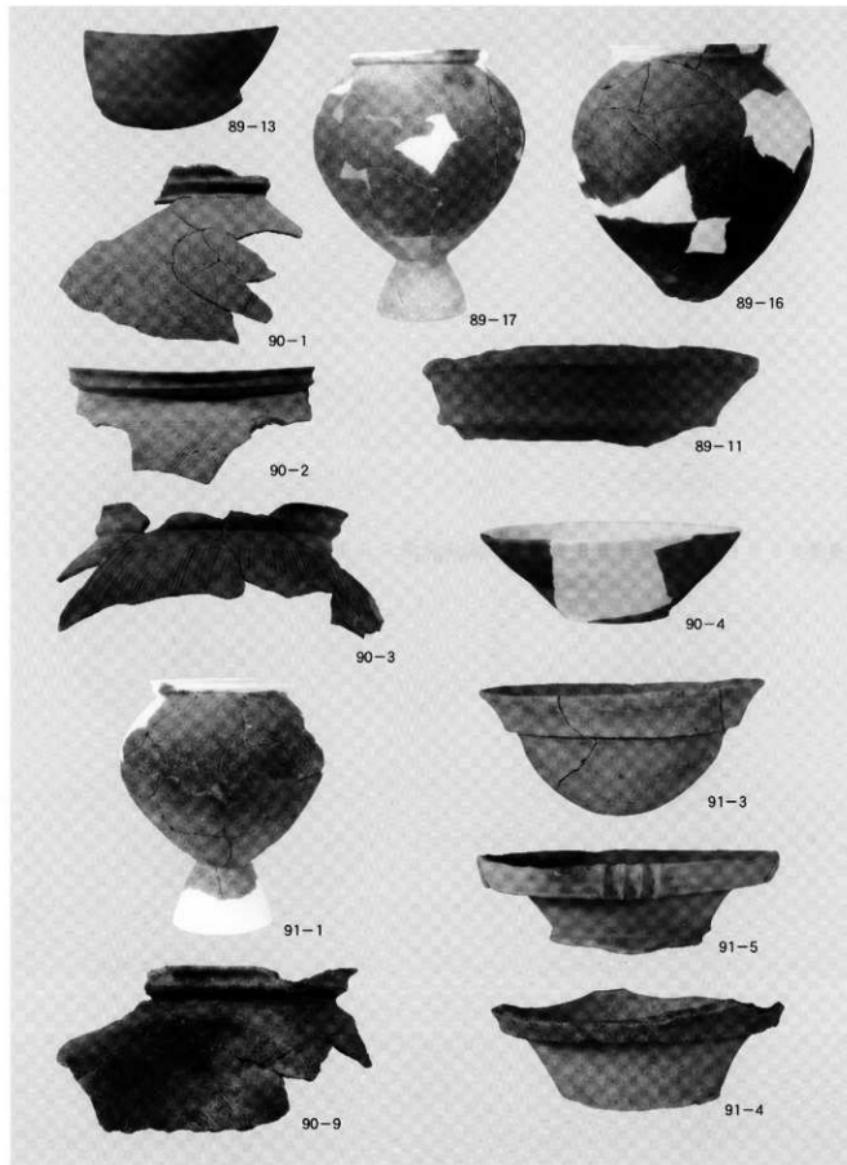


出土遺物(1)

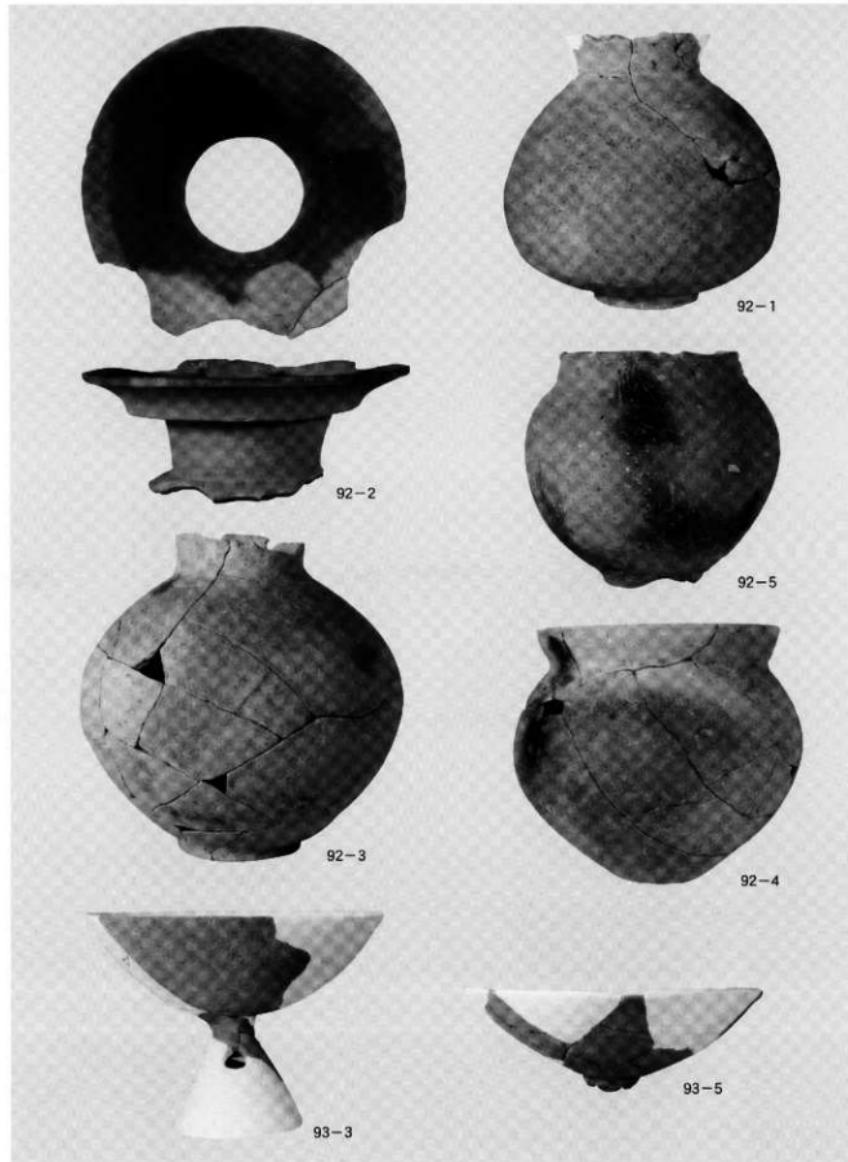


出土遺物(2)

図版164

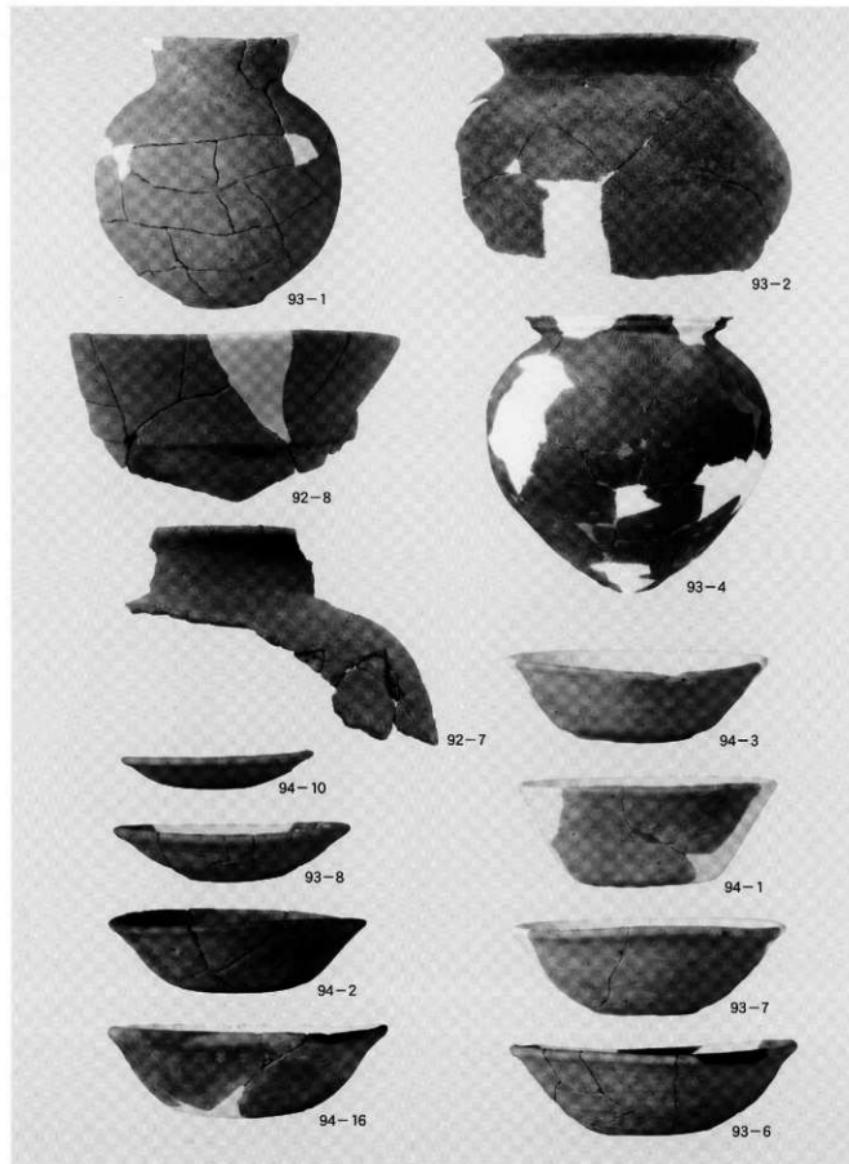


出土遺物(3)

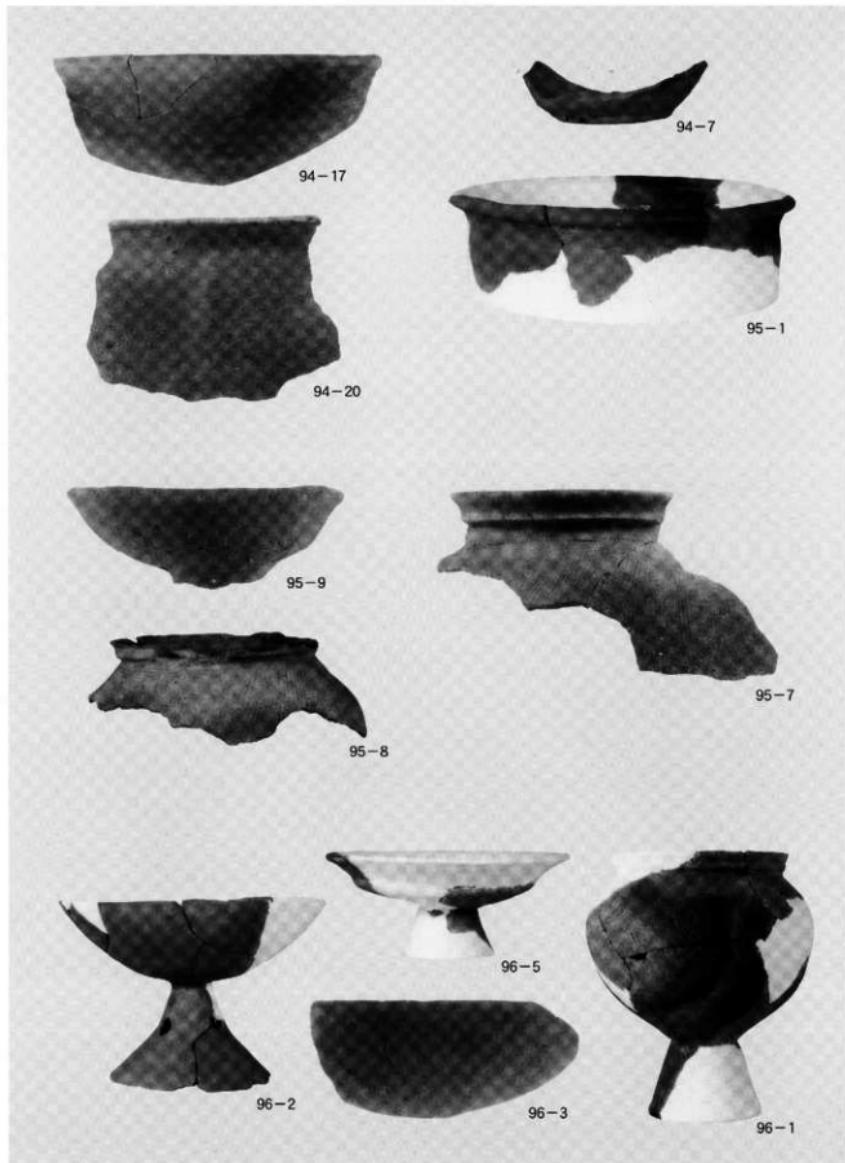


出土遺物(4)

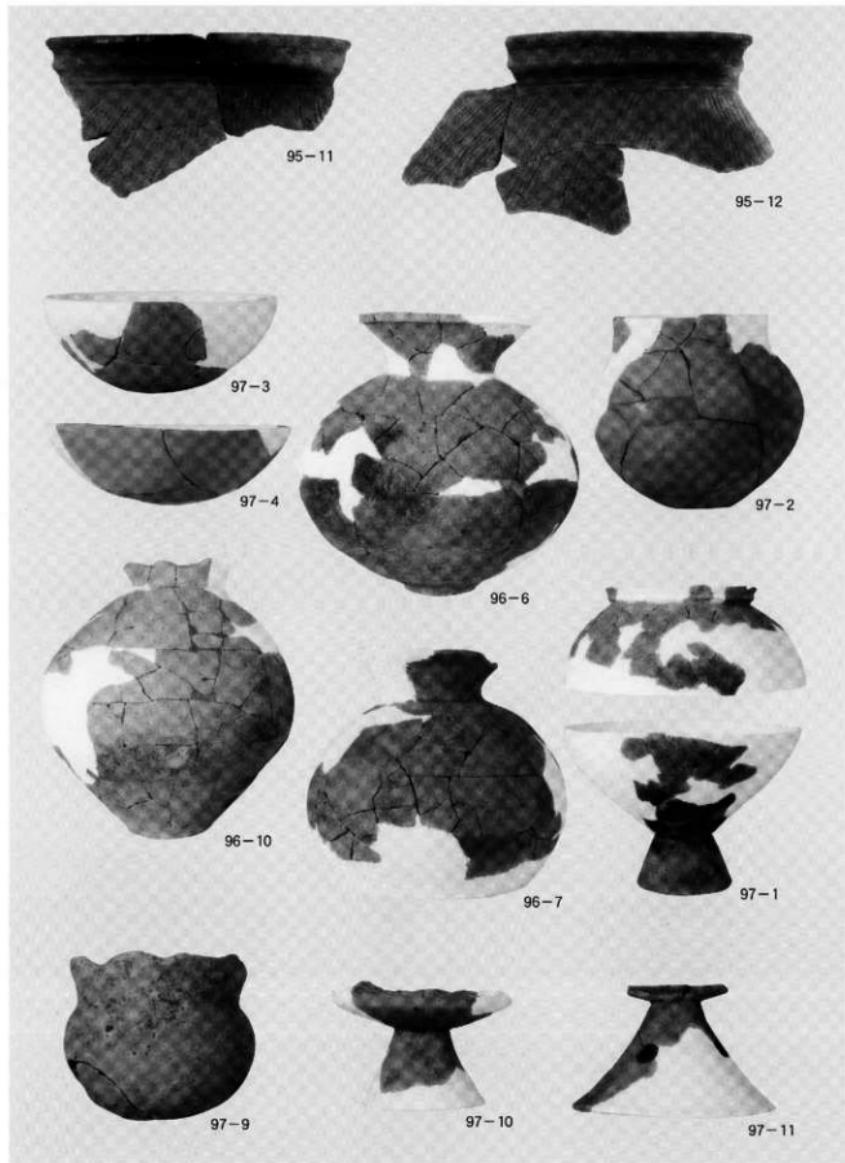
図版166



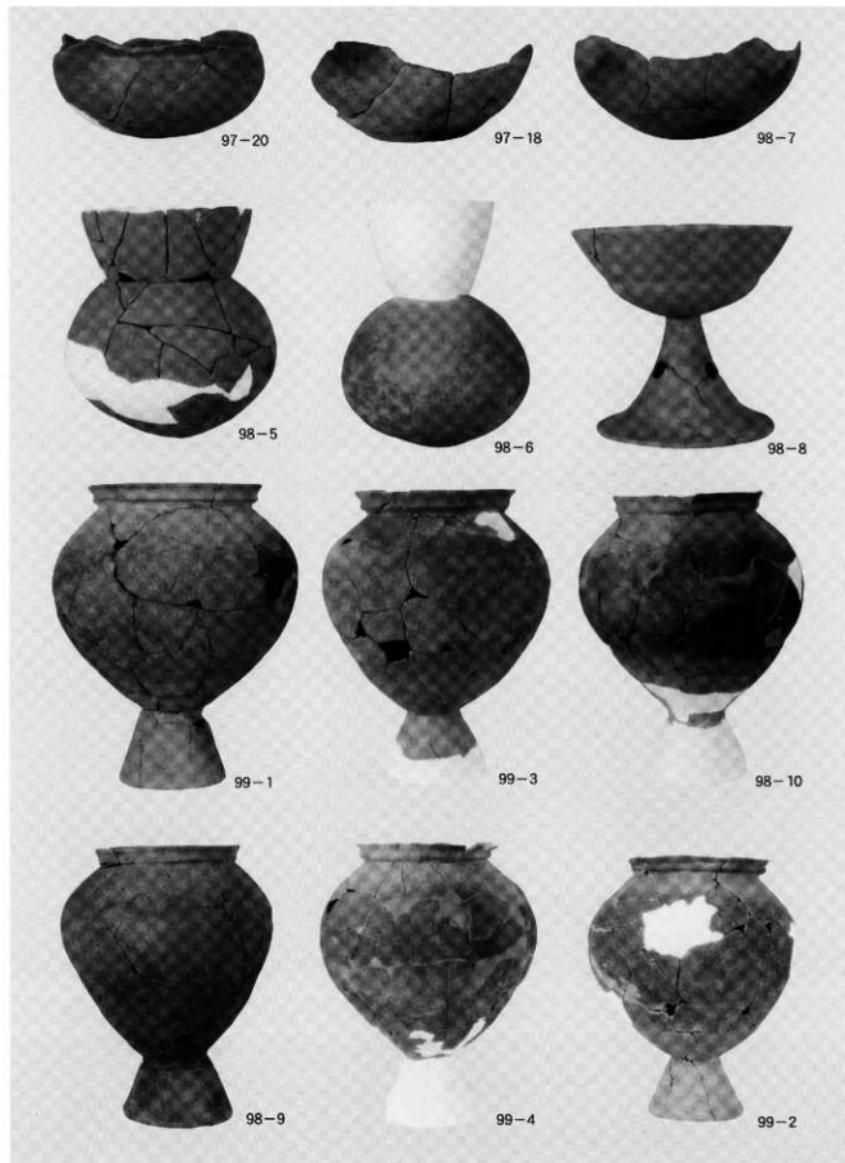
出土遺物(5)



出土遺物(6)

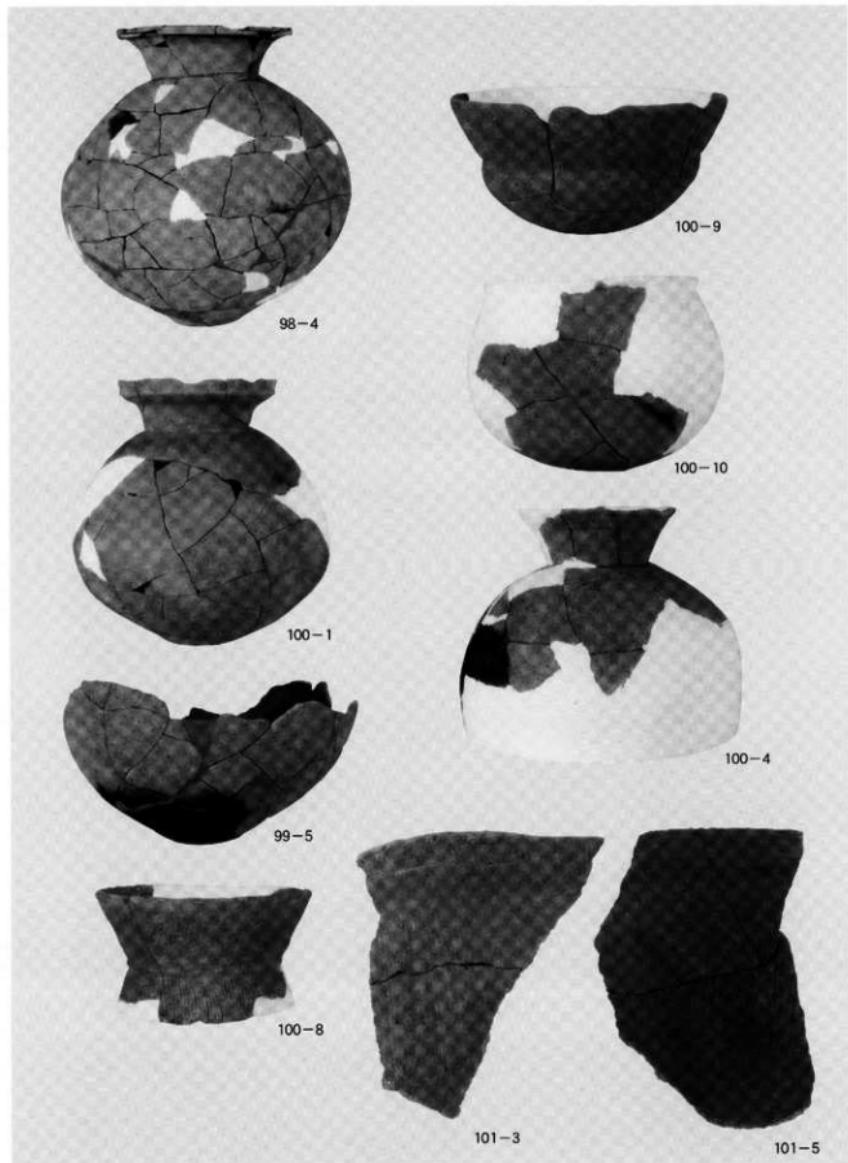


出土遺物(7)

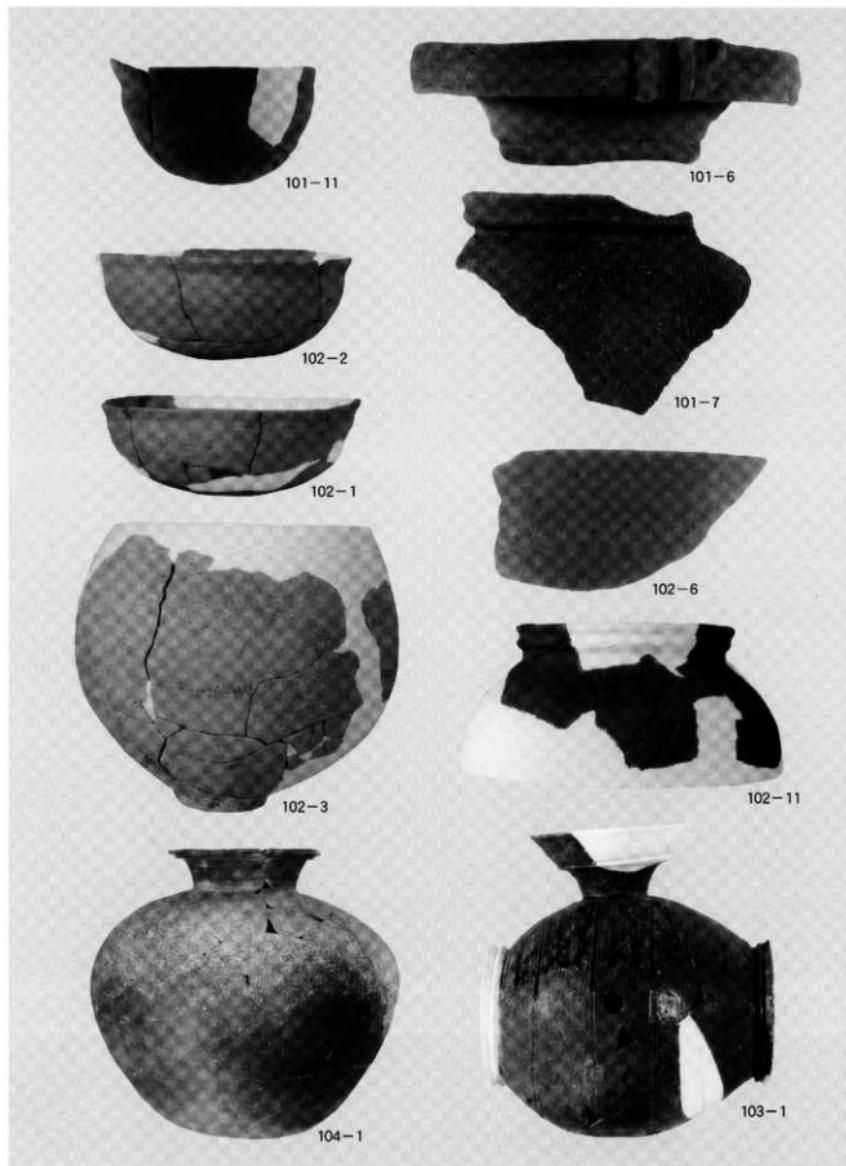


出土遺物(8)

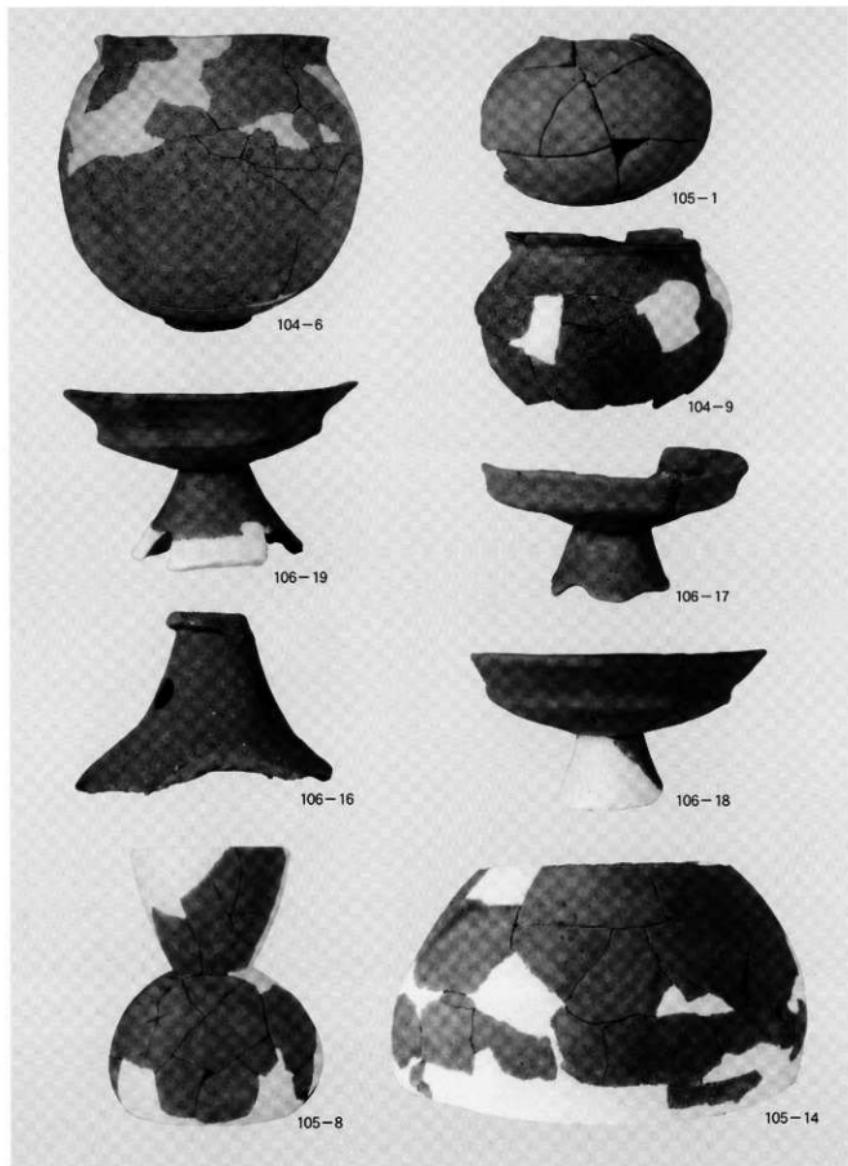
図版170



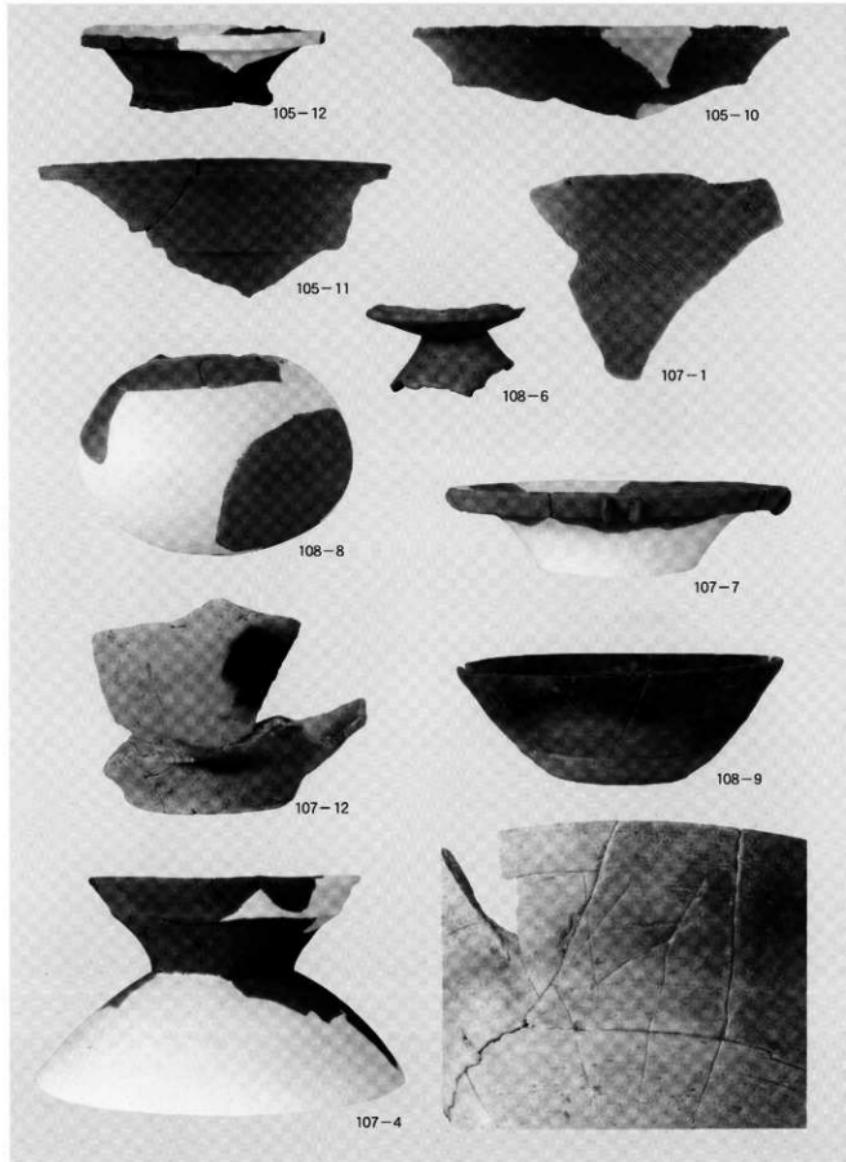
出土遺物(9)



出土遺物(10)

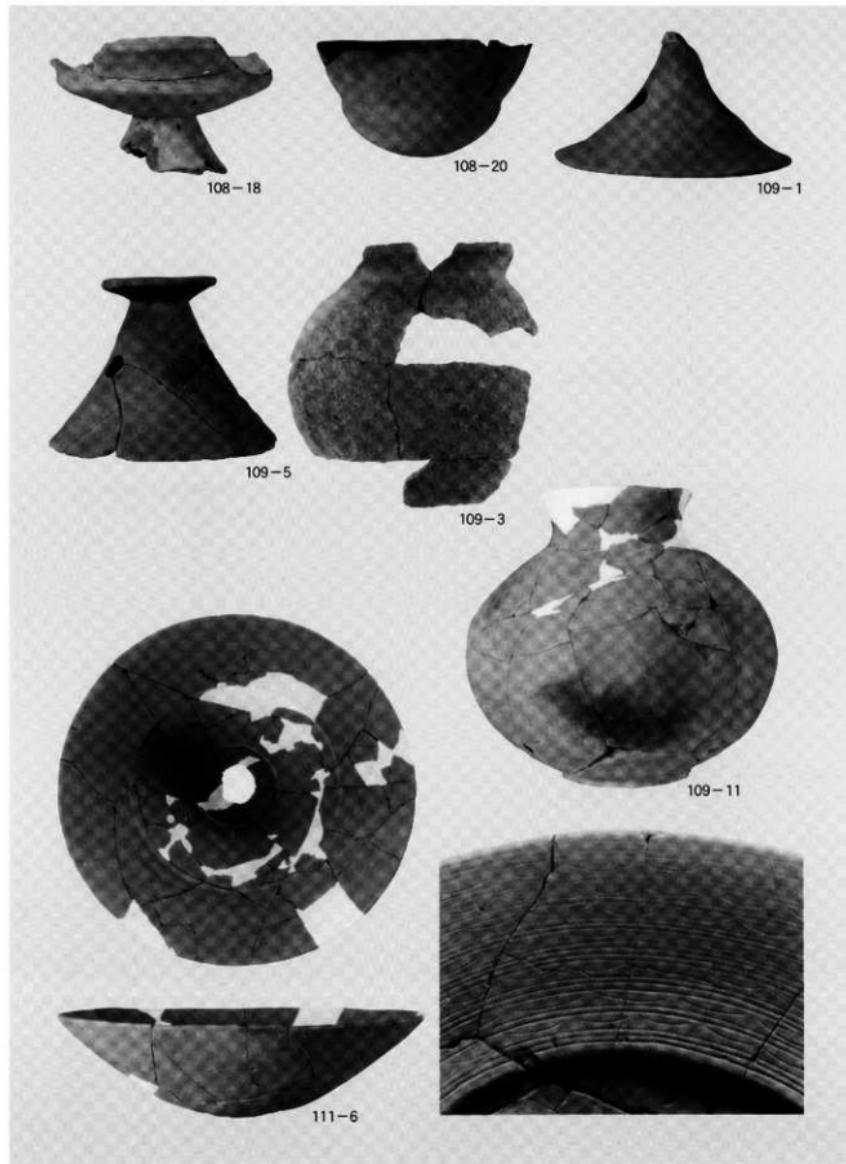


出土遺物(11)

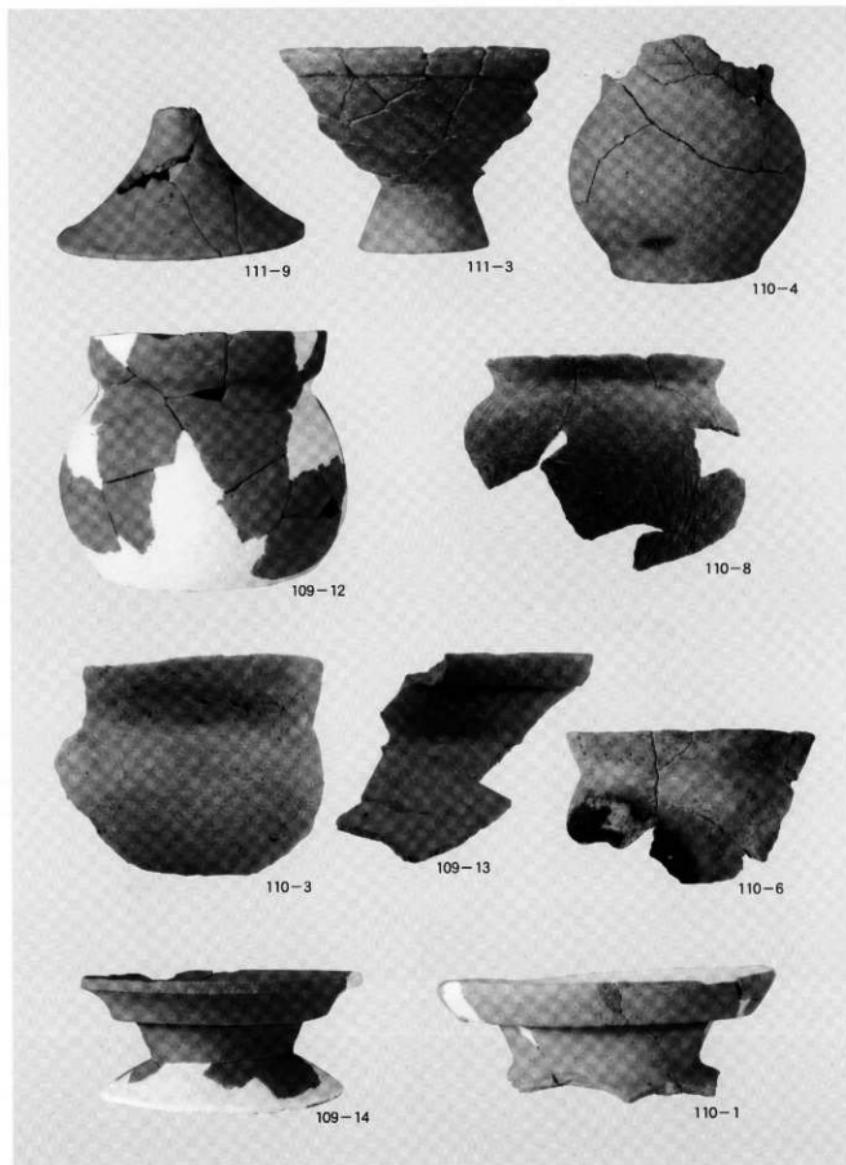


出土遺物(12)

図版174

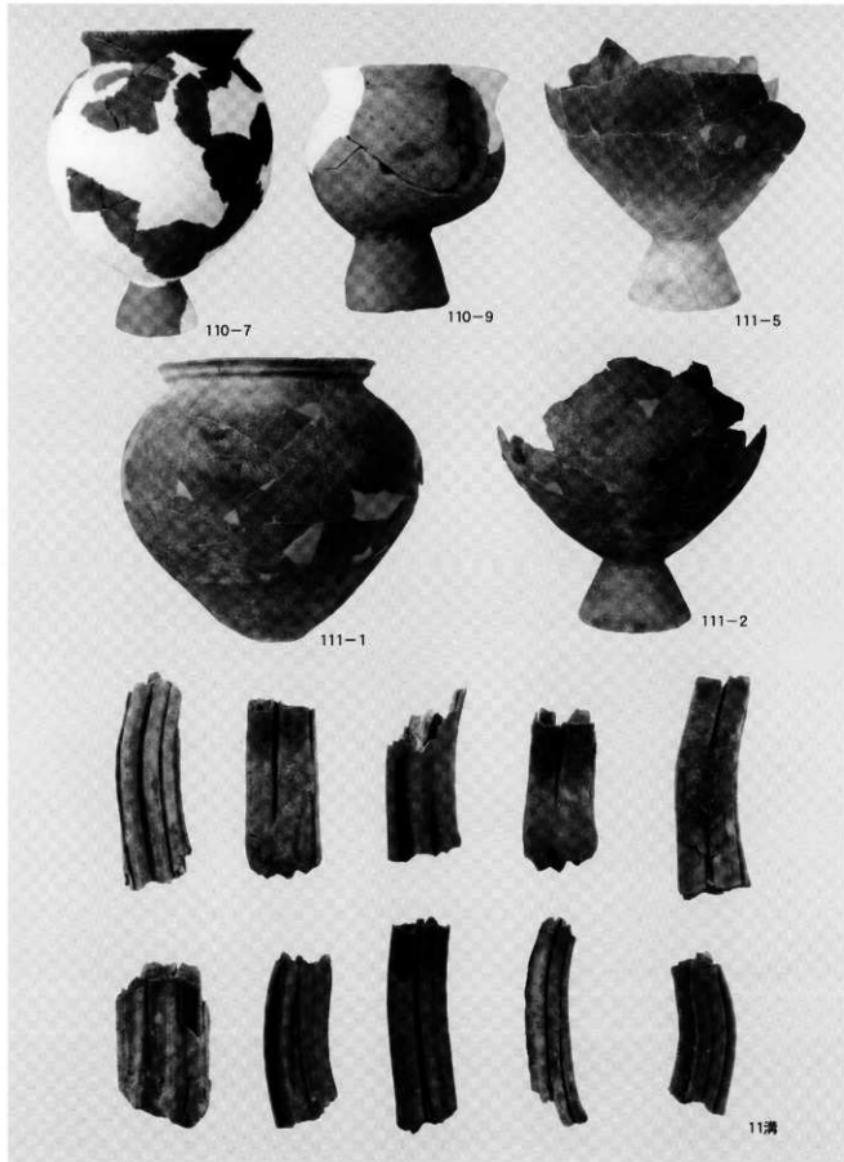


出土遺物(13)

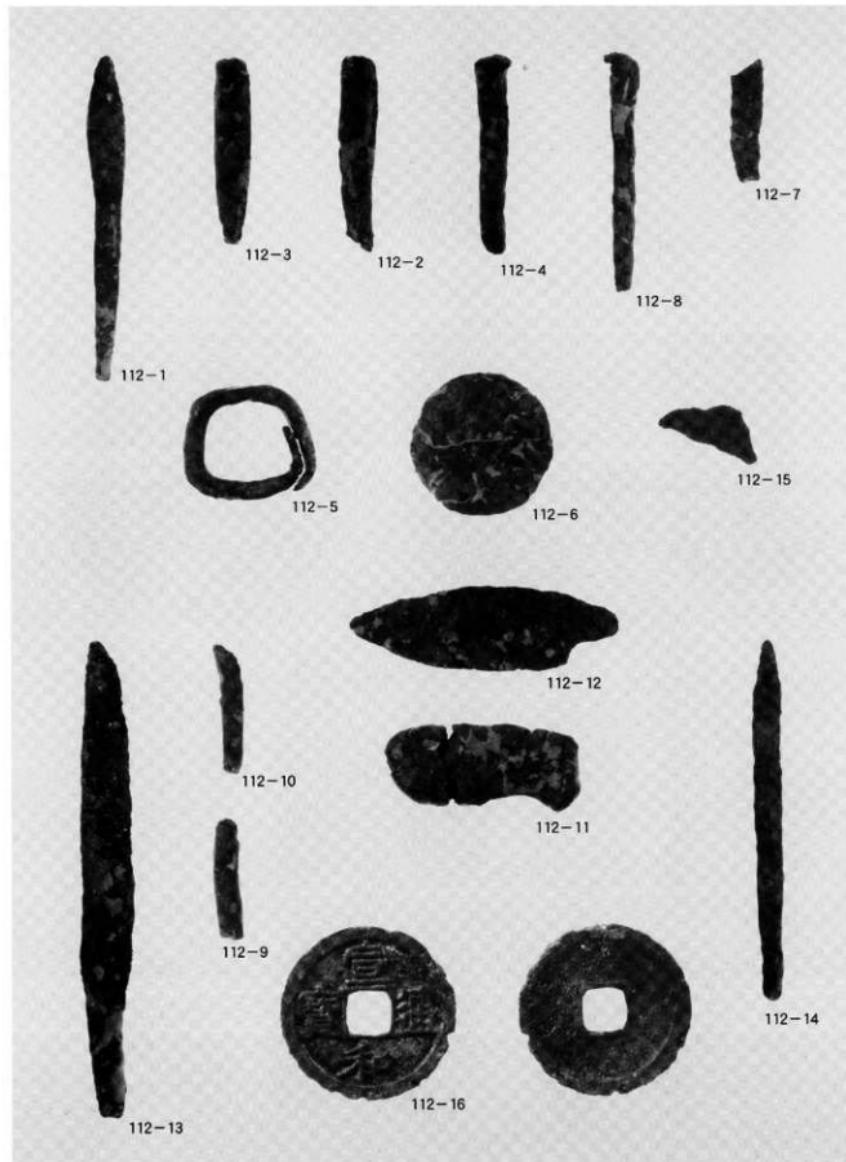


出土遺物(14)

図版176

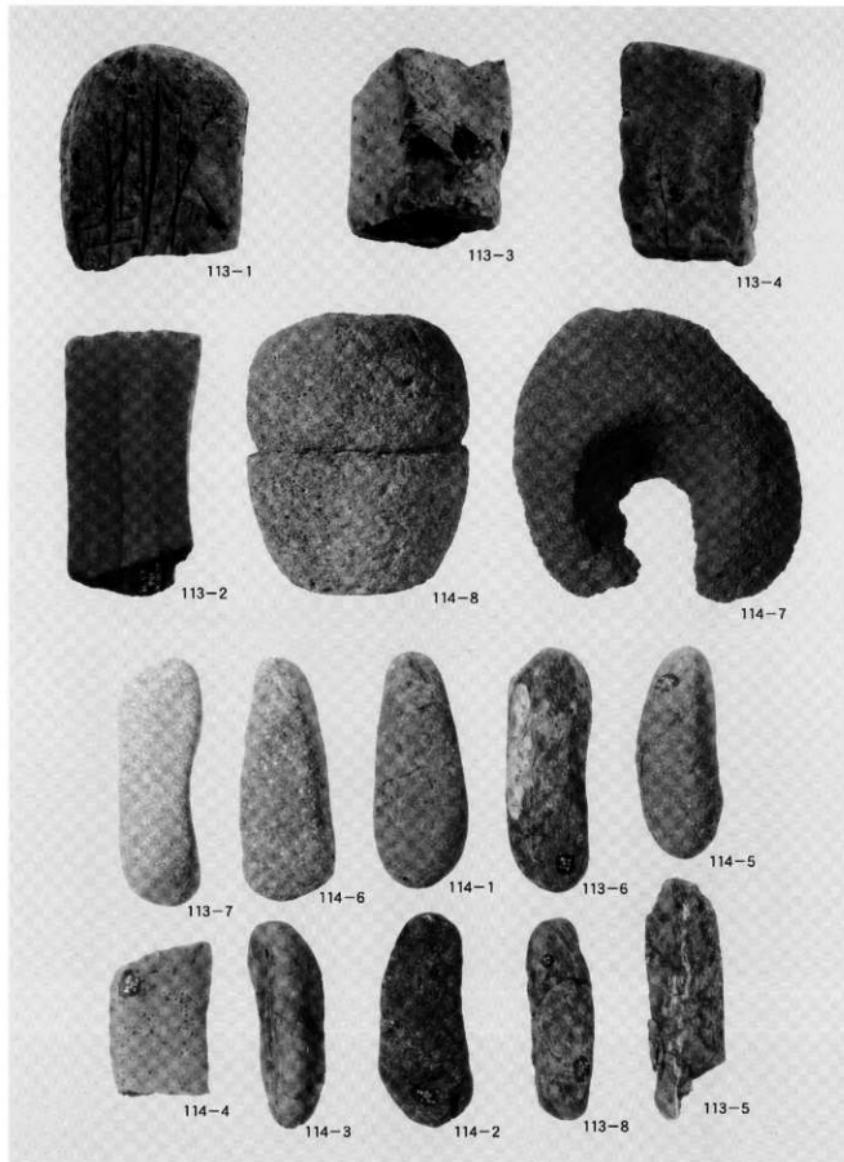


出土遺物(15)

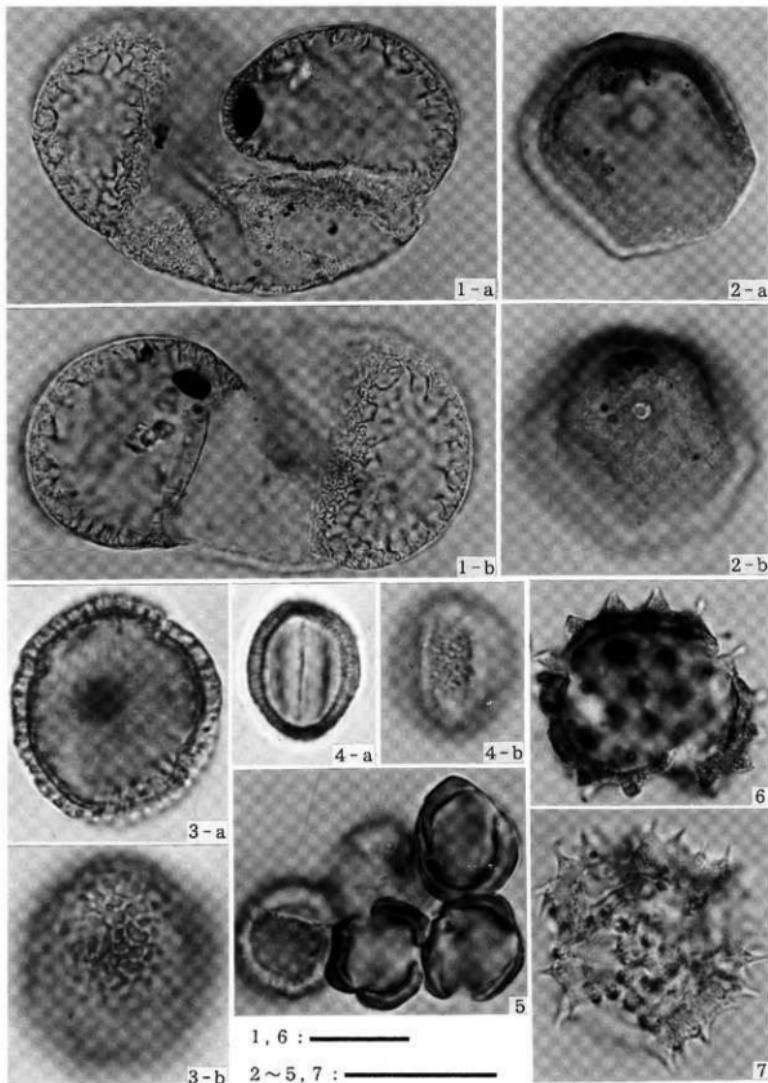


出土遺物(16)

図版178



出土遺物(17)

寺部村附第6遺跡の花粉化石 (scale bar : 20  $\mu$ m)

- 1 : マツ属複管束亞属 PLC.SS 3178 試料1 5 : ヨモギ属(花粉塊) PLC.SS 3177 試料4  
 2 : イネ科 PLC.SS 3180 試料10 6 : 他のキク亜科 PLC.SS 3174 試料10  
 3 : アブラナ科 PLC.SS 3179 試料10 7 : タンボボ亜科 PLC.SS 3176 試料1  
 4 : ヨモギ属 PLC.SS 3173 試料10

## 寺部村附第6遺跡報告書抄録

ふりがな	てらべむらつきだいろくいせき
書名	寺部村附第6遺跡
シリーズ	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第2集
著者名	河西学、鈴木茂、藤根久、宮澤公雄
発行者	南アルプス市教育委員会・山梨県新環状・西関東道路建設事務所
編集機関	財団法人山梨文化財研究所
住所・電話	〒406-0032 山梨県東八代郡石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441
印刷所	株帝京サービス
印刷日	2004年3月10日
発行日	2004年3月15日
所在地	山梨県南アルプス市寺部
地図名	25,000分の1地形図 小笠原
位置	北緯35度36分46秒、東経138度29分19秒
標高	266m
市町村コード	19208
調査原因	新山梨環状道路建設
調査期間	2000年8月9日～2003年7月24日
調査面積	10,970m <sup>2</sup>
主な時代	古墳時代前期・中期、平安時代
遺跡概要	古墳時代前期の堅穴住居21軒、平安時代の堅穴住居7軒、古墳時代中期の低墳丘古墳3基、古墳時代の溝跡4条、平安時代以降の溝跡14条、堅穴状遺構6棟、土坑9基、ピット22基、暗渠など
主な遺構	古墳時代前期の土師器、古墳時代中期の須恵器、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器および鉄製品など
特殊遺構	古墳時代中期の低墳丘古墳
特殊遺物	古式須恵器（樽形甕・甕）

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第2集

## 寺部村附第6遺跡

### 新山梨環状道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

2004年3月10日 印刷

2004年3月15日 発行

編集	財団法人山梨文化財研究所
	山梨県東八代郡石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441
発行	南アルプス市教育委員会
	山梨県新環状・西関東道路建設事務所
印刷	株帝京サービス

